

工事番号																(様式－1)	
工 事 名		令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事														設計書	
施 工 箇 所		安曇野市 三郷体育館														金抜設計書	
設 計 大 要										施 工 方 法				請 負			
<div>令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事</div> <div>■耐震補強改修工事</div> <div>① 本体耐震補強工事</div> <div>② 木造ﾄﾚﾞ棟 分離工事</div> <div>③ 木造器具庫 解体工事</div> <div>④ 渡り廊下棟 分離工事</div> <div>⑤ 既設樹木撤去工事</div> <div>■非構造改修工事</div> <div>■一般改修工事</div> <div>建物概要 鉄筋コンクリート+鉄骨造一部コンクリートブロック造</div> <div>2F建、延床面積1296.00㎡（体育館）</div>										施 工 期 間				日間			
										起工予定年月日				令和 年 月 日			
										竣工予定年月日				令和 6 年 3 月 11 日			
										契 約 保 証 方 法				金 銭 的 保 証			
										・別途指定する建設機械については排出ガス対策型の使用を原則とする。 ・この設計書で施工機械・仮設材の規格、調査条件等の記載及び「人、h、ℓ、％、日、時、工数、空m3、掛m2、日・回、日回、供用日、月」の単位により見積りのための参考数量を示したものは任意扱いです。したがって、内訳書の作成や契約を拘束するものではありません。ただし、指定した場合は除きます。							

## 位置図

### 令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事





No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
令和5年度 三郷社会体育館 耐震補強工事							
		< 改修工事内訳総括表 >					
I	共通仮設工事		1.0	式			
II	建築改修直接工事		1.0	式			
III	電気設備改修直接工事		1.0	式			
	純工事費 計						
IV	現場管理費		1.0	式			
V	一般管理費		1.0	式			
	建築工事価格 計						
	消 費 税	10%相当額	1.0	式			
	改修工事費 合計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
A- I	共通仮設工事						
	( 率仮設分 )						
	仮設建物	現場事務所	┐				
	仮設建物	管理事務所					
	仮設建物	トイレユニット					
	工事用用水電力						
	機械器具損料		┐ 1.0	式			
	安全管理費						
	各種試験費						
	写真費						
	整理清掃	全般的な物	┘				
	率仮設分 - 小計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	( 積上仮設分 )						
	仮囲い(成形鋼板)	H3000 存置6ヶ月間程度 掛払・損料・修繕・運搬共	188.0	m			
	工事用出入口(シートゲート)	W8000xH4500 存置6ヶ月間程度 掛払・損料・修繕・運搬共	1.0	ヶ所			
	工事用出入口(シートゲート)	W4000xH4500 存置6ヶ月間程度 掛払・損料・修繕・運搬共	3.0	ヶ所			
	交通誘導員A		60.0	人			
	化学物質濃度測定	ハッシュ法(拡散法)6物質 VOC測定 報告書含 工事前、工事後	18.0	ヶ所			
	鉄板敷	存置6ヶ月程度、掛払、賃料、基本料、運搬費共	120.0	m2			
	積上仮設分 - 小計						
	A- I 共通仮設工事 合計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
Ⅱ	建築改修直接工事						
1	◆建築耐震補強改修直接工事		1.0	式			
2	◎建築非構造改修直接工事		1.0	式			
3	△建築一般改修直接工事		1.0	式			
	Ⅱ 建築改修工事直接工事 合計						







No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
1	直接仮設工事						
	外壁改修墨出	外壁改修	252.0	m2			
	内部改修墨出	複合改修	671.0	m2			
	妻壁壁改修用 外部枠組手摺先行足場	クサビ緊結 W900 存置3ヶ月間程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	301.0	架m2			
	妻壁壁改修用 外部枠組手摺先行足場安全手摺	存置3ヶ月間程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	127.0	架m			
	器具庫撤去跡改修用 外部枠組手摺先行足場	W600 存置3ヶ月間程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	63.0	架m2			
	器具庫撤去跡改修用 外部枠組手摺先行足場安全手摺	存置3ヶ月間程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	18.0	架m			
	壁改修用 養生シート張り	防災シート 存置3ヶ月間程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	364.0	m2			
	アリーナ屋根V補強改修用 内部枠組棚足場	H7400～11900 存置3ヶ月間程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	945.0	m2			
	ステージ天井V補強改修用 内部枠組棚足場	H6790 存置3ヶ月間程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	149.0	m2			
	ステージ改修用 ローリング足場	存置2ヶ月間程度 3段程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	2.0	基			
	ギャラリーV補強改修用 枠組手摺先行足場	W600 存置1ヶ月間程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	207.0	架m2			
	内部脚立足場	直列 H1.8m 存置1ヶ月程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	93.0	m			
	事務室天井用 内部脚立足場	並列 存置1ヶ月程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	12.3	m2			
	アリーナ床 枠組棚足場下養生	シート+コンパネ程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	945.0	m2			
	床 既設床養生	シート敷程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	671.0	m2			



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
2	既設撤去工事						
a	アスベスト含有物質撤去工事		1.00	式			
b	一般既存撤去工事		1.00	式			
	2 - 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
a	アスベスト含有物質撤去工事						
①	アスベスト含有物質撤去とりこわし		1.0	式			
②	アスベスト含有物質解体廃材積込		1.0	式			
③	アスベスト含有物質解体廃材運搬		1.0	式			
④	アスベスト含有物質解体廃材処分		1.0	式			
	下請諸経費	作業計画書・報告書作成費用・法定福利費	1.0	式			
	2-a 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
a-①	アスベスト含有物質撤去とりこわし						
	( 外 部 )						
	ポーチ床 大盤タイル貼り撤去	モルタル撤去(アスベスト含有rv3)・湿潤化・集積共	0.9	m2			
	床 既存タイル仕上面カッター入れ	(アスベスト含有rv3)・局所集塵共	4.2	m			
	壁 既存壁モルタル撤去	(アスベスト含有rv3)・湿潤化・集積共	42.3	m2			
	壁 既存仕上面カッター入れ	(アスベスト含有rv3)・局所集塵共	5.8	m			
	( 内 部 )						
	玄関床 既存御影石框撤去	モルタル撤去(アスベスト含有rv3)・湿潤化・集積共	3.0	m			
	玄関床 大盤タイル貼り撤去	モルタル撤去(アスベスト含有rv3)・湿潤化・集積共	1.1	m2			
	壁 既存壁ケイカル板撤去	t8(アスベスト含有rv3)・湿潤化・集積共	29.0	m2			
	壁 既存壁モルタル撤去	(アスベスト含有rv3)・湿潤化・集積共	73.7	m2			
	ステージ内壁 ラスモルタル撤去	(アスベスト含有rv3)・湿潤化・集積共	36.1	m2			
	壁 既存仕上面カッター入れ	(アスベスト含有rv3)・局所集塵共	139.0	m			
	(亀裂・劣化補修)						
	外部既設面亀裂改修[2]・[3] 既存仕上面カッター入れ	(アスベスト含有rv3) Uカット・局所集塵共	19.1	m			
	内部既設床面亀裂改修[2]・[3] 既存仕上面カッター入れ	(アスベスト含有rv3) Uカット・局所集塵共	4.2	m			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	内部既設壁面亀裂改修[2]・[3] 既存仕上面カッター入れ	(アスベスト含有rv3) Uカット・局所集塵共	39.0	m			
	アスベスト飛散防止対策養生	床養生・壁養生・整理清掃後片付共	1.0	式			
	a-① 小 計						







No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
a-④	アスベスト含有物質解体廃材処分						
	解体廃材処分	モルタル層(アスベスト含有rv3)・タイル・石含	9.2	m3			
	解体廃材処分	ケイカル板層(アスベスト含有rv3)	0.3	m3			
	a-④ 小 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
b	一般既存撤去工事						
①	撤去とりこわし		1.0	式			
②	解体廃材積込		1.0	式			
③	解体廃材運搬		1.0	式			
④	解体廃材処分		1.0	式			
⑤	解体廃材処分(スクラップ控除)		1.0	式			
	2-b 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
b-①	撤去とりこわし						
	( 外 部 )						
	外部土間 既存土間・基礎コンクリート撤去	集積共	2.3	m3			
	外部土間 既存碎石撤去	集積共	0.9	m3			
	既存基礎立上部コンクリートカッター		9.7	m			
	既存土間コンクリートカッター入れ		15.6	m			
	外部壁 コンクリートブロック撤去	内側仕上材撤去・集積共	51.0	m2			
	外部壁 コンクリートブロックカッター入れ		78.0	m			
	アルミ鋼製建具撤去	ガラス撤去・集積共	29.2	m2			
	スチール鋼製建具撤去	ガラス撤去・集積共	7.2	m2			
	建具廻りシーリング撤去	集積共	88.4	m			
	外壁 既存外壁サイディング撤去	集積共	194.0	m2			
	外壁 既存鉄骨胴縁撤去	ブレース撤去・集積共	1.4	t			
	外壁 既存内側壁木仕上撤去	下地撤去・集積共	147.0	m2			
	既存壁樋撤去	VP75Φ 支持金物撤去・集積共	56.9	m			
	北側器具庫 既存取合水切撤去	下地撤去・集積共	18.0	m			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	( 内 部 )						
	床 仕上面カッター入れ		106.0	m			
	既存土間コンクリートカッター入れ		90.9	m			
	床 フローリング張り撤去	下地合板・鋼製束撤去・集積共	56.3	m2			
	アリーナ床 壁際スリット撤去	集積共	56.5	m			
	内部土間 既存土間・基礎コンクリート撤去	集積共	9.5	m3			
	内部土間 既存砕石撤去	集積共	6.2	m3			
	既存基礎立上部コンクリートカッター		24.0	m			
	アリーナ床 床換気口取外し	一次撤去・保管共	4.0	ヶ所			
	腰壁 唐松羽目板撤去	巾木・腰見切・下地組撤去・集積共	7.6	m2			
	壁 有孔シナ合板撤去	下地組撤去・GW・集積共	23.6	m2			
	アリーナ壁 唐松羽目板撤去	巾木・廻縁・下地組・GW撤去・集積共	61.7	m2			
	巾木 木製巾木撤去	集積共	47.0	m			
	壁 コンクリートブロック撤去	集積共	56.3	m2			
	壁 コンクリートブロックカッター入れ		71.0	m			
	壁 石膏ボード撤去	集積共	112.0	m2			
	壁 軽量鉄骨間仕切下地組撤去	集積共	56.2	m2			



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	内部 スチール鋼製建具撤去	集積共	6.4	m2			
	内部 アルミ鋼製建具撤去	ガラス撤去・集積共	20.4	m2			
	倉庫1・2 既存鉄骨階段撤去	手摺撤去・集積共	0.7	t			
	内部 木製建具撤去	ガラス撤去・集積共	1.6	m2			
	既存家具棚撤去	集積共	16.9	空m3			
	ステージ'柱型 木製板張撤去	巾木・見切撤去・集積共	9.8	m2			
	アリーナ 既存鉄骨軸ブレース撤去	集積共	0.1	t			
	ステージ'内壁 合板張り撤去	巾木・木下地組撤去・集積共	236.0	m2			
	ステージ'内壁 グラスウール断熱材撤去	集積共	156.0	m2			
	天井 化粧石膏ボード撤去	LGS下地・廻縁撤去・集積共	14.3	m2			
	天井(ステージ・倉庫) 化粧石膏ボード撤去	下地PB・廻縁撤去・集積共	149.0	m2			
	天井(ステージ・倉庫) 天井下地木野縁撤去	吊木受丸太撤去・集積共	149.0	m2			
	ステージ' 既設舞台機構撤去	既設緞帳・ステージ'幕撤去含	1.0	式			
	b-① 小計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙b-①-1 既設舞台機構撤去						
	一文字幕撤去	W12500xH1000程度 集積共	1.0	ヶ所			
	ステージ緞帳撤去	W12500xH4300程度 レール撤去・集積共	1.0	ヶ所			
	中割れ垂れ幕撤去	W14500xH4300程度 レール撤去・集積共	1.0	ヶ所			
	電動スクリーン撤去	W5200xH3200程度 収納BOX撤去・集積共	1.0	ヶ所			
	手動吊ハトン撤去	W6500程度 金物撤去・集積共	1.0	ヶ所			
	手動吊ハトン撤去	W11000程度 金物撤去・集積共	1.0	ヶ所			
	別紙b-①-1 小々計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
b-②	解体廃材積込						
	解体廃材積込	コンクリート・CB屑 人力積込	28.2	m3			
	解体廃材積込	砕石屑 人力積込	0.9	m3			
	解体廃材積込	混合屑類 人力積込	24.1	m3			
	解体廃材積込	木屑類 人力積込	30.4	m3			
	解体廃材積込	金属類屑 人力積込	18.5	m3			
	解体廃材積込	ボード屑 人力積込	4.6	m3			
	解体廃材積込	ガラス屑 人力積込	0.4	m3			
	解体廃材積込	塩ビ・プラスチック・シーリング屑 人力積込	0.4	m3			
	解体廃材積込	家具備品・棚屑 人力積込	16.9	空m3			
	b-② 小計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
b-③	解体廃材運搬						
	解体廃材運搬	コンクリート・CB屑 DT4t積 片道25km	28.2	m3			
	解体廃材運搬	碎石屑 DT4t積 片道25km	0.9	m3			
	解体廃材運搬	混合屑類 DT4t積 片道25km	24.1	m3			
	解体廃材運搬	木屑類 DT4t積 片道25km	30.4	m3			
	解体廃材運搬	金属類屑 DT4t積 片道25km	18.5	m3			
	解体廃材運搬	ホート屑 DT4t積 片道25km	4.6	m3			
	解体廃材運搬	ガラス屑 DT4t積 片道25km	0.4	m3			
	解体廃材運搬	塩ビ・プラスチック・シーリング屑 DT4t積 片道25km	0.4	m3			
	解体廃材運搬	家具備品・棚屑 DT4t積 片道25km	16.9	空m3			
	b-③ 小計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
b-④	解体廃材処分						
	解体廃材処分	コンクリート・CB屑	28.2	m3			
	解体廃材処分	砕石屑	0.9	m3			
	解体廃材処分	混合屑類	24.1	m3			
	解体廃材処分	木屑類	30.4	m3			
	解体廃材処分	ホート屑	4.6	m3			
	解体廃材処分	ガラス屑	0.4	m3			
	解体廃材処分	塩ビ・プラスチック・シーリング屑	0.4	m3			
	解体廃材処分	家具備品・棚屑	16.9	空m3			
	b-④ 小計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
b-⑤	解体廃材処分(スクラップ控除)						
	解体発生材処分(スクラップ°)	鉄筋屑 H3	▲ 1.1	t			
	解体発生材処分(スクラップ°)	鉄骨屑 H3	▲ 2.2	t			
	解体発生材処分(スクラップ°)	鉄・板金屑 H4	▲ 2.5	t			
	解体発生材処分(スクラップ°)	アルミ屑	▲ 0.5	t			
	b-⑤ 計						



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
3	RC耐震補強壁工事						
	耐震補強コンクリート	FC-24+3N/mm2 S-18	25.1	m3			
	補強コンクリート打設費	流込工法	25.1	m3			
	耐震補強壁型枠	運搬費共	293.0	m2			
	打継目地棒	20x10 材工共	22.8	m			
	無収縮注入型枠	両面木製	45.4	m			
	無収縮モルタル注入	試験費共 FC30N/mm2	1.6	m3			
	補強異形鉄筋	SD295A D10	0.1	t			
	補強異形鉄筋	SD295A D13	2.3	t			
	補強異形鉄筋	SD295A D16	0.4	t			
	補強鉄筋加工組立費	副資材・場内小運搬含	2.6	t			
	割裂補強筋	6Φ 100Φ-@50 材工共	64.3	m			
	割裂補強筋	6Φ 75Φ-@50 材工共	52.4	m			
	後施工アンカー差筋アンカー	接着系 D19 7da 下向施工 材工共	128.0	本			
	後施工アンカー差筋アンカー	接着系 D19 7da 上向施工 材工共	128.0	本			
	後施工アンカー差筋アンカー	接着系 D19 7da 横向施工 材工共	168.0	本			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	後施工アンカー差筋アンカー	接着系 D19 10da 下向施工 材工共	25.0	本			
	後施工アンカー差筋アンカー	接着系 D19 10da 上向施工 材工共	25.0	本			
	後施工アンカー差筋アンカー	接着系 D19 10da 横向施工 材工共	1.0	本			
	後施工アンカー差筋アンカー	接着系 D16 7da 下向施工 材工共	172.0	本			
	後施工アンカー差筋アンカー	接着系 D16 7da 上向施工 材工共	177.0	本			
	接着部分目荒し		19.4	m2			
	3 - 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
4	鉄骨耐震補強工事						
①	耐震補強軸ブレス(HV1)	L-75x75x6 鋼材・副資材・加工・組立・運搬共	1.0	式			
②	耐震補強軸ブレス(HV2)	M-18 鋼材・副資材・加工・組立・運搬共	1.0	式			
③	耐震補強柱(HSP1)	H-100x100x6.8 鋼材・副資材・加工・組立・運搬共	1.0	式			
④	耐震補強梁(HSB1)	H-200x100x5.5x8 鋼材・副資材・加工・組立・運搬共	1.0	式			
⑤	耐震補強梁(HSB2)	H-100x100x6x8 鋼材・副資材・加工・組立・運搬共	1.0	式			
⑥	耐震補強梁(HSB3)	H-200x100x5.5x8 鋼材・副資材・加工・組立・運搬共	1.0	式			
⑦	耐震補強水平ブレス(HV3)	Φ-114.3x8.6 鋼材・副資材・加工・組立・運搬共	1.0	式			
⑧	耐震補強水平ブレス(HV4)	M-24 鋼材・副資材・加工・組立・運搬共	1.0	式			
⑨	耐震補強屋根ブレス(M27)	M-27 鋼材・副資材・加工・組立・運搬共	1.0	式			
⑩	壁下地鉄骨(Y2通xX5～X6)	鋼材・副資材・加工・組立・運搬共	1.0	式			
⑪	軽量鉄骨胴縁組	鋼材・副資材・加工・組立・運搬共	1.0	式			
	4 - 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
4-①	震補強軸プレス(HV1)						
	鋼材費	SS400 L-75x75x6	0.7	t			
	鋼板(切り板)	SS400 PL-9	0.6	t			
	高力ボルト	S10T M16 L55	210.0	本			
	鉄骨加工組立費	耐震プレス補強	1.2	t			
	現場建方・組立費	耐震プレス補強	1.2	t			
	場内小運搬費	耐震プレス補強	1.2	t			
	加工鉄骨運搬費	50km程度	1.2	t			
	現場実測費		1.2	t			
	鉄骨防錆塗装	工場 JISK5674 2回塗	45.1	m2			
	現場溶接費	隅肉6mm換算延長	131.0	m			
	4-① 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
4-②	耐震補強軸プレス(HV2)						
	鋼材費	SS400 M-18	0.1	t			
	鋼板(切り板)	SS400 PL-6	0.01	t			
	鋼板(切り板)	SS400 PL-9	0.1	t			
	高力ボルト	S10T M20 L50	42.0	本			
	鉄骨加工組立費	耐震プレス補強	0.1	t			
	現場建方・組立費	耐震プレス補強	0.1	t			
	場内小運搬費	耐震プレス補強	0.1	t			
	加工鉄骨運搬費	50km程度	0.1	t			
	現場実測費		0.1	t			
	鉄骨防錆塗装	工場 JISK5674 2回塗	4.0	m2			
	現場溶接費	隅肉6mm換算延長	38.6	m			
	4-② 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
4-③	耐震補強柱(HSP1)						
	鋼材費	SS400 H-100x100x6x8	0.6	t			
	鋼板(切り板)	SS400 PL-9	0.4	t			
	中ボルト	SS400 M16 L50	83.0	本			
	鉄骨加工組立費	耐震部分補強	0.9	t			
	現場建方・組立費	耐震部分補強	0.9	t			
	場内小運搬費	耐震部分補強	0.9	t			
	加工鉄骨運搬費	50km程度	0.9	t			
	現場実測費		0.9	t			
	鉄骨防錆塗装	工場 JISK5674 2回塗	29.8	m2			
	4-③ 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
4-④	耐震補強梁(HSB1)						
	鋼材費	SS400 H-200x100x5.5x8	1.0	t			
	鋼板(切り板)	SS400 PL-6	0.1	t			
	鋼板(切り板)	SS400 PL-9	0.1	t			
	中ボルト	SS400 M16 L45	33.0	本			
	鉄骨加工組立費	耐震部分補強	1.1	t			
	現場建方・組立費	耐震部分補強	1.1	t			
	場内小運搬費	耐震部分補強	1.1	t			
	加工鉄骨運搬費	50km程度	1.1	t			
	現場実測費		1.1	t			
	鉄骨防錆塗装	工場 JISK5674 2回塗	41.9	m2			
	現場溶接費	隅肉6mm換算延長	30.3	m			
	4-④ 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
4-⑤	耐震補強梁(HSB2)						
	鋼材費	SS400 H-100x100x6x8	0.6	t			
	鋼板(切り板)	SS400 PL-6	0.01	t			
	鋼板(切り板)	SS400 PL-9	0.1	t			
	中ボルト	SS400 M16 L45	50.0	本			
	鉄骨加工組立費	耐震部分補強	0.7	t			
	現場建方・組立費	耐震部分補強	0.7	t			
	場内小運搬費	耐震部分補強	0.7	t			
	加工鉄骨運搬費	50km程度	0.7	t			
	現場実測費		0.7	t			
	鉄骨防錆塗装	工場 JISK5674 2回塗	23.5	m2			
	4-⑤ 計						



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
4-⑥	耐震補強梁(HSB3)						
	鋼材費	SS400 H-200x100x5.5x8	0.5	t			
	鋼板(切り板)	SS400 PL-6	0.03	t			
	鋼板(切り板)	SS400 PL-9	0.03	t			
	中ボルト	SS400 M16 L45	29.0	本			
	鉄骨加工組立費	耐震部分補強	0.5	t			
	現場建方・組立費	耐震部分補強	0.5	t			
	場内小運搬費	耐震部分補強	0.5	t			
	加工鉄骨運搬費	50km程度	0.5	t			
	現場実測費		0.5	t			
	鉄骨防錆塗装	工場 JISK5674 2回塗	17.8	m2			
	4-⑥ 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
4-⑦	耐震補強水平ブレス(HV3)						
	鋼材費	STR400 Φ-114.3x8.6	0.3	t			
	鋼板(切り板)	SS400 PL-9	0.02	t			
	鋼板(切り板)	SS400 PL-12	0.1	t			
	鋼板(切り板)	SS400 PL-16	0.03	t			
	高力ボルト	S10T M16 L60	17.0	本			
	鉄骨加工組立費	耐震ブレス補強	0.4	t			
	現場建方・組立費	耐震ブレス補強	0.4	t			
	場内小運搬費	耐震ブレス補強	0.4	t			
	加工鉄骨運搬費	50km程度	0.4	t			
	現場実測費		0.4	t			
	鉄骨防錆塗装	工場 JISK5674 2回塗	7.3	m2			
	後施工アンカー	M20 横向き施工 10da 材工共	8.0	本			
	4-⑦ 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
4-⑧	耐震補強水平プレス(HV4)						
	鋼材費	SS400 M-24	0.3	t			
	鋼板(切り板)	SS400 PL-9	0.04	t			
	鋼板(切り板)	SS400 PL-12	0.2	t			
	高力ボルト	S10T M16 L60	58.0	本			
	ターンバックル	SS400 M24	14.0	本			
	鉄骨加工組立費	耐震プレス補強	0.5	t			
	現場建方・組立費	耐震プレス補強	0.5	t			
	場内小運搬費	耐震プレス補強	0.5	t			
	加工鉄骨運搬費	50km程度	0.5	t			
	現場実測費		0.5	t			
	鉄骨防錆塗装	工場 JISK5674 2回塗	11.2	m2			
	4-⑧ 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
4-⑨	耐震補強屋根プレス(M27)						
	鋼材費	SS400 M-27	2.6	t			
	鋼板(切り板)	SS400 PL-12	1.3	t			
	高力ボルト	S10T M20 L60	283.0	本			
	ターンバックル	SS400 M27	68.0	本			
	鉄骨加工組立費	耐震プレス補強	3.7	t			
	現場建方・組立費	耐震プレス補強	3.7	t			
	場内小運搬費	耐震プレス補強	3.7	t			
	加工鉄骨運搬費	50km程度	3.7	t			
	現場実測費		3.7	t			
	鉄骨防錆塗装	工場 JISK5674 2回塗	67.3	m2			
	現場溶接費	隅肉6mm換算延長	318.0	m			
	4-⑨ 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
4-⑩	壁下地鉄骨(Y2通xX5～X6)						
	鋼材費	STKR400 ロ-100x100x3.2	0.2	t			
	鋼材費	SSC400 C-100x50x20x2.3 (カラーリップ°)	0.1	t			
	鋼板(切り板)	SS400 PL-12	0.03	t			
	鋼板(切り板)	SS400 PL-6	0.02	t			
	中ボルト	SS400 M12 L40	40.0	本			
	軽量鉄骨加工組立費	胴縁の類	0.3	t			
	場内小運搬費		0.3	t			
	加工鉄骨運搬費	50km程度	0.3	t			
	現場実測費		0.3	t			
	鉄骨防錆塗装	工場 JISK5674 2回塗	9.5	m2			
	後施工アンカー	M16 下向き施工 10da 材工共	6.0	本			
	後施工アンカー	M16 上向き施工 10da 材工共	6.0	本			
	4-⑩ 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
4-⑪	軽量鉄骨胴縁組						
	鋼材費	SSC400 C-100x50x20x2.3 (カラーリップ°)	1.3	t			
	鋼板(切り板)	SS400 PL-4.5	0.1	t			
	中ボルト	SS400 M12 L40	408.0	本			
	軽量鉄骨加工組立費	胴縁の類	1.3	t			
	場内小運搬費		1.3	t			
	加工鉄骨運搬費	50km程度	1.3	t			
	現場実測費		1.3	t			
	鉄骨防錆塗装		5.5	m2			
	4-⑪ 計						



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
5-①	外部亀裂・劣化補修						
	外壁調査	既存残置外壁躯体部分	655.0	m2			
	[1] 既設面亀裂改修	亀裂巾0.2mm程度 シール工法 パテ状エポキシ樹脂・可とう性エポキシ樹脂	28.3	m			
	[2] 既設面亀裂改修	亀裂巾0.2～1.0mm 樹脂注入工法 自動低圧エポキシ樹脂注入補修	8.9	m			
	[3] 既設面亀裂改修	亀裂巾1.0mm以上 Uカットシール充填工法	10.2	m			
	[4] 既設面亀裂改修	巾限定無（鉄筋錆汁流出部） 軽量エポキシ樹脂・防錆処理剤	1.0	ヶ所			
	[5] 既設面亀裂改修	間隙巾1.0mm以下・1.0mm以上 エポキシ樹脂注入 アンカーピンニング工法	3.1	m2			
	基礎立上モルタル剥離補修	300x300程度 モルタル補修	6.0	ヶ所			
	5-① 計						



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
5)-②	内部床天井亀裂・劣化補修						
	[1] 既設面亀裂改修	亀裂巾0.2mm程度 シール工法 パテ状エポキシ樹脂・可とう性エポキシ樹脂	40.1	m			
	[2] 既設面亀裂改修	亀裂巾0.2～1.0mm 樹脂注入工法 自動低圧エポキシ樹脂注入補修	2.2	m			
	[3] 既設面亀裂改修	亀裂巾1.0mm以上 Uカットシール充填工法	2.0	m			
	モルタル剥離補修	300x300程度 モルタル補修	1.0	ヶ所			
	5-② 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
5)-③	内部壁亀裂・劣化補修						
	[1] 既設面亀裂改修	亀裂巾0.2mm程度 シール工法 パテ状エポキシ樹脂・可とう性エポキシ樹脂	19.0	m			
	[2] 既設面亀裂改修	亀裂巾0.2～1.0mm 樹脂注入工法 自動低圧エポキシ樹脂注入補修	14.0	m			
	[3] 既設面亀裂改修	亀裂巾1.0mm以上 Uカットシール充填工法	25.0	m			
	[4] 既設面亀裂改修	巾限定無（鉄筋錆汁流出部） 軽量エポキシ樹脂・防錆処理剤	4.0	ヶ所			
	モルタル剥離補修	300x300程度 モルタル補修	6.0	ヶ所			
	5-③ 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
6	改修復旧工事						
①	土工復旧工事		1.0	式			
②	防水工事		1.0	式			
③	石・タイル工事		1.0	式			
④	木 工 事		1.0	式			
⑤	金 属 工 事		1.0	式			
⑥	左 官 工 事		1.0	式			
⑦	鋼製建具工事		1.0	式			
⑧	木製建具工事		1.0	式			
⑨	ガラス工事		1.0	式			
⑩	塗装吹付工事		1.0	式			
⑪	内外装工事		1.0	式			
⑫	そ の 他		1.0	式			
	6 - 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
6-①	土工復旧工事						
	碎石地業	土間下 再生クラッシュ	7.0	m3			
	土間下防湿シート	t0.15mm	41.0	m2			
	土間復旧コンクリート	FC-21N/mm2 S-15	8.5	m3			
	コンクリート打設費	土間コン 人力カート打設	8.5	m3			
	異形鉄筋	SD295A D10	0.4	t			
	鉄筋加工組立費	副資材・場内小運搬含	0.4	t			
	加工鉄筋運搬費	4t車	0.4	t			
	スクラップ控除	ヘビ- (H2)	▲ 0.01	t			
	差筋アンカー	金属拡張型 D10 横向き施工	356.0	本			
	コンクリート金鰻押え		46.8	m2			
	6-① 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
6-②	防 水 工 事						
	( 外 部 )						
	基礎 打継目地シーリング*	20x10 MS-2(変性シリコーン 2成分形)	22.8	m			
	北面 金属サイディング*取合シーリング*	15x10 MS-2(変性シリコーン 2成分形)	16.8	m			
	壁 取合シーリング*	15x10 MS-2(変性シリコーン 2成分形)	10.3	m			
	陸屋根立上り 既存シート防水補修	既存RC面 下地調整共	1.1	m2			
	陸屋根立上り シート防水端末処理		3.5	m			
	木造トイレ棟・渡廊下屋根取合 アルミ小庇取合シーリング*	15x10 MS-2(変性シリコーン 2成分形)	11.2	m			
	建具 建具廻取合シーリング*	20x10 MS-2(変性シリコーン 2成分形)	68.7	m			
	( 内 部 )						
	耐震壁取合 縦見切シーリング*	10x10 MS-2(変性シリコーン 2成分形)	19.3	m			
	6-② 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
6-③	石・タイル工事						
	( 外 部 )						
	玄関ポーチ床 大判磁器質タイル貼り	300x300	0.9	m2			
	玄関ポーチ腰壁 二丁掛タイル貼り		1.4	m2			
	( 内 部 )						
	玄関 御影石上框補修	W100xH100 JB仕上 モルタル共	3.0	m			
	玄関 大判磁器質タイル貼り	300x300	1.1	m2			
	6-③ 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
6-④	木 工 事						
	( 内 部 )						
	巾木 木製巾木	H100 杉上小節材程度 材工共	95.8	m			
	腰壁・壁 木製下地組	杉特一等材料程度 材工共	28.5	m2			
	腰壁・壁見切 木製見切縁	d25x25程度 杉上小節材程度 材工共	40.5	m			
	アリーナ壁 木製下地組	縦胴:@455 横棧:d18@303 杉特一等材料程度 材工共	137.0	m2			
	アリーナ壁 壁上端見切縁	d36x36程度 杉上小節材程度 材工共	48.4	m			
	木製建具 木製建具枠	d180x36程度 杉上小節材程度 材工共	11.1	m			
	アリーナ壁開口廻り 木製見切額縁	d80x25程度 杉上小節材程度 材工共	26.9	m			
	ステージ袖壁天端 木製笠木	W300xt30 タモ集成材 材工共	3.4	m			
	ステージ袖壁柱型天端 木製笠木	W500x800xt30 タモ集成材 材工共	2.0	ヶ所			
	SD建具 建具見切り	W25x36程度 杉上小節材程度 材工共	4.9	m			
	6-④ 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
6-⑤	金 属 工 事						
	( 外 部 )						
	木造トイル棟屋根取合 アルミ小庇新設	D300xL5600 アルミ既製品 取付下地角形鋼管(ロ-100x50x2.3)・端部ブラケット他共	1.0	ヶ所			
	渡廊下屋根取合 アルミ小庇新設	D300xL5600 アルミ既製品 取付下地角形鋼管(C-100x50x2.3)・端部ブラケット他共	1.0	ヶ所			
	北側 アルミ堅樋(呼樋含)	100Φ L(4600+800+2600) エルボ'2ヶ・支持金物共	6.0	ヶ所			
	東側 硬質エンビ'堅樋(呼樋含)	VP75Φ L=(150+500+5600) エルボ'2ヶ含 支持金物共	3.0	ヶ所			
	( 内 部 )						
	アリーナ床 床換気口再取付	850x200 (既存再利用)	4.0	ヶ所			
	ステージ両脇壁 軽量鉄骨高強度間仕切下地組	W125 @303	54.4	m2			
	ステージ両脇壁 軽量鉄骨高強度間仕切下地組開口補強 壁	W125 ロ-125x125x3.2	9.4	m			
	壁 軽量鉄骨間仕切下地組	W100 @450	4.2	m2			
	壁 軽量鉄骨下地組	W50 @450(二重張用)	83.6	m2			
	壁 軽量鉄骨下地組	W50 @300	81.6	m2			
	天井 軽量鉄骨天井下地組	野縁19形 @225 ふところ高1.5m未満 直張り用	75.7	m2			
	天井 天井インサート取付	@900 鉄骨部	75.7	m2			





No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
6-⑥	左 官 工 事						
	( 外 部 )						
	基礎立上り コンクリート打放補修	B種	9.1	m2			
	基礎立上り 既存コンクリート面補修		49.7	m2			
	耐震補強新設壁 コンクリート打放補修	B種	55.6	m2			
	玄関ポーチ床 モルタル塗り	タイル下地	0.9	m2			
	玄関ポーチ腰壁 モルタル塗り	タイル下地	1.4	m2			
	既存軒天 モルタル薄塗補修	塗装下	116.0	m2			
	建具廻詰モルタル	防水モルタル	71.2	m			
	( 内 部 )						
	玄関床 モルタル塗り	タイル下地	1.1	m2			
	耐震補強新設壁 モルタル金鏝塗り		76.4	m2			
	既存壁 モルタル補修塗り		46.6	m2			
	建具廻詰モルタル		47.0	m			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	6-⑥ 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
6-⑦	鋼製建具工事						
(a)	アルミ鋼製建具		1.0	式			
(b)	スチール鋼製建具		1.0	式			
	6-⑦ 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
(a)	アルミ鋼製建具						
	AD-1 両引き吊り戸	W4500xH2490 サムターン・額縁・附属金物一式共	1.0	ヶ所			
	AD-2 片引き吊り戸	W1400(有効)xH2000 ALハ°ネル・格子・附属金物一式共	1.0	ヶ所			
	AD-4 アルミ片開き戸	W800xH2275 ドアクローザー・附属金物一式共	2.0	ヶ所			
	AW-1 引き違い窓	W2400xH1245 クレセント・網戸・附属金物一式共	1.0	ヶ所			
	AW-2 引き違い連窓	W2700xH1245 クレセント・網戸・附属金物一式共	4.0	ヶ所			
	AW-3 引き違い連窓	W3670xH450 クレセント・網戸・附属金物一式共	1.0	ヶ所			
	MH-1 アルミ片開き点検口	W600xH600 ケースハンドル・錠・附属金物一式共	2.0	ヶ所			
	取付調整費		1.0	式			
	運搬搬入費		1.0	式			
	下請諸経費	設計費・諸経費・法定福利費含	1.0	式			
	6-⑦-(a) 小計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
(b)	スチール鋼製建具						
	SD-1 両開き吊り戸	W4400xH2310 小窓アクリルパネル付 サムターン・見切枠・取付金物一式共	1.0	ヶ所			
		アクリル樹脂焼付塗装共					
	SD-4 両開き戸	W1600xH2300 サムターン・トアクローサ・取付金物一式共	2.0	ヶ所			
		アクリル樹脂焼付塗装共					
	SD-5 片開き戸	W800xH2300 ガラリ付 サムターン・トアクローサ・取付金物一式共	3.0	ヶ所			
		アクリル樹脂焼付塗装共					
	AW-3格子 スチール防球格子	W3670xH450 取付金物一式共	1.0	ヶ所			
	取付調整費		1.0	式			
	運搬搬入費		1.0	式			
	下請諸経費	設計費・諸経費・法定福利費含	1.0	式			
	6-⑦-(b) 小計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
6-⑧	木製建具工事						
	WD-1 木製片開き戸	W850xH1935 マラミン化粧合板フラッシュ 両面マラミン化粧合板 (開き勝手左右:各1箇所)	2.0	ヶ所			
	建具金物費	サムターン、シリンダー錠・DC・建具金物・取付金物一式共	1.0	式			
	運搬搬入費		1.0	式			
	下請諸経費	設計費・諸経費・法定福利費含	1.0	式			
	6-⑧ 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
6-⑨	ガラス工事						
	(鋼製建具)						
	強化板ガラス	STP4 2.0m2/枚以下	0.4	m2			
	強化板ガラス	STP5 2.0m2/枚以下	10.4	m2			
	強化型板ガラス	TF4 2.0m2/枚以下	0.4	m2			
	強化型板ガラス	TF5 2.0m2/枚以下	0.4	m2			
	網入型板ガラス	FW6.8 2.18m2/枚以下	18.1	m2			
	ガラス止シーリング*	5x5	216.0	m			
	ガラスクリーニング*		29.7	m2			
	飛散防止フィルム貼り		1.4	m2			
	(木製建具)						
	強化板ガラス	STP4 2.0m2/枚以下	0.3	m2			
	ガラスクリーニング*		0.3	m2			
	6-⑨ 計						



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
6)~⑩	塗装吹付工事						
	( 外 部 )						
	耐震補強新設壁 弾性吹付タイル	打放面 下地調整共	55.6	m2			
	既存壁 弾性吹付タイル	既存面(ケレン・清掃・目荒含) 下地調整共	326.0	m2			
	ポーチ梁・柱型 厚付塗材E吹付	既存面(ケレン・清掃・目荒含) 下地調整共	17.2	m2			
	既存軒天 合成樹脂エマルジョンペイント(EP)	既存面 下地調整(コンクリートRB種)共	116.0	m2			
	( 内 部 )						
	床 ウレタン樹脂ワニス塗り	無垢フローリング面 下地調整・サンダー掛共	56.3	m2			
	耐震補強新設壁 合成樹脂エマルジョンペイント(EP)	モルタル面 素地ごしらえ共	76.4	m2			
	既存壁 合成樹脂エマルジョンペイント(EP)	既設モルタル面 下地調整共	46.6	m2			
	壁 合成樹脂エマルジョンペイント(EP)	PB面 素地ごしらえ共	108.0	m2			
	既存巾木 合成樹脂調合ペイント(SOP)	H100 細巾(2面) 既存木面下地調整(RB種) 共	5.5	m			
	巾木 合成樹脂調合ペイント(SOP)	H100 細巾(2面) 木面 素地ごしらえ共	48.8	m			
	腰壁・壁 クアラッカー塗装(CL)	木羽目板面 素地ごしらえ共	144.0	m2			
	腰見切縁 合成樹脂調合ペイント(SOP)	細巾(3面) 既存木面下地調整共	6.5	m			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	壁 合成樹脂エマルジョンペイント(EP)	合板面 素地ごしらえ共	83.6	m2			
	壁 合成樹脂エマルジョンペイント(EP)	GB+合板面 素地ごしらえ共	5.1	m2			
	壁見切 合成樹脂調合ペイント(SOP)	細巾(3面) 木面 素地ごしらえ共	38.9	m			
	新設補強鉄骨 合成樹脂調合ペイント(SOP)	鉄鋼面 素地ごしらえ共	206.0	m2			
	既存鉄骨 合成樹脂調合ペイント(SOP)	既存鉄面下地調整・錆止め共	56.2	m2			
	アリーナ巾木 オイルステングリアラッカー(OSCL)	H100 細巾(2面) 木面 素地ごしらえ共	47.1	m			
	アリーナ壁上端見切 オイルステングリアラッカー(OSCL)	細巾(2面) 木面 素地ごしらえ共	48.4	m			
	アリーナ壁開口廻り オイルステングリアラッカー(OSCL)	細巾(2面) 木面 素地ごしらえ共	26.9	m			
	既存アリーナ天井 合成樹脂調合ペイント(SOP)	既存木毛板面 下地調整共	1,038.0	m2			
	ステージ袖壁天端笠木 クアラッカー塗装(CL)	木面 素地ごしらえ共	2.2	m2			
	鋼製格子建具 合成樹脂調合ペイント(SOP)	鋼建面 素地ごしらえ共	1.2	m2			
	木製建具 合成樹脂調合ペイント(SOP)	木建面 素地ごしらえ共	2.3	m2			
	6-⑩ 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
6)-⑪	内外装工事						
	( 外 部 )						
	北面 金属防火サイディング張り	t15 縦張 既存下地調整共	13.2	m2			
	北面 金属サイディング下端水切	材工共	5.6	m			
	外壁 金属防火サイディング張り	t15 縦張 材工共	184.0	m2			
	外壁 金属防火サイディングコーナ役物	t15用 材工共	9.7	m			
	外壁 金属防火サイディング端末役物	t15用 材工共	11.2	m			
	外壁 防湿シート下張り	材工共	184.0	m2			
	外壁 耐水石膏ボード下張り	t12.5	184.0	m2			
	外壁 金属サイディング下端水切	材工共	38.0	m			
	( 内 部 )						
	床 無垢フローリング張り	t18 捨張構造用合板t12共	56.3	m2			
	床 鋼製床組下地補修	H275	20.0	m2			
	床 鋼製床組下地補修	H500	36.3	m2			
	床 フローリング壁際端部コムスリット	15x15程度	56.5	m			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	壁 石膏ボード張り	t12.5 下地PBt12.5・継目処理共	4.2	m2			
	壁 石膏ボード張り	t12.5 下地PBt12.5共	4.2	m2			
	壁 新設家具隙間フィラー		5.4	m			
	腰壁・壁 唐松羽目板張り	t15 材工共	144.0	m2			
	壁 合板張り	t5.5 T-2 材工共	83.6	m2			
	壁 石膏ボード張り	t12.5	83.6	m2			
	壁 石膏ボード張り	t12.5 継目処理共	104.0	m2			
	壁 グラスウール断熱材充填	t100 24kg品	183.0	m2			
	アリーナ壁 グラスウール断熱材充填	t50 24kg品	137.0	m2			
	ステージ両脇壁高強度LGS壁 グラスウール断熱材充填	t100 24kg品	54.4	m2			
	ステージ小屋裏壁 グラスウールボード張り	t30	72.8	m2			
	天井 化粧石膏ボード張り	t9.5	75.7	m2			
	天井 グラスウール断熱材充填	t100 24kg品	75.7	m2			
	塩ビ廻り縁	突付	59.9	m			
	SD建具壁 合板張り	GB共	5.1	m2			
	6-⑪ 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
6)-⑫	そ の 他						
	( 外 部 )						
	北側 床下通気口コンクリート塞ぎ	W1600xH150 コンクリート・型枠・鉄筋共	1.0	ヶ所			
	( 内 部 )						
	家具工事		1.0	式			
	消火器ボックス	埋込型	1.0	ヶ所			
	AD-6・8 暗幕カーテン	1.5倍ヒタ*	6.1	m2			
	ステージ* 舞台吊物設備工事		1.0	式			
	6-⑫ 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙-① 家具工事						
	F-1 下足入	W2750xD350xH2007 転倒防止固定共	1.0	箇所			
		天板・側板・地板・中仕切板: 高密度パーティクルボード両面メラミン同時圧着板22d					
		裏板:高密度パーティクルボード両面メラミン同時圧着板13d 台輪:前面シナランバーコア24d・他ラワン材24d					
	運搬搬入取付調整費		1.0	式			
	その他	下請経費・法定福利費	1.0	式			
	別紙-① 小 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙-② 舞台吊物設備工事						
	新設スクリーン設置	W5534xH3113 (画面:ホワイト 250インチHD) 電動昇降式・電動機・有線操作・吊下材共	1.0	式			
		アルミケース入・外寸W5944 画面16:9					
	取付調整費		1.0	式			
	下請諸経費	法定福利費	1.0	式			
	別紙-② 小 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
⑤	木造トレ棟 分離工事						
1	直接仮設工事		1.0	式			
2	既設撤去工事	撤去・集積・積込・運搬・処分共	1.0	式			
3	改修復旧工事	AD-4建具改修共	1.0	式			
	⑤ - 合計						



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
1	直接仮設工事						
	内部改修墨出	複合改修	12.4	m2			
	内部脚立足場	並列 H=1.8m 存置1ヶ月程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	12.4	m2			
	桝組手摺先行足場	W600 存置3ヶ月間程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	11.8	m2			
	外部桝組手摺先行足場手摺	存置3ヶ月間程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	3.6	m			
	養生費	複合改修	12.4	m2			
	整理清掃片付	複合改修	12.4	m2			
	1 - 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
2	既設撤去工事						
	(撤去工事)						
	屋根 既存屋根材撤去	野地板・防水シート撤去・集積共	5.7	m2			
	屋根 既存屋根雨押え撤去	木下地撤去・集積共	5.7	m			
	屋根 既存屋根面カッター入れ		5.7	m			
	屋根 既存小屋組撤去	集積共	1.0	m3			
	屋根 既存木柱撤去	集積共	0.2	m3			
	軒天・天井 既存仕上カッター入れ		5.4	m			
	軒天・天井 既存天仕上材撤去	集積共	16.4	m2			
	軒天・天井 既存軒天野縁組撤去	集積共	16.4	m2			
	壁 既存壁面カッター入れ		13.0	m			
	壁 既存外壁面撤去	下地撤去・集積共	16.8	m2			
	壁 既存内壁面撤去	下地撤去・集積共	16.8	m2			
	既存鋼製建具撤去	ガラス撤去・集積共	5.5	m2			
	(廃材積込)						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	解体分別積込	板金・金属屑類 人力積込	0.1	m3			
	解体分別積込	混合屑類 人力積込	1.6	m3			
	解体分別積込	木屑類 人力積込	1.1	m3			
	解体分別積込	ホート屑類 人力積込	0.3	m3			
	(廃材積込)						
	解体廃材運搬	板金・金属屑類 DT4t積 片道25km	0.1	m3			
	解体廃材運搬	混合屑類 DT4t積 片道25km	1.6	m3			
	解体廃材運搬	木屑類 DT4t積 片道25km	1.1	m3			
	解体廃材運搬	ホート屑類 DT4t積 片道25km	0.3	m3			
	(廃材処分)						
	解体発生材処分	混合屑類	1.6	m3			
	解体発生材処分	木屑類	1.1	m3			
	解体発生材処分	ホート屑類	0.3	m3			
	解体発生材処分(スクラップ)	板金・金属屑類	▲ 20.1	kg			
	解体発生材処分(スクラップ)	AL屑類	▲ 21.8	kg			



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
3	改修復旧工事						
	既設木柱移設設置	杉特一等材料程度 材工共	0.2	m3			
	既設木小屋組補修	杉特一等材料程度 材工共	0.1	m3			
	木部見掛部保護着色塗装(WP)	素地ごしらえ共	3.9	m2			
	雨押え水切EXP.J金物	既設体育館側・切断補修側共	5.7	m			
	雨押え取合シーリング	PS-2 20x10	11.4	m			
	既存横葺き屋根切断補修	カラー鉄板巻込納め ケラハ納め・唐草納め共	5.7	m			
	軒天・天井 フレキシブルボード張り	t5 目透張	16.4	m2			
	軒天・天井 塩ビ廻り縁	目透張用	18.5	m			
	軒天・天井 弾性吹付タイルE	下地調整共 (フレキ面)	16.4	m2			
	既設壁取合部補修		10.0	m			
	既存床仕上補修		12.3	m2			
	建具取合シーリング	15x10 MS-2(変性シリコン 2成分形)	7.8	m			
	3 - 計						



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
1	直接仮設工事						
	建物廻り 外部枠組手摺先行足場	H12m未満 W600 存置期間1箇月程度 登栈橋・掛払手間・損料・修繕・運搬費共	84.3	掛m2			
	建物廻り 垂直養生防音シート張	存置期間1箇月程度 掛払手間・損料・修繕・運搬費共	84.3	m2			
	内部脚立足場	存置期間1箇月程度 掛払手間・損料・修繕・運搬費共	43.6	m2			
	1 - 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
2	アスベスト含有物質撤去工事						
	(アスベスト含有物質撤去とりこわし)						
	( 外 部 )						
	外壁 ラスモルタル撤去	(アスベスト含有rv3)・湿潤化・集積共	54.9	m2			
	軒天井 ラスモルタル撤去	(アスベスト含有rv3)・湿潤化・集積共	19.3	m2			
	アスベスト飛散防止対策養生	床養生・壁養生・整理清掃後片付共	1.0	式			
	【解体廃材積込】						
	解体廃材積込	モルタル屑(アスベスト含有rv3)	2.7	m3			
	【解体廃材運搬】						
	解体廃材運搬	モルタル屑(アスベスト含有rv3) コンテナ車・ユニック車10t積 片道85km	2.7	m3			
	【解体廃材処分】						
	解体廃材処分	モルタル屑(アスベスト含有rv3)	2.7	m3			
	2 - 計						



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
3	一般既存解体撤去工事						
	(撤去とりこわし)						
	捨てコンクリート解体	集積共 大型ブレーカー・圧砕機併用	0.8	m3			
	基礎躯体コンクリート解体	集積共 大型ブレーカー・圧砕機併用	3.9	m3			
	土間・床板コンクリート解体	集積共 大型ブレーカー・圧砕機併用	5.2	m3			
	建物内部造作材事前撤去	人力撤去 集積共	43.6	延m2			
	上屋解体撤去	屋根撤去・集積共	43.6	延m2			
	アルミ鋼製建具撤去	ガラス・枠・金物撤去・集積共	11.2	m2			
	木製建具撤去	ガラス・枠・金物撤去・集積共	18.6	m2			
	建具シーリング撤去	集積共	11.4	m			
	解体時建物周辺根切	機械掘削	16.5	m3			
	解体根切埋め戻し	機械 根切土利用	16.5	m3			
	解体跡整地	建物解体範囲	43.6	m2			
	解体用重機運搬回送費	片道30km以内 バックホウ	1.0	往復			
	(解体分別積込)						
	解体分別積込	コンクリート塊 30cm以下 機械積込	9.9	m3			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	解体分別積込	木材屑類 機械積込	2.5	m3			
	解体分別積込	フレキシブルボート屑 人力積込	0.3	m3			
	解体分別積込	ガラス屑 人力積込	0.1	m3			
	解体分別積込	混合物屑 人力積込	1.0	m3			
	解体分別積込	鉄屑(板金・鋼板) 機械積込	1.5	m3			
	解体分別積込	鉄屑(鉄筋) 機械積込	2.1	m3			
	解体分別積込	金属千地屑 機械積込	0.3	m3			
	解体分別積込	金属千地屑(アルミ屑) 機械積込	0.6	m3			
	(解体廃材運搬)						
	解体廃材運搬	コンクリート塊 DT4t積 片道25km程度	9.9	m3			
	解体廃材運搬	木材屑類 DT4t積 片道25km程度	2.5	m3			
	解体廃材運搬	フレキシブルボート屑 DT4t積 片道25km程度	0.3	m3			
	解体廃材運搬	ガラス屑 DT4t積 片道25km程度	0.1	m3			
	解体廃材運搬	混合物屑 DT4t積 片道25km程度	1.0	m3			
	解体廃材運搬	鉄屑(板金・鋼板) DT4t積 片道25km程度	1.5	m3			
	解体廃材運搬	鉄屑(鉄筋) DT4t積 片道25km程度	2.1	m3			
	解体廃材運搬	金属千地屑 DT4t積 片道25km程度	0.3	m3			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	解体廃材運搬	金属千地屑(アルミ屑) DT4t積 片道25km程度	0.6	m3			
	(解体発生材処分)						
	解体発生材処分	コンクリート塊 30cm以下	9.9	m3			
	解体発生材処分	木材屑類 破碎処分	2.5	m3			
	解体発生材処分	フレキシブルボード屑	0.3	m3			
	解体発生材処分	ガラス屑	0.1	m3			
	解体発生材処分	混合物屑	1.0	m3			
	解体発生材処分	鉄屑(板金・鋼板) 有価物処分(H3)	▲ 0.5	t			
	解体発生材処分	鉄屑(鉄筋) 有価物処分(H3)	▲ 1.0	t			
	解体発生材処分	金属千地屑 有価物処分	▲ 0.04	t			
	解体発生材処分	金属千地屑(アルミ屑) 有価物処分	▲ 0.1	t			
	3 - 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
④	渡り廊下棟分離工事						
1	直接仮設工事		1.0	式			
2	既設撤去工事	撤去・集積・積込・運搬・処分共	1.0	式			
3	改修復旧工事		1.0	式			
	④ - 合計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
1	直接仮設工事						
	改修墨出	個別改修	24.0	m2			
	脚立足場	直列 H=1.8m 存置1ヶ月程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	48.0	m			
	杵組手摺先行足場	H12m未満 W600 存置期間1箇月程度 登栈橋・掛払手間・損料・修繕・運搬費共	123.0	掛m2			
	養生費	個別改修	24.0	m2			
	整理清掃片付	個別改修	24.0	m2			
	1 - 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
2	既設撤去工事						
	(撤去工事)						
	屋根 既存折板屋根材一次撤去	W600xL2800 保管共	6.0	ヶ所			
	基礎 既存柱コンクリート基礎撤去	集積共 人力撤去	0.1	m3			
	(廃材積込)						
	解体分別積込	板金・金属屑類 人力積込	0.1	m3			
	解体分別積込	コンクリート屑 人力積込	0.1	m3			
	(廃材運搬)						
	解体廃材運搬	板金・金属屑類 DT4t積 片道25km	0.1	m3			
	解体廃材運搬	コンクリート屑 DT4t積 片道25km	0.1	m3			
	(廃材処分)						
	解体発生材処分	板金・金属屑類	▲ 10.1	kg			
	解体発生材処分	コンクリート屑	0.1	m3			
	2 - 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
3	改修復旧工事						
	一次取外折板再設置	切縮加工共	6.0	ヶ所			
	水上面戸取付	W600	6.0	ヶ所			
	鉄骨柱受けコンクリート基礎	W300xD600xH200程度 材工共	1.0	ヶ所			
	3 - 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
㊦	既設樹木撤去工事						
	既存高木伐採伐根	W2000xC200xH8000	10.0	本			
	既存高木伐採伐根	W5000xC500xH15000	1.0	本			
	解体分別積込	樹木屑 機械積込	67.5	m3			
	解体廃材運搬	樹木屑 DT4t積 片道25km程度	67.5	m3			
	解体発生材処分	樹木屑 破碎処分	67.5	m3			
	既存樹木撤去跡埋戻整地		25.5	m3			
	㊦ - 合計						





No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
1	直接仮設工事						
	外壁改修墨出	外壁改修	79.6	m2			
	外部改修墨出	個別改修	55.9	m2			
	内部改修墨出	複合改修	49.5	m2			
	妻壁アーチ改修用 外部枠組手摺先行足場	W600 存置3ヶ月間程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	286.0	m2			
	妻壁アーチ改修用 外部枠組手摺先行足場手摺	存置3ヶ月間程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	54.0	m			
	妻壁改修用 養生シート張り	防災シート 存置3ヶ月間程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	286.0	m2			
	アリーナ屋根V補強改修用 内部枠組棚足場	CH10750～11830 存置1ヶ月間程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	270.0	m2			
	天井改修用 外部脚立足場	並列 存置1ヶ月程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	42.4	m2			
	アリーナキャットウォーク 内部脚立足場	直列 存置1ヶ月程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	78.0	m			
	天井改修用 内部脚立足場	並列 存置1ヶ月程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	64.0	m2			
	アリーナ床 枠組棚足場下床養生	シート+コンパネ程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	286.0	m2			
	ホーチ床 既設床養生	シート敷程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	42.4	m2			
	内部床 既設床養生	シート敷程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	78.0	m2			
	養生費	個別改修	105.0	m2			
	養生費	外壁改修	79.6	m2			





No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
a	アスベスト含有物質撤去工事						
①	アスベスト含有物質撤去とりこわし		1.0	式			
②	アスベスト含有物質解体廃材積込		1.0	式			
③	アスベスト含有物質解体廃材運搬		1.0	式			
④	アスベスト含有物質解体廃材処分		1.0	式			
	下請諸経費	作業計画書・報告書作成費用・法定福利費	1.0	式			
	2-a 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
a-①	アスベスト含有物質撤去とりこわし						
	( 外 部 )						
	ステージ屋根軒天 ラスモルタル撤去	(アスベスト含有rv3)・湿潤化・集積共	19.6	m2			
	東・西妻面 門形アーチラスモルタル撤去	(アスベスト含有rv3)・湿潤化・集積共	79.6	m2			
	ポーチ天井 岩綿吸音板撤去	(アスベスト含有rv3) 下地PB撤去・湿潤化・集積共	21.8	m2			
	ポーチ天井 ラスモルタル撤去	(アスベスト含有rv3)・湿潤化・集積共	20.6	m2			
	( 内 部 )						
	天井 岩綿吸音板撤去	(アスベスト含有rv3) 下地PB撤去・集積共	31.5	m2			
	アスベスト飛散養生	床養生・壁養生・整理清掃後片付共	1.0	式			
	a-① 小 計						







No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
a-④	アスベスト含有物質解体廃材処分						
	解体廃材処分	モルタル層(アスベスト含有rv3)	3.2	m3			
	解体廃材処分	岩綿吸音板層(アスベスト含有rv3) 下地PB含	1.2	m3			
	a-④ 小 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	b 一般既存撤去工事						
①	撤去とりこわし		1.0	式			
②	解体廃材積込		1.0	式			
③	解体廃材運搬		1.0	式			
④	解体廃材処分		1.0	式			
	2-b 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
①	とりこわし撤去	解体廃材集積共					
	＜ 外 部 ＞						
	ポーチ梁下 テラゾブロック撤去	W450 集積共	13.9	m			
	ステージ屋根 鋼板破風包撤去	下地撤去・集積共	39.6	m			
	ステージ屋根 軒樋取外一時撤去	仮保管共	27.6	m			
	ポーチ 既存施設看板一時撤去	仮保管共	1.0	ヶ所			
	＜ 内 部 ＞						
	天井 化粧石膏ボード・有孔ボード撤去	木野縁・見切縁撤去・集積共	18.0	m2			
	b-① 小計						



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
③	解体廃材運搬費						
	解体廃材運搬	TB屑 DT4t積 片道25km	0.2	m3			
	解体廃材運搬	ホ-ト屑類 DT4t積 片道25km	0.4	m3			
	解体廃材運搬	木屑類 DT4t積 片道25km	3.0	m3			
	解体廃材運搬	金属鋼板類屑 DT4t積 片道25km	0.2	m3			
	b-③ 小計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
④	解体廃材処分費						
	解体発生材処分	コンクリート・モルタル・TB屑	0.2	m3			
	解体発生材処分	ボード屑類	0.4	m3			
	解体発生材処分	木屑類	3.0	m3			
	解体発生材処分(スクラップ処分)	金属鋼板類屑 金属屑(H3) 有価物スクラップ処分	▲ 0.1	t			
	b-④ 小計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
3	改修復旧工事						
	＜ 外 部 ＞						
	ポーチ梁形 外装厚塗り材E吹付	既存面(ケレン・清掃・目荒含) 下地調整共	14.3	m2			
	ステージ屋根 鋼板破風包改修	カラーGL鋼板曲加工 t0.6 木下地共	39.6	m			
	ステージ屋根軒天 合成樹脂エマルジョンペイント(EP)	素地ごしらえ共 (フレキ面)	19.6	m2			
	ステージ屋根軒天 フレキシブルボード張り	t6.0 目透張り	19.6	m2			
	ステージ屋根軒天 軽鉄天井下地組	25型 @300 H1.0m未満	19.6	m2			
	ステージ屋根軒天 天井インサート打込	@900 鉄骨部	19.6	m2			
	ステージ屋根軒天 塩ビ廻縁	目透し用	39.6	m			
	ステージ屋根 軒樋再取付	支持金物共	27.6	m			
	ステージ屋根軒樋 合成樹脂エマルジョンペイント(EP)	既存鋼板面RB種・素地ごしらえ共	24.8	m2			
	東・西妻面 門形アーチ焼付ボンテ鋼板張り	t1.6加工 下地アングル・防水シート処理共	79.6	m2			
	東・西妻面門形アーチ 取合二重シーリング	20x10 PS-2(ポリサルファイト系)	79.6	m			
	ポーチ天井 岩綿吸音板張	t9 外部直張用	36.4	m2			
	ポーチ天井 軽鉄天井下地組	25型 @300 H1.0m未満	36.4	m2			
	ポーチ天井 天井インサート打込	@900 金属拡張形アンカー(上向施工)	36.4	m2			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	ポーチ天井 塩ビ廻縁	突付	36.0	m			
	ポーチ 既施設看板再取付	W250xH1100	1.0	ヶ所			
	< 内 部 >						
	天井 岩綿吸音板張	t9 内部直張用	31.5	m2			
	天井 化粧石膏ボード張	t9.5 直張用	18.0	m2			
	天井 軽鉄天井下地組	野縁19形 @300 ふところ高1.5m未満 直張り用	31.5	m2			
	天井 軽鉄天井下地組	野縁19形 @225 ふところ高1.5m未満 直張り用	113.0	m2			
	天井 天井インサート打込	@900 金属拡張形アンカー(上向施工)	144.0	m2			
	天井 塩ビ廻縁	突付	111.0	m			
	OAW-1・2 飛散防止フィルム貼	3M-SH2CLAR同等	140.0	m2			
	ギャラリー上面 合成樹脂エマルジョンペイント(EP)	既存面ケレンRB種・素地ごしらえ共	69.5	m2			
	アリーナ天井 屋根ブレース増設	M27(TB付) L7000程度 GPL-12現場溶接取付・SOP塗装・HTB共	22.0	本			
	ステージ屋根下 グラスウールボード張り	t30 (垂木支持) 材工共	82.5	m2			
	ステージ上ブドウ棚 ブドウ棚リップ溝形鋼設置	SSC400 C-100x50x20x2.3 L9000 SOP塗装・支持部材含 材工共	13.0	本			
	ステージ上ブドウ棚 ブドウ棚リップ溝形鋼設置	SSC400 C-100x50x20x2.3 L3200 SOP塗装・支持部材含 材工共	26.0	本			
	ステージ上ブドウ棚受鉄骨 ブドウ棚リップ溝形鋼受鉄骨設置	SS400 H-300x150x6.5x9 溶接 L5500 SOP塗装・支持部材含 材工共	2.0	本			





No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙-① 落下防止器具取付						
	吊下式バスケットゴール補強・落下防止	落下防止装置・本体耐震強化装置取付	2.0	基			
	既存壁面バスケット	補強吊りワイヤーΦ6取付・ボルト点検共	4.0	基			
	既存スピーカー落下防止固定金物	クランプ・ワイヤー固定	2.0	台			
	既存額落下防止固定金物	クランプ・ワイヤー固定	2.0	枚			
	既存時計落下防止固定金物	クランプ・ワイヤー固定	1.0	台			
	ピアノ脱輪防止設置	ピアノストップ防耐震用	1.0	台			
	別紙-① 小計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙-② 軽天吊り補強鉄骨下地						
	鋼材費	SSC400 C-100x50x20x2.3 (カラーリップ°)	0.2	t			
	鋼板(切り板)	SS400 PL-4.5	0.1	t			
	中ボルト	SS400 M12 L40	75.0	本			
	軽量鉄骨加工組立費	胴縁の類	0.3	t			
	場内小運搬費		0.3	t			
	加工鉄骨運搬費	50km程度	0.3	t			
	現場実測費		0.3	t			
	鉄骨防錆塗装		26.9	m2			
	別紙-② 小計						



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
1	直接仮設工事						
	外部改修墨出	個別改修	5.0	m2			
	内部改修墨出	複合改修	116.0	m2			
	ステージ下改修用 内部脚立足場	並列 存置1ヶ月程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	82.5	m2			
	倉庫2出入口前 外部脚立足場	直列 存置1ヶ月程度 掛払・損料・運搬・取付・撤去共	5.0	m			
	養生費	複合改修	116.0	m2			
	整理清掃後片付け	複合改修	116.0	m2			
	1 - 計						



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
①	とりこわし撤去	解体廃材集積共					
	＜ 外 部 ＞						
	東面 鋼製スチール建具撤去	既存カー工法建具 ガラス・集積共	6.5	m2			
	東面(渡り廊下) 鉄骨梁一部撤去	集積共	2.0	m			
	東面 既設小庇撤去	D600 下地撤去・集積共	2.0	m			
	東面 コンクリートブロック建具袖壁撤去	集積共	3.2	m2			
	＜ 内 部 ＞						
	ステージ下 束柱コンクリートカッター入れ	t30程度	21.6	m			
	ステージ下 コンクリート束柱撤去	集積共	2.7	m3			
	ステージ下 鉄骨大引きH形鋼梁撤去	H-200x100 集積共	44.0	m			
	ステージ下 鉄骨根太掛け形鋼撤去	[-150x75 集積共	22.0	m			
	ステージ下物入① 木製階段撤去	W900xH2400 14段 集積共	2.0	ヶ所			
	ステージ床 木製床フローリング張撤去	下地合板t12・ 集積共	121.0	m2			
	ステージ床 木製根太組撤去	100x45 @303 集積共	121.0	m2			
	ステージ脇 木製階段撤去	W900xH950 4段 集積共	2.0	ヶ所			

[illegible]



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
②	解体廃材積込み費						
	解体分別積込	コンクリート屑 人力積込	2.7	m3			
	解体分別積込	CB屑 人力積込	0.6	m3			
	解体分別積込	木屑類 人力積込	7.1	m3			
	解体分別積込	ガラス屑類 人力積込	0.1	m3			
	解体分別積込	混合屑類 人力積込	0.2	m3			
	解体分別積込	金属・鋼板・鉄骨類屑 人力積込	3.7	m3			
	② - 小 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
③	解体廃材運搬費						
	解体廃材運搬	コンクリート屑 DT4t積 片道25km	2.7	m3			
	解体廃材運搬	CB屑 DT4t積 片道25km	0.6	m3			
	解体廃材運搬	木屑類 DT4t積 片道25km	7.1	m3			
	解体廃材運搬	ガラス屑類 DT4t積 片道25km	0.1	m3			
	解体廃材運搬	混合屑類 DT4t積 片道25km	0.2	m3			
	解体廃材運搬	金属・鋼板・鉄骨類屑 DT4t積 片道25km	3.7	m3			
	③ - 小 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
④	解体廃材処分費						
	解体発生材処分	コンクリート屑	6.3	t			
	解体発生材処分	CB屑	1.2	t			
	解体発生材処分	木屑類	7.1	m3			
	解体発生材処分	ガラス屑類	0.1	m3			
	解体発生材処分	混合屑類	0.2	m3			
	解体発生材処分(スクラップ°処分)	スチール金属・鋼板・鉄骨類屑 金属屑(H3) 有価物スクラップ°処分	▲ 1.8	t			
	解体発生材処分(スクラップ°処分)	アルミ金属屑 アルミ屑 有価物スクラップ°処分	▲ 0.2	t			
	④ - 小 計						



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
①	外部改修工事						
	東面 RC耐震補強壁工事	WW15 W2700xH1000 4構面	1.0	式			
	東面 壁防水モルタル塗り		10.8	m2			
	東面 弾性吹付タイル	下地調整共	10.8	m2			
	アリーナ屋根 既存軒樋清掃		71.2	m			
	改修建具 取合シーリング	20x10 MS-2(変性シリコン系)	49.7	m			
	既存OSG-1 アクリル樹脂エナメル塗装改修	錆落し・RB種ケレン・防錆処理・素地ごしらえ共	2.4	m2			
	渡り廊下 鉄骨梁一部補修	梁:H-200x100x5.5x8 受:C-100x50x20x2.3 SOP塗装共 (A-63図参照)	1.0	式			
	建具廻詰モルタル	防水モルタル	60.8	m			
	既存建具クリーニング		264.0	m2			
	北側 犬走土間新設	W3300xD1500 落込有 土工・コンクリート・型枠・鉄筋工事共	1.0	式			
	① - 小 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙 ①-1 RC耐震補強壁工事						
	耐震補強コンクリート	FC-24+3N/mm2 S-18	1.6	m3			
	補強コンクリート打設費	流込工法	1.6	m3			
	耐震補強壁型枠	運搬費共	21.6	m2			
	無収縮注入型枠	両面木製	10.8	m			
	無収縮モルタル注入	試験費共 FC30N/mm2	0.3	m3			
	補強異形鉄筋	SD295A D13	0.13	t			
	補強異形鉄筋	SD295A D16	0.04	t			
	補強鉄筋加工組立費	副資材・場内小運搬含	0.17	t			
	割裂補強筋	6Φ 75Φ-@50 材工共	21.6	m			
	後施工アンカー差筋アンカー	接着系 D16 7da 下向施工 材工共	72.0	本			
	後施工アンカー差筋アンカー	接着系 D16 7da 上向施工 材工共	72.0	本			
	接着部分目荒し		3.2	m2			
	別紙 ①-1 小計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙 ①-2 鉄骨梁一部補修						
	(新設差替え鉄骨)						
	H形鋼	SS400 H-200x100x5.5x8	43.9	kg			
	軽量カラーリップ溝形鋼	SSC400 C-100x50x20x2.3	9.4	kg			
	鋼板(切板)	SS400 PL-9	18.6	kg			
	鋼板(切板)	SS400 PL-6	5.3	kg			
	高力ボルト	S10T M16 L60	32.0	本			
	高力ボルト	S10T M16 L45	8.0	本			
	スクラップ控除	ヘビ- (H2)	▲ 3.2	kg			
	鉄骨工場加工組立費		74.0	kg			
	現場工場溶接費	すみ肉6mm換算	2.7	m			
	鉄骨運搬費	50km程度	74.0	kg			
	鉄骨建方費		74.0	kg			
	高力ボルト締付費		74.0	kg			
	鉄骨防錆塗装	工場 JISK5674 2回塗	1.6	m2			
	新設補強鉄骨 合成樹脂調合ペ-ント(SOP)	鉄鋼面 素地ごしらえ共	1.6	m2			





No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙 ①-3 犬走土間新設						
	根切	人力掘削	1.3	m3			
	残土処分	場内敷き均し	0.4	m3			
	埋め戻し	B種 人力	0.9	m3			
	碎石地業	土間下 再生クラッシュ	0.7	m3			
	土間コンクリート	FC-21N/mm2 S-15	0.9	m3			
	コンクリート打設費	土間コン 人力カート打設	0.9	m3			
	異形鉄筋	SD295A D10	0.08	t			
	異形鉄筋	SD295A D13	0.04	t			
	鉄筋加工組立費	副資材・場内小運搬含	0.11	t			
	加工鉄筋運搬費	4t車	0.11	t			
	スクラップ控除	ヘビ- (H2)	▲ 0.003	t			
	差筋アンカー	金属拡張型 D10 横向き施工	42.0	本			
	差筋アンカー	金属拡張型 D13 横向き施工	12.0	本			
	コンクリート金鍔押え		3.3	m2			



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
②	内部改修工事						
	ステージ下コンクリート基礎工事		1.0	式			
	ステージ下鉄骨架台工事		1.0	式			
	既存ステージ脇RC階段 床防塵塗装塗り	既存面下地調整共	2.0	m2			
	ステージ床 無垢フローリング張り	t18 捨張構造用合板t12共	121.0	m2			
	ステージ床 ウレタン樹脂ワニス塗装	無垢フローリング面 下地調整・サンダー掛共	121.0	m2			
	ステージ床 TSボード下地張	t20 材工共	121.0	m2			
	アリーナ出入口床 無垢フローリング張り	t18 捨張構造用合板t12共	5.0	m2			
	アリーナ出入口床 ウレタン樹脂ワニス塗装	無垢フローリング面 下地調整共	5.0	m2			
	アリーナ出入口床 鋼製床組下地補修	H400	5.0	m2			
	アリーナ出入口床 フローリング壁際端部ゴムスリット	15x15程度	16.8	m			
	アリーナ出入口床 レール受け無筋コンクリート	W180xH370 コンクリート・型枠共	16.8	m			
	アリーナ出入口巾木 オイルステングリアッカー塗(OSCL)	木部 細巾(2面) 素地ごしらえ共	9.9	m			
	アリーナ出入口巾木 木製巾木	H100 杉上小節材程度 材工共	9.9	m			
	アリーナ出入口壁 クアアッカー塗装(CL)	木羽目板面 素地ごしらえ共	13.7	m2			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	アリーナ出入口壁 木製下地組	縦胴:@455 横桟:d18@303 杉特一等材程度 材工共	13.7	m2			
	アリーナ出入口壁 唐松羽目板張り	t15 材工共	13.7	m2			
	アリーナ出入口壁 グラスウール断熱材充填	t50 24kg品	13.7	m2			
	倉庫1 集成木框取付	45x90 タモ集成材程度 材工共	3.3	m			
	倉庫1 框 オイルステングリアラッカー塗(OSCL)	木部 細巾(2面) 素地ごしらえ共	3.3	m			
	倉庫2 集成木框取付	75x150 タモ集成材程度 材工共	4.6	m			
	倉庫2 框 オイルステングリアラッカー塗(OSCL)	木部 細巾(2面) 素地ごしらえ共	4.6	m			
	倉庫1・2床 床下点検口設置	600x600 アルミ製	2.0	ヶ所			
	ステージ脇 木製階段	W850xH950 4段 タモ集成材 ササリ桁:36d 踏板:36d 材工共	2.0	ヶ所			
	ステージ脇木階段 ウレタン樹脂ワニス塗装	木面 素地ごしらえ共	4.8	m2			
	倉庫2 既存手摺 合成樹脂調合ペイント装(SOP)	鉄鋼面 RB種調整 素地ごしらえ共	1.8	m2			
	ステージ前腰壁 木化粧単板張り	t5.5 捨張構造用合板t12共	11.7	m2			
	ステージ前腰壁 クリアラッカー塗(CL)	木面 素地ごしらえ共	11.7	m2			
	ステージ前腰壁 軽量鉄骨間仕切下地組	t100 @300	11.7	m2			
	ステージ前腰壁 軽量鉄骨間仕切下地組端部補強	t100	27.9	m			
	ステージ前腰壁裏 ケイ酸カルシウム板張	t6 突付	11.7	m2			
	ステージ前腰壁裏 下地耐水石膏ボード張り	t12.5 突付	11.7	m2			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	ステージ 集成木框取付	150x50 タモ集成材程度 材工共	13.0	m			
	ステージ框 ウレタン樹脂ワニス塗装	木部 細巾(2面) 素地ごしらえ共	13.0	m			
	ステージ前 木製階段	W600xH950 4段 タモ集成材 ササリ桁:36d 踏板:36d 材工共	2.0	ヶ所			
	ステージ前木階段 ウレタン樹脂ワニス塗装	木面 素地ごしらえ共	4.2	m2			
	ステージ前木階段段裏 強化石膏ボード張り	t12.5 突付	1.7	m2			
	アリーナ・ギャラリー既存壁 合成樹脂エマルジョンペイント塗装(EP)	有孔シナ合板面 RB種調整 素地ごしらえ共	341.0	m2			
	アリーナ既存カーテンBOX 合成樹脂調合ペイント塗装(SOP)	木面 RB種調整 素地ごしらえ共	34.5	m2			
	アリーナ既存鉄骨 合成樹脂調合ペイント塗装(SOP)	鉄鋼面 RB種調整 素地ごしらえ共	1,649.0	m2			
	2Fキャットウォーク 進入防止チェーン新設	W1800 SUS製・鍵付・支持金物共	2.0	ヶ所			
	2Fキャットウォーク扉後 有孔シナ合板張り	t5.5 横桟t9共	2.0	m2			
	2Fキャットウォーク扉後 軽量鉄骨間仕切下地組	t100 @300	2.2	m2			
	2Fキャットウォーク扉後 軽量鉄骨間仕切下地組端部補強	t100	4.8	m			
	2Fキャットウォーク扉後 石膏ボード張り	t12.5 突付 継目処理共	2.2	m2			
	2Fキャットウォーク扉後 合成樹脂エマルジョンペイント塗装(EP)	有孔シナ合板面 素地ごしらえ共	2.2	m2			
	2Fキャットウォーク扉後 合成樹脂エマルジョンペイント塗装(EP)	PB面 素地ごしらえ共	2.2	m2			
	2Fキャットウォーク扉後 取合シーリング	15x10 MS-2(変性シリコン系)	9.6	m			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	アリーナ天井 合成樹脂調合ペイント塗装(SOP)	既存木毛板面 下地調整	945.0	m2			
	SD建具 建具見切り	W25x36程度 杉上小節材程度 材工共	17.8	m			
	SD-3建具 木製見切額縁	d80x25程度 杉上小節材程度 材工共	7.4	m			
	建具見切り 合成樹脂調合ペイント(SOP)	木面 素地ごしらえ共	17.8	m			
	建具額縁 合成樹脂調合ペイント(SOP)	木面 素地ごしらえ共	7.4	m			
	家具工事		1.0	式			
	アリーナ(OAW-1・2) 暗幕カーテン改修工事		1.0	式			
	防球ネット工事		1.0	式			
	② - 小 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙 ②-1 ステージ下コンクリート工事						
	基礎コンクリート	Fc-21N/mm2 スランプ°15 I 類(JIS適合認証コンクリート)	30.0	m3			
	コンクリート温度補正	温度補正強度 6N/mm2	30.0	m3			
	コンクリート打設手間	基礎コン ポンプ打設	30.0	m3			
	コンクリートポンプ圧送費	基礎コン 30m3以上50m3未満 基本料共	1.0	回			
	普通合板型枠	基礎部	19.8	m2			
	型枠運搬費	4t車 基準距離30km以内	19.8	m2			
	異形鉄筋棒鋼	SD295A D13	0.9	t			
	異形鉄筋棒鋼	SD295A D16	0.1	t			
	鉄筋スクラップ控除	H2(特級B)程度	▲ 0.03	t			
	鉄筋加工組立費	結束線・スパーサーブロック共	1.0	t			
	加工鉄筋運搬費	加工場～現場 30km程度 4t車	1.0	t			
	別紙 ②-1 小計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙 ②-2 ステージ下鉄骨架台工事						
	角形鋼管	BCR295 □-200x200x9	0.7	t			
	H形鋼	SN400B H-350x175x7x11	4.4	t			
	H形鋼	SS400 H-250x125x6x9	1.9	t			
	H形鋼	SS400 H-100x100x6x8	0.1	t			
	軽量カラーリップ溝形鋼	SSC400 C-100x50x20x2.3	1.7	t			
	等辺山形鋼	SS400 L-100x100x7	0.3	t			
	鋼板(切板)	SN490C PL-16	0.4	t			
	鋼板(切板)	SN400B PL-9	0.7	t			
	鋼板(切板)	SN400B PL-6	0.8	t			
	鋼板(切板)	SS400 PL-9	0.5	t			
	高力ボルト	S10T M16 L45	125.0	本			
	高力ボルト	S10T M16 L50	424.0	本			
	高力ボルト	S10T M16 L60	1,061.0	本			
	高力ボルト	S10T M20 L50	87.0	本			
	普通中ボルト	M12 L40	599.0	本			



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	スクラップ控除	ヘビ- (H2)	▲ 0.3	t			
	水平耐震ブレース	M16xL1800 TB付 材工共	6.0	本			
	水平耐震ブレース	M16xL2000 TB付 材工共	2.0	本			
	水平耐震ブレース	M16xL2200 TB付 材工共	6.0	本			
	水平耐震ブレース	M16xL2400 TB付 材工共	10.0	本			
	水平耐震ブレース	M16xL2600 TB付 材工共	4.0	本			
	水平耐震ブレース	M16xL2800 TB付 材工共	14.0	本			
	水平耐震ブレース	M16xL3000 TB付 材工共	12.0	本			
	鉄骨工場加工組立費	鉄骨胴縁別途 工場溶接共	8.7	t			
	鉄骨運搬費	50km程度	10.3	t			
	鉄骨建方費	揚重機械損料共	8.7	t			
	高力ボルト締付費		8.7	t			
	鉄骨防錆塗装	工場 JISK5674 2回塗	227.0	m2			
	軽量鉄骨加工組立	床根太の類	1.6	t			
	柱脚固定金物	角型鋼管用 アンカー・グラウト・標準施工共 (ハイペースネオ:EB200-4-24同等)	10.0	セット			
	超音波探傷試験	工場第三者 AOQL4%抜取	54.0	ヶ所			





No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙 ②-4 暗幕カーテン改修工事						
	新設暗幕	W3500xH4140 難燃性暗幕地・2倍ヒタ	20.0	枚			
	暗幕用手動ロープ開閉装置	中型アルミレール L7000 両開・手動ロープ開閉装置付	10.0	ヶ所			
	取付調整費		1.0	式			
	下請諸経費	法定福利費	1.0	式			
	別紙 ②-4 小計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙 ②-5 防球ネット工事						
	【3】 防球ネット(サイド)取替		2.0	幕			
	【4】 防球ネット(センター)取替		1.0	幕			
	【4】 ワイヤー取付金物		2.0	組			
	【5】 防球ネット(ステージ側)ターンバックル取替		2.0	組			
	【6】 防球ネット新設(1階出入口)	W2500xH2500程度	6.0	幕			
	【7】 アリーナ床 ささくれ補修	無垢フローリング張替	5.0	ヶ所			
	取付調整費		1.0	式			
	運搬搬入費		1.0	式			
	下請諸経費	法定福利費含	1.0	式			
	別紙 ②-5 小計						



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
(a)	アルミ鋼製建具						
	AD-3 両引き吊り戸	W有効1280xH2000 アルミ見切共 サムターン・額縁・附属金物一式共	1.0	ヶ所			
	AW-4 (カバー工法) 欄間外倒し・引違い段窓	W1500xH1250 換気扇付 クレセント・網戸・附属金物一式共	1.0	ヶ所			
	ex-1 網戸取替	W1500xH1250 引違建具網戸 SUS網戸 既存撤去処分共	2.0	ヶ所			
	ex-3 網戸取替	W1500xH1250 引違建具網戸 SUS網戸 既存撤去処分共	3.0	ヶ所			
	ex-4 鍵取替	片開き建具 既存鍵撤去処分共	1.0	ヶ所			
	取付調整費		1.0	式			
	運搬搬入費		1.0	式			
	下請諸経費	設計費・諸経費・法定福利費含	1.0	式			
	③-(a) 小 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
(b)	スチール鋼製建具						
	SD-2a 両開き吊り戸	W有効1400xH2300 サムターン・見切枠・取付金物一式共	1.0	ヶ所			
		アクリル樹脂焼付塗装共					
	SD-2b 両開き吊り戸	W有効1400xH2300 サムターン・見切枠・取付金物一式共	2.0	ヶ所			
		アクリル樹脂焼付塗装共					
	SD-2c 両開き吊り戸	W有効1380xH2000 サムターン・見切枠・取付金物一式共	1.0	ヶ所			
		アクリル樹脂焼付塗装共					
	SD-3 両開き戸	W2800xH2300 サムターン・見切枠・取付金物一式共	1.0	ヶ所			
		アクリル樹脂焼付塗装共					
	取付調整費		1.0	式			
	運搬搬入費		1.0	式			
	下請諸経費	設計費・諸経費・法定福利費含	1.0	式			
	③-(b) 小 計						



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
(c)	ガラス工事						
	強化板ガラス	STP4 2.0m2/枚以下	0.1	m2			
	強化型板ガラス	TF4 2.0m2/枚以下	3.8	m2			
	強化型板ガラス	TF5 2.0m2/枚以下	1.4	m2			
	複層ガラス	FW6.8+A15+TF5 2.0m2/枚以下	1.4	m2			
	網入磨板ガラス	PW6.8 2.18m2/枚以下	0.1	m2			
	ガラス止シーリング	5x5	69.0	m			
	ガラスクリーニング		6.7	m2			
	③-(c) 小 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
Ⅲ	電気設備改修直接工事						
1	電灯幹線設備		1.0	式			
2	電灯設備	電灯分岐	1.0	式			
3	コンセント設備	コンセント分岐	1.0	式			
4	構内交換設備		1.0	式			
5	拡声設備	音響装置含む	1.0	式			
6	情報表示設備	時計設備	1.0	式			
7	テレビ共同受信設備		1.0	式			
8	自動火災報知設備		1.0	式			
9	消火設備		1.0	式			
10	石綿含有物質撤去工事		1.0	式			
11	撤去工事	産業廃棄物処理費含む	1.0	式			
	Ⅲ 電気改修工事直接工事 合計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
1	電灯幹線設備						
	ケーブル	EM-CET22sq 管内	8.0	m			
	〃	EM-CET22sq いんぺい	37.0	m			
	〃	EM-CET38sq 管内	4.0	m			
	〃	EM-CET38sq いんぺい	2.0	m			
	〃	EM-CET60sq 管内	13.0	m			
	〃	EM-CET60sq いんぺい	75.0	m			
	〃	EM-CE5.5sq-4C 管内	7.0	m			
	〃	EM-CE5.5sq-4C いんぺい	3.0	m			
	〃	EM-CE8sq-4C 管内	2.0	m			
	〃	EM-CEE5.5sq-7C 管内	10.0	m			
	〃	EM-CEE5.5sq-7C 露出	56.0	m			
	電線	EM-IE5.5sq 管内	2.0	m			
	〃	EM-IE14sq 管内	42.0	m			
	〃	EM-IE14sq いんぺい	213.0	m			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	電線管	G54 露出	3.0	m			
	〃	E51 いんぺい	15.0	m			
	〃	VE16 露出	2.0	m			
	プルボックス	300×300×300 SUS-WP	1.0	個			
	ジャンクションボックス	102-102-54 C付	2.0	個			
	引込開閉器盤	S-1 屋外壁掛型	1.0	面			
	電灯分電盤	L-1 屋内壁掛型 下部架台共	1.0	面			
	電灯分電盤	L-2 屋内壁掛型 上下部ダクト共	1.0	面			
	既存埋込盤改修	扉加工	1.0	式			
	接地工事	ED 既存接地調査共	1.0	カ所			
	引込点改修工事	引留め金具更新(補修共)	1.0	カ所			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	申請手続き費	電力会社他	1.0	式			
	電力会社工事費	架空引込線工事費 計器工事費	1.0	式			
	はつり工事	φ 75 鉄筋探查共	1.0	カ所			
	塗装工事	G54	3.0	m			
	1 - 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
2	電灯設備	電灯分岐					
	ケーブル	EM-EEF1.6-2C 管内	6.0	m			
	〃	EM-EEF1.6-2C いんぺい	27.0	m			
	〃	EM-EEF1.6-2C MM内	8.0	m			
	〃	EM-EEF1.6-3C PF内	5.0	m			
	〃	EM-EEF1.6-3C いんぺい	80.0	m			
	〃	EM-EEF1.6-3C MM内	29.0	m			
	〃	EM-EEF2.0-2C いんぺい	10.0	m			
	〃	EM-EEF2.0-3C 管内	116.0	m			
	〃	EM-EEF2.0-3C PF内	9.0	m			
	〃	EM-EEF2.0-3C いんぺい	115.0	m			
	〃	EM-EEF2.0-3C 露出	214.0	m			
	〃	EM-EEF2.0-3C MM内	6.0	m			
	〃	EM-CE3.5sq-3C 管内	5.0	m			
	〃	EM-CE5.5sq-3C いんぺい	56.0	m			
	〃	EM-FCPEE1.2-1P いんぺい	24.0	m			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	ケーブル	EM-FCPEE1.2-1P 露出	214.0	m			
	〃	EM-FCPEE-S1.2-1P いんぺい	53.0	m			
	〃	EM-FCPEE-S1.2-1P MM内	5.0	m			
	引込み用ビニル絶縁電線	3個より	1.0	径間			
	電線	EM-IE1.6 管内	72.0	m			
	電線管	E19 露出	7.0	m			
	〃	E39 露出	6.0	m			
	〃	PF22 いんぺい	75.0	m			
	アウトレットボックス	102-102-44 塗代付	7.0	個			
	ジャンクションボックス	102-102-54 C付	7.0	個			
	スイッチボックス	5個用	1.0	個			
	1種金属線ぴ	A型 コーナボックス共	40.0	m			
	〃	B型 コーナボックス共	5.0	m			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	同上 スイッチボックス	1個用	13.0	個			
	〃	2個用	1.0	個			
	2種金属線ぴ	40×30 溶融亜鉛メッキ	24.0	m			
	同上 ジャンクションボックス		4.0	個			
	プルボックス	250×250×200 セパレータ共	1.0	個			
	〃	150×150×100 VE	3.0	個			
	埋込スイッチ	1P15A×1	3.0	個			
	〃	1P15A×1 ガード付	2.0	個			
	〃	1P15A×1 防滴プレート付	1.0	個			
	〃	1P15A×2	1.0	個			
	〃	3W15A×1	3.0	個			
	〃	3W15A×1 ガード付	1.0	個			
	〃	1P15A×1+3W15A×1	2.0	個			



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	調光スイッチ	ステージ照明用	2.0	個			
	照明制御コントローラー	アリーナ照明用 シーンセレクト 4回路	1.0	個			
	リモコンスイッチ	4L	2.0	個			
	リモコンスイッチ盤	屋内壁掛型	1.0	個			
	自動点滅器	3A プラグ式	1.0	個			
	既存タイムスイッチ盤	取外し再取付	1.0	面			
	照明器具	A 取付金具・落下防止ワイヤー共	14.0	個			
	〃	B 取付金具・落下防止ワイヤー共	14.0	個			
	〃	C	16.0	個			
	〃	D	4.0	個			
	〃	E	4.0	個			
	〃	F	3.0	個			
	〃	G	10.0	個			
	〃	H	2.0	個			
	〃	I	2.0	個			
	〃	J	1.0	個			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	〃	K	3.0	個			
	〃	L	1.0	個			
	〃	M	2.0	個			
	非常用照明器具	あ	3.0	個			
	〃	い	2.0	個			
	〃	う	1.0	個			
	塗装工事	ブイルボックス 250×250×200	1.0	個			
	2 - 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
3	コンセント設備	コンセント分岐					
	ケーブル	EM-EEF2.0-3C 管内	4.0	m			
	〃	EM-EEF2.0-3C PF内	26.0	m			
	〃	EM-EEF2.0-3C いんぺい	193.0	m			
	〃	EM-EEF2.0-3C 露出	29.0	m			
	〃	EM-EEF2.0-3C MM内	37.0	m			
	〃	EM-CE5.5sq-3C 管内	42.0	m			
	〃	EM-CE5.5sq-3C PF内	23.0	m			
	〃	EM-CE5.5sq-3C いんぺい	12.0	m			
	〃	EM-CEE2sq-4C PF内	8.0	m			
	〃	EM-CEE2sq-4C いんぺい	10.0	m			
	電線管	G22 露出	42.0	m			
	〃	E25 露出	1.0	m			
	〃	E39 露出	3.0	m			
	〃	PF22 いんぺい	57.0	m			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	1種金属線ぴ	A型 コーナボックス共	37.0	m			
	同上 スイッチボックス	1個用	8.0	個			
	プルボックス	150×150×100 SUS-WP	7.0	個			
	〃	150×150×100 VE	5.0	個			
	アウトレットボックス	102-102-44 塗代付	11.0	個			
	ジャンクションボックス	102-102-54 C付	8.0	個			
	埋込コンセント	2P15A(E)×2	13.0	個			
	〃	2P15A(E)×2 ガード付	6.0	個			
	埋込コンセント	2P15A(E)×2+ET	2.0	個			
	防水コンセント	2P15A(E)×2+ET LK	1.0	個			
	排水路ヒータ	9m-200V 自己温度制御型	6.0	個			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	塗装工事	G22	42.0	m			
	〃	E25	1.0	m			
	〃	E39	3.0	m			
	はつり工事	φ 50 鉄筋探查共	1.0	カ所			
	3 - 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
4	構内交換設備						
	ケーブル	EM-FCPEE/F0.65-2P 管内	14.0	m			
	〃	EM-FCPEE/F0.65-2P PF内	34.0	m			
	〃	EM-FCPEE/F0.65-2P いんぺい	36.0	m			
	〃	EM-FCPEE/F0.65-2P MM内	2.0	m			
	〃	EM-FCPEE/F0.65-5P 管内	15.0	m			
	〃	EM-FCPEE/F0.65-5P いんぺい	2.0	m			
	電線管	G22 露出	17.0	m			
	〃	E19 露出	2.0	m			
	〃	E25 いんぺい	15.0	m			
	〃	PF16 露出	34.0	m			
	1種金属線び	A型 コーナボックス共	2.0	m			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	プルボックス	150×150×100 SUS-WP	1.0	個			
	〃	300×300×200 SUS-WP	2.0	個			
	弱電端子盤	T-1 屋内壁掛型	1.0	面			
	既存電話機	取外し再取付	1.0	式			
	ケーブル接続	防水キット処理 (既存ハンドホール内)	1.0	式			
	防災行政無線工事	取外し再取付・試験調整費	1.0	式			
	塗装工事	G22	17.0	m			
	〃	E19	2.0	m			
	4 - 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
5	拡声設備	音響装置含む					
	ケーブル	EM-HP1.2-3C 管内	88.0	m			
	〃	EM-HP1.2-3C いんぺい	55.0	m			
	〃	EM-HP1.2-3C MM内	2.0	m			
	電線管	G22 露出	6.0	m			
	〃	E19 いんぺい	3.0	m			
	〃	E19 露出	2.0	m			
	〃	E25 いんぺい	3.0	m			
	〃	E39 いんぺい	6.0	m			
	〃	PF16 露出	49.0	m			
	1種金属線ぴ	A型 コーナボックス共	2.0	m			
	同上 スイッチボックス	1個用	1.0	個			
	プルボックス	150×150×100 VE	3.0	個			



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	スピーカ	壁掛形 ATTなし	2.0	個			
	アッテネータ	壁埋込形 0.5～30W	1.0	個			
	ケーブル接続	防水キット処理 (既存ハンドホール内)	1.0	式			
	塗装工事	G22	6.0	m			
	〃	E19	2.0	m			
	ポータブルワイヤレスアンプ	可搬型	1.0	式			
		<内訳>					
		ポータブルワイヤレスアンプ					
		ワイヤレスチューナー					
		キャリングバッグ					
		ハンド式ワイヤレスマイク					
		ペンダント式ワイヤレスアンプ					
		同上 ヘッドセットマイクキット					
		ワイヤレスマイクロホン(コード共)					
	5 - 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
6	情報表示設備	時計設備					
	ケーブル	EM-FCPEE1.2-1P 管内	16.0	m			
	〃	EM-FCPEE1.2-1P PF内	34.0	m			
	〃	EM-FCPEE1.2-1P いんぺい	16.0	m			
	電線管	G22 露出	6.0	m			
	〃	E19 露出	2.0	m			
	〃	E25 いんぺい	9.0	m			
	〃	PF16 露出	34.0	m			
	既存屋内時計	取外し再取付 既存固定状況確認共	1.0	式			
	ケーブル接続	防水キット処理 (既存ハンドホール内)	1.0	式			
	塗装工事	G22	6.0	m			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	6 - 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
7	テレビ共同受信設備						
	ケーブル	EM-S-5C-FB PF内	6.0	m			
	〃	EM-S-5C-FB いんぺい	8.0	m			
	電線管	PF16 いんぺい	3.0	m			
	アウトレットボックス	102-102-44 塗代付	1.0	個			
	防雨入線カバー		1.0	個			
	直列ユニット	SH-7F 埋込型	1.0	個			
	UHFアンテナ	20素子 耐久性 取付金具含む	1.0	式			
	試験調整費		1.0	式			
	7 - 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
8	自動火災報知設備						
	ケーブル	EM-AE1.2-2C 管内	163.0	m			
	〃	EM-AE1.2-2C PF内	15.0	m			
	〃	EM-AE1.2-2C いんぺい	116.0	m			
	〃	EM-AE1.2-2C MM内	5.0	m			
	〃	EM-AE1.2-2C 露出	140.0	m			
	〃	EM-AE1.2-4C PF内	3.0	m			
	〃	EM-AE1.2-4C いんぺい	8.0	m			
	〃	EM-HP1.2-2C PF内	16.0	m			
	〃	EM-HP1.2-2C いんぺい	64.0	m			
	〃	EM-HP1.2-2C MM内	2.0	m			
	〃	EM-HP1.2-5P PF内	6.0	m			
	〃	EM-HP1.2-5P いんぺい	46.0	m			
	〃	EM-HP1.2-10P PF内	8.0	m			
	〃	EM-HP1.2-10P いんぺい	41.0	m			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	電線管	E19 いんぺい	3.0	m			
	〃	E19 露出	20.0	m			
	〃	E25 いんぺい	24.0	m			
	〃	E25 露出	24.0	m			
	〃	PF16 露出	29.0	m			
	〃	PF22 いんぺい	57.0	m			
	1種金属線ぴ	A型 コーナボックス共	7.0	m			
	同上 スイッチボックス	1個用	2.0	個			
	プルボックス	150×150×100 鋼製	2.0	個			
	〃	150×150×150 鋼製	1.0	個			
	〃	200×200×200 鋼製	2.0	個			
	ジョイントボックス	丸形 2方向出	1.0	個			
	〃	丸形 3方向出	2.0	個			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	煙感知器	2種 露出型 自動試験対応	20.0	個			
	同上	ガード（アリーナ取付部）	15.0	個			
	差動式スポット形感知器	2種 露出型 自動試験対応	12.0	個			
	機器収容箱	P形1級 露出形	1.0	個			
	〃	P形1級 埋込形（アリーナ対応）	3.0	個			
	警報ベル	屋外型	1.0	個			
	受信機	P形1級 10L 自動試験機能付	1.0	個			
	火災通報装置	電話機組込品	1.0	式			
	立会検査費	P形1級	1.0	工事			
	誘導標識		11.0	枚			
	塗装工事	E19	20.0	m			
	〃	E25	24.0	m			
	〃	プルボックス 150×150×100	2.0	個			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	〃	ブルボックス 150×150×150	1.0	個			
	〃	ブルボックス 200×200×200	2.0	個			
	〃	位置ボックス	3.0	個			
	はつり工事	φ 50 鉄筋探查共	1.0	カ所			
	8 - 計						



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
9	消火設備						
	パッケージ消火栓	I 型 露出型 表示灯付(ガード共)	5.0	式			
	消火器	ABC粉末消火器 10型 3.0kg 蓄圧式	1.0	本			
	既存消火器	取外し再取付	6.0	式			
	消火器スタンド		7.0	個			
	9 - 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
10	石綿含有物質撤去工事						
	外壁石綿含有塗材除去		1.0	式			
		<内訳>					
		外壁石綿含有塗材除去					
		作業計画書作成他					
		下請け経費・法定福利費等					
	10 - 計						

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
11	撤去工事	産業廃棄物処理費含む					
	ケーブル	CV38° -4C 管内 再使用しない	82.0	m			
	〃	VVF1.6-2C いんぺい 再使用しない	76.0	m			
	〃	VVF1.6-3C いんぺい 再使用しない	3.0	m			
	〃	VVF2.0-2C いんぺい 再使用しない	23.0	m			
	〃	HP1.2-2C いんぺい 再使用しない	6.0	m			
	〃	HP1.2-4C いんぺい 再使用しない	28.0	m			
	〃	HP1.2-5P いんぺい 再使用しない	39.0	m			
	〃	HP1.2-10P いんぺい 再使用しない	45.0	m			
	〃	AE1.2-2C いんぺい 再使用しない	117.0	m			
	〃	AE1.2-4C いんぺい 再使用しない	3.0	m			
	〃	AE1.2-8C いんぺい 再使用しない	20.0	m			
	電線	IV1.6 管内 再使用しない	23.0	m			
	〃	IV38° 管内 再使用しない	89.0	m			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	電線管	E19 再使用しない	34.0	m			
	〃	E25 再使用しない	9.0	m			
	〃	E39 再使用しない	30.0	m			
	〃	VE54 再使用しない	13.0	m			
	〃	FEP50 再使用しない	71.0	m			
	〃	ライティングダクト 再使用しない	9.0	m			
	ボックス	アウトレットボックス 再使用しない	2.0	個			
	〃	ブルボックス 200×200×100 再使用しない	4.0	個			
	〃	ブルボックス 300×300×300 再使用しない	1.0	個			
	スイッチ	1P15A×1 再使用しない	2.0	個			
	〃	1P15A×3 再使用しない	3.0	個			
	〃	リモコンスイッチ 8L 再使用しない	1.0	個			
	照明器具	FL20×1 直付形 再使用しない	1.0	個			
	〃	FL40×2 直付形 再使用しない	32.0	個			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	〃	スポットライト 再使用しない	4.0	個			
	引込開閉器盤	S-1 再使用しない	1.0	面			
	電灯分電盤	L-1 再使用しない	1.0	面			
	電灯分電盤	L-3 再使用しない	1.0	面			
	機器	差動スポット型感知器 2種 再使用しない	4.0	個			
	〃	光電式スポット型感知器 2種 再使用しない	5.0	個			
	〃	発信機 再使用しない	3.0	個			
	〃	警報ベル 再使用しない	4.0	個			
	〃	表示灯 再使用しない	6.0	個			
	〃	受信機 P形1級 10L 再使用しない	1.0	個			
	ケーブル	VVF1.6-2C いんぺい 再使用しない	90.0	m			
	〃	VVF1.6-3C いんぺい 再使用しない	3.0	m			
	〃	VVF2.0-2C いんぺい 再使用しない	27.0	m			
	〃	VVF2.0-3C 管内 再使用しない	8.0	m			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	〃	VVF2.0-3C いんぺい 再使用しない	8.0	m			
	〃	VVF2.0-4C 管内 再使用しない	327.0	m			
	〃	VVF2.0-4C 露出 再使用しない	638.0	m			
	〃	AE1.2-2C 管内 再使用しない	16.0	m			
	電線管	E39 再使用しない	7.0	m			
	ボックス	アウトレットボックス 再使用しない	3.0	個			
	〃	プルボックス 200×200×100 再使用しない	5.0	個			
	スイッチ	1P15A×1 再使用しない	4.0	個			
	〃	3W15A×1 再使用しない	1.0	個			
	〃	1P15A×4+3W15A×1 再使用しない	1.0	個			
	〃	自動点滅器 再使用しない	1.0	個			
	照明器具	FL20×1 直付形 再使用しない	4.0	個			
	〃	FL20×4 埋込形 再使用しない	2.0	個			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	〃	FL40×2 直付形 再使用しない	4.0	個			
	〃	HID300×2 直付形 昇降装置含む 再使用しない	20.0	個			
	〃	昇降機盤 再使用しない	1.0	面			
	〃	安定器収納盤 再使用しない	1.0	面			
	機器	差動スポット型感知器 2種 再使用しない	1.0	個			
	〃	光電式スポット型感知器 2種 再使用しない	1.0	個			
	ケーブル	VVF1.6-2C 管内 再使用しない	149.0	m			
	〃	VVF1.6-2C いんぺい 再使用しない	204.0	m			
	〃	VVF1.6-2C MM内 再使用しない	2.0	m			
	〃	VVF1.6-3C 管内 再使用しない	2.0	m			
	〃	VVF1.6-3C いんぺい 再使用しない	4.0	m			
	〃	VVF1.6-3C MM内 再使用しない	2.0	m			
	〃	VVF2.0-2C 管内 再使用しない	17.0	m			
	〃	CVV2° -12C 管内 再使用しない	2.0	m			
	〃	CVV2° -12C いんぺい 再使用しない	47.0	m			
	〃	CVV3.5° -7C 露出 再使用しない	64.0	m			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	〃	CPEV0.65-1P 管内 再使用しない	34.0	m			
	〃	CPEV0.65-1P 露出 再使用しない	4.0	m			
	〃	CPEV0.65-1P MM内 再使用しない	3.0	m			
	〃	CPEV0.65-2P 管内 再使用しない	4.0	m			
	〃	MVVS0.75-2C 管内 再使用しない	40.0	m			
	〃	HP0.9-4C 管内 再使用しない	32.0	m			
	〃	HP1.2-3C 管内 再使用しない	52.0	m			
	〃	HP1.2-4C いんぺい 再使用しない	26.0	m			
	〃	HP1.2-5P いんぺい 再使用しない	7.0	m			
	〃	AE1.2-2C 管内 再使用しない	140.0	m			
	電線	IV1.2 管内 再使用しない	165.0	m			
	〃	IV1.6 管内 再使用しない	52.0	m			
	〃	IV5.5° 管内 再使用しない	21.0	m			
	〃	IV8° 管内 再使用しない	64.0	m			
	電線管	E19 再使用しない	148.0	m			



No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	〃	E25 再使用しない	42.0	m			
	〃	E31 再使用しない	6.0	m			
	〃	E39 再使用しない	21.0	m			
	〃	VE16 再使用しない	17.0	m			
	ボックス	アウトレットボックス 再使用しない	17.0	個			
	〃	ブルボックス 150×150×100 再使用しない	1.0	個			
	〃	ブルボックス 200×200×100 再使用しない	6.0	個			
	〃	ブルボックス 400×400×300 再使用しない	2.0	個			
	スイッチ	1P15A×1 再使用しない	9.0	個			
	〃	1P15A×2 再使用しない	2.0	個			
	〃	リモコンスイッチ 8L 再使用しない	1.0	個			
	〃	自動点滅器 再使用しない	1.0	個			
	コンセント	2P15A×2 再使用しない	19.0	個			
	防水コンセント	2P15A×2 再使用しない	1.0	個			
	床埋込コンセント	2P15A×2 再使用しない	1.0	個			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	照明器具	FL20×1 直付形 再使用しない	4.0	個			
	〃	FL40×1 直付形 再使用しない	4.0	個			
	〃	FL40×2 直付形 再使用しない	3.0	個			
	避難口誘導灯	BL級 再使用しない	2.0	個			
	避難口誘導灯	A級 再使用しない	4.0	個			
	〃	大型 再使用しない	2.0	個			
	電灯分電盤	L-2 再使用しない	1.0	個			
	機器	マイクコンセント 再使用しない	3.0	個			
	〃	スピーカ 壁掛形 再使用しない	2.0	個			
	〃	音響ワゴン接続盤 再使用しない	1.0	個			
	〃	差動スポット型感知器 2種 再使用しない	16.0	個			
	〃	光電式スポット型感知器 2種 再使用しない	4.0	個			
	〃	差動分布型感知器 2個用 再使用しない	5.0	個			
	〃	空気管 銅パイプ メッセンジャー付 再使用しない	571.0	m			
	〃	機器収容箱 再使用しない	1.0	個			

No.	名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	<発生材処理費>						
	解体廃材積込	混合屑類 人力積込	8.8	m3			
	解体廃材運搬	混合屑類 DT4t積 片道25km	8.8	m3			
	解体廃材処分	混合屑類	8.8	m3			
	ランプ処理費	運搬費・処理費	1.0	式			
	11 - 計						

# 現 場 説 明 書

安曇野市 総務部 財産管理課 施設経営担当

1. 件名（工事名称）：令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事

2. 工事場所：安曇野市 三郷体育館

3. 工事概要：三郷体育館の耐震補強工事等

■耐震補強改修工事

- ・ 本体耐震補強工事
- ・ 木造トレ棟 分離工事
- ・ 木造器具庫 解体工事
- ・ 渡り廊下棟 分離工事
- ・ 既設樹木 撤去工事

■非構造改修工事

■建築一般改修工事

4. 工 期：契約日から 令和6年3月11日まで

5. 一般事項について

(1)現場説明会

本件の内容は、現場、入札心得、入札公告、特記仕様書、設計図書、安曇野市建築工事の手引等関連する仕様書類、長野県建設工事標準請負契約約款に基づき市が定める契約書（案）及び現場説明書（以下「設計図書等」という。）によるものとし、現場説明会は実施しない。

(2)設計図書等に対する質問及び回答について

設計図書等に関する問い合わせは、「入札公告」記載のとおりとし、入札執行が完了するまでの間、本件に関しての面談又は電話（ただし、指定の問い合わせ先は除く。）等は一切認めない。

(3)工事費内訳書の提出

入札時の工事費内訳書提出については「入札公告」による。

(4)工事費内訳書記載数量は参考数量とする。

6. 本工事における特記事項

(1)工事用地等

本工事に必要な用地は、以下のとおり。

使用目的	使用場所・面積
資材置場	敷地内
駐車場	同上敷地
現場事務所	同上敷地

(2) 隣接する三郷中学校への配慮事項

- ① 行事（準備片付も含む）の予定があるため、打合せの上、騒音等に配慮し支障がないよう努めること。
  - ② 生徒・保護者及び職員の移動動線には十分注意すること。搬入路、仮設足場等は事前に、監理者・監督員および施設管理者の承諾を得たのちに施工すること。
- (3) 日・祝日は基本休工とする。休日、夜間に作業を行う場合は事前に協議をすること。
- (4) 周辺住民の安全に十分配慮すること。
- (5) 新型コロナウイルス感染症対策は十分に講じること。
- (6) 各官公庁手続きについて、  
事前に監督員・監理者が申請書類等の内容確認をしてから提出すること。

(7) 残土関係

- ~~・本工の施工において生じる発生土の処分については、下記の処分先を想定して処分費、運搬費を計上している。~~
- ~~なお、受注者の都合による処分先の変更については、原則として設計変更しない。~~
- ~~・建設発生土~~

受入れ場所・仮置き場所	処分方法	運搬距離	特記事項

距離指定の場合、残土運搬距離は設計変更の対象とする。

7. 本工事に関連する別途発注工事の予定

- ~~・本工事に近接・競合する工事の予定~~

発注機関	工事名	工期	工事内容	備考

- ~~・改修工事における工事個所の順番は図のとおり。~~
- ~~・この工事は執務並行型の工事である。~~

8. 安全対策関係

(1) 交通誘導警備員

受注者が交通誘導業務を他人に委託する場合は、受託者は警備業法第4条の規定により公安委員会から警備業の認定を受けた者であること。

(2) 安全施設

発注者が想定している仮設（ゲート、仮囲い等）については、仮設計画図に示したとおり。受注者は明示された条件に基づき、自主的に工法を選定し、構造設計等必要な検討を行い施工するものとする。（任意仮設）

なお、明示した条件と現場が一致しない場合や明示されていない条件について予期することができない特別な状態が生じた場合において、必要と認められるときには設計変更の対象とする。

9. 工事用道路関係

現場への工事関係車両の入退場の路線は事前に監督員と協議をすること。

10. その他

火災保険等への加入について

火災保険等加入期間については、請負契約後から契約工期末日後 14 日までとする。

## 特記仕様書（共通事項）

総務部 財産管理課

### 1. 保険等

建物（施設）引渡しまで工事受注者は、現場説明書に定める保険に加入しなければならない。加入期間は原則として工事着手日とし、その終期は工事しゅん工後14日以降とする。

### 2. 各種調査等に対する協力について

本工事について、発注者が自ら又は、発注者が指定する第三者が行う下記調査等に対して、協力しなければならない。

(1) 公共事業労務費調査等

(2) 資材調査、建設副産物実態調査等

### 3. 工事検査

施工途中において総務部契約検査課職員または、発注機関の長の指定する職員による抜打ち検査を実施することがあるので、検査に協力すること。

### 4. 被害届等

暴力団関係者から工事妨害による被害を受けた場合は、被害届を速やかに警察に提出すること。

### 5. 工事实績情報サービス（CORINS）の登録について

(1) 請負金額が500万円以上（税込）の工事については、工事实績情報サービス（CORINS）の登録をすること。

(2) 登録する場合は、「登録のために確認のお願い」を作成し、監督員の確認を受け、次に示す期間内に（一財）日本建設情報総合センター（JACIC）に登録の手続きを行うこと。また、登録機関発行の「登録内容確認書」が届いた場合は、速やかに監督員に提示すること。なお、変更時と完成時の間が10日間に満たない場合は、変更時の提出を省略できるものとする。

① 工事受注時契約締結後10日以内

② 登録内容の変更時変更契約締結後10日以内

③ 工事完成時工事完成後10日以内

### 6. 施工体制台帳に係る書類について

(1) 工事受注者は、請負契約した全ての下請業者について、建設業法に定める「施工体制台帳」とそれに係る書類及び「施工体系図」を作成し、工事期間中工事現場に備え付けるとともに、その写しを監督員に提出すること。

(2) 「施工体系図」は工事関係者及び公衆の見やすい場所に掲示を行うこと。

(3) 次の業種についても請負契約に該当するため、(1)と同様とする。

- ・ 1日で完了する請負契約、少額な作業・雑工の請負契約
- ・ クレーン作業、コンクリートポンプ打設等の日々の単価契約で行っている場合
- ・ クレーン等の業種オペレーターを機械と一緒にリース会社から借上げる場合

## 7. 主任技術者及び監理技術者の専任について

主任技術者又は監理技術者（以下「監理技術者等」という。）が専任を求められる工事である場合、監理技術者等を専任で設置すべき期間は契約工期が基本となるが、次の期間については、専任を要しない。なお、具体的な期間については、監督員との打合せにおいて定めることとする。

- ① 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入、または仮設工事等が開始されるまでの期間）
- ② 自然災害の発生又は埋蔵文化財調査等により、工事を全面的に一時中止している期間
- ③ エレベーター等の工場製作を含む工事であって、工場製作のみが行われている期間
- ④ 工事完成後、検査が終了し（発注者の都合により検査が遅延した場合を除く。）、事務手続、後片付け等のみが残っている期間

## 8. 産業廃棄物等の取扱い

- (1) 廃棄物の処理に当たっては、受注者が自ら処理（分別、保管、収集、運搬及び処分の一連の行為）をするときは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（以下「廃棄物処理法」という。）に基づき、適正に行うこと。
- (2) 廃棄物の処理の全部又は一部を委託する場合は、廃棄物処理法に基づく処理を業として許可を取得している者に委託すること。また、施工前に産業廃棄物処理委託契約書の写し、産業廃棄物処理業の許可証の写し、許可運搬車両一覧並びに処分地の案内図等をまとめた「廃棄物処理計画書」を監督員に提出すること。
- (3) しゅん工した時は、廃棄物ごとに処理数量を集計し、積み込み状況の写真、処分状況の写真を添付した「廃棄物等処理報告書」を監督員に提出するとともに、マニフェストA票、B2票、D票並びにE票の原本（廃棄物の種類ごとに1セット）を提示すること。

## 9. 再生資源利用促進計画書等

「資源の有効な利用の促進に関する法律」（ラージリサイクル法）に基づき、受注者は、工事の着手前に「再生資源利用促進計画書」及び「再生資源利用計画書」を作成すること。

また、しゅん工後に「再生資源利用促進実施書」及び「再生資源利用実施書」を作成し、監督員に提出すること。

対象工事：ラージリサイクル法に規定する一定規模以上の工事

作成方法：COBRIS（建設副産物情報交換システム※）を利用すること。

※（一財）日本建設情報総合センター（JACIC）が提供する建設副産物の情報交換サービス

## 10. 安全対策関係

- (1) 工事現場においては、労働災害、公衆災害防止に努めるとともに、全作業員を対象に定期的に安全教育、研修及び訓練を行うこと。
- (2) 安全教育、研修及び訓練については、工事期間中に月一回以上実施し、この結果は工事日誌へ記録するほか工事写真等も整理のうえ提出すること。なお、これにより難しい場合は、監督員と協議するものとする。
- (3) 足場を設ける場合は、「「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省基発第0424001号平成21年4月24日）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「働



きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。

#### 11. 環境対策関係

- (1)現場で使用する機械は、低騒音型、低振動型、排出ガス対策型建設機械とすること。
- (2)夜間、早朝等の稼動を避けること。ただし、監督員の承諾を受けた場合はこの限りでない。なお、運搬ルートを選定に当たっては影響の少ないルートを選定すること。
- (3)汚水、汚濁、土砂の流失防止に努めること。また、表土復元等環境の回復に努めること。
- (4)熱帯材合板型枠は、極力使用しないこと。

#### 12. 過積載の禁止

- (1)工事の施工計画にあたって、施工計画書に次の事項を具体的に記載するとともに、施工時においても遵守すること。

- ①積載重量制限を超過しての建設発生土の処理及び資機材（以下「資機材等」という。）の積載重量の厳重チェックを行うこと。
- ②過積載を行っている資材等納入業者からの資機材等購入は行わないこと。
- ③過積載を防止するため、資機材等の購入にあたっては、納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
- ④資機材等の運搬には、さし枠装着車、物品積載装置等の不正改造した車輛及び不表示車等を使用しないこと。また、同車輛からの資機材等の引き渡しを受けないこと。
- ⑤下請業者や資機材等納入業者を選定するにあたっては、交通安全に関する配慮に欠けた者または車輛を使用した業務等において悪質かつ重大な事故を発生させた者を排除すること。
- ⑥飛散の恐れがあるものについては、飛散しないような処置を行い運搬すること。
- ⑦土砂等の運搬に関する事業者の選定に当たっては、「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」の目的に鑑み、同法第12条の規定に基づき届け出た団体構成員の雇用に努めること。

- (2)以上の点について、下請業者についてもこれに準じ徹底すること。

#### 13. ~~セメント及びセメント系固化材を使用した改良土について~~

- ~~(1)セメント及びセメント系固化材を使用した地盤改良及び改良土を再利用する場合は、六価クロム溶出試験を行い、その結果について監督員に報告する。~~
- ~~(2)セメント及びセメント系固化材とは、セメントを含有成分とする固化材で、普通ポルトランドセメント、高炉セメント、セメント系固化材、石灰系固化材をいい、これに添加物を加えたものを含める。~~
- ~~(3)六価クロム溶出試験は「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領（案）」（以下「実施要領（案）」という。）により実施し、土壤環境基準を超えないことを確認する。~~

#### 14. アスベスト建材使用箇所等の事前調査

- (1) 石綿等による健康障害を防止するため、とりこわし、改修工事の解体及び撤去等作業前、図面・施工範囲目視、その他適切な方法によるアスベスト含有材料の有無について調査を行い、報告書を監督員に提出する。アスベスト含有材料が無かった場合においても書面にて報告を行う。工事発注前に市で実施したアスベスト調査資料については、受注者へ資料提供を行う。

報告書の記載内容

- ① アスベスト材料の種別
- ② アスベスト形状、飛散可能性の有無
- ③ 製造所・製品名称、製造所の公表するアスベスト含有率

なお、上記調査において、アスベスト分析調査が必要な場合は別途監督職員と協議を行う。

- (2) 監督員の指示による「石綿（アスベスト）の事前調査結果」、「建築物等の解体・改修等作業に関するお知らせ」について、公衆の見やすい場所に掲示を行う。

#### 15. 建設業退職金制度について

- (1) 工事受注者は、自ら雇用する建退共制度の対象労働者に係る共済証紙を購入し、当該労働者の共済手帳に共済証紙を貼付すること。
- (2) 工事受注者が下請契約を締結する際は、下請業者に対して、建退共制度の趣旨を説明し下請業者が雇用する建退共制度の対象労働者に係る共済証紙をあわせて購入し現物により交付すること、または建退共制度の掛金相当額を下請代金中に算入することにより、下請業者の建退共制度への加入並びに共済証紙の購入及び貼付を促進すべきこと。
- (3) 請負代金の額が800万円以上の建設工事の請負契約を締結した時は、工事受注者は建退共制度の発注者用掛金収納書（以下「収納書」という。）を工事締結後1ヶ月以内に発注者に提出すること。なお、工事契約締結当初は工場製作の段階であるため建退共制度の対象労働者を雇用しないこと等の理由により、期限内に当該工事に係る収納書を提出できない事情がある場合又は、建退共対象労働者を使用しない場合においては、あらかじめその理由を書面により申し出ること。

#### 16. 資材の市内産優先使用及び市内企業の優先採用

~~(1) 工事受注者は、本工事に使用する材料については、規格・品質等の条件を満足するものについては、市内産資材を優先使用するように努めること。~~

- (2) 工事受注者は、工事用資材の調達に当たっては、極力市内の取扱い業者から購入すること。

- (3) 下請契約を締結する際には、市内企業の採用に努めること。

#### 17. 再資源化及び再生資源等使用状況

工事受注者は、しゅん工時にコンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、木くずの再資源化の状況、再生資源（再生クラッシャーラン、再生アスファルト・コンクリート、再生土砂）及び信州リサイクル製品の使用状況について、監督員へ報告すること。

#### 18. レディーミクストコンクリート製造工場の選定について

受注者は、Ⅰ類コンクリートの製造工場を、JISマーク表示認証工場（改正工業標準化法（平成16年6月9日公布）に基づき国に登録された民間の第三者機関（登録認証機関）により認証を受けた工場）で、かつ、コンクリート製造に係る指導及び品質管理を行う施工管理技術者（コンクリート主任技士等）が置かれ、良好な品質管理が行われている工場（全国品質管理監査会議の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場等）から選定する。

ただし、これにより難しい場合は、監督員と協議する。

#### 19. 工事進捗状況報告書

監督員の指示により、毎月の工事の進捗状況を報告書にまとめて提出する。

添付書類

- ・工事記録（工事の経過に伴う主な工事内容等の事項を記載した月報）
- ・工事打合わせ記録簿（当月分）
- ・工事写真（工事の進捗状況がわかるものを数枚）

#### 20. 施工図等の取扱い

施工図等の著作権に関わる当該建物に限る使用权は、発注者に移譲する。

#### 21. 設計図CADデータについて

本工事の設計図CADデータを貸与する。貸与したCADデータは、本工事の履行に必要な施工図の作成及び完成図の作成においてのみ使用することとし、それ以外の目的で使用してはならない。

#### 22. 完成写真の著作権の権利等について

工事受注者は、完成写真の撮影者との契約にあたって、以下の事項を条件とすること。

- ① 完成写真は、市が行う事務並びに市及び市が認めた公的機関の広報に、無償で使用する事ができる。この場合において、著作者名を表示しないことができる。
- ② 以下に掲げる行為をしてはならない。ただし、あらかじめ発注者の承諾を得た場合は、この限りではない。
  - イ. 完成写真を公表すること。
  - ロ. 完成写真を他人に閲覧させ、複写させ、又は譲渡すること。

#### 23. 高度技術・創意工夫・社会性に関する実施状況の提出について

受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する項目、又は、地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、施工に先立ち所定の様式により提出することができる。

高度技術・創意工夫・社会性等の具体的内容がある場合は、「別添様式」及び、「説明資料」を提出すること。なお、用紙サイズはA4版とする。

# 令和5年度 三郷体育館耐震補強工事

## 図面リスト

図面番号	図面名	SCALE A3size	図面番号	図面名	SCALE A3size	図面番号	図面名	SCALE A3size	図面番号	図面名	SCALE A3size
意匠図						構造図			電気設備図		
	表紙 ・ 図面リスト	---	A - 35	既存 矩計図-3 （解体指示図）	1／40	S - 01	建築工事仕様書＜躯体工事(1)＞	---	E - 01	電気設備工事 特記仕様書	---
A - 01	改修 特記仕様書-1	---	A - 36	既存 矩計図-4 （解体指示図）	1／40	S - 02	建築工事仕様書＜躯体工事(2)＞	---	E - 02	案内図 ・ 配置図	1／1000
A - 02	改修 特記仕様書-2	---	A - 37	改修 矩計図-1 （Y2通り）	1／40	S - 03	建築工事仕様書＜躯体工事(3)＞	---	E - 03	電灯分電盤 結線図 ・ 弱電端子盤 構成図	---
A - 03	改修 特記仕様書-3	---	A - 38	改修 矩計図-2 （Y1通り）	1／40	S - 04	基礎・1階床 補強伏図	1／200	E - 04	改修 電灯幹線・コンセント設備 1階 平面図	1／200
A - 04	改修 特記仕様書-4	---	A - 39	改修 矩計図-3 （X1～X2通り）	1／40	S - 05	ステージ下部 補強伏図	1／200	E - 05	改修 電灯幹線・コンセント設備 2階 平面図	1／200
A - 05	改修 特記仕様書-5	---	A - 40	改修 矩計図-4 （X7～X8通り）	1／40	S - 06	2階床 補強伏図	1／200	E - 06	照明器具 ・ 弱電機器 姿図	---
A - 06	改修 特記仕様書-6	---	A - 41	ステージ廻り 縦断詳細図	1／80	S - 07	屋根 補強伏図	1／200	E - 07	改修 電灯設備 1階 平面図	1／200
A - 07	配置図・案内図	1／1000	A - 42	木造トイレ棟 改修詳細図	1／50	S - 08	補強軸組図(1)	1／200	E - 08	改修 電灯設備 2階 平面図	1／200
A - 08	参考仮設計画図	1／300	A - 43	展開図-1 （玄関・ポーチ・事務室・器具庫1）	1／	S - 09	補強軸組図(2)	1／200	E - 09	改修 弱電設備 1階 平面図	1／200
A - 09	外部仕上表	---	A - 44	展開図-2 （器具庫3・階段室・トレーニング室）	1／100	S - 10	補強軸組図(3)	1／200	E - 10	改修 弱電設備 2階 平面図	1／200
A - 10	内部仕上表	---	A - 45	展開図-3 （倉庫1・倉庫2）	1／100	S - 11	補強軸組図(4)	1／200	E - 11	自動火災報知・消火設備 凡例・注記・系統図	---
A - 11	面積表	1／300	A - 46	展開図-4 （ステージ・ステージ床下ピット）	1／100	S - 12	補強軸組図(5)	1／200	E - 12	改修 自動火災報知設備 1階 平面図	1／200
A - 12	法規チェック図	1／300	A - 47	展開図-5 （アリーナ北面）	1／100	S - 13	補強軸組図(6)	1／200	E - 13	改修 自動火災報知設備 2階 平面図	1／200
A - 13	既存 B1階・1階平面図（解体指示図）	1／200	A - 48	展開図-6 （アリーナ東 正面）	1／100	S - 14	壁補強要領図	1／40	E - 14	改修 消火設備 1階 平面図	1／200
A - 14	既存 2階平面図（解体指示図）	1／200	A - 49	展開図-7 （アリーナ南面）	1／100	S - 15	補強壁詳細図(1)	1／40	E - 15	改修 消火設備 2階 平面図	1／200
A - 15	既存 屋根伏図（解体指示図）	1／200	A - 50	展開図-8 （アリーナ西面）	1／100	S - 16	補強壁詳細図(2)	1／40	E - 16	撤去 電灯幹線・コンセント設備 1階 平面図	1／200
A - 16	既存 B1階・1階天井伏図（解体指示図）	1／200	A - 51	建具・家具キープラン-1	1／100	S - 17	壁改修詳細図	1／40,20	E - 17	撤去 電灯幹線・コンセント設備 2階 平面図	1／200
A - 17	既存 2階天井・ステージ小屋伏図(解体指示図)	1／200	A - 52	建具・家具キープラン-2	1／200	S - 18	補強ブレース詳細図(1)	1／60,20	E - 18	撤去 電灯設備 1階 平面図	1／200
A - 18	改修 B1階・1階平面図	1／200	A - 53	建具表-1	1／200	S - 19	補強ブレース詳細図(2)	1／20	E - 19	撤去 電灯設備 2階 平面図	1／200
A - 19	改修 2階 平面図	1／200	A - 54	建具表-2 ・ 家具図	1／100	S - 20	ステージ部 鉄骨補強詳細図(1)	1／80,40	E - 20	撤去 弱電設備 1階 平面図	1／200
A - 20	改修 B1階・1階 天井伏図	1／200	A - 55	亀裂・劣化 立面図-1	1／100	S - 21	ステージ部 鉄骨補強詳細図(2)	1／80,40	E - 21	撤去 弱電設備 2階 平面図	1／200
A - 21	改修 2階 天井伏図	1／200	A - 56	亀裂・劣化 立面図-2	1／200	S - 22	ステージ下部 補強部材リスト	1／40	E - 22	撤去 自動火災報知・消火設備 1階 平面図	1／200
A - 22	既存-改修 北立面図	1／200	A - 57	亀裂・劣化 平面図-1	1／200	S - 23	既存 部材リスト	1／60	E - 23	撤去 自動火災報知・消火設備 2階 平面図	1／200
A - 23	既存-改修 南立面図	1／200	A - 58	亀裂・劣化 平面図-2	1／200						
A - 24	既存-改修 東立面図	1／200	A - 59	亀裂・劣化 内装展開図	1／200						
A - 25	既存-改修 西立面図	1／200	A - 60	部分詳細図-1	1／20						
A - 26	改修 平面詳細図-1（地下物置）	1／100	A - 61	部分詳細図-2	1／20						
A - 27	改修 平面詳細図-2（ステージ廻り）	1／100	A - 62	防球ネット・落下防止器具他 キープラン	1／200						
A - 28	改修 平面詳細図-3（アリーナ中央廻り）	1／100	A - 63	電動スクリーン 詳細図	1／80						
A - 29	改修 平面詳細図-4（正面玄関・器具庫廻り）	1／100	A - 64	防球ネット 詳細図	1／80						
A - 30	改修 平面詳細図-5（2階ギャラリー廻り）	1／100	A - 65	可動式バスケットゴール補強図	1/20,1/100						
A - 31	改修 平面詳細図-6（2階キャットウォーク廻り）	1／100	A - 66	落下防止器具他 詳細図	1/5, 1/10						
A - 32	改修 平面詳細図-7（ステージ上部吹抜）	1／100	A - 67	現地調査結果 詳細図-1	1／20						
A - 33	既存 矩計図-1 （解体指示図）	1／40	A - 68	現地調査結果 詳細図-2	1／20						
A - 34	既存 矩計図-2 （解体指示図）	1／40									

2023年 3月

[illegible]







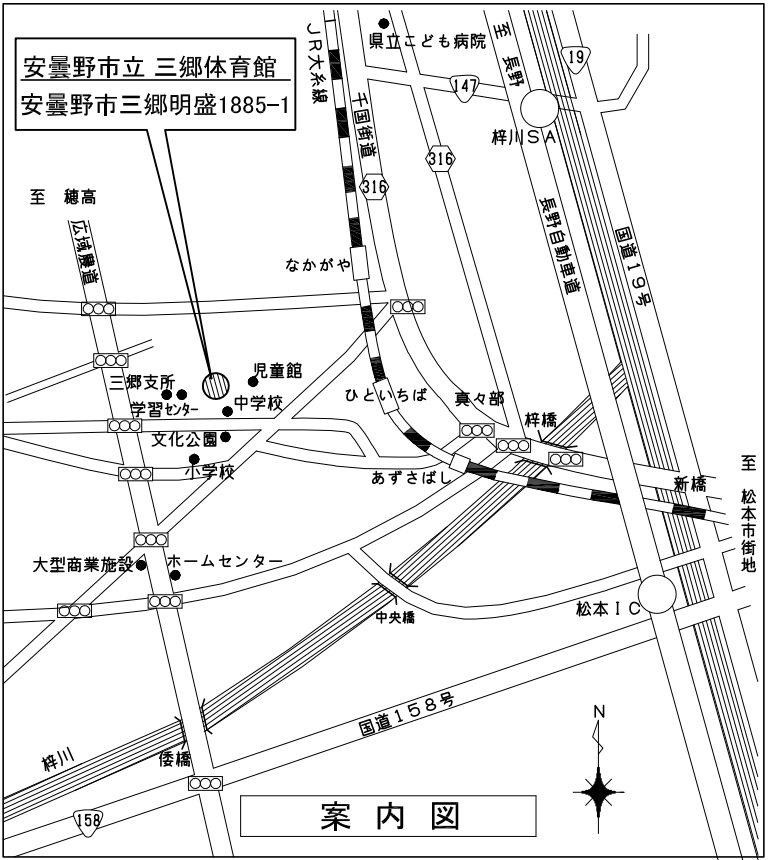
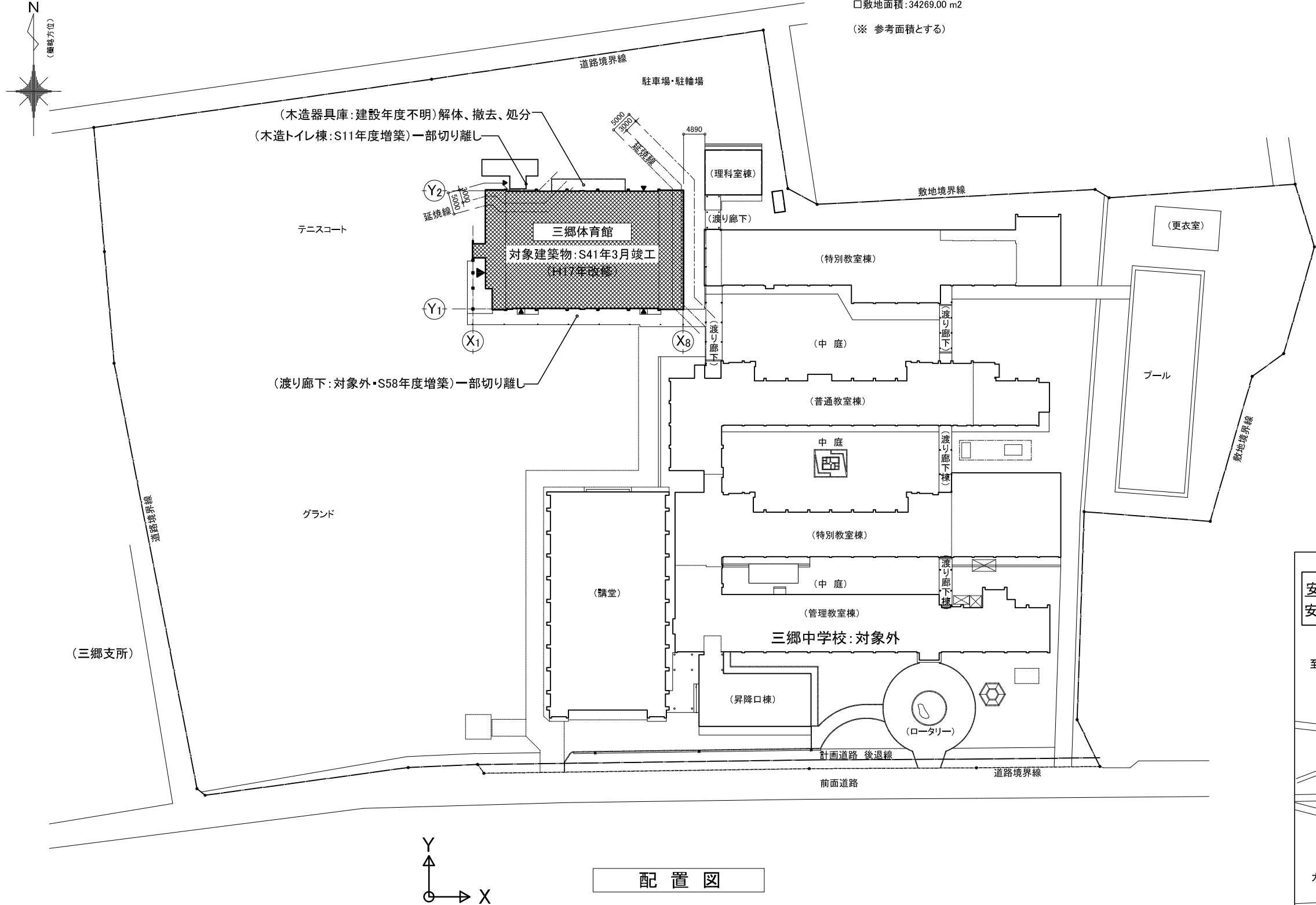


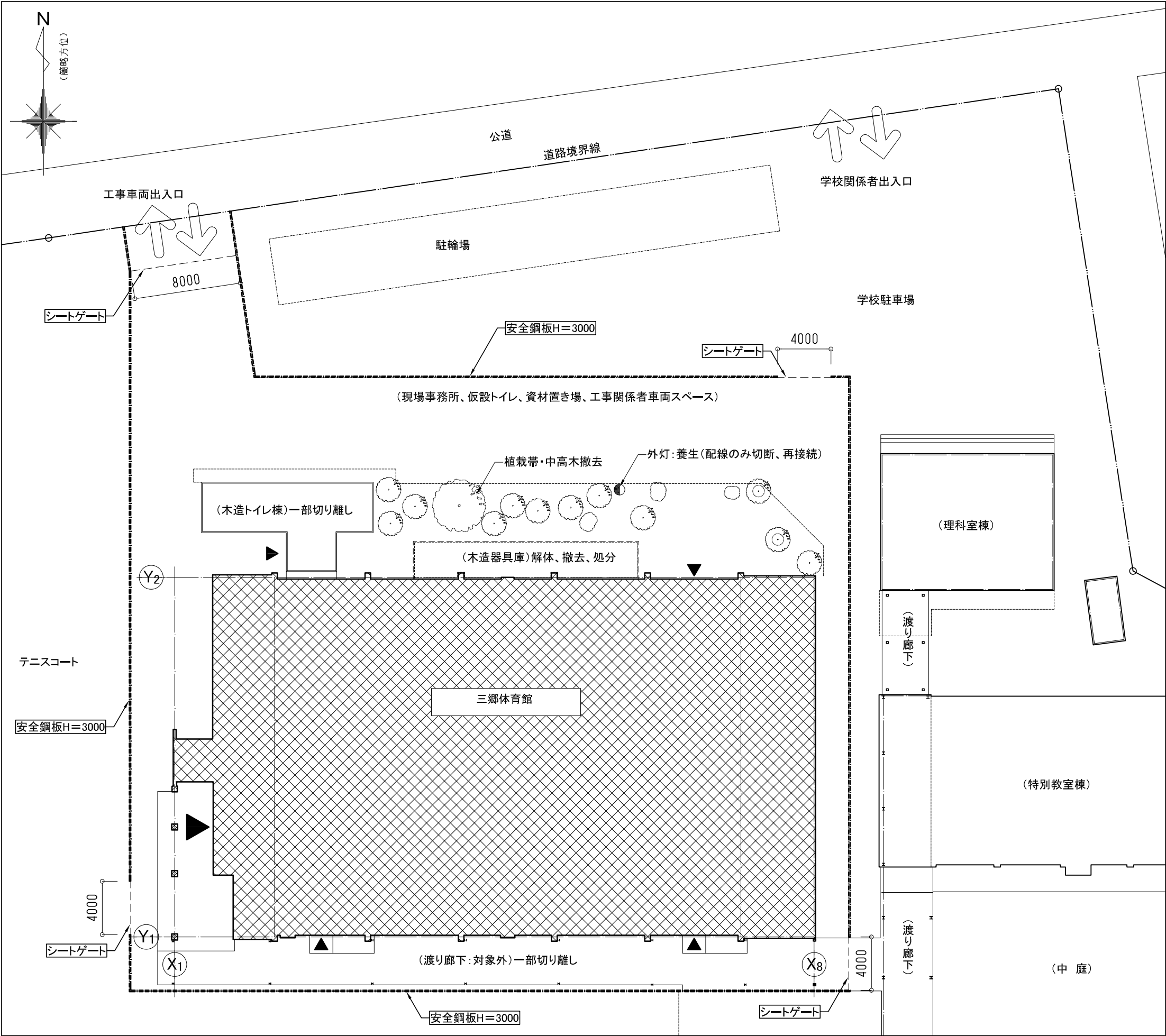






既存社会体育館関係(解体前)(理科教室増築工事の図面より転写)  
□社会体育館: -1296.0m<sup>2</sup> ⇒ 改修・耐震改修 ⇒ 地下室の減面積による床面積変更(1446.88 m<sup>2</sup>)  
□木造器具庫: 47.32m<sup>2</sup> ⇒ 解体、撤去  
□木造トイレ棟: 46.37m<sup>2</sup> ⇒ 切り離し → 通路部分は面積除外  
  
全体面積(中学校含むすべての面積)(理科教室増築工事の図面より転写)  
□建築面積: 8856.88 m<sup>2</sup>  
□延床面積: 10846.56 m<sup>2</sup>  
□敷地面積: 34269.00 m<sup>2</sup>  
  
(※ 参考面積とする)





◆植栽帯撤去(伐根とも)

高木(15m程度)×1本:伐根



中木(8m程度)×10本:伐根



(※中木2本、岩類は残し)

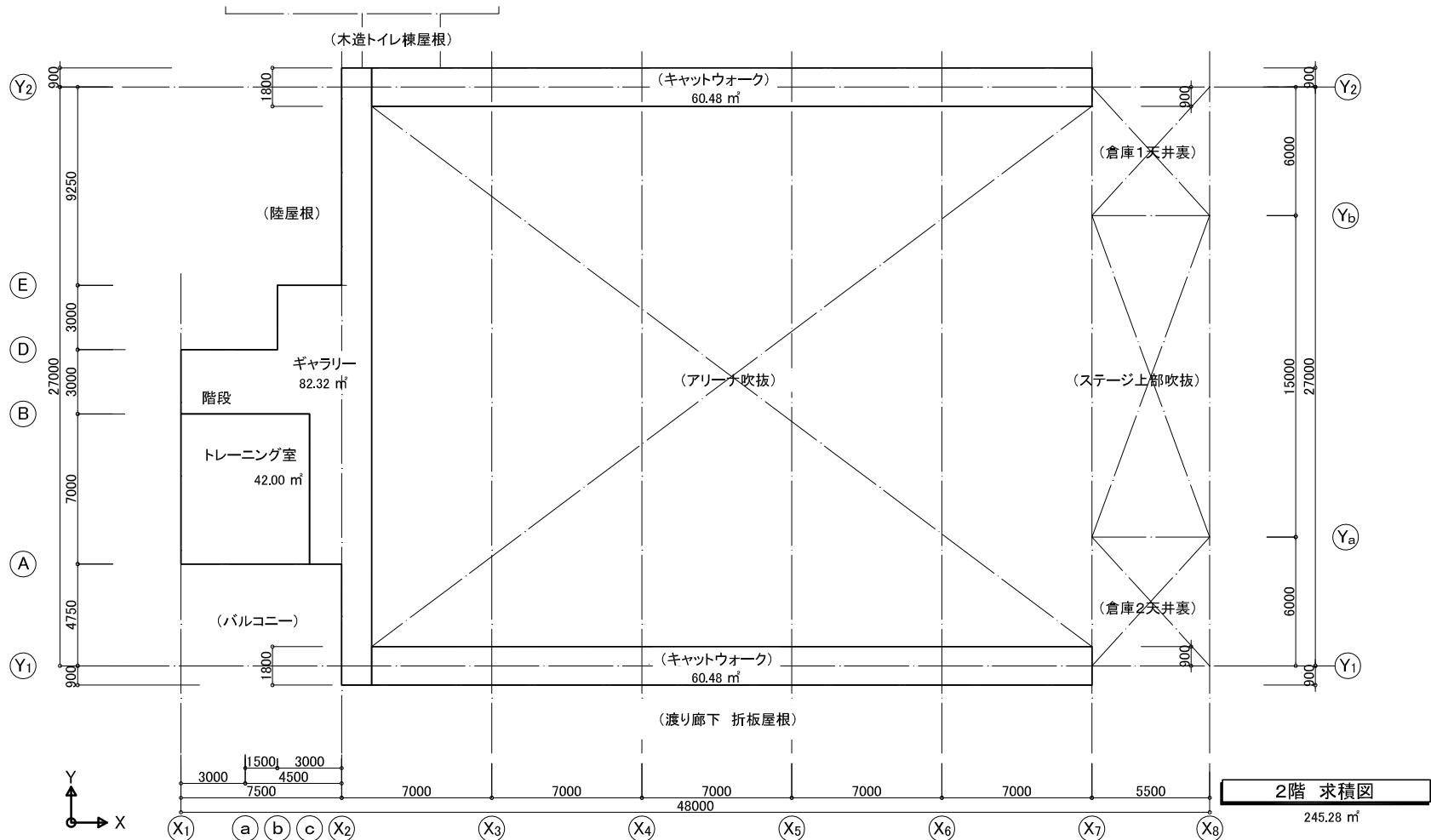
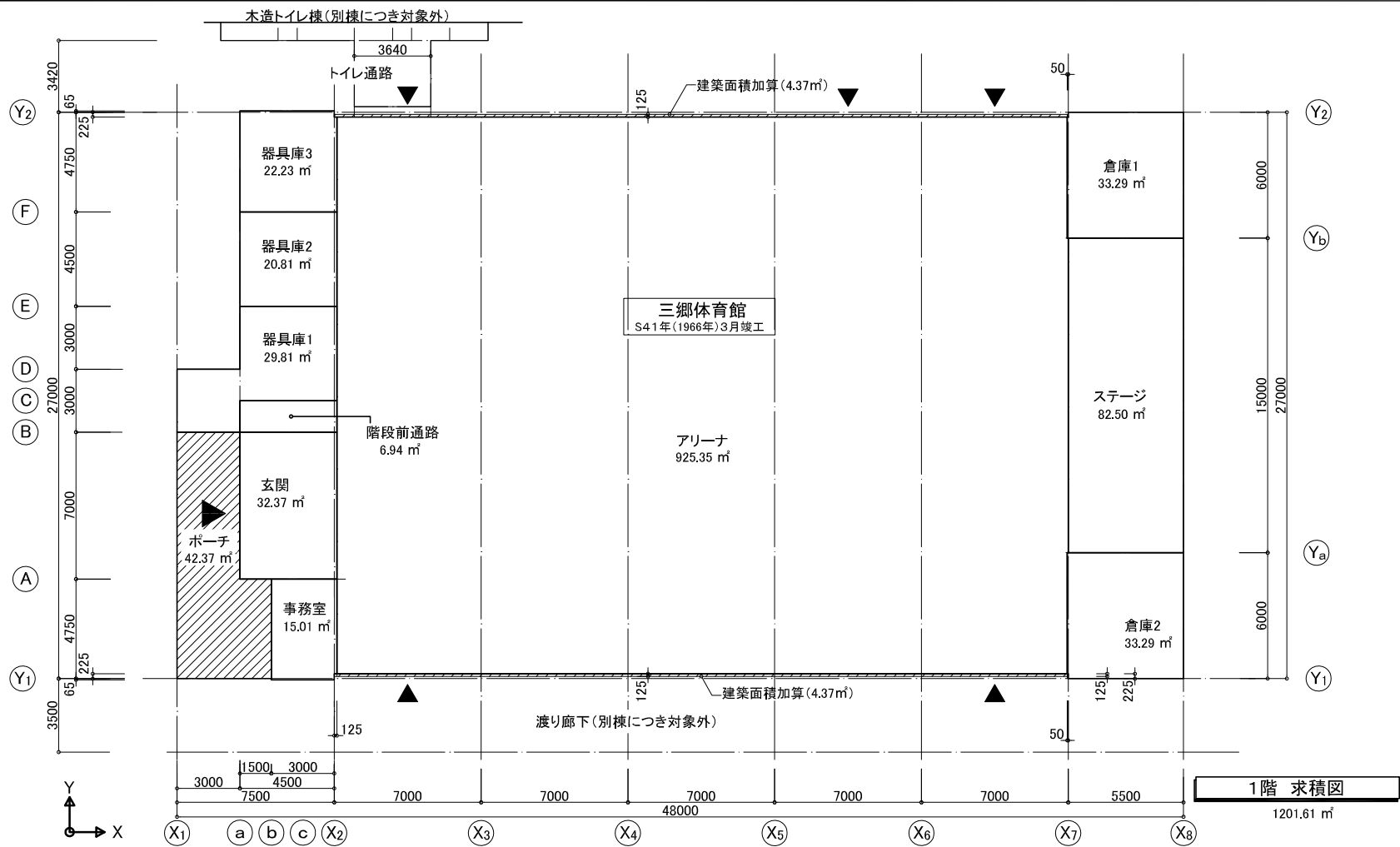


(上記仮設計画は参考とする。実施に当たり学校関係者と協議のこと。また設置期間は概ね6か月間を目安とする。)

DRAWING	CHECK	DATE	SCALE		MAP NAME	CONSTRUCTION NAME	MAP NO.
			A1	1/150			
			A3	1/300	参考仮計画図	令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事	A-08

外部仕上表										◆――補強耐震補強工事を示す ◎――【非構造】非構造改修工事を示す		△――一般改修を示す								
部 位		既 存 仕 上			処 理			改 修 仕 上												
屋 根		アリーナ屋根、ステージ下屋共： カラー鋼板折板H=66（カバー工法）の上、錆止め塗装+アクリル樹脂エナメル塗り改修（鉄板部、雪止め共）			既存のまま			←――												
陸屋根		コンクリート下地シート防水のうえ、補強複合シート防水1.5d（絶縁全面熱溶着機械固定工法サーナル-FHS-MF） 鼻隠：カラーGL鋼板0.6d 立上り：水切、フレキ版8d（サイディングカット後）、同上シート防水1.5d、押え金物			←◆2階耐震補強部分 一部撤去 （シート防水一部カット。立ち上がり一部解体撤去）			←◆耐震補強コンクリート施工後、補強複合シート防水1.5d 既存に重ね張り（絶縁全面熱溶着機械固定工法サーナル-FHS-MF同等品） 立ち上がり共（防水押さえ金物同等品 取付）												
軒 天		・西側CB造廻り軒天：躯体コンクリートの上 補修、EP塗装 済			←◆素地調整			←◆EP塗装補強												
		・北側キャットウォーク軒裏：躯体コンクリートの上 補修、EP塗装 済（南側軒裏は既存のまま）			←◆素地調整			←◆EP塗装補強												
		・東側ステージ下屋廻り軒天：鉄骨下地、ラスモルタルの上 EP塗装 済			←◎鉄骨以外、全撤去			←◎鉄骨下地、フレキシブルボード6d目透かし EP塗装2回 【非構造】												
雨 樋		・南側軒樋：カラー鉄板箱樋の上アクリル樹脂エナメル塗り改修済み ・南側堅樋：硬質塩ビ管			←既存のまま			←――												
		・北側軒樋：カラー鉄板箱樋の上アクリル樹脂エナメル塗り改修済み ・北側堅樋：硬質塩ビ管（数か所破損）			←軒樋：既存のまま ◆堅樋：撤去（支持金物まで）6ヶ所			←◆軒樋：清掃 堅樋：6箇所新設（アルミ製100φ）、堅樋ドレインヒーターとも												
		・東ステージ側軒樋：カラーGL鋼板0.8d 150×150改修 ・東ステージ側堅樋：カラーVP75φ			←軒樋：◆一時取り外し、再利用（支持材新設） ◆堅樋：全撤去（3か所）			←◆軒樋：支持金物新設、既存軒樋（カラー鋼板0.8dx150x150）再取付 堅樋：アルミ75φ新設												
外 壁		・アリーナ本体外壁（1階）：CB造の上、モルタル下地調整、弾性吹付タイル改修済み（梁型RC造）			←◆耐震補強部分：撤去（梁下～基礎天端まで） その他壁：下地調整			←◆全面 弾性吹付タイル（劣化部分補修 共）補強 ◆木造器具庫解体後の外壁一部：鉄骨胴縁+防火サイディング張 補強												
		・アリーナ本体外壁（2階）：鉄骨造、金属サイディングの上、アクリル樹脂エナメル塗装改修済（通気開口部あり）			←既存のまま（△通気開口部補修）			△――（通気ガラリ：防錆処理の上、アクリル樹脂エナメル塗装）												
		・アリーナ妻側アーチ部（2階）：鉄骨、ラスモルタル下地、弾性吹付タイル改修済			←◎ラスモルタル部 撤去			←◎アングル下地、防水シートの上、ボンデ鋼板1.6d焼付塗装 【非構造】												
		・玄関、事務室外壁：CB造の上、モルタル下地調整、弾性吹付タイル改修済み（梁型RC造、一部腰タイル）			←◆耐震補強部分：撤去（梁下～基礎天端まで） その他壁：下地調整			←◆全面 弾性吹付タイル（劣化部分補修 共）補強												
		・ステージ側外壁（上部）：鉄骨造、金属サイディングの上、アクリル樹脂エナメル塗装改修済			←◆サイディング、サッシ、鉄骨胴縁まで撤去			←◆横胴縁（X8通：C-100x50@600外付、Y1, 2通：C-100x50@600内付）、防火サイディング（耐水GB12.5d裏貼、防水シート共）、水切 補強												
		・ステージ側外壁（腰壁）：RC造、一部CB造モルタル下地、弾性吹付タイル改修済			←◆下地調整（一部サッシ撤去、一部サッシ取替え）			←◆全面 弾性吹付タイル（劣化部分補修 共）補強												
基 礎		コンクリート下地、モルタル剛毛引き 補修改修済み 一部床下換気孔			←◆耐震補強部分：撤去（基礎天端まで） ・その他基礎：◆下地調整			←◆耐震補強コンクリート部及びその他の基礎部分：モルタル補修（劣化部分補修共）補強												
バルコニー		コンクリート下地シート防水のうえ、補強複合シート防水1.5d（絶縁全面熱溶着機械固定工法サーナル-FHS-MF） 鼻隠：カラーGL鋼板0.6d 立上り：水切、フレキ版8d（サイディングカット後）、同上シート防水1.5d、押え金物 スチール手摺下地調整のうえ 錆止め塗装 アクリル樹脂エナメル塗り改修済み			←既存のまま															
ポーチ廻り		・天井：木下地、吸音板一部モルタル金ゴテEPの上 補修、弾性吹付タイル			←◎天井：全撤去			←◎天井：LGS下地、ロックウール吸音板9d新設（外部） 【非構造】												
		・柱型：テラソー撤去のうえ 御影石 本磨きt=20貼り ・梁下端：テラソー20d張			←柱型：既存のまま ◎梁下：テラソー全撤去			←◎梁底・梁側面：下地調整の上、外装厚塗り材E（石目調）吹付 【非構造】												
		・壁：CB下地モルタル吹付補修の上 弾性吹付タイル ・腰壁：二丁掛タイル（馬目地）・巾木：モルタルEP			←◆耐震補強部分：撤去（基礎天端まで） ・腰壁：既存のまま			←◆耐震補強コンクリート壁：弾性吹付タイル、腰壁タイル貼り、巾木モルタルEP塗装（サッシ新設共） ◆その他壁：弾性吹付タイル 補強												
		・床：モルタルt=70（ワイヤメッシュ6φ100×100）のうえ 300角タイル貼り			←既存のまま （◆一部耐震補強部分：既存同等復旧）			←◆耐震補強周囲部分床：碎石～土間コン既存復旧の上、モルタル70d、ワイヤメッシュ、300角タイル張り 一部御影石90dボーダー取付 補強												
サッシ		・アルミサッシ（新規改修、カバー工法改修済み） ・ガラスブロックサッシ ・アルミハンガー戸			←◆耐震補強部分：撤去 ◆東側下屋サイディング廻り：撤去 △ステージ下サッシ撤去			←◆耐震補強部分・サイディング廻り：サッシ、ドア新設 補強												
		・2階キャットウォーク部 大型連窓アルミサッシカバー工法（既存スチールサッシ）			←既存のまま（◆一部トイレ接続部分パネル撤去）			△老朽化取替えサッシ、トイレ棟サッシ												
その他 共通		◆ 躯体亀裂部【0.2mm以上】⇒ Uカットの上、エポキシ樹脂低圧注入工法			補強			◆ 基礎モルタル亀裂、剥落、浮き部 ⇒ モルタル撤去後、補修 同仕上げ			補強									
		◆ 躯体亀裂部【0.2mm以下】⇒ ひび割れ部 シール工法			補強			◎ Y1通（倉庫2出入口）：既存底撤去、サイディング新設			【非構造】									
		◆ 腰壁タイル浮き、亀裂部 ⇒ エポキシ樹脂低圧注入工法（一部張替）			補強															
										（◆亀裂図面は参考数量とする。現場施工数量調査 実施のこと。）										
別棟仕上表										◆――補強耐震補強工事を示す ◎――【非構造】非構造改修工事を示す		△――一般改修を示す								
棟 部位		既 存 （外部）			既 存 （内部）			改 修 仕 上												
渡り廊下	屋根	折板葺き（H=90）						◆切断部一部取り外し			◆本棟との接続部折板 一部切断後、再設置（水上面戸取付） 補強									
	軒天(天井)	折板裏 現し			←			既存のまま			――									
	壁・柱・梁	鉄部：錆止め塗装、アクリル樹脂エナメル塗り（済）			←			△1か所のみ鉄骨梁撤去			△1か所のみ 鉄骨梁新設： 錆止めの上、アクリル樹脂エナメル塗り									
	床	土間コンクリート金ゴテ（スロープ：モルタル+防塵塗装）足洗い場あり			←			既存のまま			――									
木造トイレ棟	屋根	AL-フイック、野地板12d下地、長尺カラー鉄板0.4d横葺き						◆通路屋根部 一部切断、撤去			◆切断痕処理（カラー鉄板0.4d包み込み）、本棟側サッシ部分補修、本棟側カラー鋼板0.6d水切り取付 補強									
	軒天(天井)	フレキシブルボード5d目透かし、吹付タイル（半丸樋、鼻隠カラー鉄板0.4d）			通路部：フレキシブルボード5d目透かし AEP			◆通路天井 一部撤去			◆木下地切断痕処理（フレキ5d+EP）、本棟側梁型 弾性吹付タイル補修（カラー鋼板0.4d水切り取付） 補強									
	壁・柱・梁	木下地 ラスモルタル 吹付タイル（建具：アルミサッシ、ドア）			通路部：フレキシブルボード8d目透かし AEP			◆通路外壁撤去、サッシ撤去			◆撤去後 柱105角新設 基礎金物□-100×100×6（SUS製）アンカー止め 補強									
	床	（基礎部）布基礎コンクリート補修			通路部：コンクリート金ゴテ塗床（階段とも）、一部木製スロープ			◆基礎立上がり撤去			◆撤去痕処理（モルタル、塗床補修） 補強									
木造器具庫	屋根	折板葺き 破風等カラー鉄板						} ◆全解体・撤去・処分			◆撤去後処理：カラー鉄板0.4d 補修（一部残し）									
	軒天(天井)	折板裏現し 一部ラスモルタルリシンの上、仕上塗材（吹付タイル）			LGS下地、化粧石膏ボード9.5d						◆本体棟の北側堅樋改修									
	壁・柱・梁	ラスモルタル、仕上塗材（弾性吹付タイル）			木下地合板の上、ラワン合板5.5d（本棟外壁側：躯体平滑処理、VP塗装）						◆撤去後処理：一部耐震補強コンクリートの上 弾性吹付タイル ◆その他のCB壁：下地調整 弾性吹付タイル									
	床	（基礎部）布基礎コンクリート補修			（床下：土間コン120d、防湿S、碎石）鋼製2重床+合板12d+無垢フローリング18d						◆植栽帯撤去後、整地、堅樋部分は玉砂利充填（H=450）									
注意事項																				
※ 本工事において下記項目は建築基準法に法り整備すること。 1) 準耐火建築物（ロ-2）（任意）として扱い、外部延焼線内は ◎外壁：防火構造 ◎開口部：防火設備（FD付換気扇）とすること。 2) 木造部分や渡り廊下の接続部分は切り離すこと。 3) ステージ床及び階段は準不燃材料で造ること。（大引・根太・下地材まで準不燃材料以上、仕上り材は無垢フローリング可とする。）（口準耐-2、適合） 4) 新器具庫2及び、新器具庫3のドアを特定防火設備とし、面積区画（1500㎡以下）とすること。 5) 新事務室において化学物質濃度測定を行うこと。 ※ 断熱仕様について 1) 既存木毛板は据置として、アリーナ小屋面には断熱材対応はしない。 2) 新設壁（X7-X8間）は高性能グラスウール24k×50d充填で対応とする。 3) ステージ及び両脇倉庫1・2の天井は設置せず、既存木毛版下にグラスウールボード30d ピン止めとする。 4) すべての既存床下には断熱材は未設置のため、改修後も同様とする。 5) 既存サッシは断熱仕様でないため、新設サッシとも同様とする。 6) 土間下の防湿シート0.15dは耐震補強壁施工後も同様に敷きこむこと。							※ 改修工事全般について（外部・内部） 1) 既存躯体の状況により、軽微な補修・修繕が発生しても本工事の範囲内とし、増工事扱いはしない。 2) 既存仕上りの撤去において、再利用可能な仕上り材は監督員と協議の上、再利用可とする。 3) 劣化部分補修において、多少の数量の増加は本工事範囲とする。（施工数量調査実施のこと） 4) 既存下地材等が表配と異なった場合も、本工事内にて施工のこと。 5) 換気扇設置は建築工事にて行うこと。（1次側電源は電気設備工事） 6) 各機器設置や落下防止対策に伴い、既存天井の一時撤去又は開口補強は建築工事にて行うこと。 7) 据置のサッシガラス面は養生を行い、溶接などに備えること。又最終クリーニングも行うこと。 8) 据置の防球ネットやカーテン類は養生又は一時取り外しを行い、施工後に支障をきたさぬ事。 9) 現場溶接は十分な火災防止対策を取り、既存残置部分は防災シート、鉄板などで溶接養生をすること。 10) 仕上、下地材及び接着剤、塗料、建具、家具等は特記無き限り「F☆☆☆☆」とする。 11) 鉄部見え掛り部分（内部）はSOP塗装（2回塗り）とする。 12) 既存壁と補強コンクリート壁の打継ぎは10mm目地コーキングのこと ―補強							13) 無垢フローリング18d＝カバザクラ455×1820とする。（周囲伸縮目地設置のこと） 14) 塗装は特記無き限り2回塗りとする。（無垢フローリングはポリウレタン塗装3回塗り） 15) 復旧仕上りは既存品とする。入手困難な場合は類似品 可とする.. 16) 既存パッケージ消火栓は20mホースを25mに取替えのこと。（1台は既存保管：ステージ下とする） 17) アリーナ及び1階諸室の補強壁は、地中梁天端まで既存解体のこと、床下土間コンクリートは補強壁面より600まで解体撤去（土間配筋は残すこと）し、碎石転圧とともに既存同等の復旧とする。 19) 補強に絡む仕上解体範囲は、施工性を鑑み請負工事範囲内において振幅・縮小 可とする。 20) 鋼製床改修範囲は図示中に拘らず、束位置を鑑みて調整すること。又既存同等位置に伸縮目地設置。 21) 器具庫1（太鼓置き場）のドア鍵は単独鍵とし、マスターキーに組み込まないこと。 22) 天井点検口：アルミ450角、床下点検口：アルミ600角（鍵付）、床下通気ガラリ：900x200（SUS）とする。 23) X1通～X2通間の耐震補強壁（WW15）は4工区程度に分けて施工のこと。（同時施工不可） 24) 改修しない軒裏も、全箇所劣化調査のこと。また基礎立上りの開口部はコンクリートで塞ぐこと。 25) 外壁防火サイディングは3Dコウルトアイサイディング（ST-101GL）防火構造：PC030BE-0075同等品可とする。						
				DRAWING	CHECK	DATE			SCALE	MAP NAME		CONSTRUCTION NAME	MAP NO.							
					✓				A1 A3	外部仕上表		令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事	A- 09							

内部仕上表												◆――補強 ◎――【非構造】	耐震補強工事を示す 非構造改修工事を示す	△――一般改修を示す			
室 名 (取り消し線は旧部屋名)		床			壁			天 井			備 考						
		既 存	巾木 H=100 共通	撤去・改修内容	既 存	巾木 H=100 共通	撤去・改修内容	既 存	廻縁/ C/H	撤去・改修内容	廻縁/ C/H	(解体、撤去、補強内容補足 備品等)					
1階	ステージ床下 ビット	仕上 モルタル金ゴテ	無し	既存残し(一部デッドスペース塞ぎ) △RC束柱撤去 → 鉄骨束柱新設 △倉庫1側階段撤去 → 鉄骨階段	無し	・外部側：モルタル刷毛引き、 ・アリーナ側：モルタル一部合板 ・間仕切壁側：ラスモル刷毛引き (倉庫側) RC、CB、一部木下地	◆ステージ袖壁下部CB:撤去→RW18打放補修(補強) ◆外部側:既存のまま (◆解体痕は補修のこと) △アリーナ側:木下地、合板撤去 → 鉄骨+LGS下地、 耐水GB9.5d+ケイカル板6d 素地 ◆間仕切壁:全撤去 → 鉄骨、LGS下地現し (補強) △東外壁一部サッシ、CB撤去後 WW15新設	・鉄骨錆止め、床組裏面現し 無し 合板裏 まで 2370	△天井(ステージ床):撤去 → 新規天井(ステージ床)組 準 不 以 上 大引き: H=200×100φ5500/3 錆止め2回 根太: C=100×50×20×2.3φ300 錆止め2回 野地板: TSボード20d (捨合板: 構造用合板12d=ステージ床) (床板: 複合フローリング18d=ステージ床)	無し/ 合板裏 まで 2370	◆既存入口ドア撤去、階段撤去 △アリーナ床下側:アルミ給気ガラリ(防虫網付) △倉庫1側:木造階段(8段)撤去 △倉庫2側:既存RC造階段(5段):既存のまま 塞ぎ						
	玄関	全補強 仕上 下地	・300角タイル・御影石框90 ・小上り:無垢フローリング18d ・モルタル70d・小上り: 鋼製床+構造合板12d	木製 SOP	◆補強部周囲撤去 → 復旧(スロープ共) (モルタル、300タイル、御影石90d /小上がり: 鋼製床組、構造合板12d、無垢フローリング18d)	◆木製 SOP (一部)	VP塗装 CB、一部LGS+構造用合板9d+ フレキシブルボード板8d	◆補強部:CB壁撤去(RC立上り共)→WW15補強コン ◆カウンター、サッシ共:撤去 → WW15補強コン +モルタル金ゴテ、EP塗装:共通	ロックウール吸音板 木下地	木製 2420 (小上り)	◎全天井撤去→ LGS下地、ロックウール吸音板9d	◎塩ビ SOP2430	◆家具下駄箱:新設 ◆ドア新設				
1階	管理大室 → 事務室	全補強 仕上 下地	タイルカーベット 土間コン120d、鋼製床組 +コンパネ12d×2枚	木製 OSCL	◆補強部周囲撤去 → 復旧(土間コン共) (鋼製床組(H=275)、構造合板12d×2枚、 タイルカーベット/フェルト敷、層厚6.5d)	◆木製 OSCL (一部)	・腰壁:唐松板15d CL3回 ・上部:VP塗装 ・腰壁:CB+木下地 ・上部:CB+モルタル金ゴテ	◆補強部:CB壁撤去(RC立上り共)→WW15補強コン ◆補強部腰壁:木下地、唐松板15d、CL3回(木見切共) ◆補強上部壁:モルタル金ゴテ、EP塗装	化粧GB9.5d LGS	↑ 2315	◆全天井撤去 → LGS下地、化粧GB9.5d (補強)	◆木製 SOP2315 (補強)	◆各種操作盤設置(電気工事) ◆ドア新設				
	器具庫1 (太鼓)	全補強 仕上 下地	無垢フローリング18d ワニス塗 (モルタル部 防塵塗装) 土間コン120d、鋼製床組、構造 用合板12d 一部モルタル金鎖	木製 SOP	◆補強部周囲撤去 → 復旧(土間コン共) (鋼製床組(H=275)、構造合板12d下地、 無垢フローリング18d ウレタン樹脂ワニス塗り3回)	◆木製 SOP (一部)	VP塗装、腰壁塗り分け CB+モルタル金ゴテ	◆補強部:CB壁撤去(RC立上り共) → WW15補強コンクリート、モルタル金ゴテ、EP塗装 ・(階段下ガラスブロック開口:既存残し)	↑ 2520	↑ 2520	・既存のまま(LGS+化粧GB、梁型EP) 一部点検口	木製 残し/ 2520	◆太鼓棚=2組新設、 ◆ドア新設				
	部室2 → 器具庫2	全補強 仕上 下地	無垢フローリング18d ワニス塗 土間コン120d、 鋼製床組、構造用合板12d	↑	↑	↑	↑	◆補強部:CB壁撤去(RC立上り共) → WW15補強コンクリート、モルタル金ゴテ、EP塗装	↑ 2550	↑ 2550	↑	◆木製 SOP2550 (補強)	◆パ=ティカルボード棚1組新設= ◆窓サッシ撤去 → WW15補強壁 ◆ドア新設 (◆袖にP消火栓埋込)				
	部室4 → 器具庫3	全補強 仕上 下地	↑ ↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑ 2550	↑ 2550	↑	木製 残し/ 2550	◆パ=ティカルボード棚1組新設= ◆ドア新設				
	アリーナ	仕上 下地	無垢フローリング18d、 研磨、ポリウレタン塗装3回 (床下換気スリット、床点検口) (競技用ライン、ボール穴) 土間コン120d、 鋼製床組、構造用合板12d	木製 OSCL	◆補強部周囲撤去 → 復旧(土間コン共) (鋼製床組(H=500)、構造用合板12d下地、 無垢フローリング18d、ウレタン樹脂ワニス塗り3回) (外周部:エキスパンションゴム) △一部フローリングササクレ部分貼替補修(5カ所程度)	◆木製 OSCL (一部) 補強	・腰壁:唐松集成材15d、CL塗装3回 ・上部:有孔シナ合板5.5d、OP ・見切:木製36 OP ・ステージアーチ:OP(村章撤去) ・壁:CBの上、木下地組 ・上部有孔板下地 タテ胴縁36×90φ455、 横桱9×60φ300 ・柱:梁型:RCの上、木下地組 ・間仕切壁・後方壁:仕上合板9dOP ・プロセニウム柱・梁型・壁:モルタルVP (一部唐松集成材15d、CL) ・ステージアーチ:鉄骨OP ・ステージ全面立上り腰壁:合板9d OP塗装	◆補強部:CB壁撤去(RC立上り共) → WW15補強コン、RW18補強コン打放し (補強) ◆腰壁:補強周囲撤去 → 復旧:木下地組、 唐松集成材15d、CL塗装3回(GW 50d) (補強) ◆ステージアーチ:PL溶接、素地拵え、全面SOP (補強) △上部壁:有孔シ合板:既存素地清掃、EP塗装(見切共) △間仕切壁:全撤去 → LGS下地+GB12.5d、EP塗装 (補強梁下まではシナ合板5.5d上張り目透かし、EP) ◆後方壁(X8通):既存鉄骨柱、ブレス残し 他全撤去 → グラスウール100d充填、LGS下地+GB12.5d、EP塗装 (補強梁下まではシナ合板5.5d目透かし、EP) ◆プロセニウム下部:CB壁撤去(地下RC立上り共) → RW18補強コンクリート+モルタル補修、EP塗装 (RC梁型:既存モルタル補修、EP塗装) ◆プロセニウム上部:木部全撤去 → LGS下地+GB12.5d +合板5.5d目透かし、EP ◆ステージアーチ:鉄骨補強、鉄部SOP塗装 (アーチ上部はLGS下地、GB9.5d EP塗装) ◆柱型:既存RCの上、木下地、唐松集成板15d、CL (柱型上部はLGS+木胴縁、唐松集成板15d、CL) ――全壁補強	・木毛板 現し ・垂木:C=100×50×20×2.3φ600 ・屋根ブレス:1-φ13 その他:鉄骨 現しOP塗装 (ギャラリ上裏:VP塗装) アリーナ:鉄骨小屋組現し (ギャラリ上裏:RC打ち放し) 既存天井ボードの上、 化粧GB9.5d増し張り	見切木 梁天MAX 11,830	◆屋根ブレス:M27新設(PL溶接)34組SOP塗装 (補強) ◎屋根ブレス:M27新設(PL溶接)11組SOP塗装【非構造】 ◎キャットウォーク、ギャラリースラフ下:剥離部分モルタル補修、EP塗装 【非構造】 △木毛板:SOP塗装改修(劣化部分 施工前調査のこと) △その他鉄部:既存鉄骨下地調整の上、SOP塗装改修	既存木製 SOP/ 11,830	◎固定バスケットゴール(落下防止ワイヤー) ...【非構造】 ◎電動バスケットゴール(落下防止補強) ...【非構造】 ◎既存 額(落下防止補強) ...【非構造】 ◆木造器具庫撤去に伴う一部(鉄骨下地)外壁新設 (補強) ◆パッケージ消火栓 → I型に取替え (補強) △旧村章撤去 △補強に関わらないパッケージ消火栓:ホース取替え				
	ステージ	仕上 下地	・複合フローリング、塗装 ・木製樑・木製階段(4か所) (バトン手動昇降機 床付け)  鉄骨大引き(地下天井面) 木製根太(地下天井面) 捨て合板	木製 SOP	△ステージ床 全撤去 → 新設 (一般改修) 大引き: H=200×100φ5500/3 根太: C=100×50×20×2.3φ300 野地板: TSボード20d 捨合板: 構造用合板12d 床板: 複合フローリング18d ウレタン樹脂ワニス塗り3回 △木製樑:集成材45d ウレタンワニス3回(ササ共) △アリーナ袖階段新設:集成材30d ウレタンワニス 3回	◆木製 SOP (補強)	・間仕切壁:木下地 ・後方壁:シ+木下地 (一部ガラスウール50) ・プロセニウム柱・梁型:RC、 壁:CB造(上部壁一部木下地) ・ステージアーチ:鉄骨造 ・ステージ前 立上り腰壁:木下地	◆間仕切壁:全撤去 → LGS下地+GB12.5d、EP塗装 (補強梁下まではシナ合板5.5d上張り目透かし、EP) ◆後方壁(X8通):既存鉄骨柱、ブレス残し 他全撤去 → グラスウール100d充填、LGS下地+GB12.5d、EP塗装 (補強梁下まではシナ合板5.5d目透かし、EP) ◆プロセニウム下部:CB壁撤去(地下RC立上り共) → RW18補強コンクリート+モルタル補修、EP塗装 (RC梁型:既存モルタル補修、EP塗装) ◆プロセニウム上部:木部全撤去 → LGS下地+GB12.5d +合板5.5d目透かし、EP ◆ステージアーチ:鉄骨補強、鉄部SOP塗装 (アーチ上部はLGS下地、GB9.5d EP塗装) ◆柱型:既存RCの上、木下地、唐松集成板15d、CL (柱型上部はLGS+木胴縁、唐松集成板15d、CL) ――全壁補強	・既存天井ボードの上、 化粧GB9.5d増し張り  木下地	木製 全撤去 4300	◆全天井撤去 (一文字幕、電動スクリーン、 緞帳、手動バトン、ライティングレール、中割幕共) (補強) → 既存木毛板の上、グラスウールボード25d垂木止 (補強) → 既存鉄骨小屋組現し、SOP塗装 (補強) ◆鉄骨耐震補強梁、水平ブレス SOP塗装 (補強)  ◎鉄骨ブドウ棚(C=100×50×20×2.3 @400) SOP【非構造】 ◎既存木毛板の劣化状況を施工前調査のこと【非構造】	◆塩ビ 見切 新設/ 水上 梁上 5600 (補強)	◆新設=一文字幕(特殊形状)= ◆新設 電動スクリーン (補強) ◆新設 手動昇降幕 ◎ピアノ脚:ズレ止め ...【非構造】 (◎既存鉄骨小屋組に於いて状況を確認し、発錆や腐食箇所 は補強プレート等を検討すること:要担当者協議) ...【非構造】 ◆上部小屋裏点検口(600×900h×2か所) ◆外部サッシ撤去(外壁新設) △アリーナ側 正面立上り腰壁 → 木下地より全撤去、 鉄骨下地新設、捨て合板12dの上、木化粧単板5.5d貼				
	倉庫1 (北側)	仕上 下地	複合フローリング18d ウレタンワニス塗り  鉄骨大引、 根太45×100φ303 構造用合板12d	木製 SOP	△床 全撤去 → 新設 (一般改修) 大引き: H=200×100φ5500/3 根太: C=100×50×20×2.3φ300 野地板: TSボード20d 捨合板: 構造用合板12d 床板: 複合フローリング18d ウレタン樹脂ワニス塗り3回	◆木製 SOP (一部) 補強	・外周腰壁:VP塗装 ・外周面上部:VP塗装 ・間仕切壁(アリーナ側下部、梁型共):VP ・間仕切壁(アリーナ側上部):VP塗装 ・間仕切壁(ステージ側):VP塗装 ・外周腰壁:CB一部RCモルタル金鎖 ・外周上部:鉄骨+木下地、ラスモル金鎖 ・間仕切壁(アリーナ側下部):CB+モルタル金鎖 ・間仕切壁(アリーナ側上部):木+ラスモル金鎖 ・間仕切壁(ステージ側):木+ラスモル金鎖	◆外周腰壁:既存CBの上 LGS+GB12.5d+合板5.5d、EP ◆外周上壁:胴縁、仕上撤去 → 鉄骨下地:同上仕上 ◆間仕切壁(アリーナ側下部、梁型とも):既存残し → モルタル素地拵え、EP仕上 ◆間仕切壁(アリーナ側上部):天井裏となるため、 ラスモル壁やコンクリート梁型の亀裂劣化部分のみ補修 ◆間仕切壁(ステージ側):全撤去 → LGS125+GB12.5d+合板5.5d目透かし EP仕上 (◆耐震補強梁、ブレス等 → 錆止め塗装) 全壁補強	・既存化粧石膏ボード補修 木下地	↑ 2400 ～ 2925	◆天井 全撤去 → 軽天下地+化粧GB9.5d(グラスウール 100d ) ◆軽天吊り補強:C=100×50×2.3φ900 ◆既存鉄骨小屋裏 劣化状況調査確認のこと (※天井裏となるアリーナ側の間仕切り壁=既存のまま)	◆塩ビ 新設/ 2400～ 2925 (補強)	△RC柱型・梁型:既存モルタル素地拵え、EP塗装補修 △ステージへの木製階段 撤去 → 木製階段新設 △地下ビットへの階段 → 全撤去・塞ぎ ◆キャットウォークへの鉄骨階段:全撤去(撤去痕:補修) ◆サッシ撤去、新設 △新設外壁はGW100d 充填				
	倉庫2 (南側)	仕上 下地	複合フローリング18d ウレタンワニス塗り (一部塗装 防塵塗装) (樫:集成材ウレタ塗装) 木床組:束、大引、 根太45×100φ303 構造用合板12d (一部土間コン、モルタル金鎖)	↑	△既存床、樫一部撤去 △木床下地(束、大引)90角φ910・根太45×100φ303 合板下地12d、複合フローリング18d ウレタン樹脂ワニス塗り3回 △土間コンクリート (FL-500)の一部:亀裂補修	↑	↑	↑	↑ 2400 ～ 2925	↑ 2400 ～ 2925	↑	◆塩ビ 新設/ 2400～ 2925 (補強) 補強	△RC柱型・梁型:既存モルタル素地拵え、EP塗装補修 △ステージへの木製階段 撤去、新設 △一部スチール手すり新設=SOP塗装 △新設外壁はGW100d 充填 ◆キャットウォークへの鉄骨階段:全撤去(撤去痕:補修) ◆サッシ、ドア撤去、新設 △出入口ステップ:コンクリート金ゴテ、パシフィックゴムチップタイル				
2階	階段前通路	仕上 下地	無垢フローリング18d ワニス塗 土間コン120d、 鋼製床組、構造用合板12d	木製 SOP	◆補強部周囲撤去→復旧(土間コン共) (補強) ◆無垢フローリング18d ウレタン樹脂ワニス塗り3回 鋼製床組、構造用合板12d下地 (補強)	◆木製 SOP (一部) 補強	VP塗装、腰目地切 CB+モルタル金ゴテ (一部LGS+合板9d+フレキ板8d)	◆補強部:CB壁、LGS壁撤去(地中RC立上り共) →WW15補強コン、モルタル金鎖、EP塗装 (階段取合い:配筋残し、補強壁一体化) (補強)	・既存天井有孔ボード (梁型VP) 木下地(梁型RC+モルタル金鎖)	木製 2550	◎全天井撤去→復旧(LGS下地、化粧GB9.5d)【非構造】	◎木製 SOP/ 2550					
	階段室	仕上 下地	長尺塩ビシート2.5d(上、踏) ノンスリップSUS、ゴム入 小口アルミアングル押さえ コンクリート、モルタル金ゴテ	モルタル EP	・既存残し(長尺塩ビシート、ノンスリップ共) ◆一部補強取合い壁撤去→階段そのまま 補強壁施工後、入隅補修 (補強)	◆モルタル SOP (一部) 補強	VP塗装、腰目地切 CB+モルタル金ゴテ	◎既存壁 素地調整 → EP塗装 【非構造】	↑ 2900+2520	↑ 2900+2520	↑	◎木製SOP 2900+2520	◆梁型RC部:既存モルタル金鎖 → 素地調整、EP塗装 ・スチール支柱手摺、SUSノンスリップ:既存のまま ・サッシ、ガラスブロック:既存のまま				
	トレーニング室	仕上 下地	カーベット コンクリート、モルタル金ゴテ	ソフト 巾木	・既存のまま	既存 のまま (既存)	↑ CB+モルタル金ゴテ (一部木下地+合板9d+フレキ板8d)	・既存のまま	・既存化粧GB9.5d ↑ 2520	↑ 2520	・(木下地+化粧GB9.5d) 既存のまま ・(梁型コンクリート下地:モルタル+EP) 既存のまま	木製:既存 のまま/ 2520	・間仕切り壁:残し ・流し台:汎用品1500L:残し ・FF暖房器具残し				
	ギャラリ	仕上 下地	防塵塗装 コンクリート、モルタル金ゴテ(一部 CB、木下地)	木製 SOP	◆補強部周囲モルタル撤去 → 復旧 モルタル金ゴテ20d、防塵塗装 (補強)	◆モルタル EP (一部) 補強	・腰壁:唐松板15d CL3回 ・上部:有孔シナ合板5.5d+VP ・CB+木下地(腰・上部壁共) (X2通:鉄骨造+木下地+グラスウール)	◆補強部:CB壁、サッシ撤去→WW15補強コン打放し、木下地組、 腰唐松板15d CL3回、上部有孔シ合板5.5d EP (補強) △その他の上部有孔合板壁:素地調整、EP塗装改修	↑ 2520	↑ 2520	◎全天井撤去→LGS下地、化粧GB9.5d新設 【非構造】	◎木製 SOP2520 【非構造】	△パッケージ消火栓:ホース取替え △鉄骨柱型:SOP塗装補修				
	キャットウォーク	仕上 下地	↑ ↑	↑ ↑	↑ ↑	有孔シナ合板5.5d+VP 鉄骨造+木下地+グラスウール	◆鉄骨補強:垂直ブレス(プレート共)SOP塗装(補強) △壁:有孔シナ合板 → 素地調整、EP塗装改修 △補強以外の鉄部:SOP塗装改修	(アリーナ天井に準ずる) ↑ (アリーナ天井に準ずる)	木見切/ 2FL～ RSL1 =4500	△木毛板:SOP塗装改修 △その他鉄部:既存鉄骨下地調整の上、SOP塗装改修	見切SOP/ 2FL～RSL1 =4500	△キャットウォーク手前:鍵付きチェーン設置(2か所) △木製カーテンボックス:支持部材劣化状況確認後、SOP塗装 ◆倉庫1,2へのドア:撤去,LGS下地+GB12.5d EP塗装 ◎連窓サッシ中段・下段:飛散防止フィルム					
※ 亀裂劣化補修についての詳細は別図参照のこと。(亀裂劣化補修は特記なき限り耐震補強関連工事に含めること)																	
DRAWING						CHECK	DATE			SCALE	A1 A3	MAP NAME	内部仕上表	CONSTRUCTION NAME	令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事	MAP NO.	A-10

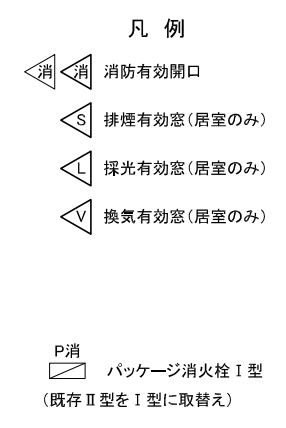


室別床面積表(m2)			(建築面積計算)
1階	(ポーチ)	(床面積除く)	(42.37)
	玄関	32.37	
	事務室	15.01	
	階段前通路	6.94	
	器具庫 1	29.81	
	器具庫 2	20.81	
	器具庫 3	22.23	
	アリーナ	925.35	
	ステージ	82.50	
	倉庫 1	33.29	
倉庫 2	33.29		
1階 床面積 計		1201.60	(1201.60)
2階	トレーニング室	42.00	
	ギャラリー・階段室	82.32	
	キャットウォーク	60.48	
		60.48	
2階 床面積 計		245.28	
体育館 延床面積 (ポーチ除く)		1446.88 m <sup>2</sup>	
			建築面積加算 ( 4.37)
			建築面積加算 ( 4.37)
体育館 建築面積		1252.71 m2	

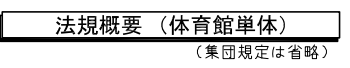
※改修計画後のCADデータに基づく面積。

面積表





1階 法規チェック図

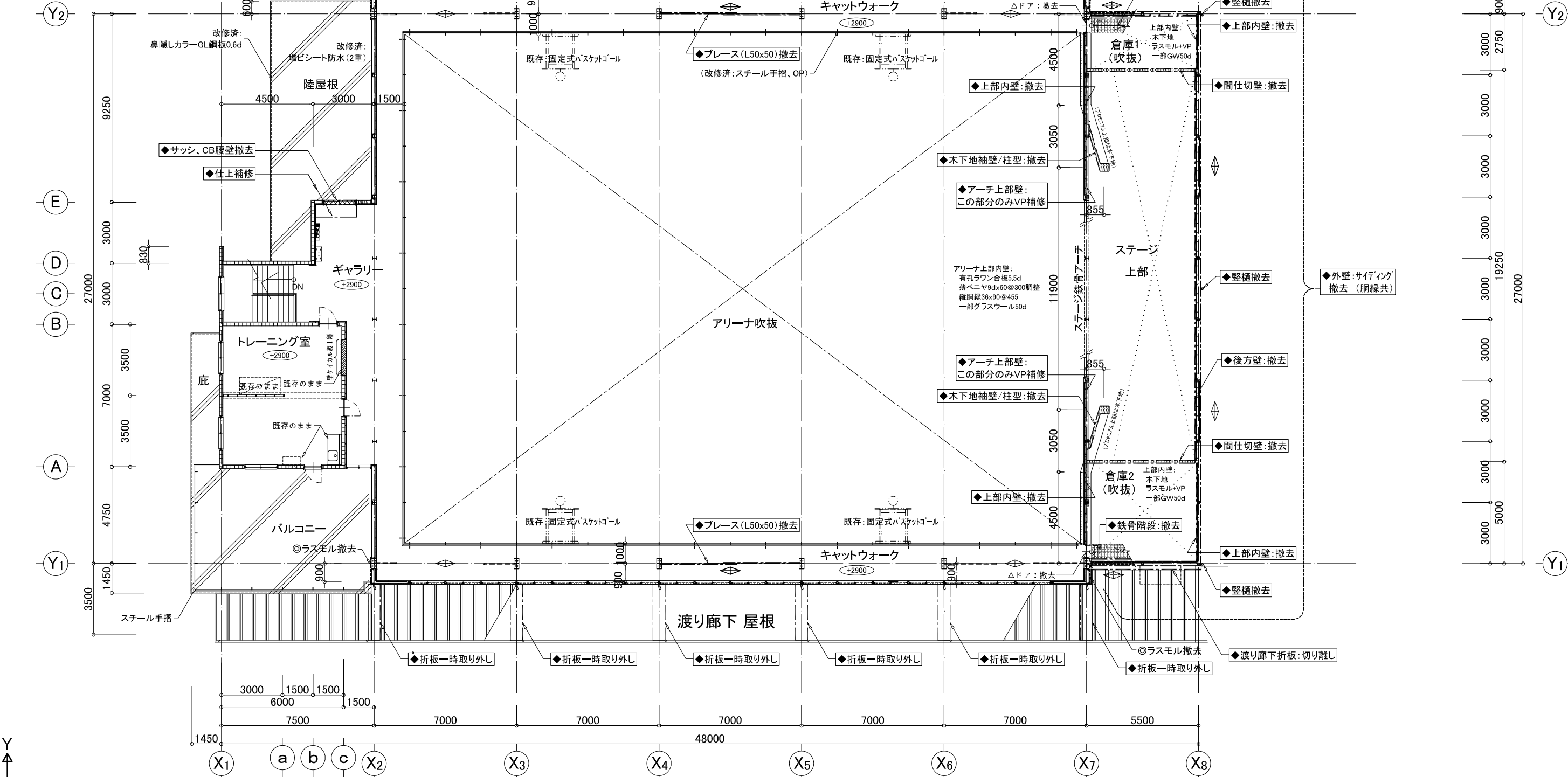
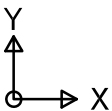
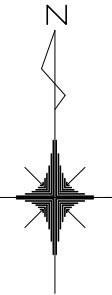


2階、法規チェック図

基準法その他	用途	体育館		
	構造・規模	RC造及びS造（一部CB造） 地上2階建て 延床面積＝ 1446.88 m <sup>2</sup> （改修後）		
	耐火・準耐火	口準耐-2（令109-3-1-2号：軸組み不燃）（任意準耐火建築物）		
	延焼線 範囲内	■外壁：金属サイディング（ヨドアルタイサイディング：ST10I-GI・耐水GB12.5d裏貼り） （透湿防水シートとも） （鉄骨横鋼縁@910以下・縦張り仕様：PC030BE-0075） 防火構造：同等品可 ■開口部：防火設備、FD付換気扇 ■軒天：鉄骨下地、フレキシブルボード6d		
	準耐火構造 床仕様	最下階以外の床：準不燃材料 → 2階ギャラリー床・トレーニング室床：RC造（既存仕様） → ステージ床：鉄骨造、硬質木毛セメント版20d下地、構造用合板12dの上、 無垢フローリング12d仕上（改修工事にて）		
	準耐火構造 階段仕様	準不燃材料：（階段はRC造の為、不燃材仕様）		
	非常用照明	学校施設のため、基本は不要であるが、社会体育としての夜間利用も考慮し、 2階居室と避難経路のみ整備する。 1階は直接外部出入口距離満足している為、アリーナやステージには整備しない。 （2015/12/18 合庁建築課 確認協議済み）		
	居室のチェック	アリーナ A=925.35 m <sup>2</sup> S(A/50): 18.51 ≤ 55.2(2階窓) V(A/20): 46.27 ≤ 55.2(2階窓) L(A/20): 46.27 ≤ 112.8(2階窓) ∴ 全てクリア	事務室 A=15.01 m <sup>2</sup> S: 0.30 ≤ 0.33 V: 0.75 ≤ 0.84 L: 0.75 ≤ 1.35 ∴ 全てクリア	トレーニング室 A=42.00 m <sup>2</sup> S: 0.84 ≤ 0.99 V: 2.10 ≤ 2.70 L: 2.10 ≤ 5.40 ∴ 全てクリア
		A=室床面積 S=排煙面積 V=換気面積 L=採光面積		
	消防法	用途・適応項目	7項（学校これらに類するもの）非 特定防火対象物	
消防設備		自火報・誘導灯・パッケージ消火栓（I型に取替え）		
無窓階の判定		1階：(A/30) = 40.06 ≤ 42.35（算定式 → 建具表にて） ∴有窓階 2階：(A/30) = 8.18 ≤ 8.54（算定式 → 建具表にて） ∴有窓階		







凡 例

	コンクリート壁／柱		パッケージ型強化液消火設備 (700w×300d×1850h)
	コンクリートブロック壁(150mm)		床下点検口
	コンクリートブロック壁(190mm)		床下通気スリット
	鉄骨壁ブレース位置を示す		天井点検口
	1FLからの高さを示す		電気盤類・器具操作盤等
	木下地壁 (仕上:ラスモルタル、板張り等)		固定家具・棚類
	鉄骨胴縁、外壁サイディング		【2600】◆耐震補強の躯体寸法を示す

解体区分

	撤去部分、範囲	
◆:耐震補強に伴う撤去		
◎:非構造改修に伴う撤去		
△:一般改修に伴う撤去		

(※ラスモル解体部分は木下地まで撤去)

既存 2階 平面図(解体指示図)

DRAWING

CHECK

DATE

SCALE

A1 1/100  
A3 1/200

MAP NAME

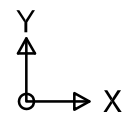
既存 2階平面図  
(解体指示図)

CONSTRUCTION NAME

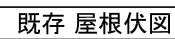
令和 5 年度 三郷体育館 耐震補強工事

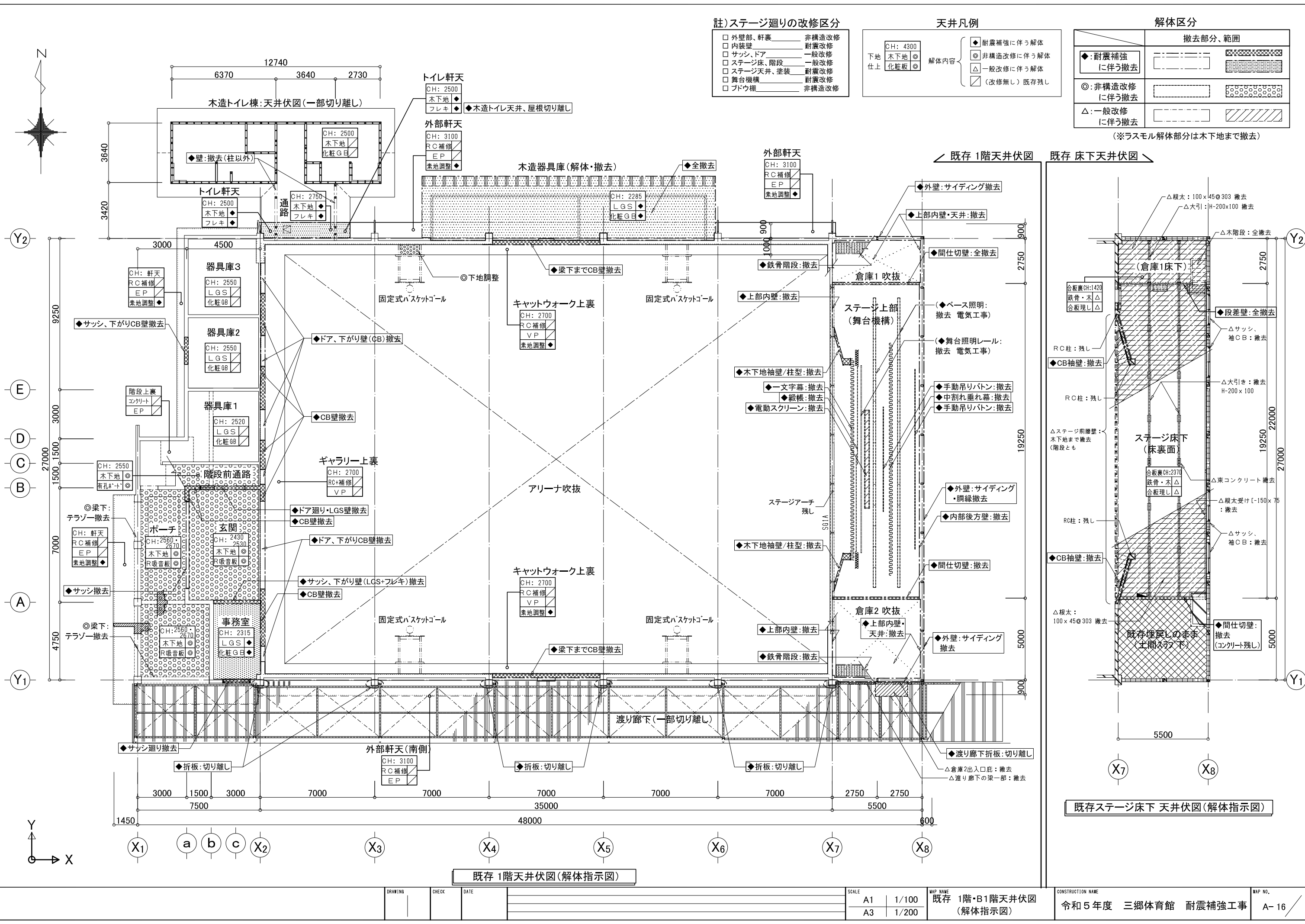
MAP NO.

A- 14



(※ラスモル解体部分は木下地まで撤去)





註)ステージ廻りの改修区分

□ 外壁部、軒裏	非構造改修
□ 内装壁	耐震改修
□ サッシ、ドア	一般改修
□ ステージ床、階段	一般改修
□ ステージ天井、塗装	耐震改修
□ 舞台機構	耐震改修
□ フドウ機	非構造改修

天井凡例

CH: 4300	解体内容	◆ 耐震補強に伴う解体
木下地	◎	◎ 非構造改修に伴う解体
化粧板	△	△ 一般改修に伴う解体
仕上	□	□ (改修無し) 既存残し

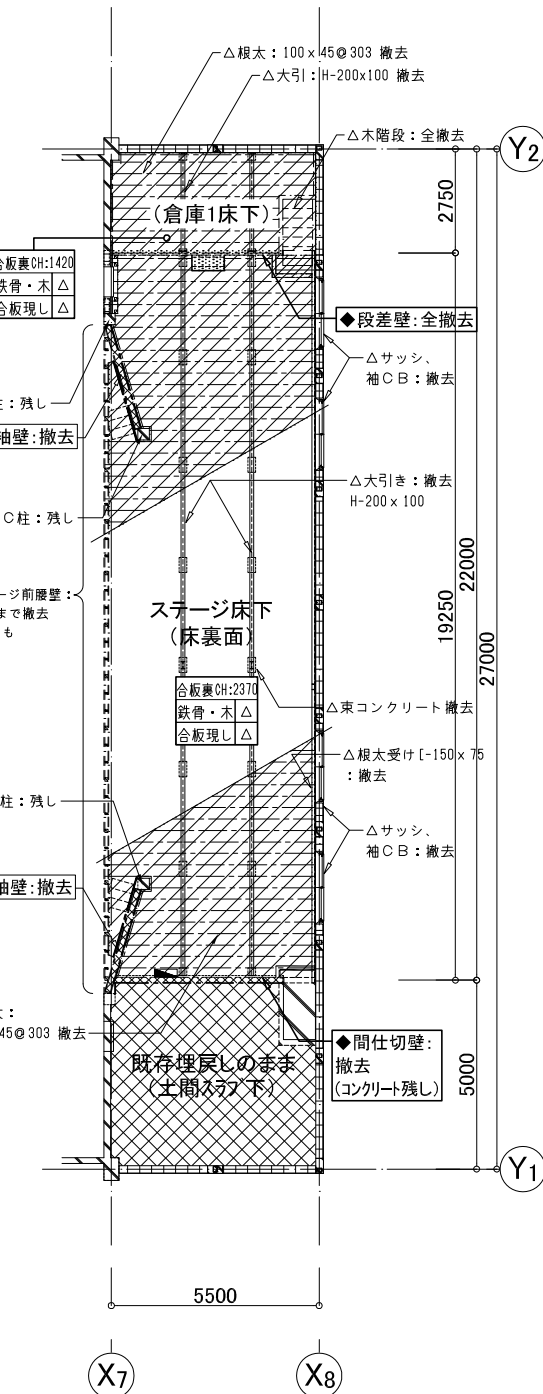
解体区分

	撤去部分、範囲
◆:耐震補強に伴う撤去	
◎:非構造改修に伴う撤去	
△:一般改修に伴う撤去	

(※ラスモル解体部分は木下地まで撤去)

既存 1階天井伏図

既存 床下天井伏図



既存ステージ床下 天井伏図(解体指示図)

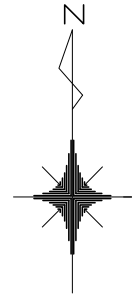
既存 1階天井伏図(解体指示図)

DRAWING	CHECK	DATE	SCALE
			A1 1/100
			A3 1/200

MAP NAME
既存 1階・B1階天井伏図 (解体指示図)

CONSTRUCTION NAME
令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事

MAP NO.
A-16



Y<sub>2</sub>

E

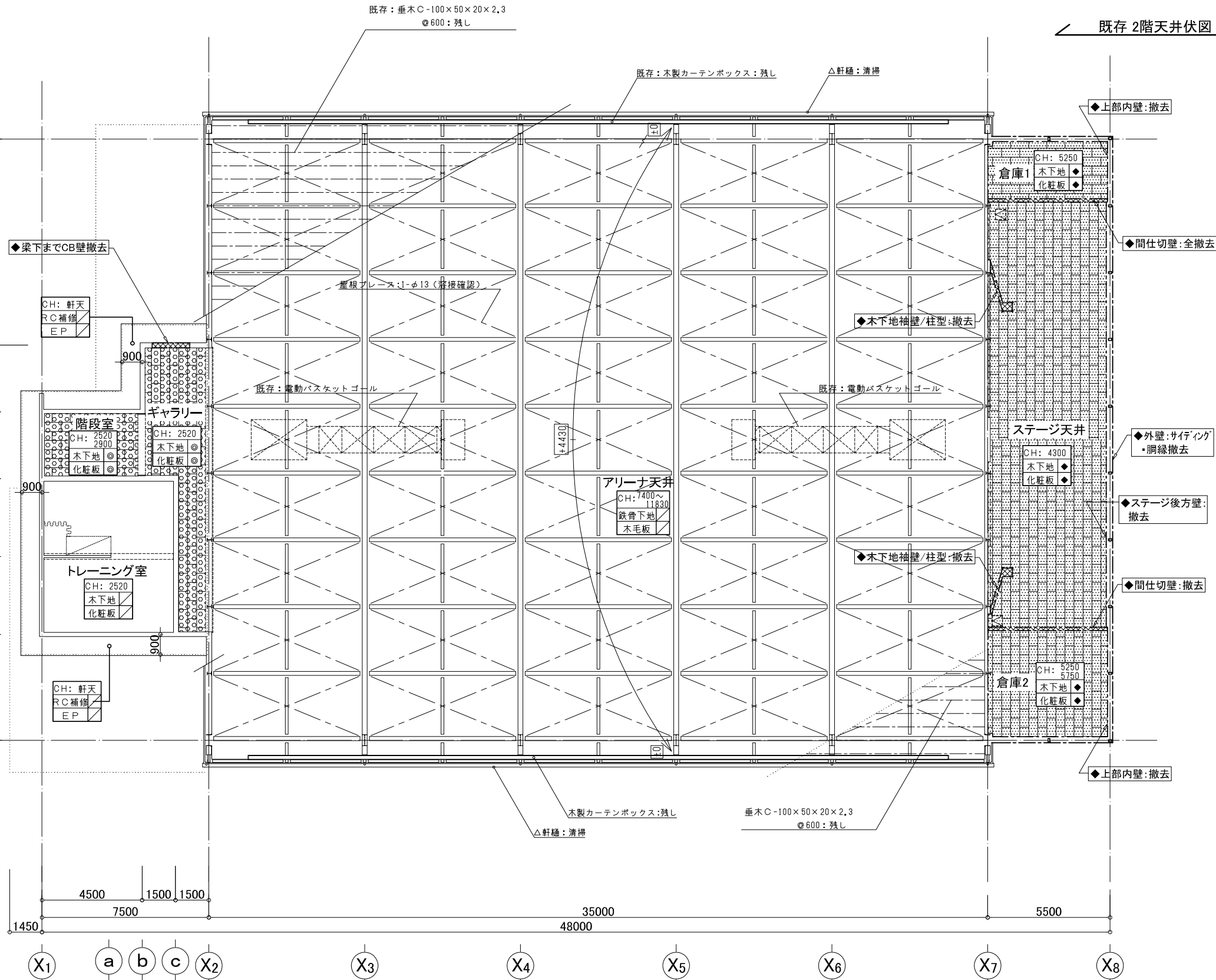
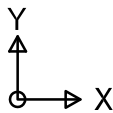
D

C

B

A

Y<sub>1</sub>



既存 2階天井・アリーナ天井伏図（解体指示図）

註)ステージ廻りの改修区分

- |             |       |
|-------------|-------|
| □ 外壁部、軒裏    | 非構造改修 |
| □ 内装壁       | 耐震改修  |
| □ サッシ、ドア    | 一般改修  |
| □ ステージ床、階段  | 一般改修  |
| □ ステージ天井、塗装 | 耐震改修  |
| □ 舞台機構      | 耐震改修  |
| □ ブドウ棚      | 非構造改修 |

天井凡例

- |          |      |               |
|----------|------|---------------|
| CH: 4300 | 解体内容 | ◆ 耐震補強に伴う解体   |
| 下地 木下地   |      | ◎ 非構造改修に伴う解体  |
| 仕上 化粧板   |      | △ 一般改修に伴う解体   |
|          |      | □ (改修無し) 既存残し |

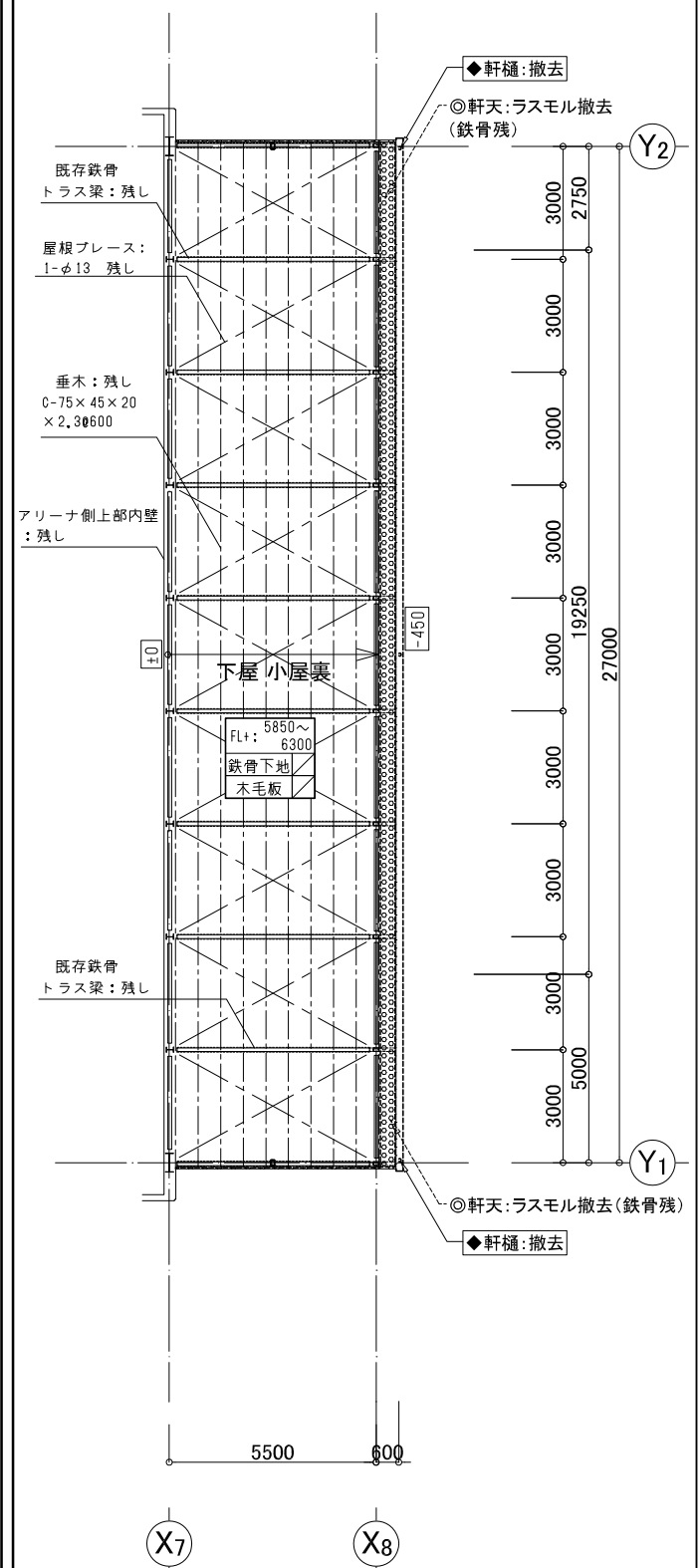
解体区分

	撤去部分、範囲	
◆:耐震補強に伴う撤去		
◎:非構造改修に伴う撤去		
△:一般改修に伴う撤去		

(※ラスモル解体部分は木下地まで撤去)

既存 2階天井伏図

既存 ステージ小屋伏図



既存 ステージ 小屋伏図（解体指示図）

DRAWING

CHECK

DATE

SCALE

A1 1/100  
A3 1/200

MAP NAME

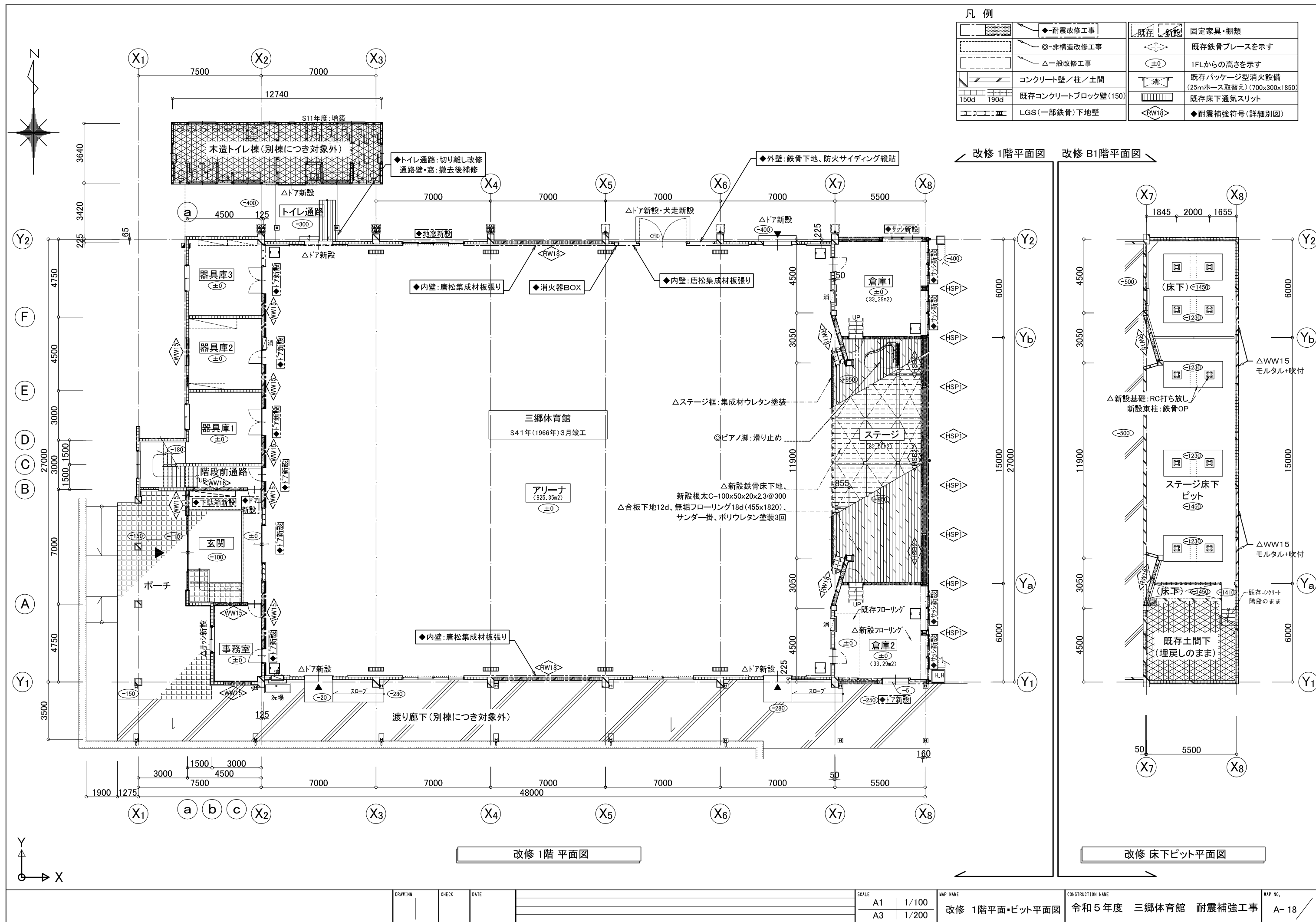
既存2階天井・ステージ小屋伏  
(解体指示図)

CONSTRUCTION NAME

令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事

MAP NO.

A- 17

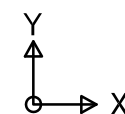


凡 例

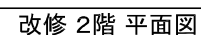
			固定家具・棚類
			既存鉄骨ブレースを示す
			1FLからの高さを示す
			既存バケージ型消火設備 (25mホース取替え)(700x300x1850)
			既存床下通気スリット
			◆耐震補強符号(詳細別図)

改修 1階平面図 改修 B1階平面図

改修 床下ピット平面図



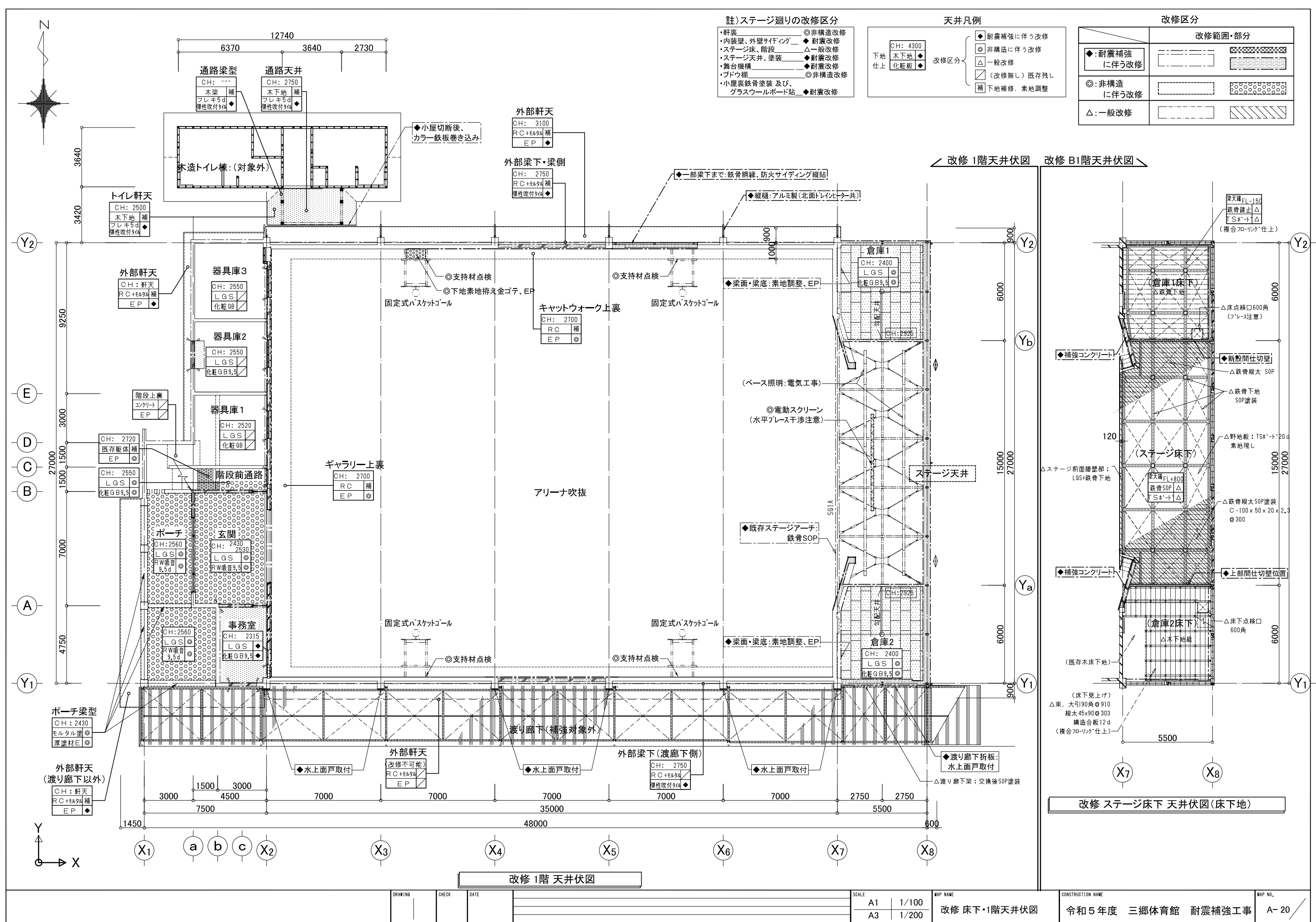
	◆耐震改修工事			固定家具・棚類
	◎非構造改修工事			既存鉄骨ブレースを示す
	△一般改修工事			1FLからの高さを示す
	コンクリート壁/柱/土間			既存パッケージ型消火設備 (25mホース取替え) (700x300x1850)
	既存コンクリートブロック壁(150)			既存床下通気スリット
	LGS(一部鉄骨)下地壁			◆耐震補強符号(詳細別図)



HSP1: H-100×100×6×8  
HSB1: H-200×100×5.5×8  
HSB2: H-100×100×6×8  
HSB3: H-200×100×5.5×8  
HV1: L-75×75×6  
HV2: 1-M18 TB付  
HV3:  $\phi$ -114.3×8.6  
HV4: 1-M24 TB付  
屋根ブレース: 1-M27 TB付

◆各鉄骨表し、防錆処理の上、SOP塗装





註)ステージ廻りの改修区分

- 軒裏
- 内装壁、外壁サイディング
- ステージ床、階段
- ステージ天井、塗装
- 舞台機構
- ブドウ棚
- 小屋根鉄骨塗装 及び、
- ガラスウールボード貼
- 非構造改修
- 耐震改修
- 一般改修
- 耐震改修
- 非構造改修
- 耐震改修

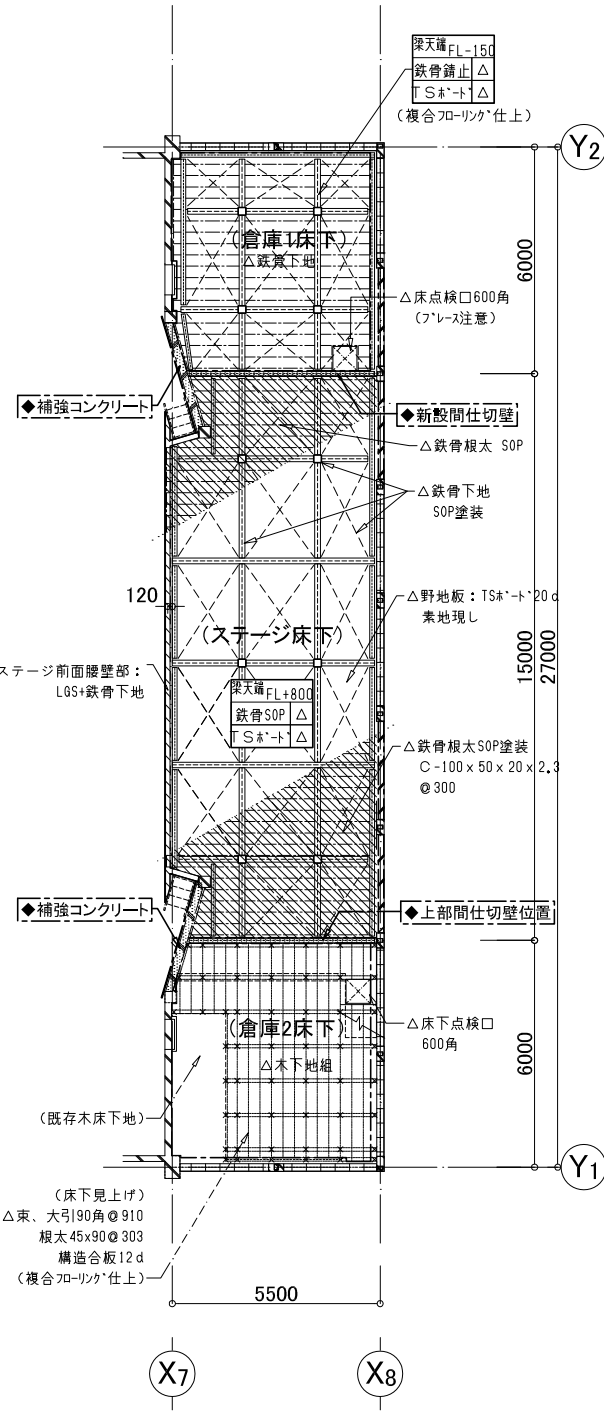
天井凡例

- 耐震補強に伴う改修
- 非構造に伴う改修
- 一般改修
- (改修無し)既存残し
- 下地補修、素地調整

改修区分

	改修範囲・部分
耐震補強に伴う改修	
非構造に伴う改修	
一般改修	

改修 1階天井伏図 改修 B1階天井伏図



改修 ステージ床下 天井伏図(床下地)

改修 1階 天井伏図



既存鉄骨部材リスト

既存 アリーナ部

符号	階	部材・
SC1	2	BH-500~1000x220x9x9
SP1	2	H-194x150x6x9
SG1	R	BH-1000~650x220x9x9
SG1A	R	BH-700x220x9x9
SG2	R	BH-300x180x6x6
SGK1	R	2C-125x60x20x2.3 (仮定)
SB1	R	BH-300x180x6x6
SB2	R	2C-120x60x20x2.3
SB3	R	2C-120x60x20x2.3
屋根ブレース	R	1-13φ
母屋	R	C-100x50x20x2.3 @600
V1	2	壁ブレース:L-50x50x6
横胴縁	2	C-100x50x20x2.3 @900

既存 ステージ部

符号・	階	部材・
SP10	2	2C-150x50x20x2.3 (仮定)
SB10	R	上・下弦材:C-100x50x20x2.3 ラチス材:16φ
SB11	R	2C-100x50x20x2.3 (縦並び)
SB12	R	2C-100x50x20x2.3 (横並び)
SB20	1	H-200x100x5.5x8
屋根ブレース	R	1-13φ
母屋	R	C-75x45x20x2.3 @600
V1 (撤去)	2	壁ブレース(片方向):L-50x50x6
V2	2	壁ブレース:1-16φ
横胴縁(撤去)	2	C-60x30x2.3 @900

註)ステージ廻りの改修区分

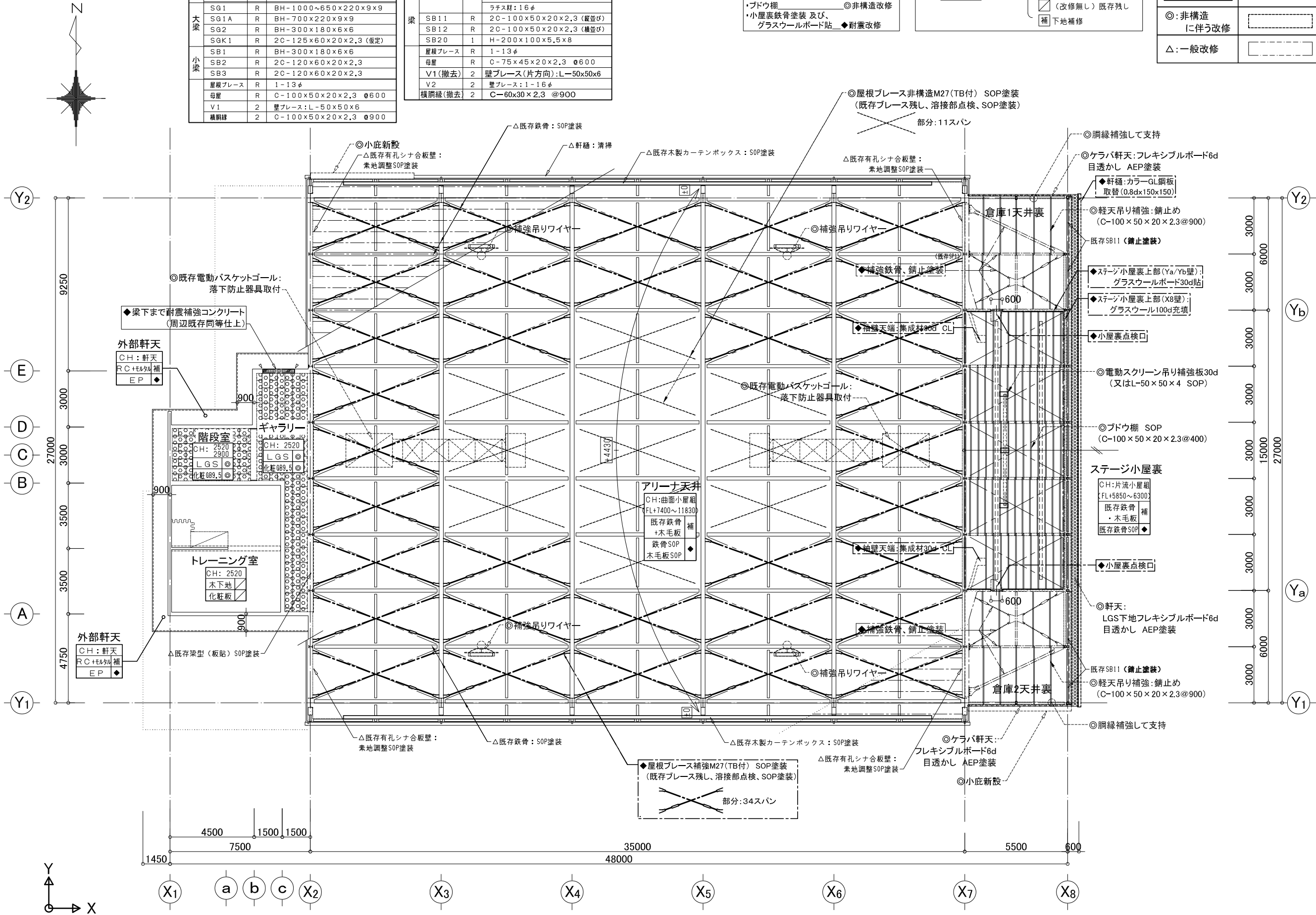
・軒裏	◎非構造改修
・内装壁、外壁サイディング	◆耐震改修
・ステージ床、階段	△一般改修
・ステージ天井、塗装	◆耐震改修
・舞台機構	◆耐震改修
・ブドウ棚	◎非構造改修
・小屋裏鉄骨塗装 及び、 グラスウールボード貼	◆耐震改修

天井凡例

◎H: 4300 木下地 化粧板	改修区分	◆耐震補強に伴う改修 ◎非構造に伴う改修 △一般改修 (改修無し) 既存残し 補 下地補修
------------------------	------	---

改修区分

	改修範囲・部分
◆:耐震補強 に伴う改修	
◎:非構造 に伴う改修	
△:一般改修	



改修 2階天井伏図・ステージ天井伏図

DRAWING

CHECK

DATE

SCALE

A1

1/100

A3

1/200

MAP NAME

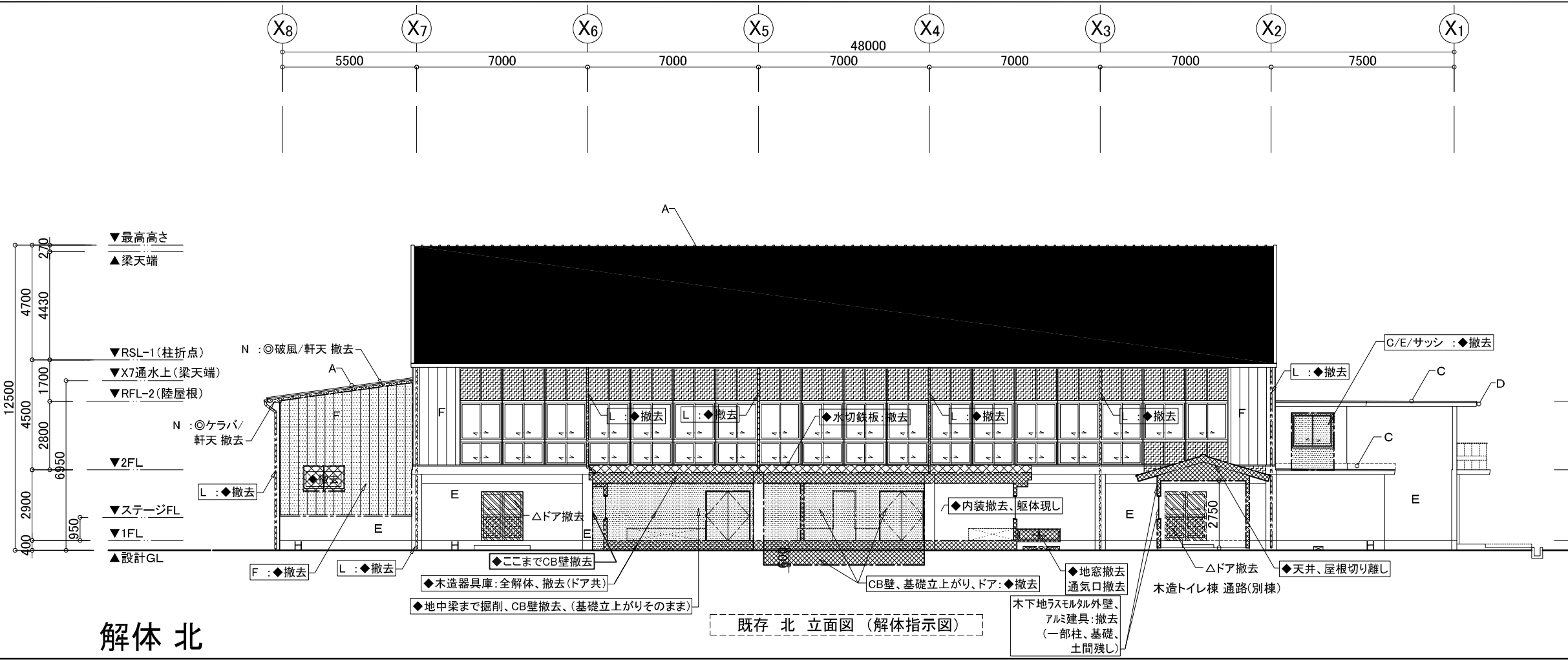
改修 2階天井伏図

CONSTRUCTION NAME

令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事

MAP NO.

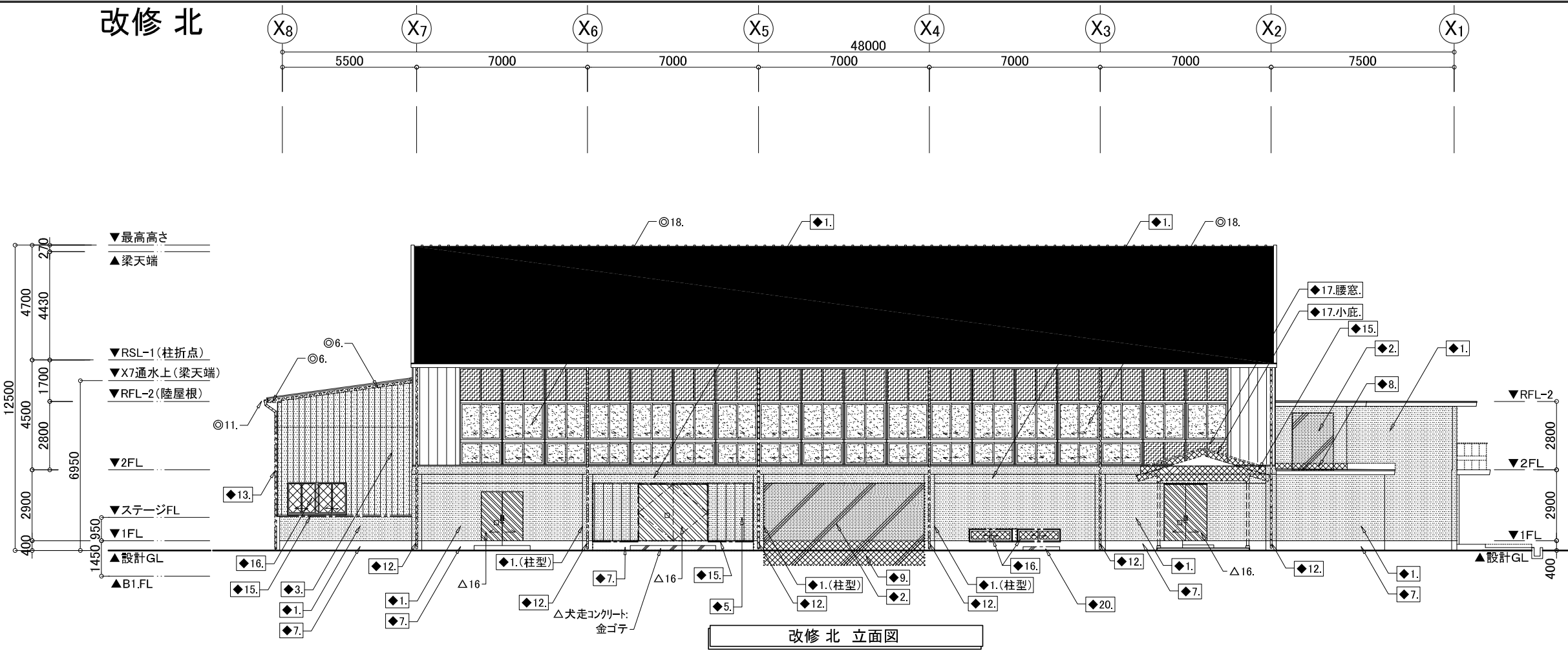
A-21



	既存仕上 凡例
A	屋根: 折板H=66カバー工法、錆止、アクリルエナメル塗装
B	屋根: 折板H=90 既存調整、錆止 (渡り廊下屋根)
C	屋根: 既存防水の上、補強複合タイプ塩ビシート防水1.5d
D	破風: カラーGL鋼板t=0.6巻き
E	外壁: RC又はCB下地モルタル調整の上、吹付タイル
F	外壁: サイディング下地調整アクリル樹脂エナメル塗装
G	腰壁: ニ丁掛タイル貼
H	基礎: 既存コンクリート補修
I	床: 300角タイル張り
J	雨樋: 下地調整アクリル樹脂エナメル 2回塗り
K	軒樋: カラーGL鋼板t=0.8加工150×150
L	縦樋: カラーVP管75φ
M	御影石 本磨き
N	ラスモルタル下地 弾性吹付タイル
==	床下通気口 (150×1600)
■	アルミパネル 又はカラー鉄板

改修工事区分	
改修区分	施工範囲
◆: 耐震補強に伴う改修工事	■
◎: 非構造改修に伴う工事	■
△: 一般改修に伴う工事	■

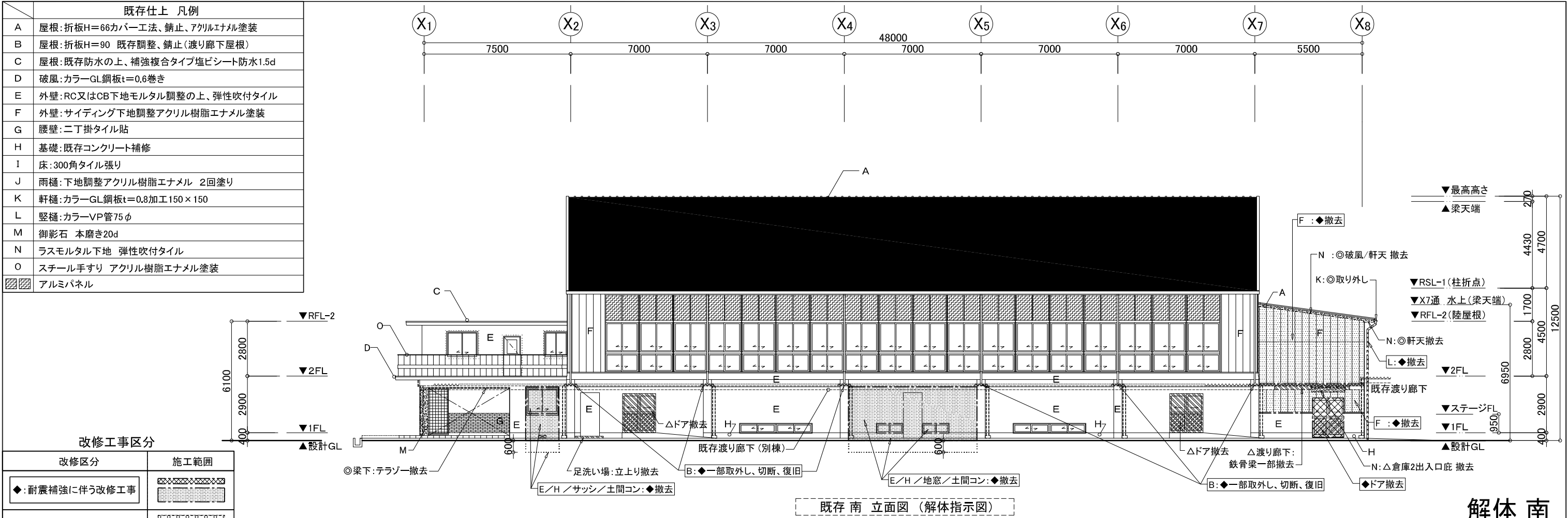
解体 北  
改修 北



	改修仕上 凡例
1.	既存下地調整、弾性吹付タイル
2.	補強コンクリート打ち放し、弾性吹付タイル (打継コーキング)
3.	Y1・Y2通: 横胴縁C-100*50*20*3.2@900 (面内)+防火サイディング
4.	X8通り: 横胴縁C-100*50*3.2@450 (面外)+防火サイディング
5.	鉄骨横胴縁C-100*50*2.3@600+サイディング縦張り (水切共)
6.	ケラバ: カラーGL鋼板0.6d包み 軒天: フレキシブル板6d、AEP塗装
7.	基礎: 既存コンクリート補修
8.	シート防水補修
9.	補強コンクリート打ち放し、補修 (打継コーキング)
10.	鉄骨下地、防水シート、焼付塗装ボンデ鋼板1.6d
11.	軒樋: カラーGL鋼板0.8dx150×150 アクリル樹脂エナメル塗装
12.	縦樋: アルミ100φ (ドレインヒーターとも)
13.	縦樋: カラーVP75φ
14.	下地調整、外装厚塗り材E (石目調) 吹付
15.	水切り・笠木類: カラーGL鋼板0.6d
16.	サッシ、ドア 新設
17.	アルミパネル新設
18.	落下防止フィルム貼 (内側)
19.	腰壁: ニ丁掛タイル貼
20.	床下通気口 (150×1600) コンクリート塞ぎ補修

	DRAWING	CHECK	DATE	SCALE	MAP NAME	CONSTRUCTION NAME	MAP NO.
				A1 1/100 A3 1/200	既存-改修 北立面図 (北駐車場側)	令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事	A-22

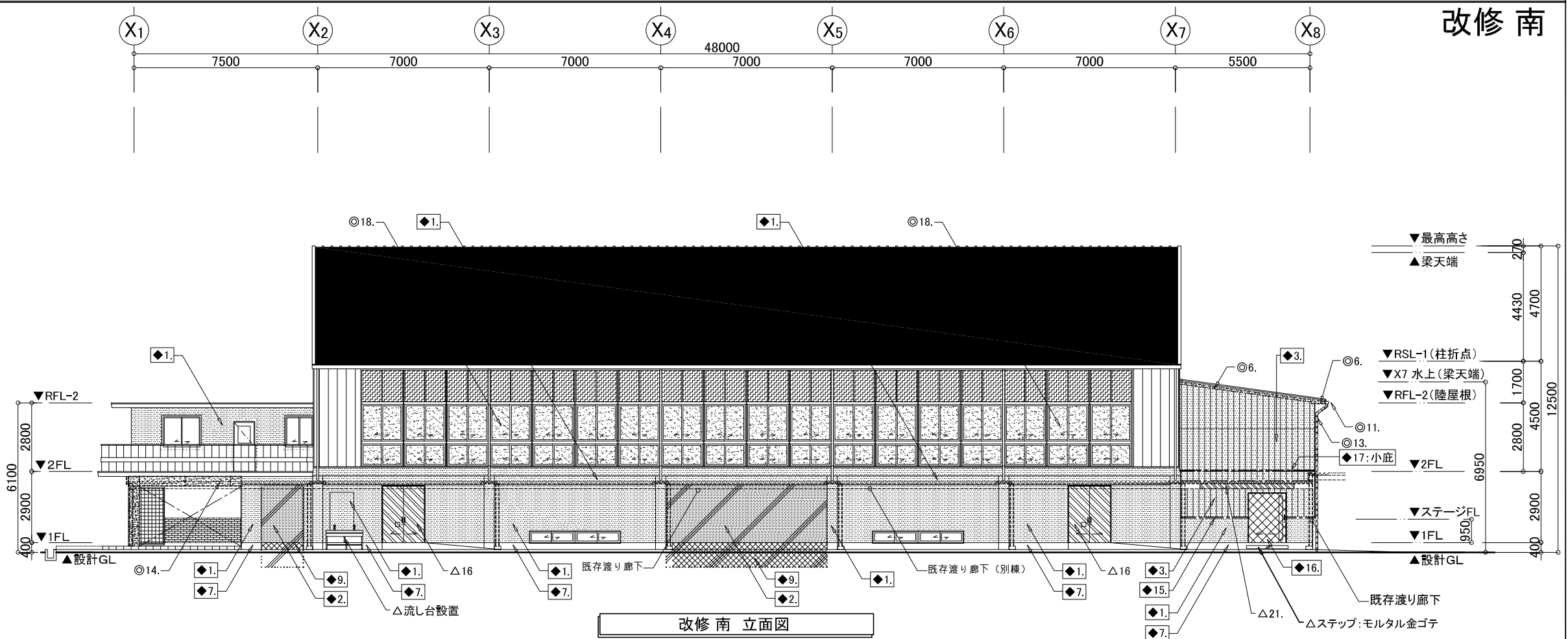
	既存仕上 凡例
A	屋根:折板H＝66カバー工法、錆止、アクリルエナメル塗装
B	屋根:折板H＝90 既存調整、錆止（渡り廊下屋根）
C	屋根:既存防水の上、補強複合タイプ塩ビシート防水1.5d
D	破風:カラーGL鋼板t＝0.6巻き
E	外壁:RC又はCB下地モルタル調整の上、弾性吹付タイル
F	外壁:サイディング下地調整アクリル樹脂エナメル塗装
G	腰壁:二丁掛タイル貼
H	基礎:既存コンクリート補修
I	床:300角タイル張り
J	雨樋:下地調整アクリル樹脂エナメル 2回塗り
K	軒樋:カラーGL鋼板t＝0.8加工150×150
L	縦樋:カラーVP管75φ
M	御影石 本磨き20d
N	ラスモルタル下地 弾性吹付タイル
O	スチール手すり アクリル樹脂エナメル塗装
	アルミパネル



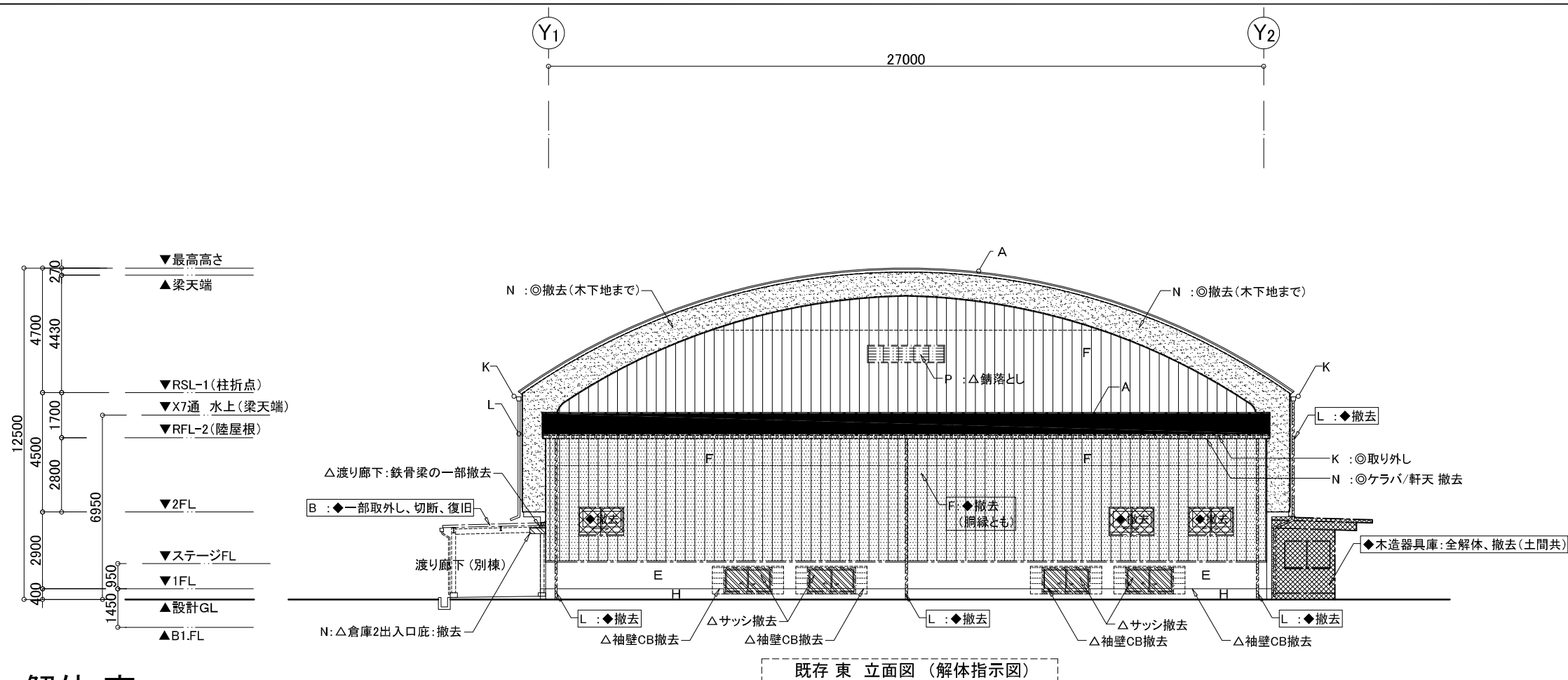
改修工事区分	施工範囲
◆:耐震補強に伴う改修工事	
◎:非構造改修に伴う工事	
△:一般改修に伴う工事	


解体 南  
改修 南



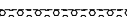
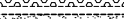
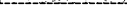
	改修仕上 凡例
1.	既存下地調整、弾性吹付タイル
2.	補強コンクリート打ち放し、弾性吹付タイル(打継コーキング)
3.	Y1・Y2通:横胴縁C-100*50*20*3.2@900(面内)+防火サイディング
4.	X8通り:横胴縁C-100*50*3.2@450(面外)+防火サイディング
5.	鉄骨横胴縁C-100*50*2.3@600+サイディング縦張り(水切共)
6.	ケラバ:カラーGL鋼板0.6d包み 軒天:フレキシブル板6d、AEP塗装
7.	基礎:既存コンクリート補修
8.	シート防水補修
9.	補強コンクリート打ち放し、補修(打継コーキング)
10.	鉄骨下地、防水シート、焼付塗装ボンデ鋼板1.6d
11.	軒樋:カラーGL鋼板0.8d×150×150 アクリル樹脂エナメル塗装
12.	縦樋:アルミ100φ(ドレインヒーターとも)
13.	縦樋:カラーVP75φ
14.	下地調整、外装厚塗り材E(石目調)吹付
15.	水切り・笠木類:カラーGL鋼板0.6d
16.	サッシ、ドア 新設
17.	アルミパネル新設
18.	落下防止フィルム貼(内側)
19.	腰壁:二丁掛タイル貼
20.	床下通気口(150×1600) コンクリート塞ぎ補修
21.	渡り廊下:梁復旧(H-200×100×5.5×8:既存JOINT合わせ) OP

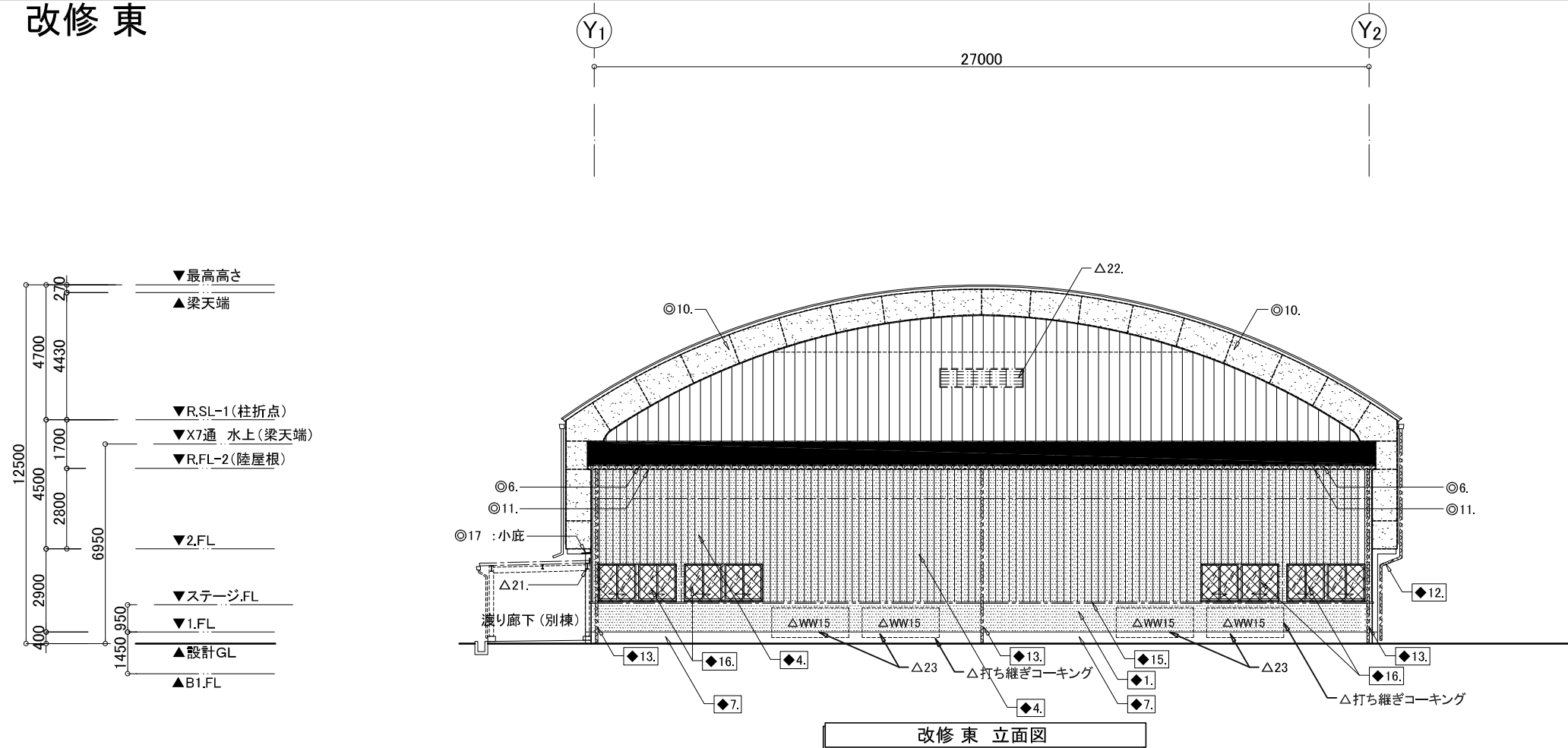


	DRAWING	CHECK	DATE		SCALE	A1   1/100 A3   1/200	MAP NAME 既存-改修 南立面図 (渡り廊下側)	CONSTRUCTION NAME 令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事	MAP NO. A-23
--	---------	-------	------	--	-------	--------------------------	-----------------------------------	---	-----------------



	既存仕上 凡例
A	屋根：折板H=66 カバー工法、錆止、アクリルエナメル塗装
B	屋根：折板H=90 既存調整、錆止（渡り廊下屋根）
C	屋根：既存防水の上、補強複合タイプ塩ビシート防水1.5d
D	破風：カラー・GL鋼板t=0.6巻き
E	外壁：RC又はCB下地モルタル調整の上、弾性吹付タイル
F	外壁：サイディング下地調整アクリル樹脂エナメル塗装
G	腰壁：二丁掛タイル貼
H	基礎：既存コンクリート補修
I	床：300角タイル張り
J	雨樋：下地調整アクリル樹脂エナメル 2回塗り
K	軒樋：カラー・GL鋼板t=0.8加工150×150
L	堅樋：カラー・VP管75φ
M	御影石 本磨き20d
N	ラスモルタル下地 弾性吹付タイル
O	スチール手すり アクリル樹脂エナメル塗装
P	スチール換気ガラリ
≡≡≡	床下通気口（H150）
	アルミパネル

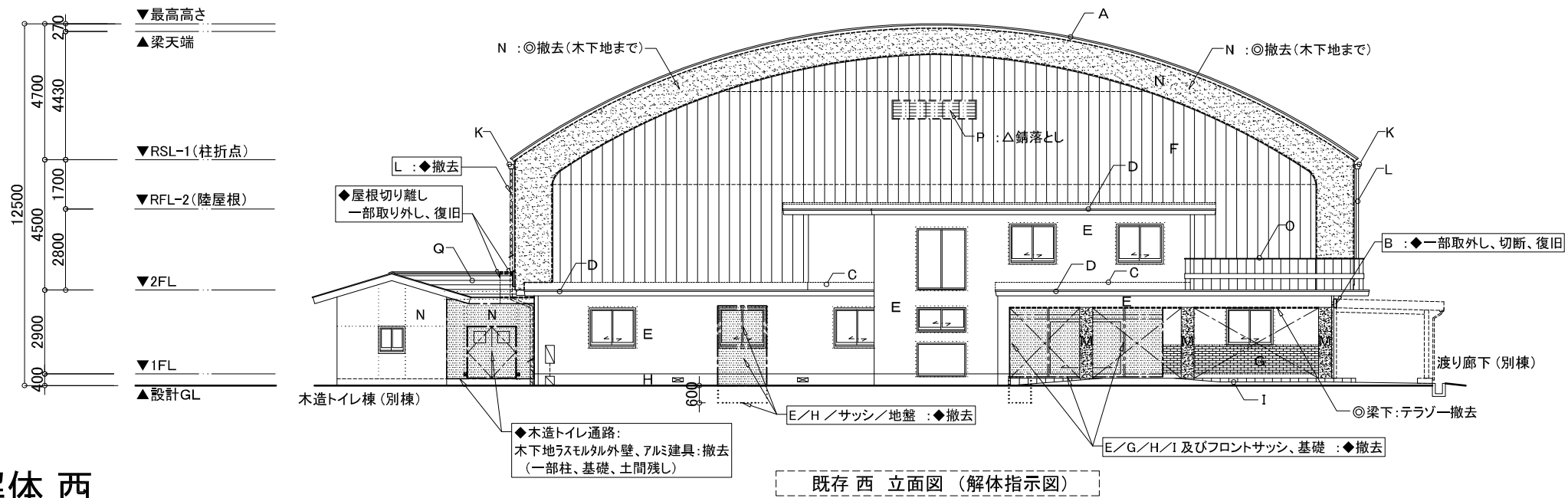
改修工事区分	
改修区分	施工範囲
◆: 耐震補強に伴う改修工事	 
◎: 非構造改修に伴う工事	 
△: 一般改修に伴う工事	




	改修仕上 凡例
1.	既存地下調整、弾性吹付タイル
2.	補強コンクリート打ち放し、弾性吹付タイル(打継コーキング)
3.	Y1・Y2通・横胴縁C-100*50*20*3.2@900(面内)+防火サイディング
4.	X8通り・横胴縁C-100*50*3.2@450(面外)+防火サイディング
5.	鉄骨横胴縁C-100*50*2.3@600+サイディング縦張り(水切共)
6.	ケラバ:カラーGL鋼板0.6d包み 軒天:フルキプル板6d、AEP塗装
7.	基礎:既存コンクリート補修
8.	シート防水補修
9.	補強コンクリート打ち放し、補修(打継コーキング)
10.	鉄骨下地、防水シート、焼付塗装ボンデ鋼板1.6d
11.	軒樋:カラーGL鋼板0.8dx150×150 アクリル樹脂エナメル塗装
12.	壁樋:アルミ100φ(ドレインヒーターとも)
13.	壁樋:カラーVP75φ
14.	下地調整、外装厚塗り材E(石目調)吹付
15.	水切り・笠木類:カラーGL鋼板0.6d
16.	サッシ、ドア 新設
17.	アルミパネル新設
18.	落下防止フィルム貼(内側)
19.	腰壁:二丁掛タイル貼
20.	床下通気口(150×1600) コンクリート塞ぎ補修
21.	渡り廊下:梁復旧(H-200×100×5.5×8:既存JOINT合わせ)OP
22.	防錆処理の上、アクリル樹脂エナメル塗装
23.	RC壁新設、防水モルタル下地の上 弾性吹付タイル



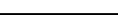
	DRAWING	CHECK	DATE		SCALE	MAP NAME	CONSTRUCTION NAME	MAP NO.
					A1	既存-改修 東立面図 (ステージ東側)	令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事	A-24
					1/100			
				A3	1/200			

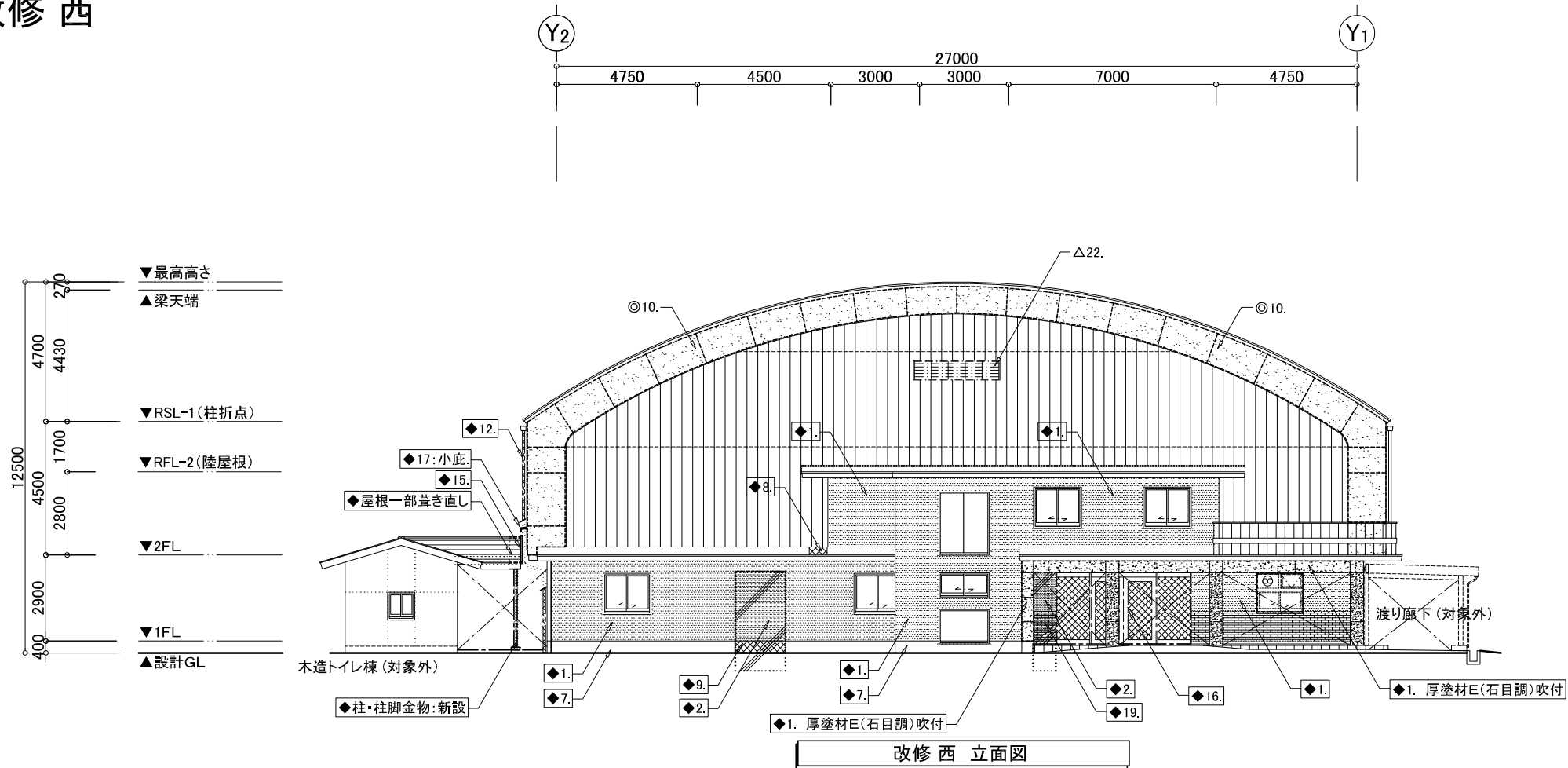
解体	西
改修	西



	既存仕上 凡例
A	屋根：折板H=66カバー工法、錆止、アクリルエナメル塗装
B	屋根：折板H=90 既存調整、錆止（渡り廊下屋根）
C	屋根：既存防水の上、補強複合タイプ塩ビシート防水1.5d
D	破風：カラーGL鋼板t=0.6巻き
E	外壁：RC又はCB下地モルタル調整の上、弾性吹付タイル
F	外壁：サイディング下地調整アクリル樹脂エナメル塗装
G	腰壁：二丁掛タイル貼
H	基礎：既存コンクリート補修
I	床：300角タイル張り
J	雨樋：下地調整アクリル樹脂エナメル 2回塗り
K	軒樋：カラーGL鋼板t=0.8加工150×150
L	縦樋：カラーVP管75φ
M	御影石 本磨き20d
N	ラスモルタル下地 弾性吹付タイル
O	スチール手すり アクリル樹脂エナメル塗装
P	スチール換気ガラリ
Q	野地板12d、ASルーフィング、長尺カラー鉄板0.4d 横置き
≡≡≡	床下通気口（H150）
	アルミパネル

## 改修工事区分

改修区分	施工範囲
◆：耐震補強に伴う改修工事	
◎：非構造改修に伴う工事	
△：一般改修に伴う工事	



	改修仕上 凡例
1.	既存下地調整、弾性吹付タイル
2.	補強コンクリート打ち出し、弾性吹付タイル(打継コーキング)
3.	Y1・Y2通: 横胴縁C-100*50*20*3.2@900 (面内)+防火サイディング
4.	X8通り: 横胴縁C-100*50*3.2@450 (面外)+防火サイディング
5.	鉄骨横胴縁C-100*50*2.3@600+サイディング縦張り(水切共)
6.	ケラバ: カラーGL鋼板0.6d包み 軒天: フレキシブル板6d、AEP塗装
7.	基礎: 既存コンクリート補修
8.	シート防水補修
9.	補強コンクリート打ち出し、補修(打継コーキング)
10.	鉄骨下地、防水シート、焼付塗装ボンデ鋼板1.6d
11.	軒樋: カラーGL鋼板0.8dx150×150 アクリル樹脂エナメル塗装
12.	堅樋: アルミ100φ(ドレインヒーターとも)
13.	堅樋: カラーVP75φ
14.	下地調整、外装厚塗リ材E(石目調)吹付
15.	水切り・笠木類: カラーGL鋼板0.6d
16.	サッシ、ドア 新設
17.	アルミパネル新設
18.	落下防止フィルム貼(内側)
19.	腰壁: 二丁掛タイル貼
20.	床下通気口(150×1600) コンクリート塞ぎ補修
21.	渡り廊下: 梁復旧(H-200x100x5.5x8: 既存JOINT合わせ)OP
22.	防錆処理の上、アクリル樹脂エナメル塗装

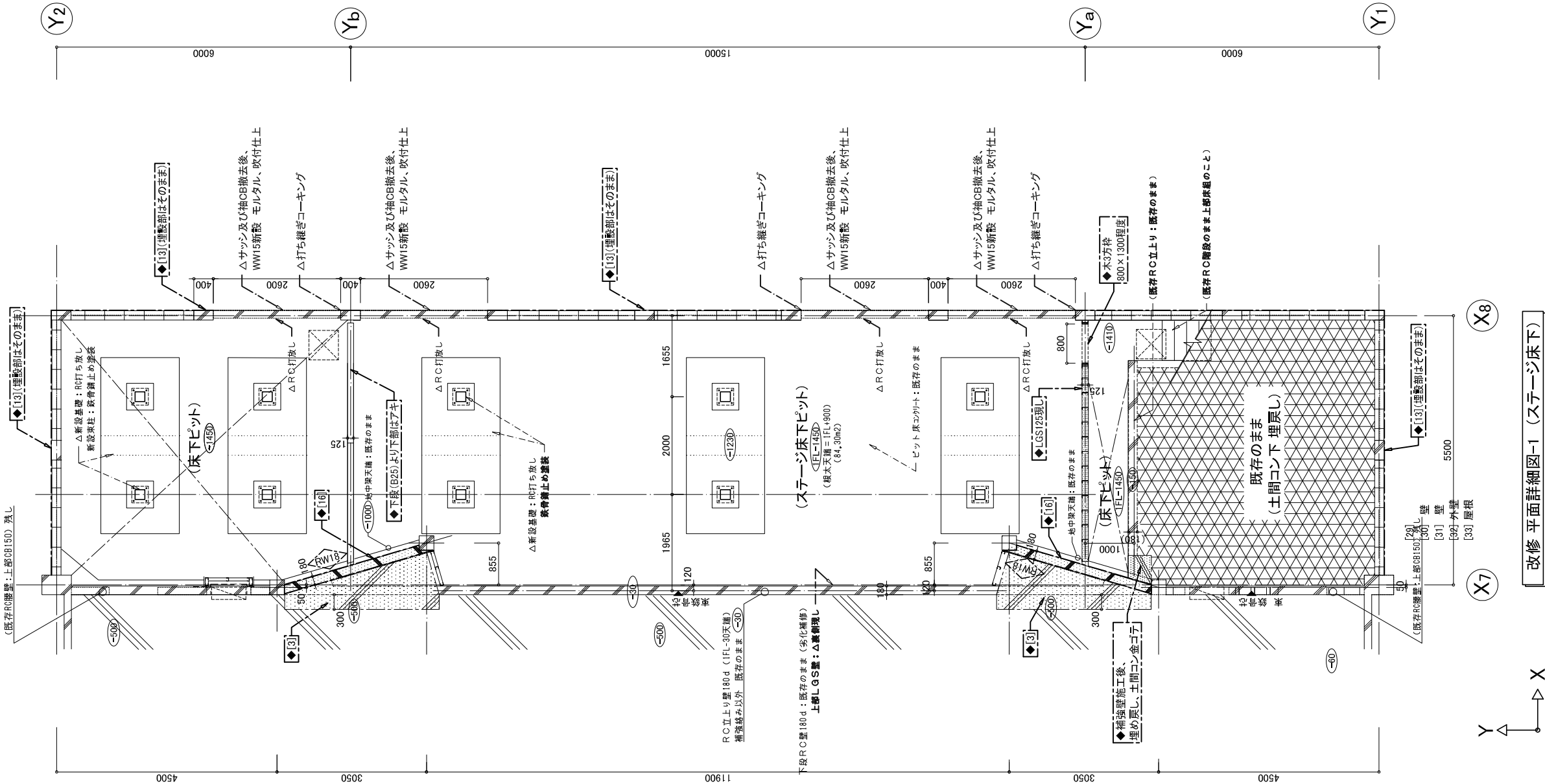
CONSTRUCTION NAME	MAP NO.
令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事	A-25

	DRAWING	CHECK	DATE	SCALE		MAP NAME 改修 平面詳細図-1 (ステージ床下ピット)	CONSTRUCTION NAME 令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事	MAP NO. A-26
				A1	1/50			
				A3	1/100			

番号/部位	仕上内容
[1] 床	合板下地12d、無垢フローリング18d(455x1820、外周部キレ込みジョイント)ワグナー・トリ、バリエータ3回
[2] 床	鋼製重床:東09×10×900、大引鋼J&S:50×50×1.6 ×1500、根太調子NS29×35×54×1.2#303
[3] 床	碎石90d、防錆シートの、土間コン120d(D10#200、アンカーD1.3#200)7アブリ格行無垢フローリング立上げ
[4] 外壁	コングリー打ち放し、弾性収付金具(打線・キレ・ヤコブ)
[5] 外壁	コングリー打ち放し、モルタル付金具、EP塗装
[6] 壁	木下地組網綯線④455、模積18d②#003 磨粒集成材15d(本業)、CL塗装3回
[7] 床	[3]の上、合板下地12d×2d、タイルカーバ#5d
[8] 床	[3]の上、土間コン増打70d(ワグナー・トリ90#)、 モルタル下地300角タイル張地(一部御影石90d)
[9] 壁	既存存CB(梁RC)モルタル補修、EP塗装
[10] 壁	既存、LGS下地、GB125d+合板5.5d、EP塗装(一部隠覆)
[11] 壁	鉄骨、LGS下地、GB125d+合板5.5d、EP塗装
[12] 壁	RC基礎立ち上がり築地調整、モルタル補修
[13] 基礎	LGS下地、耐水GB125d+ケイカル板6d
[14] 壁	鉄骨+LGS、構造合板12d+木化粧壁面板3.5d目透CL
[15] 壁	補強コンクリート打ち放し
[16] 壁	既存(躯体+ケイカル)築地調整の上、弾性吹付タイル
[17] 外壁	構造合板12d+硬付フローリング18d(カーバ#5)×33回
[18] 床	既存土間コン補修、防塵塗装
[19] 床	(X)8溝鋼防水C-100×50×20×3.2②#000、耐水GB12.5d +透湿防水シート、防火サイザイタイル14d縦張
[20] 外壁	(Y1,Y2)溝C-100×50×20×3.2②#000(柱内)、耐水 GB12.5d+防火紙の上、防火サイザイタイル14d縦張
[21] 外壁	トリエ通路鉄、既存土間モルタル補修、エポキシ塗装
[22] 床	トリエ通路柱、既存の土補修、木材保護塗装
[23] 柱	鉄骨梁上、防錆処理の上、SOP塗装
[24] 鉄骨	(既存スラフ)モルタル補修、防塵塗装
[25] 床	補強RC壁又は既存鉄骨梁(壁)×木下地の上、 壁:唐松炭色15d×33回 上部:有孔シナ工改修
[26] 壁	補強炭炭色15d×33回 上部:有孔シナ工改修
[27] 防水	補強炭炭色15d×33回 上部:有孔シナ工改修
[28] 外構	外壁工後、埋め戻し起圧、整地
[29] 窓	アルミ樹脂125#新設(雨水切、砂利散入)
[30] 窓	既存存アルミ樹脂撤去、木下地削、GB12.5d、EP
[31] 外壁	既存存瓦工下地、防水部分の草根調整SSOP塗装改修
[32] 壁	既存存瓦工下地、防水シート、トリエ鋼板1.6d焼付塗装
[33] 屋根	既存折板・H90 接線計切断後、復旧






























- ※1: 内壁の外周空隙部に高性能グラスウール5
- ※2: 特記なき限り塗装は2回以上とする
- ※3: 既存躯体研る場合には、配筋定着を残すこと
- ※4: 唐松集成板は本実とする

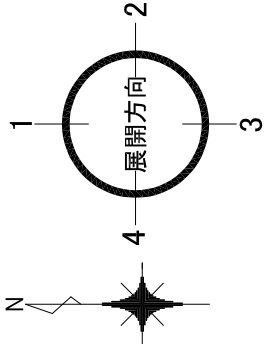
## 改修仕様一覧表



改修平面詳細図-1 (ステージ床下)

## 凡例

			◆耐震改修工事			固定家具・棚類
			◎・非構造改修工事			既存鉄骨ブレースを示す
			△一般改修工事			1Fからの高さを示す
			コンクリート壁／柱／土間			バキューム製消火設備 (I型)に取替え：700×250×1400h)
			既存コンクリートブロック壁			既存床下通気スリット
			既存木下地壁			◆耐震補強符号
			LGS(一部鉄骨)下地壁			◆耐震補強の躯体寸法を示す





改修仕様一覧表

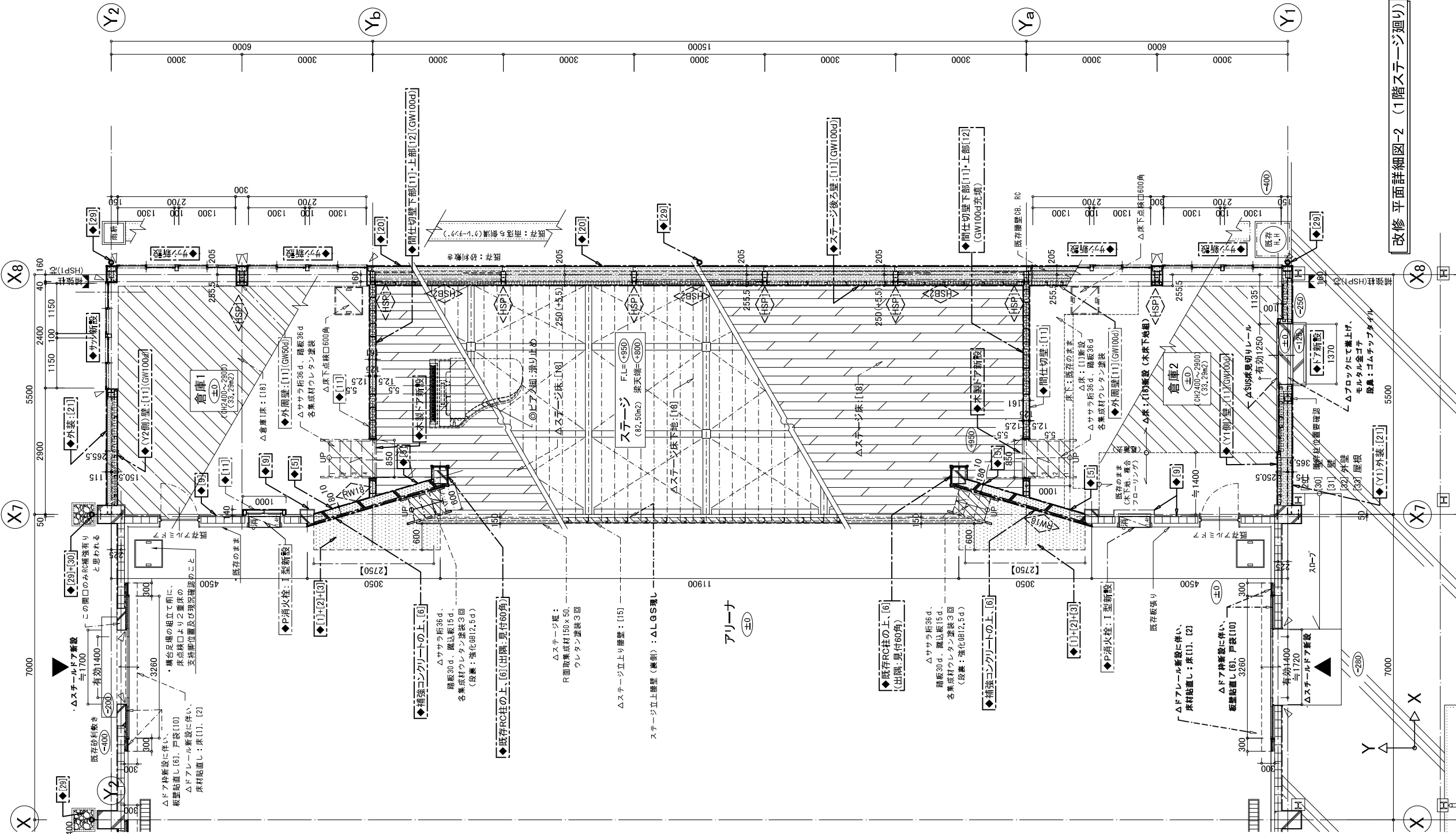
番号	部位	仕上内容
[1]	床	合板下地12d、無垢フローリング18d(455×1820、外周部エキスパンション)、サリナ掛、ウレタン塗装3回
[2]	床	鋼製2重床:床@910x900、大引鋼J6x50x50x1.6x@600、根太鋼N35x29x35x54x1.2@303
[3]	床	砕石150d、防湿シート、土間コン120d(D10@200、アンカー-D13@200)(アリーナ桁行無筋コンクリート立上げ)
[4]	外壁	コンクリート打ち放し、弾性吹付タイル(打鍵コーキング)
[5]	壁	コンクリート打放、モルタル金ゴテ、EP塗装
[6]	壁	木下地組(縦割@455、横桟18d@303) 唐松集成材15d(本表)、CL塗装3回
[7]	床	[2]の上、合板下地12d×2、タイル@16.5d
[8]	床	[3]の上、土間コン増打ち70d(714×746#)、モルタル下地300角タイル張り(一部影石90d)
[9]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[10]	壁	腰・既存QB(梁RC)モルタル補修、EP塗装
[11]	壁	鉄骨、LGS下地、GB125d+合板5.5d、EP塗装(一部腰壁)
[12]	壁	(一部)鉄骨orGB125d+合板5.5d、EP塗装
[13]	基礎	RC基礎立ち上がり素地調整、モルタル補修
[14]	LGS下地	耐水GB12.5d+ケイカル板6d
[15]	壁	鉄骨+LGS、構造合板12d+木化純単板5.5d目透CL
[16]	壁	補強コンクリート打ち放し
[17]	外壁	既存(躯体+タイル)素地調整の上、弾性吹付タイル
[18]	床	鉄骨梁・根太O-100x50@300、TS&T-20dの上、構造合板12d+複合フローリング18d(タリタリ=33回)
[19]	床	既存土間コン補修、防塵塗装
[20]	外壁	(X8)構内縁O-100x50x20x3.2@600、耐水GB12.5d+透湿防水シート、防火サイディング14d縦張
[21]	外壁	(Y1)(Y2)棟O-100x50x20x3.2@600(柱内内)、耐水GB12.5d+防水紙の上、防火サイディング14d縦張
[22]	床	トイレ通路床:既存土間モルタル補修、エポキシ塗床
[23]	柱	トイレ通路柱:既存の上補修、木材保護塗装
[24]	鉄骨	鉄骨表し、防錆処理の上、SOP塗装
[25]	床	(既存スラブ)モルタル補修、防塵塗装
[26]	壁	補強RC壁又は既存鉄骨腰壁)+木下地の上、腰壁・唐松集成材15d CL3回 上部:有孔シンテ合板5.5d SOP
[27]	防水	補強複合シート防水1.5d(立ち上がり共)改修
[28]	外構	外壁施工後、埋め戻し転圧、整地
[29]	樋	アルミ堅通125の新設(雨水枘・砂利散共)
[30]	壁	既存ラスモル撤去、木下地調整、GB12.5d、EP
[31]	壁	既存有孔シンテ合板部分のみ素地調整SSOP塗装改修
[32]	外壁	アガル下地、防水シート、ボンデ鋼板1.6d接付塗装
[33]	屋根	既存折板:190 接続部切断後、復旧

※1:内壁の外周部空隙部に高性能グラスウール50d充填

※2:特配なき限り塗装は2回以上とする

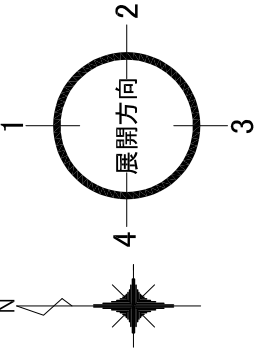
※3:既存躯体折る場合には、配筋定着を残すこと

※4:唐松集成材は本表とする



凡例

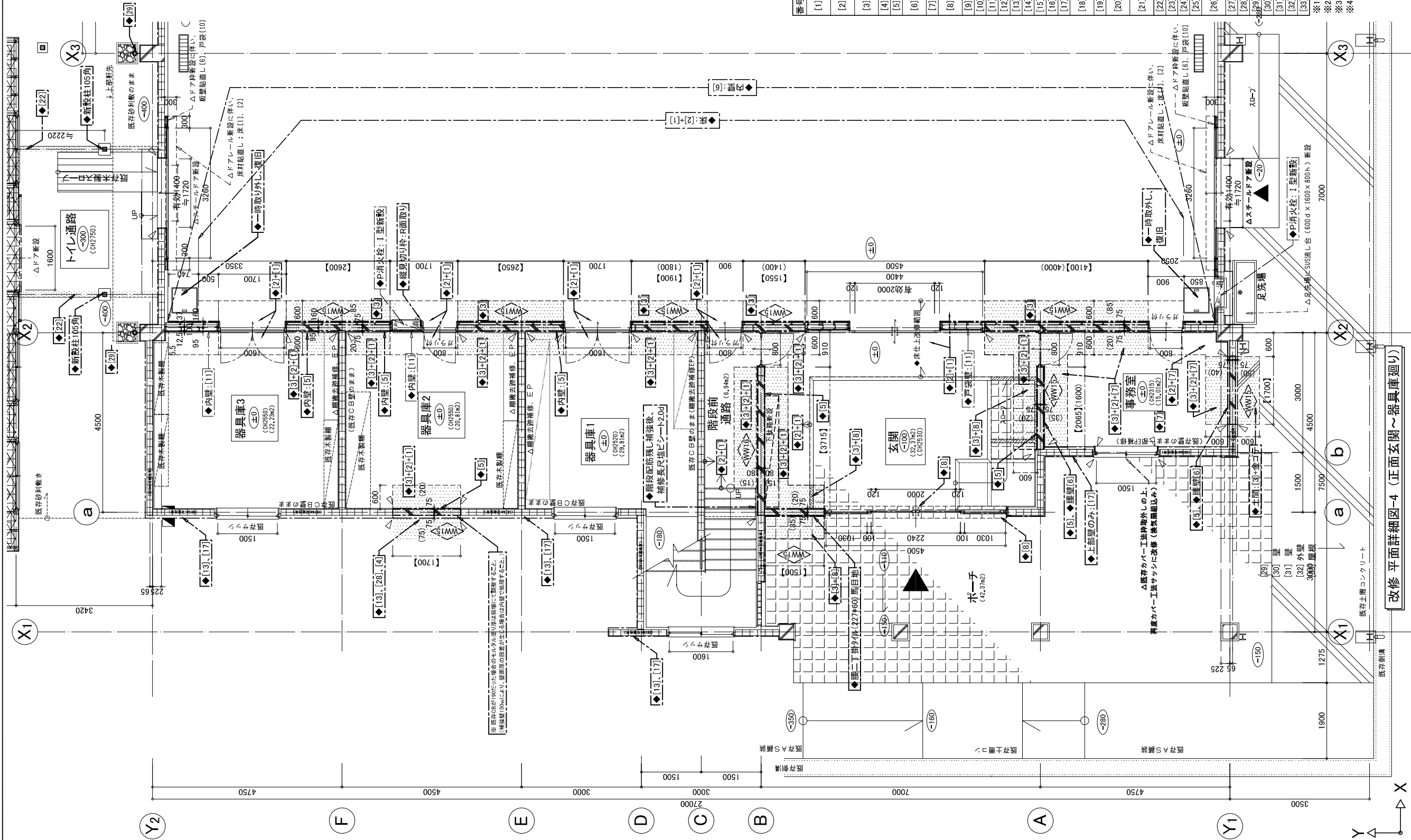
	既存		新設	固定家具・棚類	既存鉄骨ブレースを示す
	既存		新設	1FLからの高さを示す	ハンケージ型消火設備
	既存		新設	ハンケージ型消火設備	(1型に取替え:700×250×1400h)
	既存		新設	既存床下通気スリット	◆耐震補強符号
	既存		新設	◆耐震補強符号	◆耐震補強の躯体寸法を示す



改修 平面詳細図-2 (1階ステージ廻り)



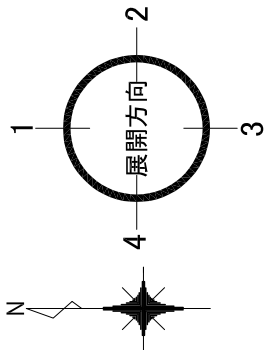




改修平面詳細図-4 (正面玄関～器具庫廻り)

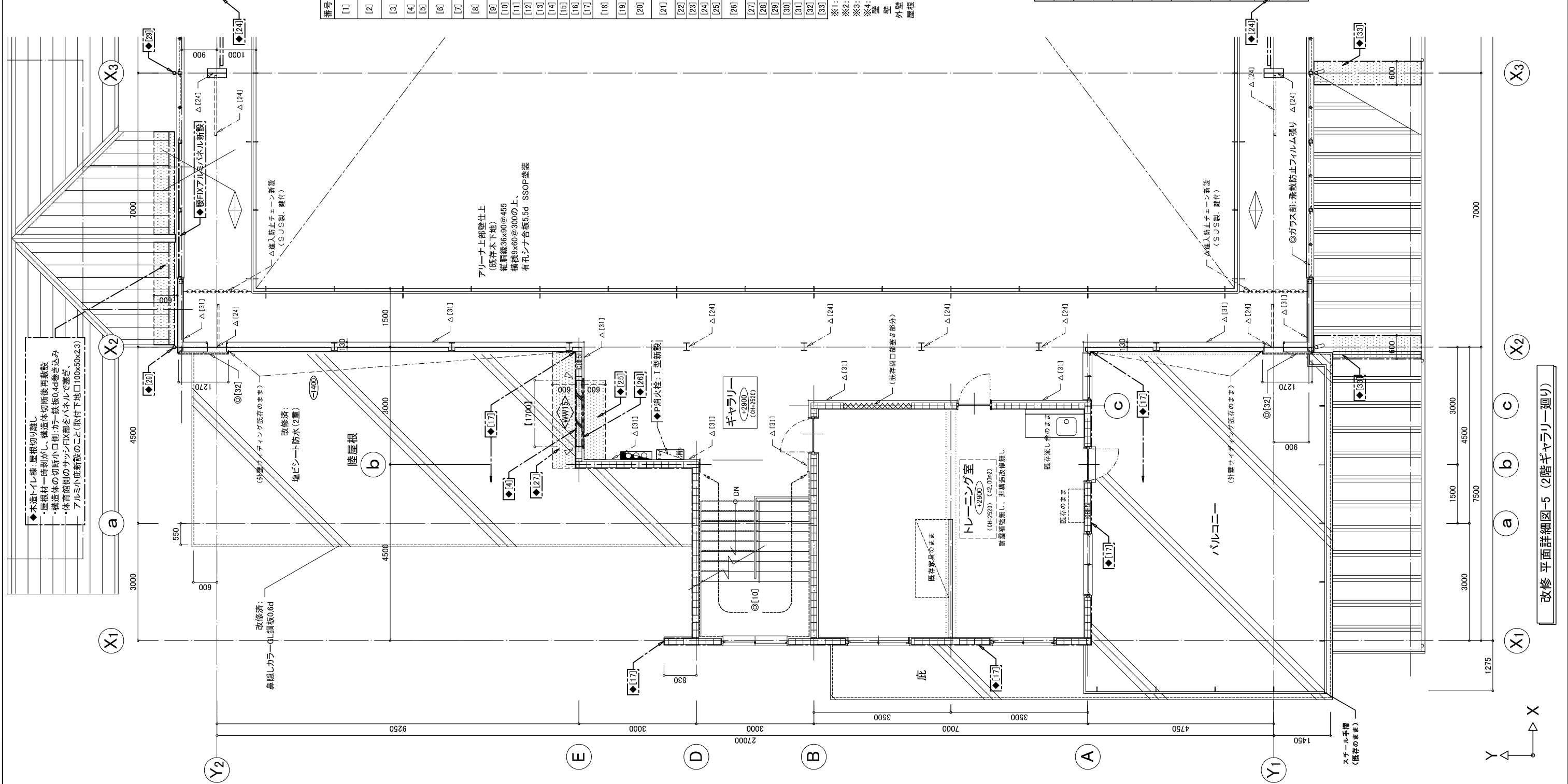
凡例

	既存		新設	固定家具・棚類	既存鉄骨ブレースを示す
	◆耐震改修工事		◎非構造改修工事	IFLからの高さを示す	バケージ型消火設備 (1型に取替え:700x250x1400h)
	コンクリート壁/柱ノ土間		△一般改修工事	既存床下通気スリット	◆耐震補強符号
	既存コンクリートブロック壁		既存木下地壁	◆耐震補強の躯体寸法を示す	
	既存木下地壁		LGS(一部鉄骨)下地壁		



番号/部位	仕上内容
[1] 床	合板下地12d、無垢フローリング18d(455x1820、外周部はキハパンジョム)サターニ、丸タタシ3回
[2] 床	鋼製2重床:東@910x900、大引鋼J6:50x50x1.6x@900、相太鋼N3529x35x54x1.2@303
[3] 床	砕石150d、防湿シート、土間コン120d(O10@200、アンカー-D13@200)(7)ノ桁行:無防シクリート立上げ
[4] 外壁	コンクリート打ち放し、弾性吹付タイル(打継ぎコン)
[5] 壁	コンクリート打ち放し、弾性吹付タイル(打継ぎコン)
[6] 壁	木下地組(縦割線@455、横割線18d@303)
[7] 床	層松集成材15d(本表)、CL塗装3回
[8] 床	[2]の上、合板下地12d×2、タイルカーペット6.5d
[9] 壁	モルタル下地300角タイル張り(一部面影石90d)
[10] 壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[11] 壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[12] 壁	鉄骨、LGS下地、GB12.5d+合板5.5d、EP塗装(一部既存)
[13] 基礎	RC基礎立ち上がり素地調整、モルタル補修
[14] 壁	LGS下地、耐水GB12.5d+ケイカル板6d
[15] 壁	鉄骨+LGS、構造合板12d+木化化粧板5.5d目透CL
[16] 壁	補強コンクリート打ち放し
[17] 外壁	既存(躯体+モルタル)素地調整の上、弾性吹付タイル
[18] 床	鉄骨梁、根太C-100x50@300、TS&T-20dの上、構造合板12d+複合フローリング18d(タタシ)3回
[19] 床	既存土間コン補修、防塵塗装
[20] 外壁	(X8)横割線C-100x50x20x3.2@600、耐水GB12.5d+透湿防水シート、防火サイディング14d横割線
[21] 外壁	(Y1/Y2)横C-100x50x20x3.2@600(柱内内)、耐水GB12.5d+防水紙の上、防火サイディング14d横割線
[22] 床	トイレ通路床:既存土間モルタル補修、1.5モ/塗床
[23] 柱	トイレ通路柱:既存の上補修、木材保護塗装
[24] 鉄骨	鉄骨表し、防錆処理の上、SOP塗装
[25] 床	(既存スラブ)モルタル補修、防塵塗装
[26] 壁	補強RC壁又は既存鉄骨鋼梁+木下地の、上、下、横割線15d CL3回 上部:有孔シナ合板5.5d SOP
[27] 防水	補強複合シート防水1.5d(立ち上がり共)改修
[28] 外壁	外壁施工後、埋め戻し圧入、整地
[29] 壁	アルミ壁紙125d新設(雨水衝、砂利敷)
[30] 壁	既存ラスモル撤去、木下地調整、GB12.5d、EP
[31] 壁	既存有孔シナ合板部分のみ素地調整SSOP塗装改修
[32] 壁	アクリル下地、防水シート、ボンデ鋼板1.6d焼付塗装
[33] 屋根	既存折板・H90 接合部切断後、復旧

※1:内壁の外周部空腔部に高性能グラスウール50d充填  
※2:特記なき限り塗装は2回以上とする  
※3:既存躯体部には、配筋定着を残すこと  
※4:層松集成材は本表とする



改修仕様一覧表

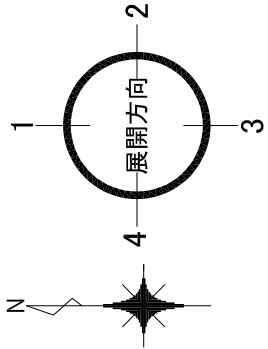
番号	部位	仕上内容
[1]	床	合板下地12d、無垢70mm厚18d(455x1820、外周部はスパン方向)サタ-樹、丸カン塗装3回
[2]	床	鋼製2重床:床@10x900、大引鋼J6x50x50x1.6x@900、相太鋼N3529x35x54x1.2@303
[3]	床	砕石150d、防湿シート、土間コン120d(D10@200、アンカー-D13@200)(ア-ナ桁行無筋コンクリート立上げ)
[4]	外壁	コンクリート打ち放し、弾性吹付タイル(打鍵コーキ)
[5]	壁	コンクリート打設、モルタル金ゴテ、EP塗装
[6]	壁	木下地組(縦断線@455、横断線18d@303)唐松集成材15d(本実)、CL塗装3回
[7]	床	[2]の上、合板下地12d×2、タイルカー-ハ6.5d
[8]	床	[3]の上、土間コン増打ち70d(ワイヤメッシュ6#)、モルタル下地300角タイル張り(一部御影石90d)
[9]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[10]	壁	既存CB(装RC)モルタル補修、EP塗装
[11]	壁	鉄骨、LGS下地、GB12.5d+合板5.5d、EP塗装(一部隠壁)
[12]	壁	(一部:鉄骨+CB)LGS下地(木下地)、GB12.5d、EP塗装
[13]	基礎	RC基礎立ち上がり素地調整、モルタル補修
[14]	壁	LGS下地、耐水GB12.5d+ケイカル板6d
[15]	壁	鉄骨+LGS、構造合板12d+木化粧単板5.5d目透CL
[16]	壁	補強コンクリート打ち放し
[17]	外壁	既存(躯体+モルタル)素地調整の上、弾性吹付タイル
[18]	床	鉄骨梁、根太C-100x50@300、TSホ-ト20dの上、構造合板12d+複合フローリング18d(フルエ-3回)
[19]	床	既存土間コン補修、防塵塗装
[20]	外壁	(X8)横断線C-100x50x20x3.2@800、耐水GB12.5d+透湿防水シート、防火サイディング14d縦張
[21]	外壁	(Y1/Y2)横C-100x50x20x3.2@800(柱内内)、耐水GB12.5d+防水紙の上、防火サイディング14d縦張
[22]	床	トイレ通路床:既存土間モルタル補修、エポキシ塗床
[23]	柱	トイレ通路柱:既存の上補修、木材保護塗装
[24]	鉄骨	鉄骨表し、防錆処理の上、SOP塗装
[25]	床	(既存スラブ)モルタル補修、防塵塗装
[26]	壁	補強RC壁又は既存鉄骨隠蔽+木下地の、壁:唐松板15d CL3回 上部:有孔シナ合板5.5d SOP
[27]	防水	補強複合シート防水1.5d(立ち上がり共)改修
[28]	外構	外壁施工後、理め直し転圧、整地
[29]	床	アルミ断熱125φ新設(雨水枡:砂利敷床)
[30]	壁	既存ラスモル撤去、木下地調整、GB12.5d、EP
[31]	壁	既存有孔シナ合板部分のみ素地調整SSOP塗装改修
[32]	外壁	アングル下地、防水シート、ボンデ鋼板1.6d貼付塗装
[33]	屋根	既存折板:H90 接続部切断後、復旧

※1:内壁の外周部空腔部に高性能グラスウール50d充填  
※2:格配なき限り塗表は2回以上とする  
※3:既存躯体研る場合には、配筋定着を確保すること  
※4:唐松集成材は本実とする

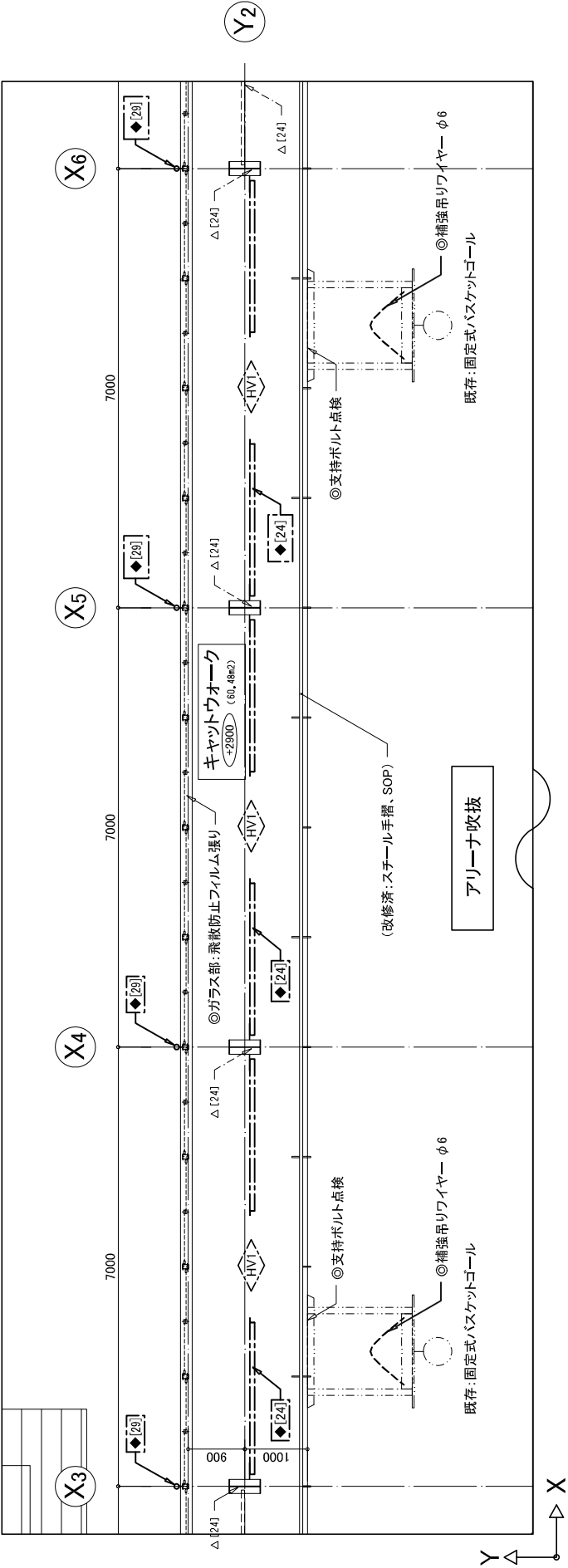
壁  
外壁  
屋根

凡例

	◆耐震改修工事
	◎非構造改修工事
	△一般改修工事
	コンクリート壁/柱/土間
	既存コンクリートブロック壁
	既存木下地壁
	LGS(一部鉄骨)下地壁
	固定家具・柵類
	既存鉄骨ブレースを示す
	1FLからの高さを示す
	パツケー-型消火設備 (I型に取替え:700x250x1400h)
	既存床下通気スリット
	◆耐震補強符号
	◆耐震補強の躯体寸法を示す



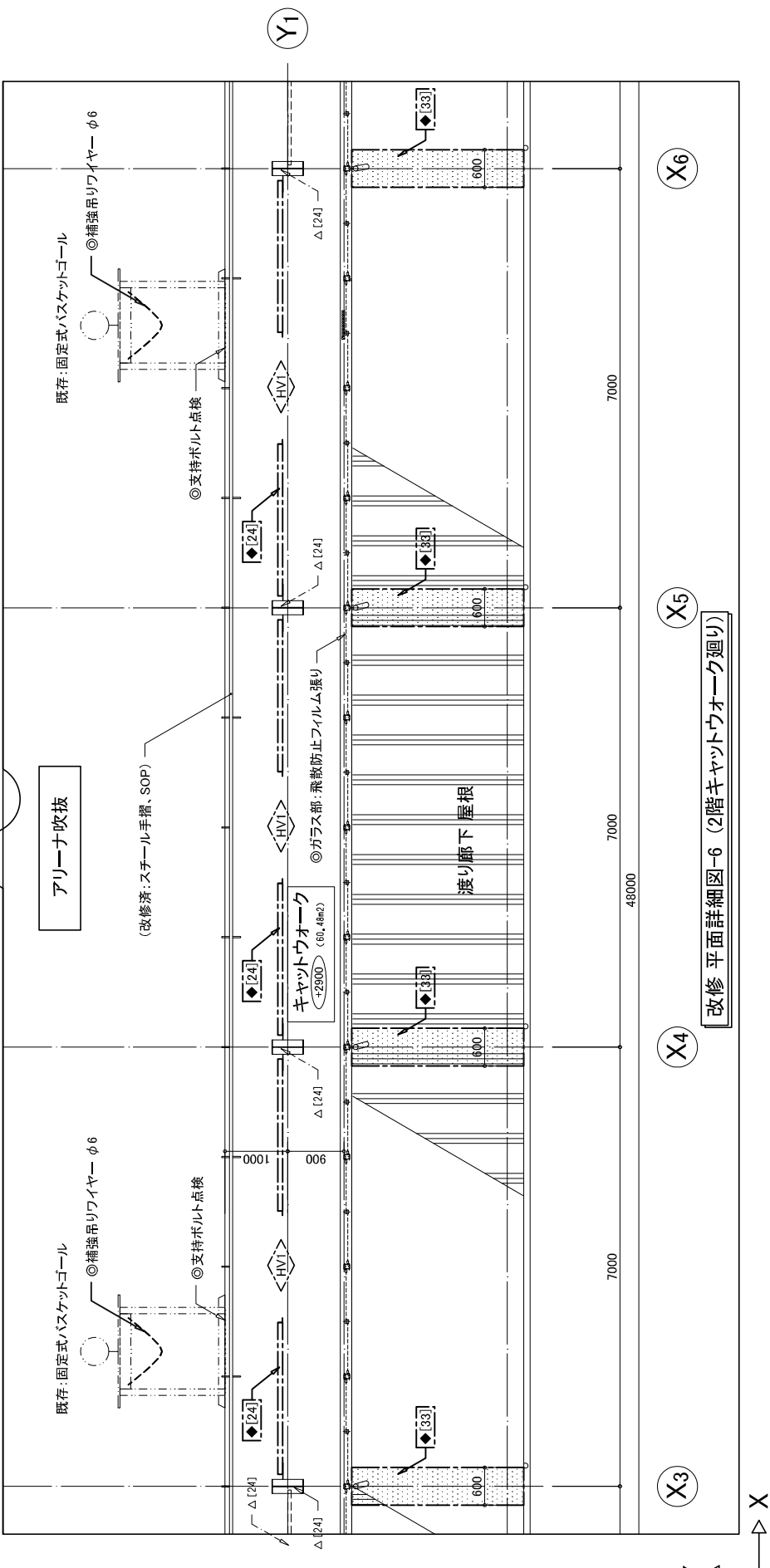
改修平面詳細図-5 (2階ギャラリー廻り)



改修仕様一覧表

番号	部位	仕上内容
[1]	床	合板下地12d、無垢フローリング18d(455x1820、外周部1/2ハッシュゴム)サダー掛、ウレタン塗装3回
[2]	床	鋼製2重床:東@910x800、大引鋼J16x50x50x1.6x@900、相欠鋼N35x29x35x54x1.2@303
[3]	床	砕石150d、防湿シート、土間コン120d(D10@200、アンカー-D13@200)(アリーナ桁行:無筋コンクリート立上げ)
[4]	外壁	コンクリート打ち放し、弾性吹付タイル(打機コーキング)
[5]	壁	コンクリート打設、モルタル金ゴテ、EP塗装
[6]	壁	木下地組(縦筋線@455、横筋18d@303) 唐松集成材15d(本妻)、CL塗装3回
[7]	床	[2]の上、合板下地12d×2、タイルカーペット18.5d
[8]	床	[3]の上、土間コン増打ち70d(ワイヤメッシュ#1)、モルタル下地300角タイル張り(一部御影石80d)
[9]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[10]	壁	筋層:既存QB(梁RC)モルタル補修、EP塗装
[11]	壁	筋層:既存LGS下地、GB12.5d+合板5.5d、EP塗装(一部隠壁)
[12]	壁	(一部:鉄骨αCB)LGS下地(木下地)、GB12.5d、EP塗装
[13]	基礎	RC基礎立ち上がり素地調整、モルタル補修
[14]	壁	LGS下地、耐水GB12.5d+ケイカル板6d
[15]	壁	鉄骨+LGS、構造合板12d+木化粧単板5.5d目透CL
[16]	壁	補強コンクリート打ち放し
[17]	外壁	既存(躯体+モルタル)素地調整の上、弾性吹付タイル
[18]	床	鉄骨梁、根太C-100x50@300、TSボルト20dの上、構造合板12d+複合フローリング18d(タタコ)ス3回
[19]	床	既存土間コン補修、防塵塗装
[20]	外壁	(X8)横筋線C-100x50x20x3.2@600、耐水GB12.5d+透湿防水シート、防火サイディング14d縦張
[21]	外壁	(Y1/Y2)横C-100x50x20x3.2@600(柱内内)、耐水GB12.5d+防水紙の上、防火サイディング14d縦張
[22]	床	トイレ通路床:既存土間モルタル補修、エポキシ塗床
[23]	柱	トイレ通路柱:既存の上補修、木材保護塗装
[24]	鉄骨	鉄骨表し、防錆処理の上、SOP塗装
[25]	床	(既存スラブ)モルタル補修、防塵塗装
[26]	壁	補強RC壁又は既存鉄骨筋線+木下地の上、構造合板15d CL3回 上部:有孔シナ合板5.5d SOP
[27]	防水	補強RC壁又は既存鉄骨筋線+木下地の上、構造合板15d CL3回 上部:有孔シナ合板5.5d SOP
[28]	外構	外壁施工後、埋め直し転圧、整地
[29]	樋	アルミ堅樋125φ新設(雨水掛:砂利敷共)
[30]	壁	既存ラスモル撤去、木下地調整、GB12.5d、EP
[31]	壁	既存有孔シナ合板部分のみ素地調整SSO2塗装改修
[32]	外壁	アングル下地、防水シート、ボンデ鋼板1.6d焼付塗装
[33]	屋根	既存折板+H90 接合部切断後、復旧

※1:内壁の外周部空廊部に高性能グラスウール50d充填  
※2:特記なき限り塗装は2回以上とする  
※3:既存躯体留る場合には、配筋定着を残すこと  
※4:唐松集成材は本妻とする



改修仕様一覧表

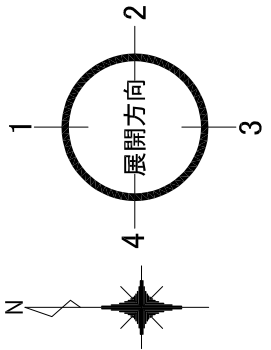
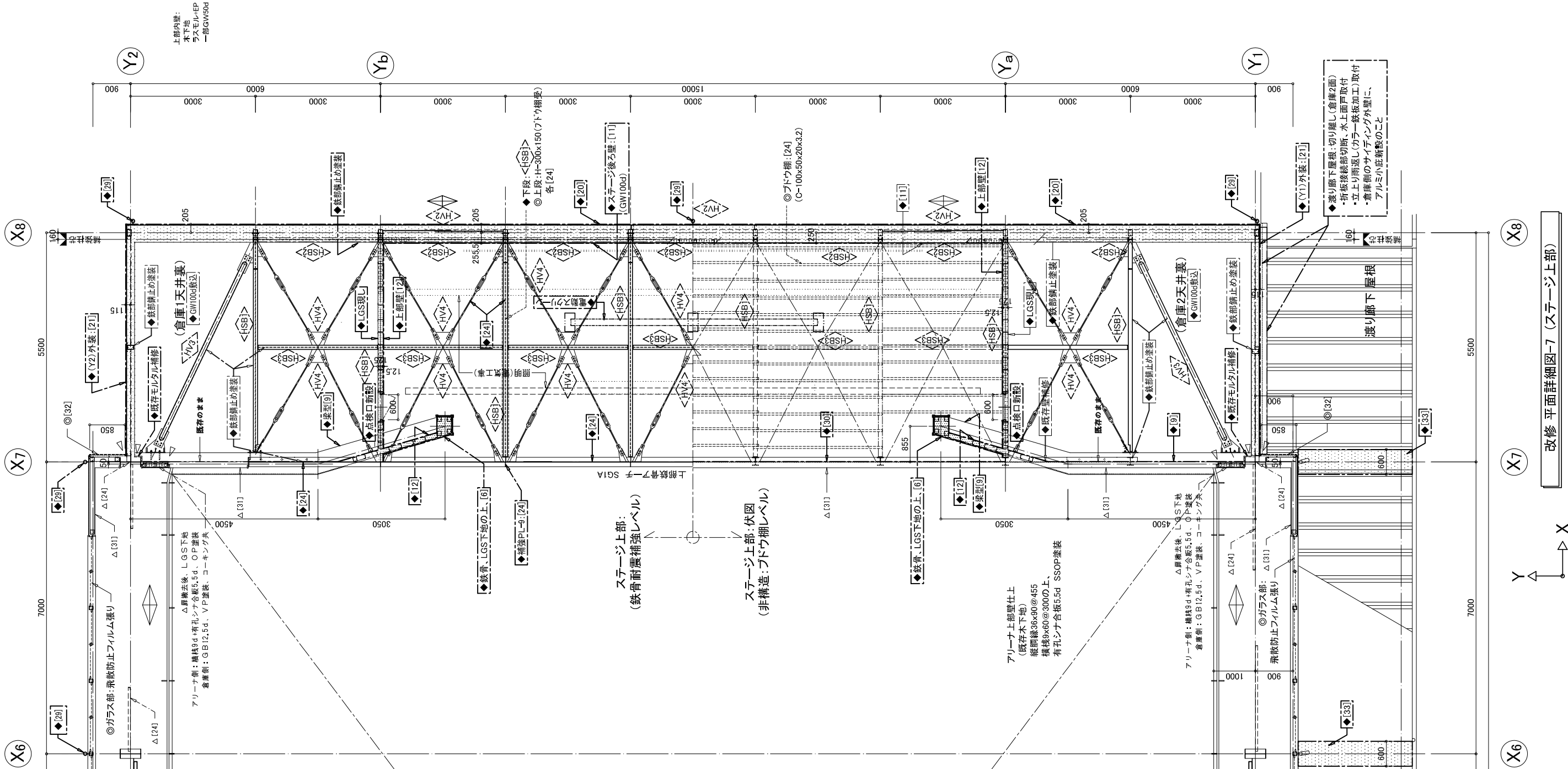
番号	部位	仕上内容
[1]	床	合板下地12d、無垢フローリング18d(455x1820、外周部エキスパシオンコム)サンダー掛、ウレタ塗装3回
[2]	床	鋼製2重床床床@910x900、大引鋼16x50x50x16x@900、根太鋼N35.29x35x54x1.2@303
[3]	床	砕石150d、防湿シート、土間コン120d(〇10@200、アンカー-D13@200)(アリーナ桁行無筋コンクリート立上げ)
[4]	外壁	コンクリート打ち放し、弾性吹付タイル(打継コーキング)
[5]	壁	コンクリート打敷、モルタル金ゴテ、EP塗装
[6]	壁	木下地組(縦筋線@455、横筋18d@303)唐松集成材15d(本実)、CL塗装3回
[7]	床	[2]の上、合板下地12d×2、タイカベツ16.5d
[8]	床	[3]の上、土間コン増打ち70d(74Yヤシタ6#)、モルタル下地300角タイル張り(一部御影石90d)
[9]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[10]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[11]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[12]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[13]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[14]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[15]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[16]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[17]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[18]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[19]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[20]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[21]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[22]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[23]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[24]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[25]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[26]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[27]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[28]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[29]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[30]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[31]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[32]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装
[33]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装

壁 ※1:内壁の外周部空隙部に高性能グラスウール50d充填  
※2:特記なき限り塗装は2回以上とする  
外壁※3:既存躯体折る場合には、配筋定着を残すこと  
屋根※4:唐松集成材は本実とする

凡例

	◆前震改修工事
	◎非構造改修工事
	△一般改修工事
	コンクリート壁/柱/土間
	既存コンクリートブロック壁
	既存木下地壁
	LGS(一部鉄骨)下地壁
	固定家具・柵類
	既存鉄骨ブレースを示す
	1FLからの高さを示す
	バケージ型消火設備 (1型に取替え:700x250x1400h)
	既存床下通気スリット
	◆耐震補強符号
	◆耐震補強の躯体寸法を示す

[30]  
[31]  
[32]  
[33]



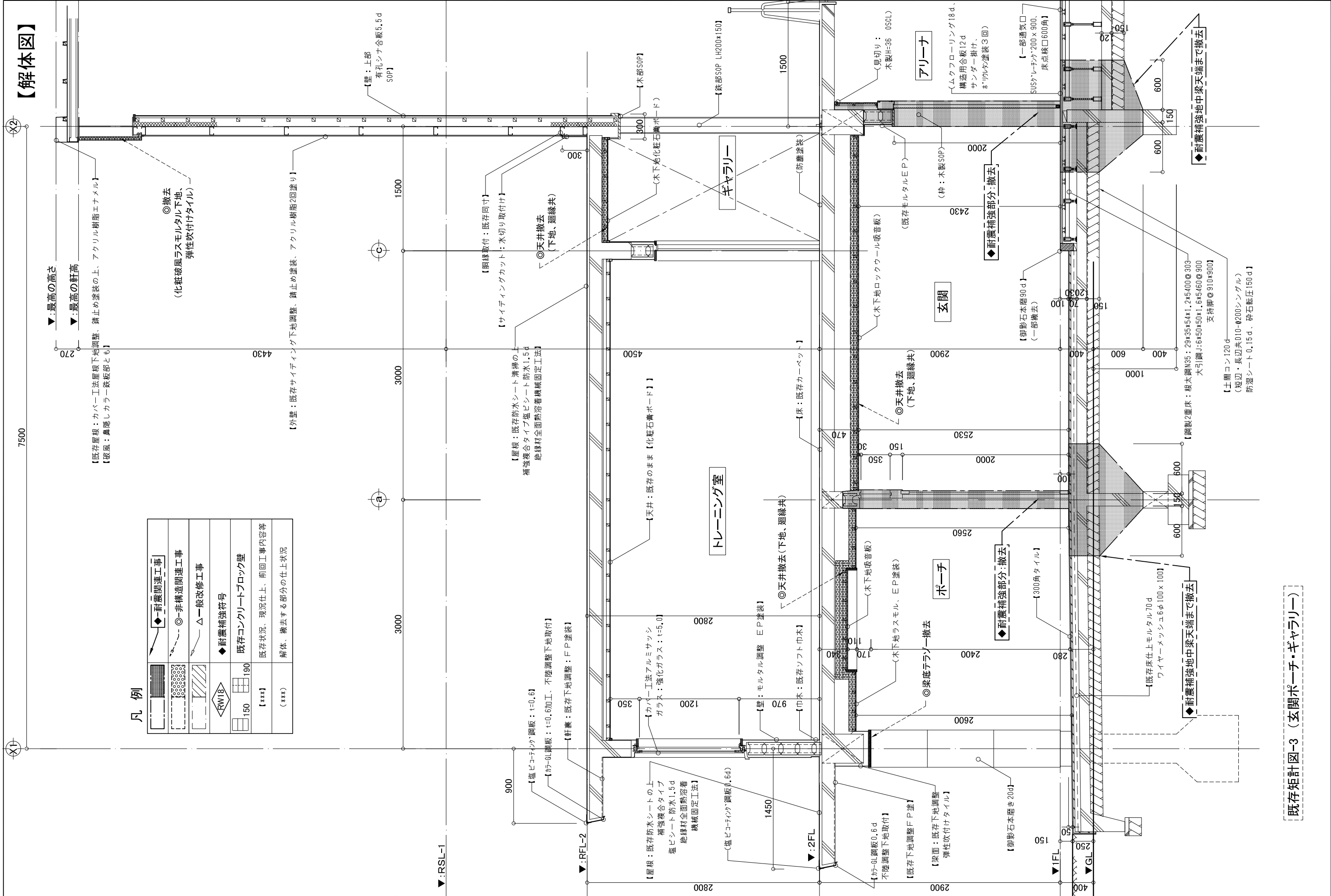
改修 平面詳細図-7 (ステージ上部)

## 凡例





	DRAWING	CHECK	DATE	SCALE		MAP NAME 既存 矩計図-3 【解体指示図】	CONSTRUCTION NAME 令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事	MAP NO. A-35
				A1	1/20			
				A3	1/40			




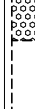


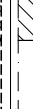







【解体図】

九回分

▼:最高の軒高

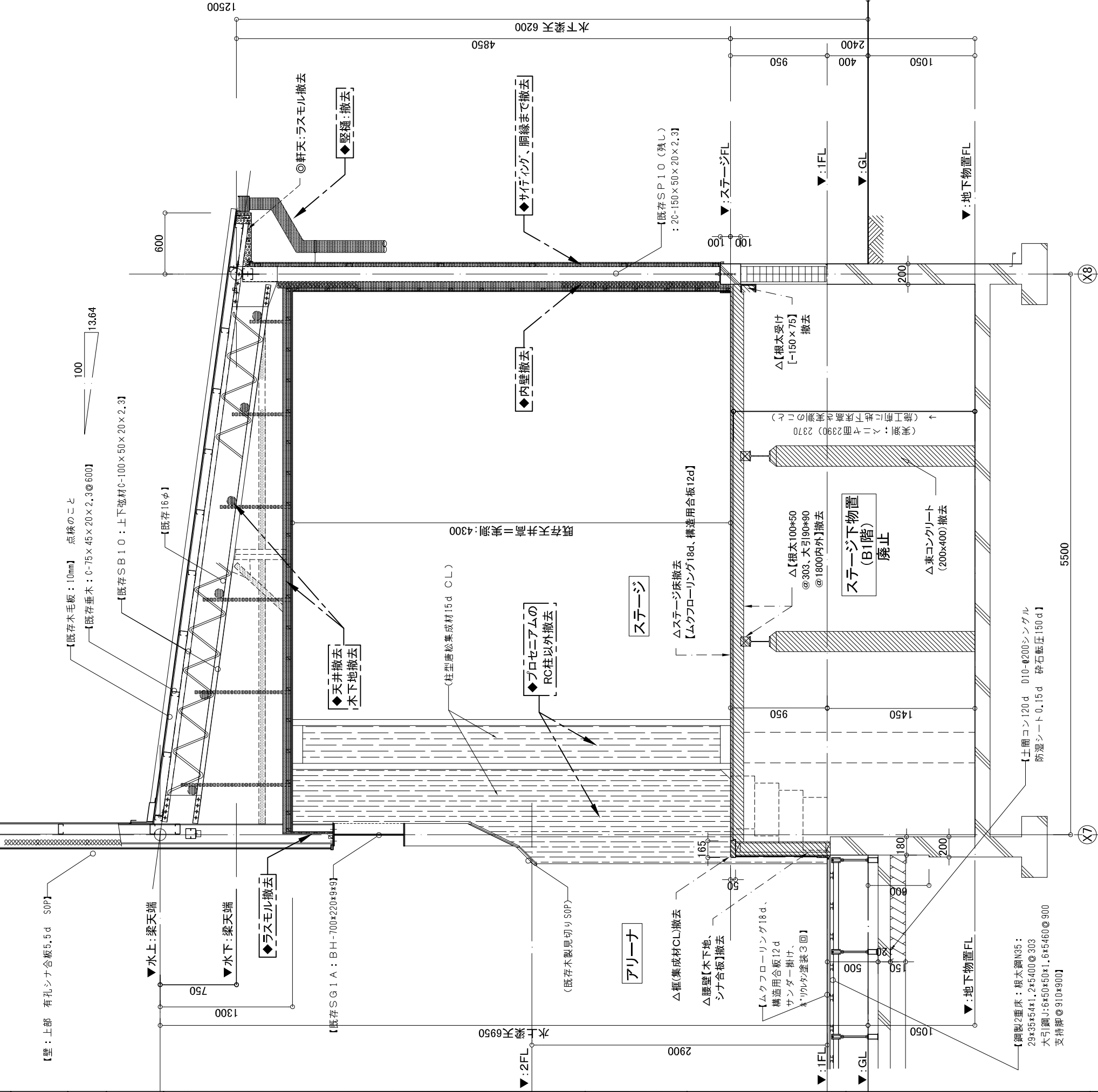
## 凡例

			◆耐震関連工事
			◎非構造関連工事
			△一般改修工事
			◆耐震補強符号
			既存コンクリートブロック壁
	【***】	既存状況、現況仕上、前回工事内容等	
	(***)	解体、撤去する部分の仕上状況	

【屋根：カバー工法屋根下地調整、錆止め塗装の上、アクリル樹脂エナメル2回】  
【破風：鼻隠しカラー鉄板部とも】

【化粧破風：ラスモルタル下地調整 弾性吹付けタイル】

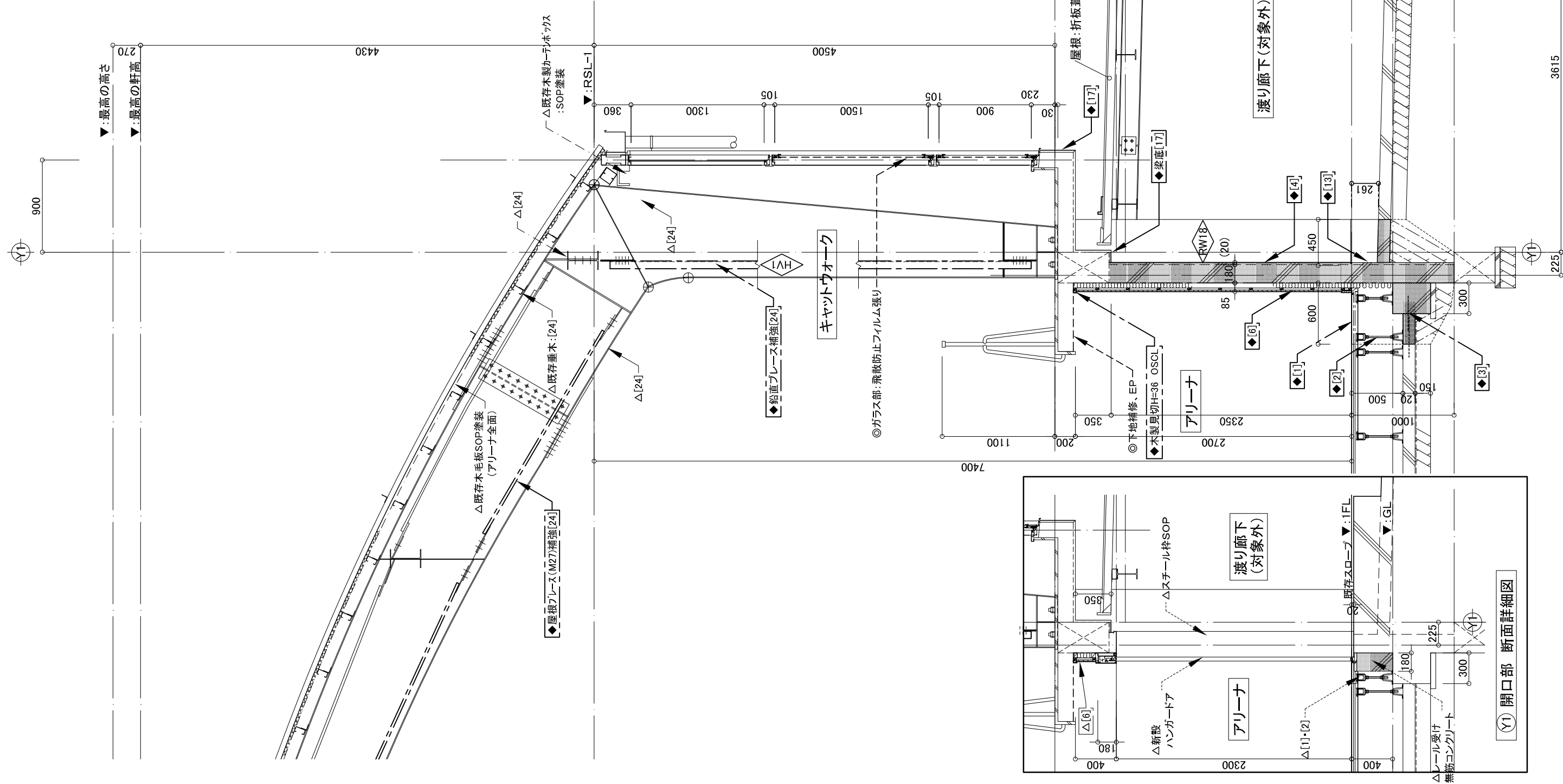
【既存サイディング錆止め塗装、アクリル樹脂2回塗】



既存矩計図-4 (地下物置～ステージ)







	◆耐震関連工事
	◎非構造関連工事
	△一般改修工事
	◆耐震補強符号
	既存コンクリートブロック壁
	既存状況、現況仕上、前回工事内容等

	番号	部位	仕上内容
[1]	床	合板下地12d、無垢フローリング18d(455x1820)、 外周EXPゴザを貼る、ポリウレタン塗装(回)	
[2]	床	鋼製2重床:東@10x900、大引鋼J6x50x50x1.6 x@900、根太銅N35-29x35x54x1.2@303	
[3]	床	砕石150d、防湿シート、土間コン120d(D10)@200、 アンカー-D13@500 (アリア折行面筋筋の直上上げ)	
[4]	外壁	コンクリート打ち放し、弾性吹付タイル(打継ぎキーク ンコンクリート打ち放し、モルタル金ゴテ、EP塗装	
[5]	壁	木下地組織縦桟@455、横桟18c@303	
[6]	壁	唐松集成材15d、CL塗装3回	
[7]	床	[2]の上、合板下地12x2x2、タイルホヤナシ6x5d	
[8]	床	[3]の上、土間コン増打70d(リョウキヤック#)、 モルタル下地300角有タイル張り(一部御影石90d)	
[9]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装	
[10]	壁	腰:既存OB(梁RC) GB12.5d+合板5.5d、EP塗装	
[11]	壁	腰:既存CG(梁RC) GB12.5d+合板5.5d、EP塗装	
[12]	壁	上部:鉄骨+LGS下地、GB12.5d、EP塗装	
[13]	基礎	RC基礎立上り及び素地調整、モルタル補修	
[14]	壁	LGS下地、耐水模合板12d+木化粧扉5.5d目隠OL	
[15]	壁	鉄骨+LGS、構造合板12d+耐力壁板5.5d目隠OL	
[16]	壁	補強コンクリート打ち放し	
[17]	外壁	既存(躯体+モルタル)素地調整の上、弾性吹付タイル 鉄骨下地、相次C=100x50x20x2.3@300、	
[18a]	床	TSホート20d、構造合板12d、複合フローリング18d、ウレタ ン	
[18b]	床	木下地(鋼製束、大引900角@910、根太45x90@303、 TSホート20d、構造合板12d、複合フローリング18d、ウレタ ン	
[19]	床	既存土間コン補修、防塵塗装	
[20]	外壁	(X8)焼C=100x50x20x2.3@600(内付)、耐水繊維 12.5d+防水紙の下、防火ササゲ付材14d縦張	
[21]	外壁	(Y1/Y2)横C=100x50x20x3.2@600(内付)、耐水 GB12.5d+防水紙の上、防火サイディング14d縦張	
[22]	柱	トイレ通路柱:既存土間モルタル補修、エポキシ塗床	
[23]	柱	トイレ通路柱:既存の上面材取付、木材保護塗装	
[24]	散骨	鉄骨表裏、防錆処理の上、SOP塗装	
[25]	床	(既存スラブ)モルタル補修、防塵塗装	
[26]	壁	補強R壁又は既存S断縁、下地の下、唐松板150d CL3回 上部:有孔竹合板5.5d EP塗装	
[27]	防水	補強複合シート防水1.5d(立ち上がり共)改修	
[28]	外壁	外壁仕上げ、理學改良(軒圧・整地	
[29]	屋根	アルミ瓦葺100号新設(北側1階バルコニー・砂利敷共)	
[30]	壁	既存ラスモル撤去、木下地調整、GB12.5d、EP	
[31]	壁	既存有孔竹合板部分:素地調整EP塗装改修	
[32]	屋根	アツク下地、防水シー、ボンデ鋼板1.6d焼付塗装	
[33]	屋根	既存折板:H90 接続部切断後、復旧	

※1:内壁の外周空隙部に高性能グラスウール50d充填  
 ※2:特記なき限り塗装は2回以上とする  
 ※3:既存躯体研る場合には、配筋定着を残すこと  
 ※4:唐松集成板は本実とする

改修仕様一覧表

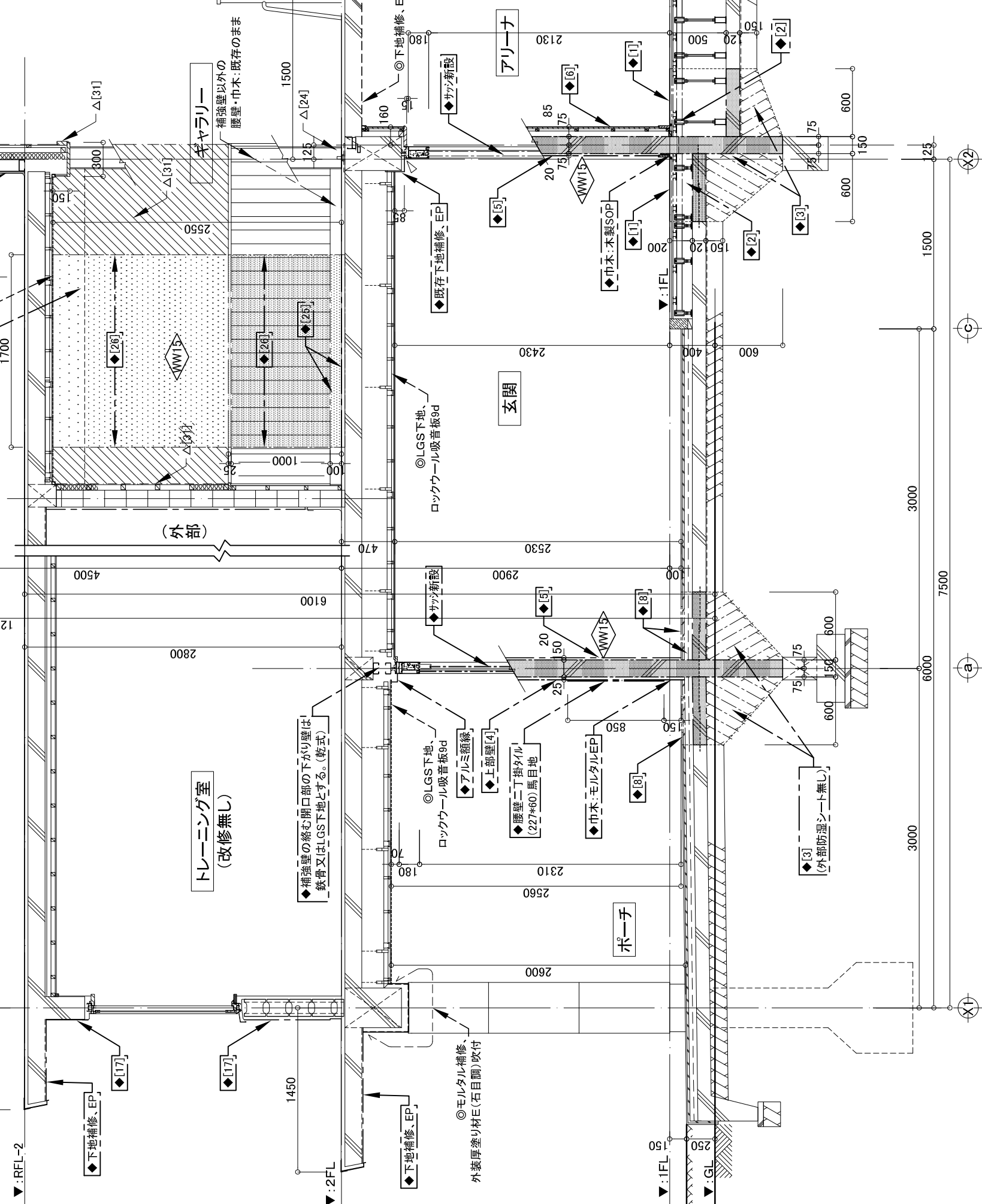
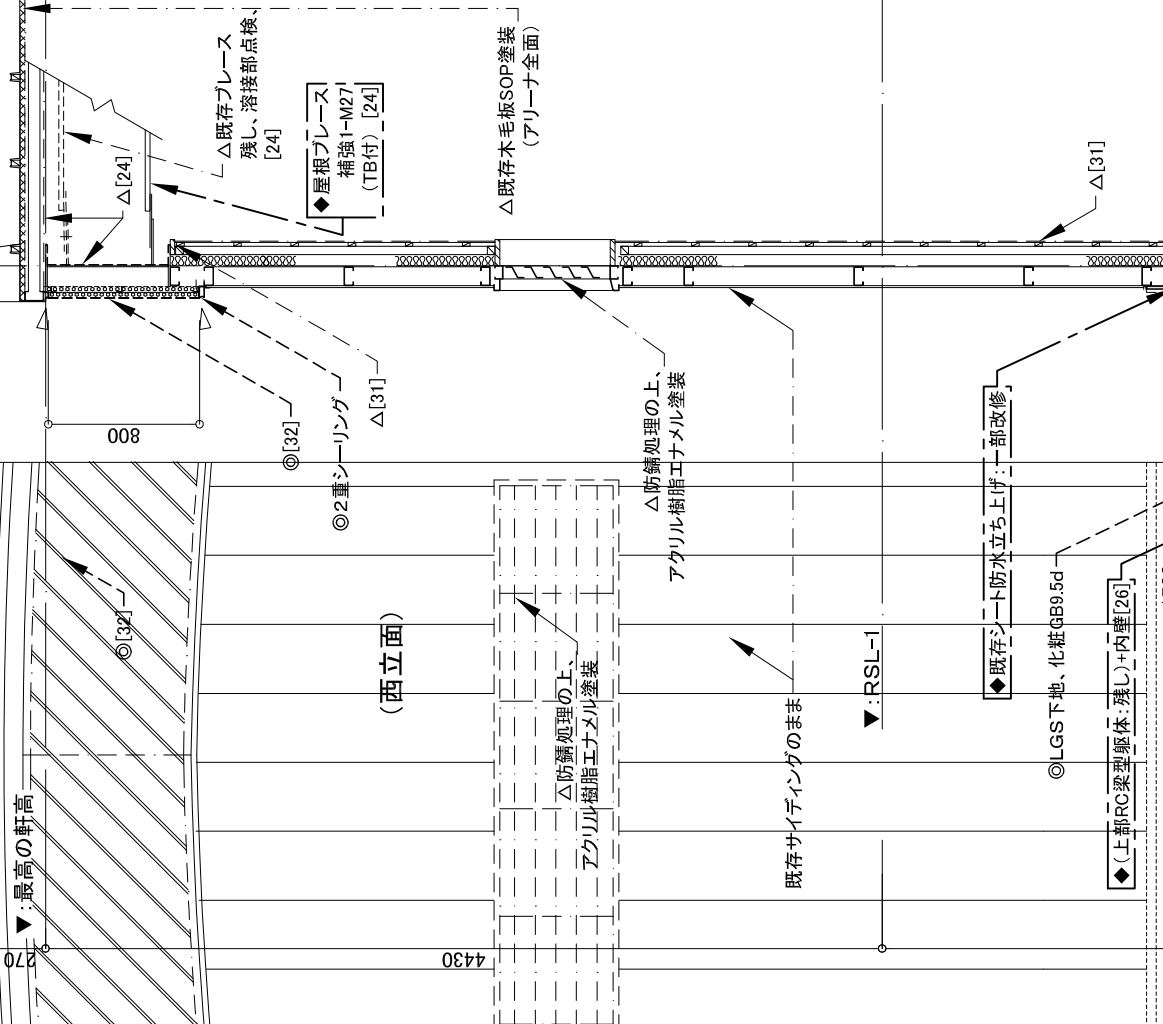
番号	部位	仕上内容	仕上内容
[1]	床	合板下地12d、無垢フローリング18d(455x1820)、 外周EXPゴム)サンダー掛、ポリウレタン塗装3回	既存土間コン補修、防塵塗装
[2]	床	鋼製2重床:東@910×900、大引鋼165×50×50x1.6 x@900、根太鋼N35/29x35x54x1.2@303	(X8)横C-100×50×20×3.2@600(外付)、耐水GB 12.5d+防水紙の上、防火サイディング14d縦張
[3]	床	砕石150d、防湿シート、土間コン120d(D10@200、 アンカーD13@200) (アリーナ桁行無筋コン立上げ)	(Y1/Y2)横C-100×50×20×3.2@600(内付)、耐水 GB12.5d+防水紙の上、防火サイディング14d縦張
[4]	外壁	コンクリート打ち放し、弾性吹付タイル(打継コーキング アンカーD13@200) (アリーナ桁行無筋コン立上げ)	トレ通路柱:既存土間モルタル補修、エポキシ床
[5]	壁	コンクリート打ち放し、モルタル金ゴテ、EP塗装	トレ通路柱:既存の上素材取付、木材保護塗装
[6]	壁	木下地組(縦鋼縁@455、横棧18d@303)	鉄骨表し、防錆処理の上、SOP塗装
[7]	壁	磨松集成材15d、CL塗装3回	[25] 床 (既存スラブ)モルタル補修、防塵塗装
[8]	床	[2]の上、合板下地12d×2、タイルカーペット6.5d	補強RC壁又は既存S鋼縁、木下地の上、唐松板15d CL3回 上部:有孔シナ合板5.5d EP塗装
[9]	床	[3]の上、土間コン増打ち70d(ウレタン6#)、 モルタル下地300角タイル張り(一部御影石90d)	[27] 防水 補強複合シート防水1.5d(立ち上がり共) 改修
[10]	壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装	[28] 外構 外壁施工後、埋め戻し転圧、整地
[11]	壁	既存OB(梁RC)モルタル補修、EP塗装	アルミ堅通100φ新設(北側トレンチター、砂利敷共)
[12]	壁	腰:鉄骨+LGS下地、GB12.5d+合板5.5d、EP塗装	[30] 壁 既存ラスモル撤去、木下地調整、GB12.5d、EP
[13]	壁	上部:鉄骨+LGS下地、GB12.5d、EP塗装	[31] 壁 既存有孔シナ合板部分:素地調整EP塗装改修
[14]	基礎	RC基礎立ち上がり素地調整、モルタル補修	[32] 外壁 アングル下地、防水シート、ボンデ鋼板1.6d焼付塗装
[15]	壁	LGS下地、耐水GB12.5d+ケイカル板6d	[33] 屋根 既存折板:H90 接縫部切断後、復旧
[16]	壁	鉄骨+LGS、構造合板12d+木化粧単板5.5d目透CL	※1:内壁の外周部空隙部に高性能グラスウール50d充填
[17]	外壁	補強コンクリート打ち放し	※2:特記なき限り塗装は2回以上とする
[18a]	床	鉄骨(躯体+モルタル)素地調整の上、弾性吹付タイル TSK-120d、構造合板12d、複合フローリング18d、ウレタン	※3:既存躯体折る場合には、配筋定着を残すこと
[18b]	床	木下地鋼製東、大引90角@910、根太45×90@303、 TSK-120d、構造合板12d、複合フローリング18d、ウレタン	※4:唐松集成板は本実とする

凡例

	◆耐震関連工事
	◎非構造関連工事
	△一般改修工事
	◆耐震補強符号
	既存コンクリートブロック壁
【***】	既存状況、現況仕上、前回工事内容等

DRAWING	CHECK	DATE

▼: 最高の高さ

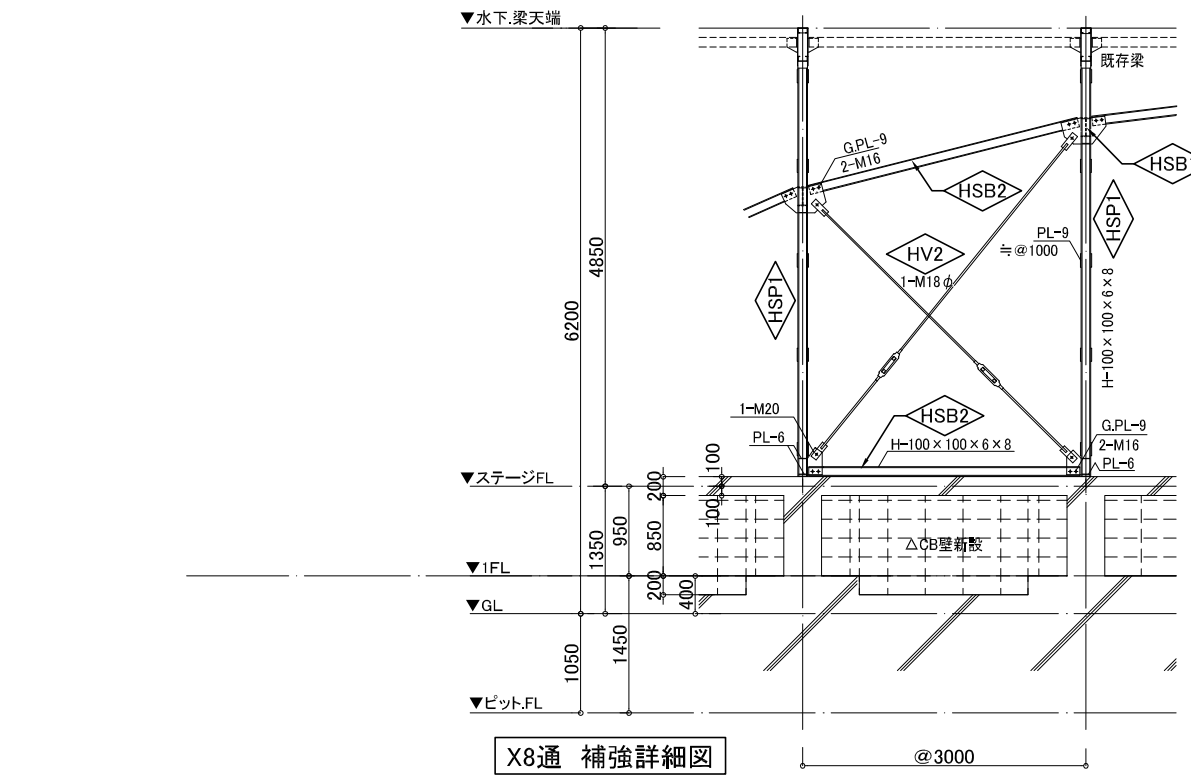
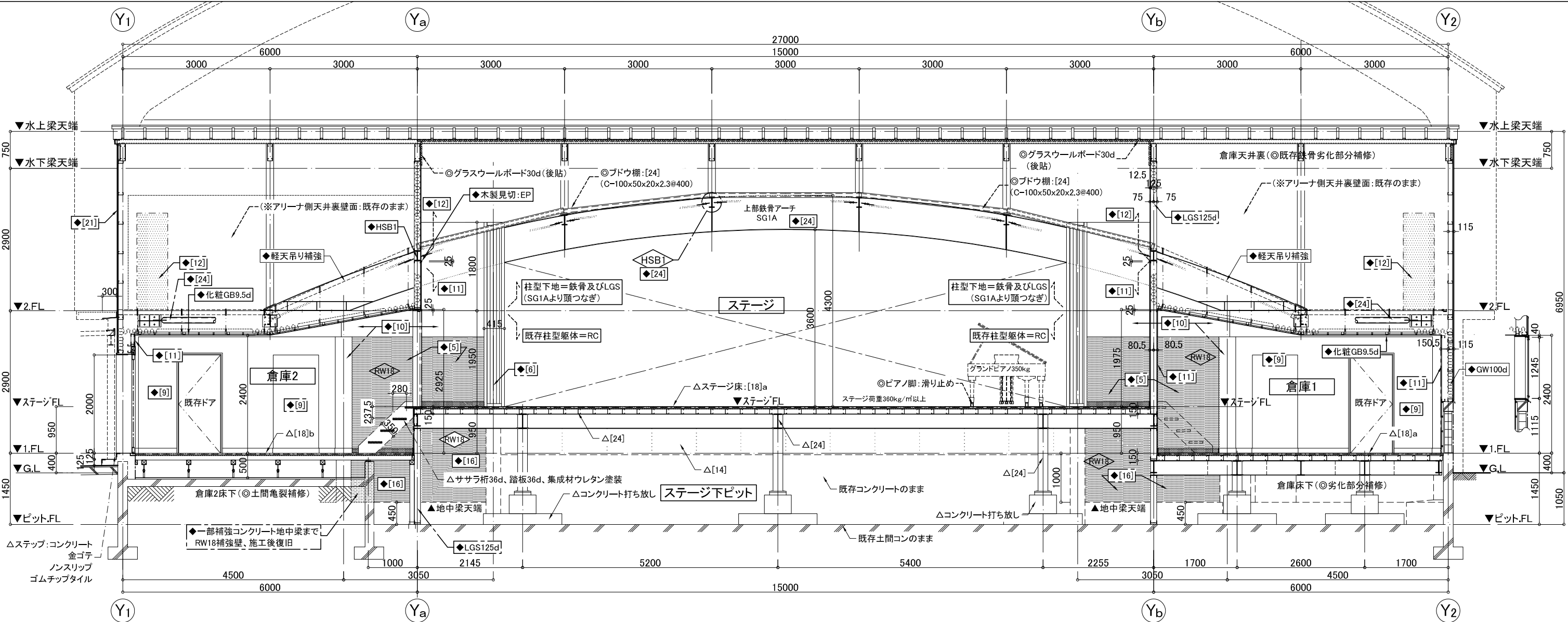


改修矩計図-3 (玄関ポーチ・ギャラリー)

【改修図】

SCALE	A1 1/20 A3 1/40	MAP NAME 改修 矩計図-3 (X1~X2通り)	CONSTRUCTION NAME 令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事	MAP NO. A-39
-------	--------------------	--------------------------------	---	-----------------

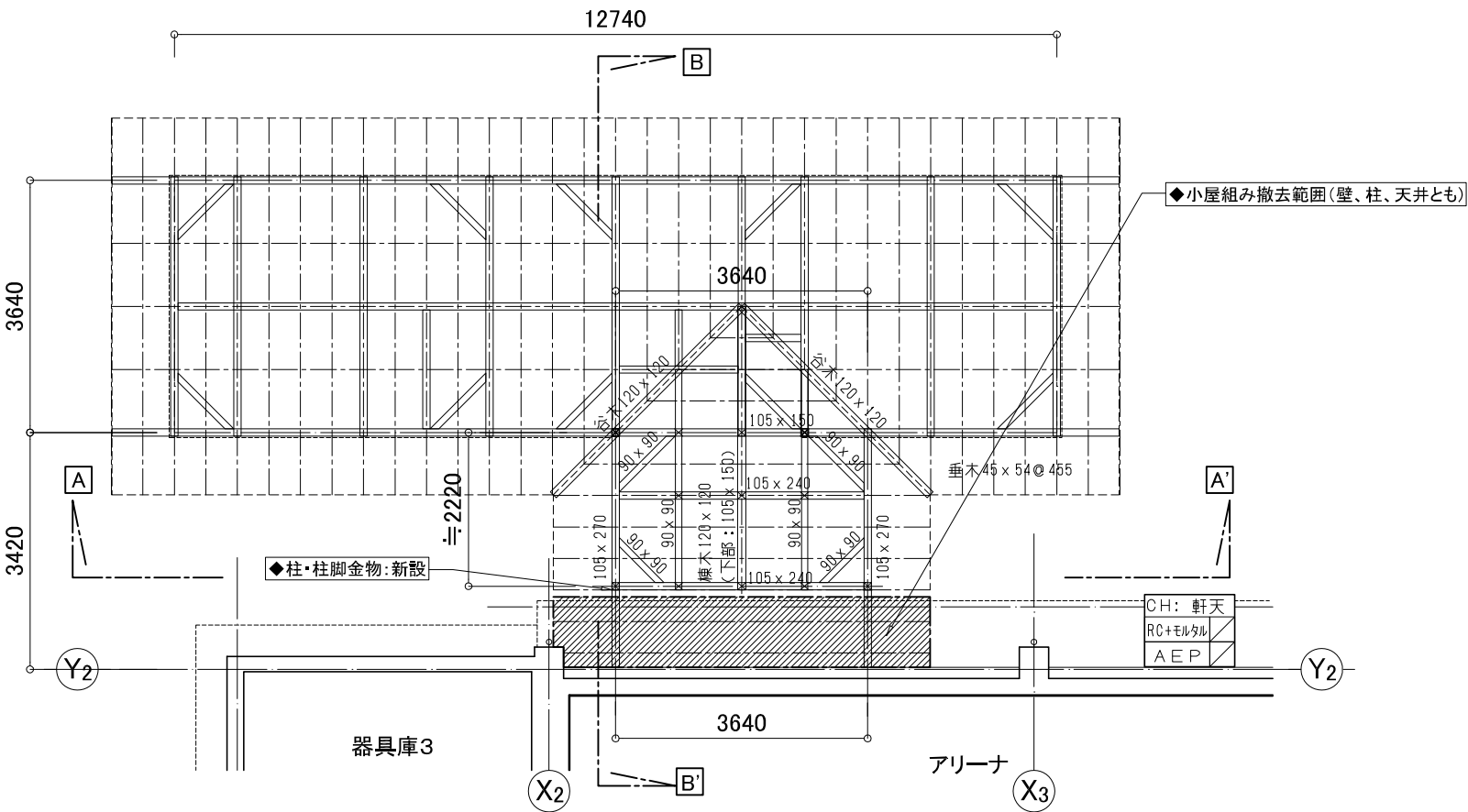




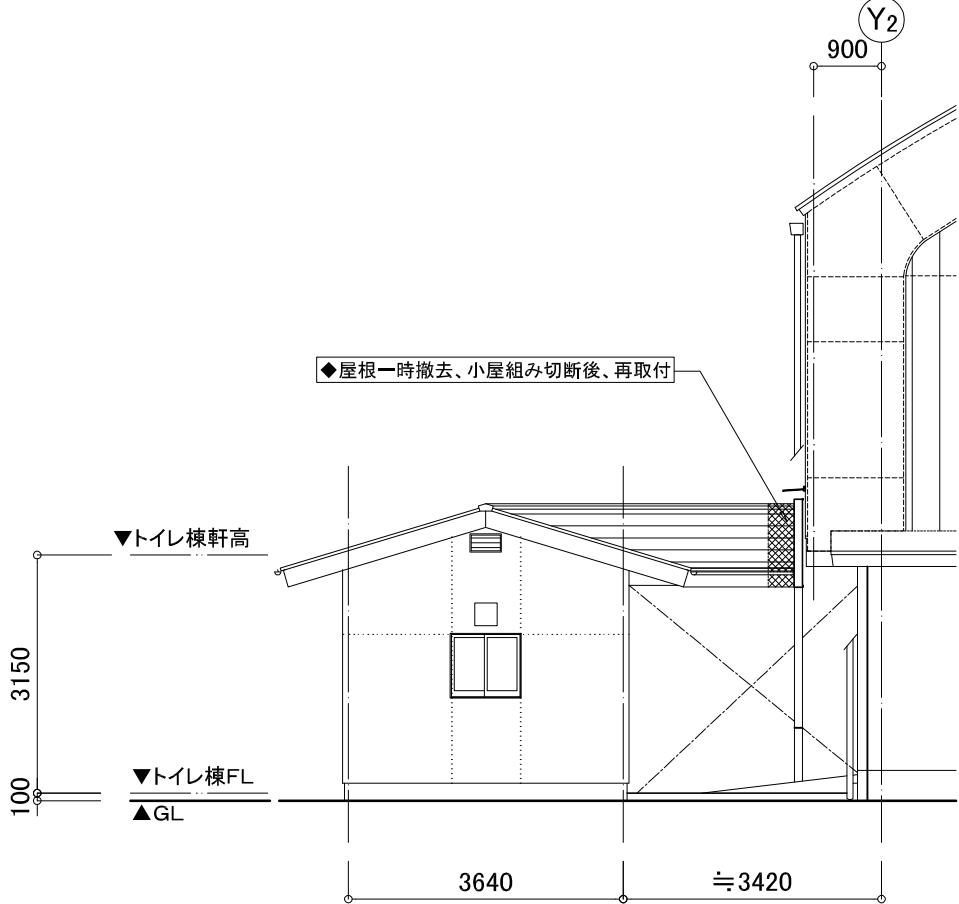
改修仕様 一覧表

番号/部位	仕上内容	番号/部位	仕上内容
[1] 床	合板下地12d、無垢フローリング18d(455x1820)、サンダー掛、ポリウレタン塗装3回	[19] 床	既存土間コン補修、防塵塗装
[2] 床	鋼製2重床:束@910x900、大引鋼J:6x50x50x1.6x@900、根太鋼N35:29x35x54x1.2@303	[20] 外壁	(X8)横C-100x50x20x3.2@600(外付)、耐水GB12.5d+防水紙の上、防火サイディング14d縦張
[3] 床	砕石150d、防湿シート、土間コン120d(D10@200、アンカーD13@200)(アリーナ桁行:無筋コン立上げ)	[21] 外壁	(Y1/Y2)横C-100x50x20x3.2@600(内付)、耐水GB12.5d+防水紙の上、防火サイディング14d縦張
[4] 外壁	コンクリート打ち放し、弾性吹付タイル(打継コーキング)	[22] 床	トイレ通路床:既存土間モルタル補修、エポキシ塗床
[5] 壁	コンクリート打ち放し、モルタル金ゴテ、EP塗装	[23] 柱	トイレ通路柱:既存の上面材取付、木材保護塗装
[6] 壁	木下地組(縦調縁@455、横棧18d@303) 唐松集成材15d、CL塗装3回	[24] 鉄骨	鉄骨表し、防錆処理(室内はSOP塗装)
[9] 壁	既存ラスモル(モルタル)素地調整、EP塗装	[25] 床	(既存スラブ)モルタル補修、防塵塗装
[10] 壁・腰	既存CB(柱・梁RC)モルタル補修、EP塗装	[26] 壁	(補強RC壁又は既存S調縁)+木下地の上、腰:唐松板15d CL3回 上部:有孔シナ合板5.5d SOP
[11] 壁・腰	鉄骨+LGS下地、GB12.5d+合板5.5d、EP塗装	[27] 防水	補強複合シート防水1.5d(立ち上がり共)改修
[12] 壁	上部:鉄骨+LGS下地、GB12.5d、EP塗装	[28] 外構	外壁施工後、埋め戻し転圧、整地
[13] 基礎	RC基礎立ち上がり素地調整、モルタル補修	[30] 壁	既存ラスモル撤去、木下地調整、GB12.5d、EP
[14] 壁	LGS下地、耐水GB12.5d+ケイカル板6d	[31] 壁	既存有孔シナ合板部分:素地調整SOP塗装改修
[15] 壁	鉄骨+LGS、構造合板12d+木化粧単板5.5d目透CL		
[16] 壁	補強コンクリート打ち放し		
[17] 外壁	鉄骨下地)根太C-100x50x20x2.3@300、TS板'20d、構造合板12d、複合フローリング18d		
[18]a 床	木床下地)鋼製束、大引90角@910、根太45x90@303、TS板'20d、構造合板12d、複合フローリング18d		
[18]b 床			

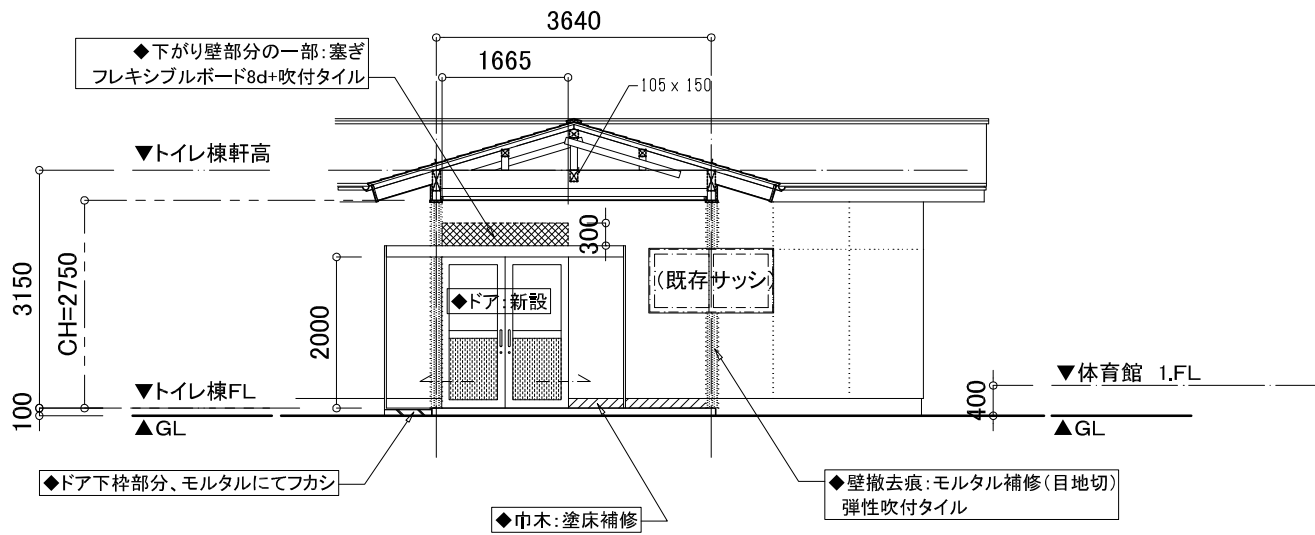
棟 部位		既存（外部）	既存（内部）	処 理	改 修 仕 上 すべて ◆耐震補強改修
木造トイレ棟	屋根	アルフィン、野地板12d下地、長尺カラー鉄板0.4d横葺き		◆通路屋根部 一部切断、撤去	◆切断痕処理(カラー鉄板0.4d包み込み)、本棟側サッシ部分補修、本棟側カラー鋼板0.6d水切り取付
	軒天(天井)	フレキシブルボード5d目透かし、吹付タイル(半丸樋、鼻隠カ-鉄板0.4d)	通路部：フレキシブルボード5d目透かし AEP	◆通路天井 一部撤去	◆木下地切断痕処理(フレキシ5d+AEP)、本棟側梁型 弾性吹付タイル補修(カラー鋼板0.4d水切り取付)
	壁・柱・梁	木下地 ラスモルタル 吹付タイル (建具：アルミサッシ、ドア)	通路部：フレキシブルボード8d目透かし AEP	◆通路外壁撤去、サッシ撤去 ◆柱基礎廻り：斫り、掘削	◆柱105角新設(2か所) 基礎P □-100×100×6(SUS製) A.B-M12 L=500 ◆基礎配筋:300角×550h 主筋4-D13、Hoop D10@150 普通コンクリート:Fc=21N/mm2
	床	(基礎部)布基礎コンクリート補修	通路部：コンクリート金ゴテ塗床(階段とも)、一部木製スロープ	◆基礎立ち上がり撤去	◆撤去痕処理(モルタル、塗床補修)



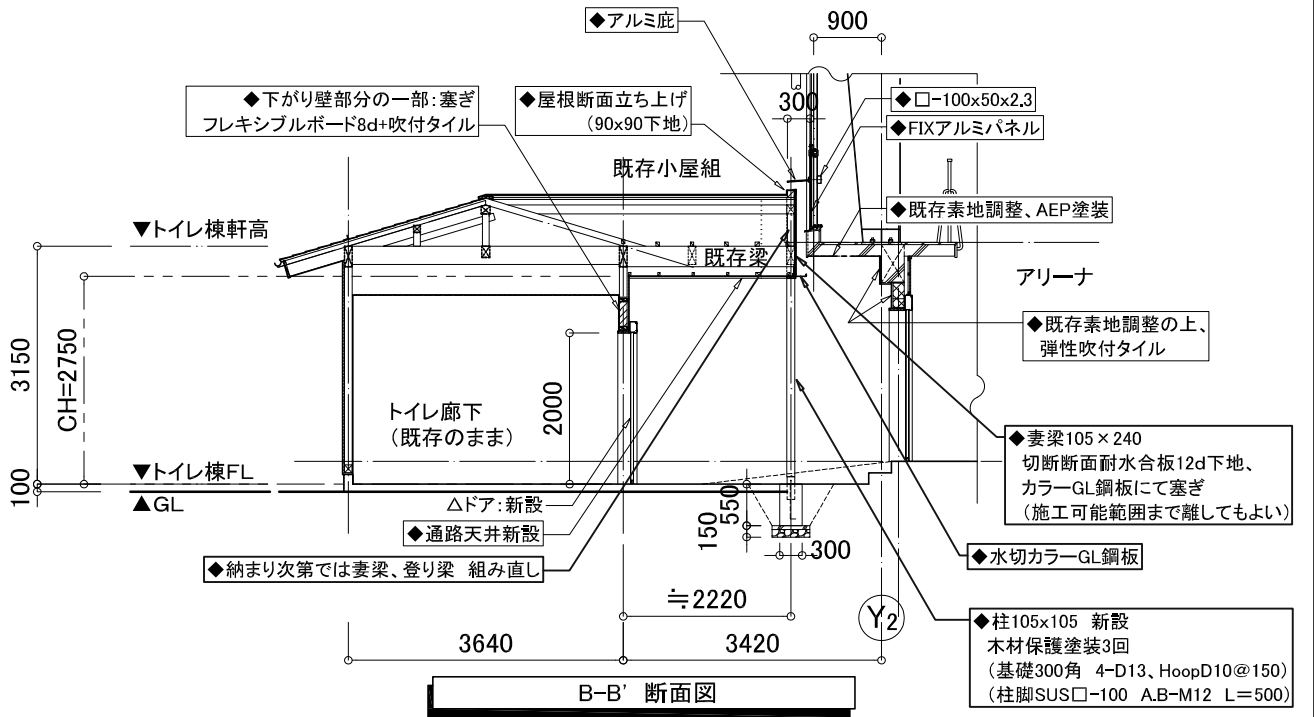
木造トイレ棟:小屋伏図(一部切り離し)



木造トイレ棟(西側立面図)



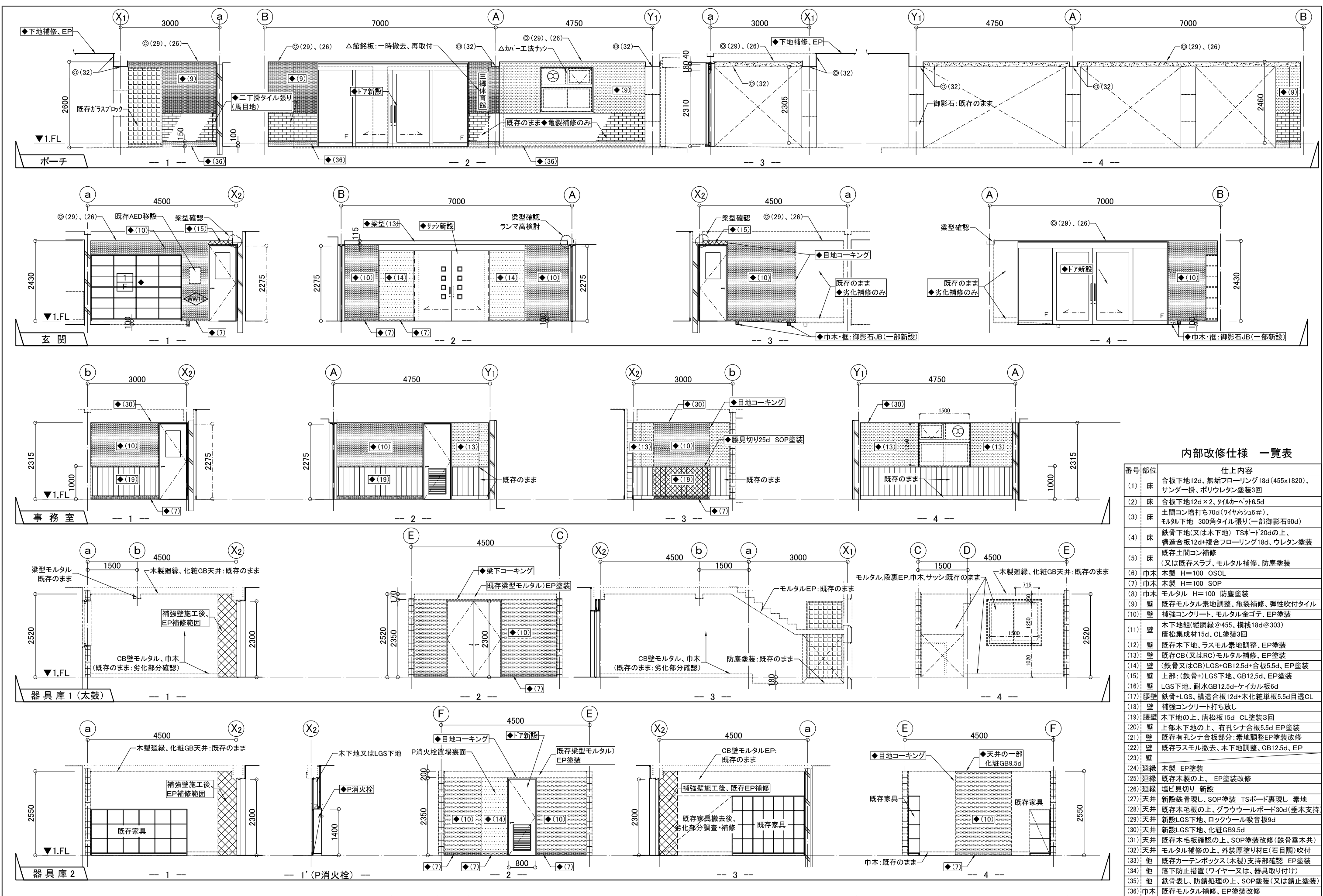
A-A' 断面図



B-B' 断面図

DRAWING				CHECK				DATE				小舎伏図はH11年度三郷村社会体育館改修工事 竣工図を参照。				SCALE				MAP NAME				CONSTRUCTION NAME				MAP NO.			
																A1 1/50				木造トイレ棟 改修詳細図				令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事				A-42			
																A3 1/100															



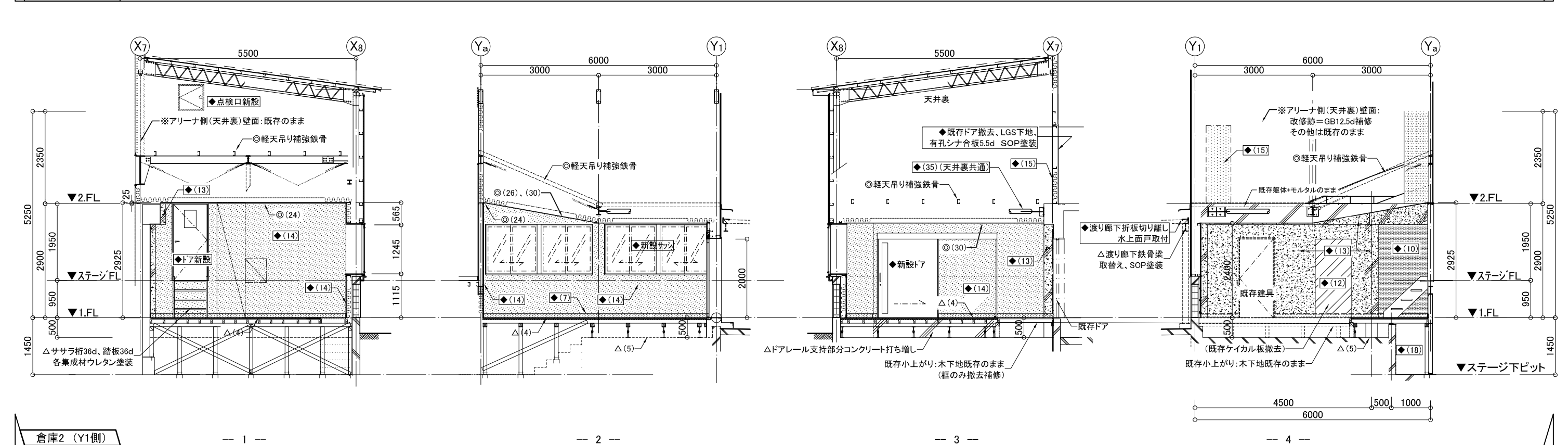
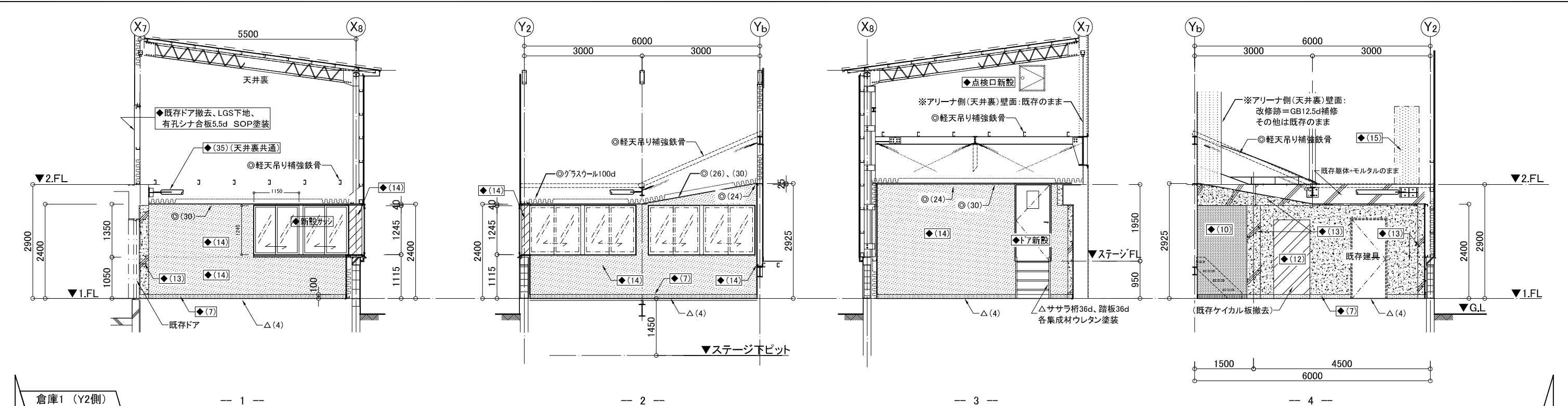


内部改修仕様 一覧表

番号	部位	仕上内容
(1)	床	合板下地12d、無垢フローリング18d(455x1820)、サンダー掛、ポリウレタン塗装3回
(2)	床	合板下地12d×2、タイルカーペット6.5d
(3)	床	土間コン増打ち70d(ワイヤメッシュ6#)、モルタル下地 300角タイル張り(一部御影石90d)
(4)	床	鉄骨下地(又は木下地) TSボード20dの上、構造合板12d+複合フローリング18d、ウレタン塗装
(5)	床	既存土間コン補修 (又は既存スラブ、モルタル補修、防塵塗装)
(6)	巾木	木製 H=100 OSCL
(7)	巾木	木製 H=100 SOP
(8)	巾木	モルタル H=100 防塵塗装
(9)	壁	既存モルタル素地調整、亀裂補修、弾性吹付タイル
(10)	壁	補強コンクリート、モルタル金ゴテ、EP塗装
(11)	壁	木下地組(縦溝縁@455、横桟18d@303) 唐松集成材15d、CL塗装3回
(12)	壁	既存木下地、ラスモル素地調整、EP塗装
(13)	壁	既存CB(又はRC)モルタル補修、EP塗装
(14)	壁	(鉄骨又はCB)LGS+GB12.5d+合板5.5d、EP塗装
(15)	壁	上部:(鉄骨+)LGS下地、GB12.5d、EP塗装
(16)	壁	LGS下地、耐水GB12.5d+ケイカル板6d
(17)	腰壁	鉄骨+LGS、構造合板12d+木化粧単板5.5d目透CL
(18)	壁	補強コンクリート打ち放し
(19)	腰壁	木下地の上、唐松板15d CL塗装3回
(20)	壁	上部木下地の上、有孔シナ合板5.5d EP塗装
(21)	壁	既存有孔シナ合板部分:素地調整EP塗装改修
(22)	壁	既存ラスモル撤去、木下地調整、GB12.5d、EP
(23)	壁	
(24)	廻縁	木製 EP塗装
(25)	廻縁	既存木製の上、EP塗装改修
(26)	廻縁	塩ビ見切り 新設
(27)	天井	新設鉄骨現し、SOP塗装 TSボード裏現し 素地
(28)	天井	既存木毛板の上、グラウウールボード30d(垂木支持)
(29)	天井	新設LGS下地、ロックウール吸音板9d
(30)	天井	新設LGS下地、化粧GB9.5d
(31)	天井	既存木毛板確認の上、SOP塗装改修(鉄骨垂木共)
(32)	天井	モルタル補修の上、外装厚塗り材E(石目調)吹付
(33)	他	既存カーテンボックス(木製)支持部確認 EP塗装
(34)	他	落下防止措置(ワイヤー又は、器具取り付け)
(35)	他	鉄骨表し、防錆処理の上、SOP塗装(又は錆止塗装)
(36)	巾木	既存モルタル補修、EP塗装改修

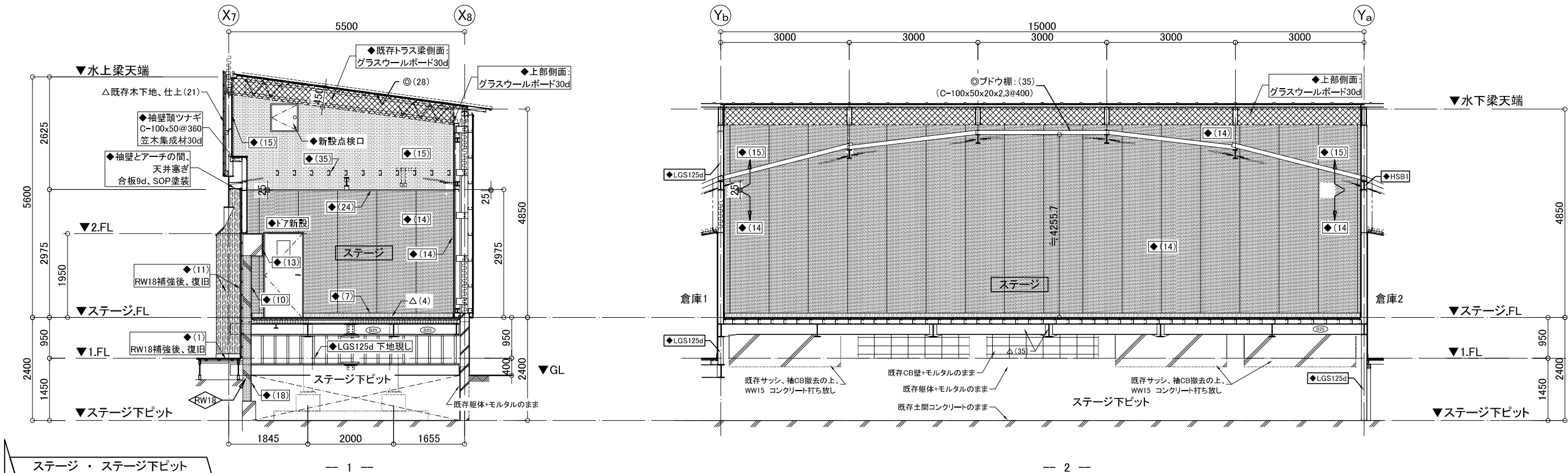






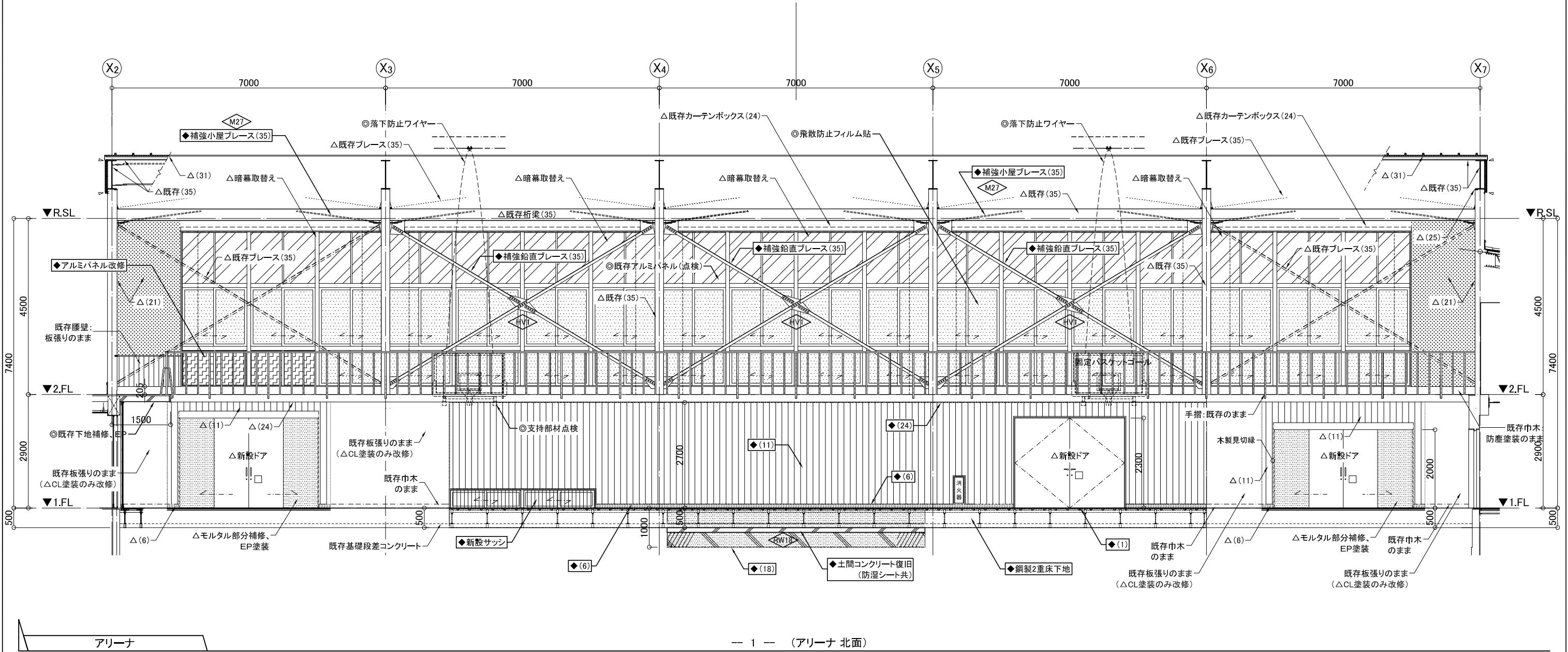
内部改修仕様 一覧表

番号	部位	仕上内容	(8)	巾木	モルタル H=100 防塵塗装	(22)	壁	既存ラスモル撤去、木下地調整、GB12.5d、EP
(1)	床	構造合板12d、無垢フローリング18d(455x1820)、サンダー掛、ポリウレタン塗装3回	(9)	壁	既存モルタル素地調整、亀裂補修、弾性吹付タイル	(23)	壁	
(2)	床	合板下地12d×2、タイルカーペット6.5d	(10)	壁	補強コンクリート、モルタル金ゴテ、EP塗装	(24)	廻縁	木製 EP塗装
(3)	床	土間コン増打ち70d(ワイヤメッシュ6#)、モルタル下地 300角タイル張り(一部御影石90d)	(11)	壁	木下地組(縦胴縁@455、横棧18d@303) 唐松集成材15d、CL塗装3回	(25)	廻縁	既存木製の上、EP塗装改修
(4)	床	鉄骨下地(又は木下地) TSボード20dの上、構造合板12d+複合フローリング18d、ウレタン塗装	(12)	壁	既存木下地、ラスモル素地調整、EP塗装	(26)	廻縁	塩ビ見切り 新設
(5)	床	既存土間コン補修 (又は既存スラブ、モルタル補修、防塵塗装)	(13)	壁	既存CB(又はRC)モルタル補修、EP塗装	(27)	天井	新設鉄骨現し、SOP塗装 TSボード裏現し 素地
(6)	巾木	木製 H=100 OSL	(14)	壁	(鉄骨又はCB)LGS+GB12.5d+合板5.5d、EP塗装	(28)	天井	既存木毛板の上、グラウウールボード30d(垂木支持)
(7)	巾木	木製 H=100 SOP	(15)	壁	上部:(鉄骨+)LGS下地、GB12.5d、EP塗装	(29)	天井	新設LGS下地、ロックウール吸音板9d
			(16)	壁	LGS下地、耐水GB12.5d+ケイカル板6d	(30)	天井	新設LGS下地、化粧GB9.5d
			(17)	腰壁	鉄骨+LGS、構造合板12d+木化粧単板5.5d目透CL	(31)	天井	既存木毛板確認の上、SOP塗装改修(鉄骨垂木共)
			(18)	壁	補強コンクリート打ち放し	(32)	天井	モルタル補修の上、外装厚塗り材E(石目調)吹付
			(19)	腰壁	木下地の上、唐松板15d CL塗装3回	(33)	他	既存カーテンボックス(木製)支持部確認 EP塗装
			(20)	壁	上部木下地の上、有孔シナ合板5.5d EP塗装	(34)	他	落下防止措置(ワイヤー又は、器具取り付け)
			(21)	壁	既存有孔シナ合板部分:素地調整EP塗装改修	(35)	他	鉄骨表し、防錆処理の上、SOP塗装(又は錆止塗装)
						(36)	巾木	既存モルタル補修、EP塗装改修



内部改修仕様 一覧表

番号	部位	仕上内容
(1)	床	合板下地12d、無垢フローリング18d(455x1820)、サンダー掛、ポリウレタン塗装3回
(2)	床	合板下地12d×2、タイルカーペット6.5d
(3)	床	土間コン増打ち70d(ワイヤメッシュ6#)、モルタル下地 300角タイル張り(一部御影石90d)
(4)	床	鉄骨下地(又は木下地) TSボード20dの上、構造合板12d+複合フローリング18d、ウレタン塗装
(5)	床	既存土間コン補修 (又は既存スラブ、モルタル補修、防塵塗装)
(6)	巾木	木製 H=100 OSCL
(7)	巾木	木製 H=100 SOP
(8)	巾木	モルタル H=100 防塵塗装
(9)	壁	既存モルタル素地調整、亀裂補修、弾性吹付タイル
(10)	壁	補強コンクリートの上 モルタル補修、EP塗装
(11)	壁	木下地組(縦胴縁@455、横桟18d@303) 唐松集成材15d、CL塗装3回
(12)	壁	既存木下地、ラスモル素地調整、EP塗装
(13)	壁	既存CB(又はRC)モルタル補修、EP塗装
(14)	壁	(鉄骨又はCB)LGS+GB12.5d+合板5.5d、EP塗装
(15)	壁	上部・鉄骨+LGS下地、GB12.5d、EP塗装
(16)	壁	LGS下地、耐水GB12.5d+ケイカル板6d
(17)	腰壁	鉄骨+LGS、構造合板12d+木化粧単板5.5d目透CL
(18)	壁	補強コンクリート打ち放し
(19)	腰壁	木下地の上、唐松板15d CL塗装3回
(20)	壁	上部木下地の上、有孔シナ合板5.5d EP塗装
(21)	壁	既存有孔シナ合板部分:素地調整EP塗装改修
(22)	壁	(既存ラスモル撤去)、木下地調整、GB12.5d、EP
(23)	壁	
(24)	廻縁	木製 EP塗装
(25)	廻縁	既存木製の上、EP塗装改修
(26)	廻縁	塩ビ見切り 新設
(27)	天井	新設鉄骨現し、SOP塗装 TSボード裏現し 素地
(28)	天井	既存木毛板の上、グラウウールボード30d(垂木支持
(29)	天井	新設LGS下地、ロックウール吸音板9d
(30)	天井	新設LGS下地、化粧GB9.5d
(31)	天井	既存木毛板確認の上、SOP塗装改修(鉄骨垂木共)
(32)	天井	モルタル補修の上、外装厚塗り材E(石目調)吹付
(33)	他	既存カーテンボックス(木製)支持部確認 EP塗装
(34)	他	落下防止措置(ワイヤー又は、器具取り付け)
(35)	他	鉄骨表し、防錆処理の上、SOP塗装(又は錆止塗装)
(36)	巾木	既存モルタル補修、EP塗装改修



内部改修仕様 一覧表

番号	部位	仕上内容			
(1)	床	合板下地12d、無垢フローリング18d(455x1820)、サンダー掛、ポリウレタン塗装3回	(8)	巾木	モルタル H=100 防塵塗装
(2)	床	合板下地12d×2、タイルカーペット6.5d	(9)	壁	既存モルタル素地調整、亀裂補修、弾性吹付タイル
(3)	床	土間コン増打ち70d(ワイヤメッシュ6#)、モルタル下地 300角タイル張り(一部御影石90d)	(10)	壁	補強コンクリート、モルタル金ゴテ、EP塗装
(4)	床	鉄骨下地(又は木下地) TSボード20dの上、構造合板12d+複合フローリング18d、ウレタン塗装	(11)	壁	木下地組(縦胴縁@455、横桟18d@303) 唐松集成材15d、CL塗装3回
(5)	床	既存土間コン補修 (又は既存スラブ、モルタル補修、防塵塗装	(12)	壁	既存木下地、ラスモル素地調整、EP塗装
(6)	巾木	木製 H=100 OSL	(13)	壁	既存CB(又はRC)モルタル補修、EP塗装
(7)	巾木	木製 H=100 SOP	(14)	壁	(鉄骨又はCB)LGS+GB12.5d+合板5.5d、EP塗装
			(15)	壁	上部:鉄骨+LGS下地、GB12.5d、EP塗装
			(16)	壁	LGS下地、耐水GB12.5d+ケイカル板6d
			(17)	腰壁	鉄骨+LGS、構造合板12d+木化粧単板5.5d目透CL
			(18)	壁	補強コンクリート打ち放し
			(19)	腰壁	木下地の上、唐松板15d CL塗装3回
			(20)	壁	上部木下地の上、有孔シナ合板5.5d EP塗装
			(21)	壁	既存有孔シナ合板部分:素地調整EP塗装改修
			(22)	壁	既存ラスモル撤去、木下地調整、GB12.5d、EP
			(23)	壁	
			(24)	廻縁	木製 EP塗装
			(25)	廻縁	既存木製の上、EP塗装改修
			(26)	廻縁	塩ビ見切り 新設
			(27)	天井	新設鉄骨現し、SOP塗装 TSボード裏現し 素地
			(28)	天井	既存木毛板の上、グラウールボード30d(垂木支持
			(29)	天井	新設LGS下地、ロックウール吸音板9d
			(30)	天井	新設LGS下地、化粧GB9.5d
			(31)	天井	既存木毛板確認の上、SOP塗装改修(鉄骨垂木共)
			(32)	天井	モルタル補修の上、外装厚塗り材E(石目調)吹付
			(33)	他	既存カーテンボックス(木製)支持部確認 EP塗装
			(34)	他	落下防止措置(ワイヤー又は、器具取り付け)
			(35)	他	鉄骨表し、防錆処理の上、SOP塗装(又は錆止塗装)
			(36)	巾木	既存モルタル補修、EP塗装改修

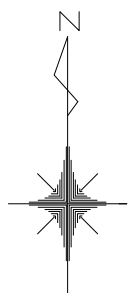










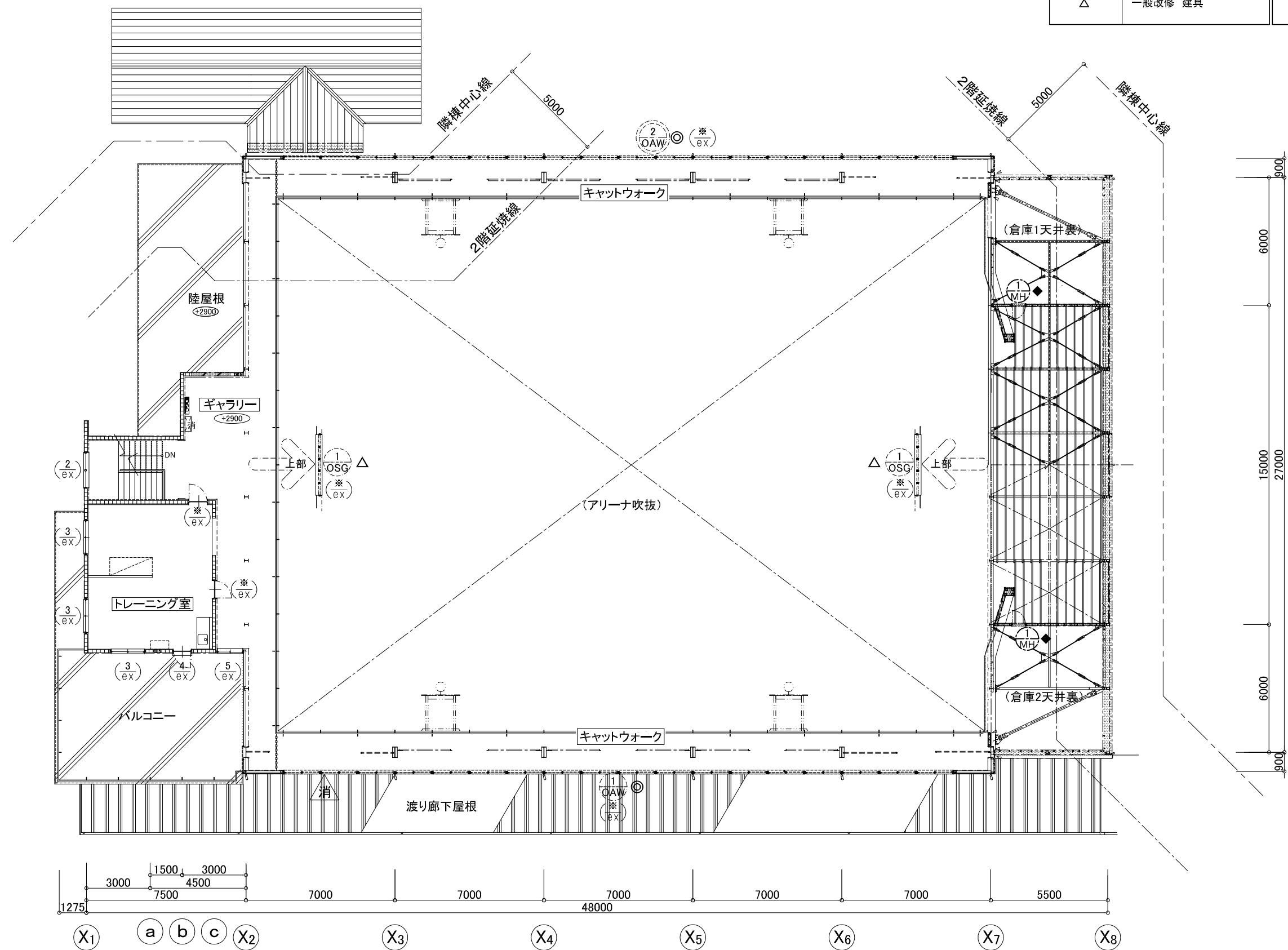
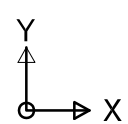


建具 凡例

◆	耐震補強改修 関連建具	0 **	防火設備
◎	非構造改修 関連建具	0 **	普通サッシ、ドア、建具
△	一般改修 建具	消	消防有効開口部
		※ EX	既存建具

Y<sub>2</sub>  
E  
D  
B  
A  
Y<sub>1</sub>

Y<sub>2</sub>  
Y<sub>b</sub>  
Y<sub>a</sub>  
Y<sub>1</sub>

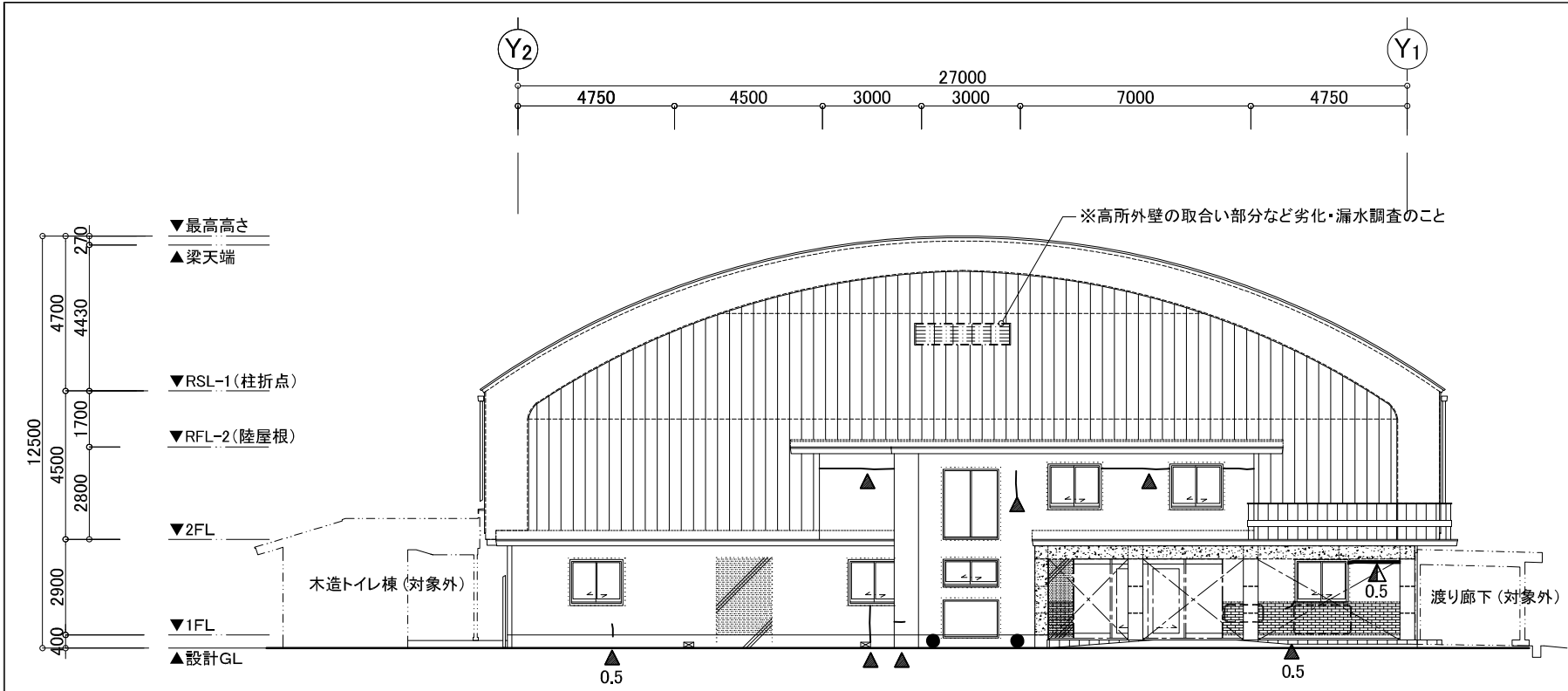


2階 キープラン



[illegible]

記号、室名	ex-1	器具庫1・器具庫3	(一般改修工事)	2 箇所	ex-2	器具庫1 (下部)・階段室	(一般改修工事)	1 箇所	ex-4	2階:トレーニング室	(一般改修工事)	1 箇所	ex-5	2階:ギャラリー	(一般改修工事)	1 箇所				
種 類	アルミカバー工法にて サッシ改修済み	(1) (サッシ本体は既存のまま)			アルミカバー工法にて サッシ改修済み	(2) (サッシ本体は既存のまま)			アルミドア 当初のまま	(4) (サッシ本体は既存のまま)			アルミカバー工法にて サッシ改修済み	(5) (サッシ本体は既存のまま)						
材 質	△ サッシクリーニング △ SUS網戸 取替え				△ サッシクリーニング				△ サッシクリーニング △鍵 取替え				△ サッシクリーニング							
金 物																				
見込み	既存のまま				既存のまま				既存のまま				既存のまま							
ガラス	△ ガラスTF4 取替え				既存のまま				既存のまま				既存のまま							
備 考	消 1.5×1.25 = 1.87								消 0.80×1.95 = 1.56				消 1.1×1.25 = 1.37							
記号、室名	ex-3	2階:トレーニング室	(一般改修工事)	3 箇所																
種 類	アルミカバー工法にて サッシ改修済み	(3) (サッシ本体は既存のまま)																		
材 質	△ サッシクリーニング △ SUS網戸 取替え																			
金 物																				
見込み	既存のまま																			
ガラス	既存のまま																			
備 考	消 1.5×1.25 = 1.87																			
記号、室名	F-1	玄関	(耐震補強改修)	1 箇所																
種 類	下足入	1 F	◆																	
仕 様	■天板・側板・地板・中仕切板: 高密度ハートイルボード両面メソ同時圧着板22d ■裏板: 同上 13d ■台輪: 前面シナランバーコア24d 他ラワン材24d (H=60) ※転倒防止固定																			
備 考	小口はすべてメラミン化粧合板貼り ジョイントは適宜、設置可。ジョイント小口 もメラミン化粧合板貼りとする																			
記号、室名		器具庫 1 (太鼓クラブ)	(耐震補強改修)	1 箇所																
種 類	太鼓用 棚																			
仕 様	■材質: 樺 各OS塗装 ■部材 ① 柱: 60x60 ② 90x45 ③ 頭つなぎ: 60x45 ④ 根太: 30x45 @300 ⑤ 天板: ラワン合板9mm 各OS塗装 ※転倒防止固定																			
備 考	(既存L=2400を新設L=3400に拡張) ※制作前にクラブ責任者と高さ寸法協議のこと																			
記号、室名		器具庫 1 (太鼓クラブ)	(耐震補強改修)	1 箇所																
種 類	太鼓用 棚																			
仕 様	■材質: 樺 各OS塗装 ■部材 ① 柱: 60x60 ② 90x45 ③ 頭つなぎ: 60x45 ④ 根太: 30x45 @300 ⑤ 天板: ラワン合板9mm 各OS塗装 ※転倒防止固定																			
備 考	※制作前にクラブ責任者と高さ寸法協議のこと																			
記号、室名	F-4	器具庫 2	(耐震補強改修)	2 箇所																
種 類	ロッカー 棚																			
仕 様	■天板・側板・地板: 高密度ハートイルボード両面メソ同時圧着板22d ■裏板: 同上 13d ■中仕切板: 同上 15d ■台輪: 前面シナランバーコア24d 他ラワン材24d (H=60) ※転倒防止固定																			
備 考	小口はすべてメラミン化粧合板貼り ジョイントは適宜、設置可。ジョイント小口 もメラミン化粧合板貼りとする																			
記号、室名		器具庫 3	(耐震補強改修)	2 箇所																
種 類	ロッカー 棚																			
仕 様	■天板・側板・地板: 高密度ハートイルボード両面メソ同時圧着板22d ■裏板: 同上 13d ■中仕切板: 同上 15d ■台輪: 前面シナランバーコア24d 他ラワン材24d (H=60) ※転倒防止固定																			
備 考	小口はすべてメラミン化粧合板貼り ジョイントは適宜、設置可。ジョイント小口 もメラミン化粧合板貼りとする																			
				DRAWING	CHECK	DATE					SCALE	A1 1/50 A3 1/100	MAP NAME	建具表-2・家具図		CONSTRUCTION NAME	令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事		MAP NO.	A- 54



亀裂立面図 (補強後 西面)

＜ 亀裂・浮き部 改修工法一覧表 ＞

	改修工法 (◆耐震改修)	状態	付加条件	使用材料・工法等	備考
[1]	シーリング工法	亀裂0.2mm程度	挙動 無し 有り	パテ状エポキシ樹脂 可とう性エポキシ樹脂	
[2]	樹脂注入工法	亀裂0.2～1.0mm	挙動 無し 有り	エポキシ樹脂 軟質系エポキシ樹脂	手動式・自動低圧式 機械式 (CB造には不適)
[3]	Uカットシーリング充填工法	亀裂0.2～1.0mm 1.0mm以上	挙動 有り 無し 有り	可とう性エポキシ樹脂 可とう性エポキシ樹脂 シーリング用材料	CB造はモルタル部分をカット
[4]	埋め戻し工法	幅に限定しない	鉄筋錆汁の 流出部	軽量エポキシ樹脂 防さび処理剤 (鉄筋)	状況によりハツリ有り (箇所数で表記)
[5]	アンカーピンニング工法 (モルタル・タイル壁等 の浮き)	浮き0.25m2以下 浮き0.25m2以上	間隙幅に限定無し 間隙幅1mm以下 間隙幅1mm以上	エポキシ樹脂 部分注入 エポキシ樹脂 全面注入 ポリマーセメント スラリー	長期的か暫定的か協議

※ 仕上げ改修を施す部分は上記工法までを◆耐震補強工事として見込むこと。(仕上げはそれぞれの改修項目による)  
※ 仕上げ改修を施さない部分(内装の一部)は上記工法で施工後、300mmの幅で周囲同等仕上補修を見込むこと。

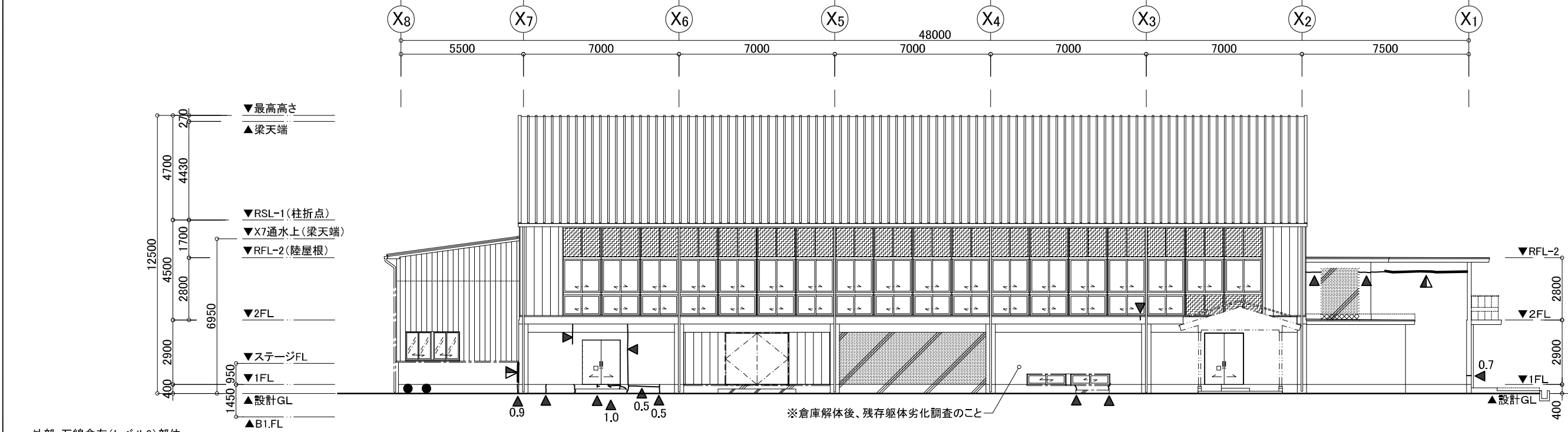
＜亀裂、劣化 数量調査 (外部)＞

◆耐震補強改修工事	西 面	北 面	東 面	南 面	計	工 法
外壁調査面積 (既存残置の外壁躯体のみ)	247 m2	149 m2	110 m2	149 m2	655 m2	
シーリング工法 (軽微な亀裂)	9.05 m	9.60 m	1.21 m	8.40 m	28.26 m	[1]
クラック部 自動低圧エポキシ樹脂注入補修 (貫通亀裂等)	1.88 m	5.51 m	1.52 m	0.0 m	8.91 m	[2]
クラック部 Uカットシーリング補修	1.98 m	4.63 m	0.0 m	3.55 m	10.16 m	[3]
埋め戻し工法	★ 0 ヶ所	0 ヶ所	1 ヶ所	0 ヶ所	1 ヶ所	[4]
アンカーピンニング工法	2.08 m2	0.0 m2	0.0 m2	1.03 m2	3.11 m2	[5]
基礎立上りモルタル剥離補修 300x300程度	● 2 ヶ所	2 ヶ所	2 ヶ所	0 ヶ所	6 ヶ所	モルタル補修

※ 上記は耐震診断時の調査数量の集計を割り増した数値である。施工前調査での数量増加は、本工事一式内を含むものとする。  
※ 上記工法は仕上げ、下地の状況を鑑みて変更する場合には担当者と協議すること。

＜ 凡 例 ＞

◀	亀裂 (外部)
▶	亀裂 (内外貫通)
◀	亀裂 (内部) (展開図参照)
● / ★	変質・浮き・剥落 / 発錆
□	タイル浮き
※ 施工前調査にて数量を確認すること。	
※ 数値は亀裂巾0.2mm以上を明記。	
※ 数値無き亀裂は0.2～0.4mmとする	



亀裂立面図 (補強後 北面)



※ 仕上げ改修を施す部分は上記工法までを◆耐震補強工事として見込むこと。(仕上げはそれぞれの改修項目による)  
※ 仕上げ改修を施さない部分(内装の一部)は上記工法で施工後、300mmの幅で周囲同等仕上補修を見込むこと。

This architectural elevation drawing shows the front facade of a building. The drawing includes the following details:

- Horizontal Dimensions (Top):** Spacing between vertical grid lines X1 to X8: 7500, 7000, 7000, 48000 (total), 7000, 7000, 7000, 5500.
- Vertical Dimensions (Left):** Total height 6100. Levels: RFL-2 (2800), 2FL (2900), 1FL (400), Design GL (0).
- Vertical Dimensions (Right):** Total height 12500. Levels: RSL-1 (4430), X7 Water Level (4700), RFL-2 (4500), 2FL (6950), Stage FL (950), 1FL (2900), Design GL (400).
- Structural Markers:**
  - ▼ RFL-2 (柱折点) - Column break point
  - ▼ X7 水上 (梁天端) - Beam top at water level
  - ▼ RFL-2 (陸屋根) - Flat roof
  - ▼ 2FL - Second floor
  - ▼ ステージFL - Stage floor
  - ▼ 1FL - First floor
  - ▲ 設計GL - Design ground level
  - ▲ 梁天端 - Beam top
- Other Labels:**
  - 既存渡り廊下 (Existing walkway) - Indicated on the left side.
  - 0.5 - Foundation or ground level markers.

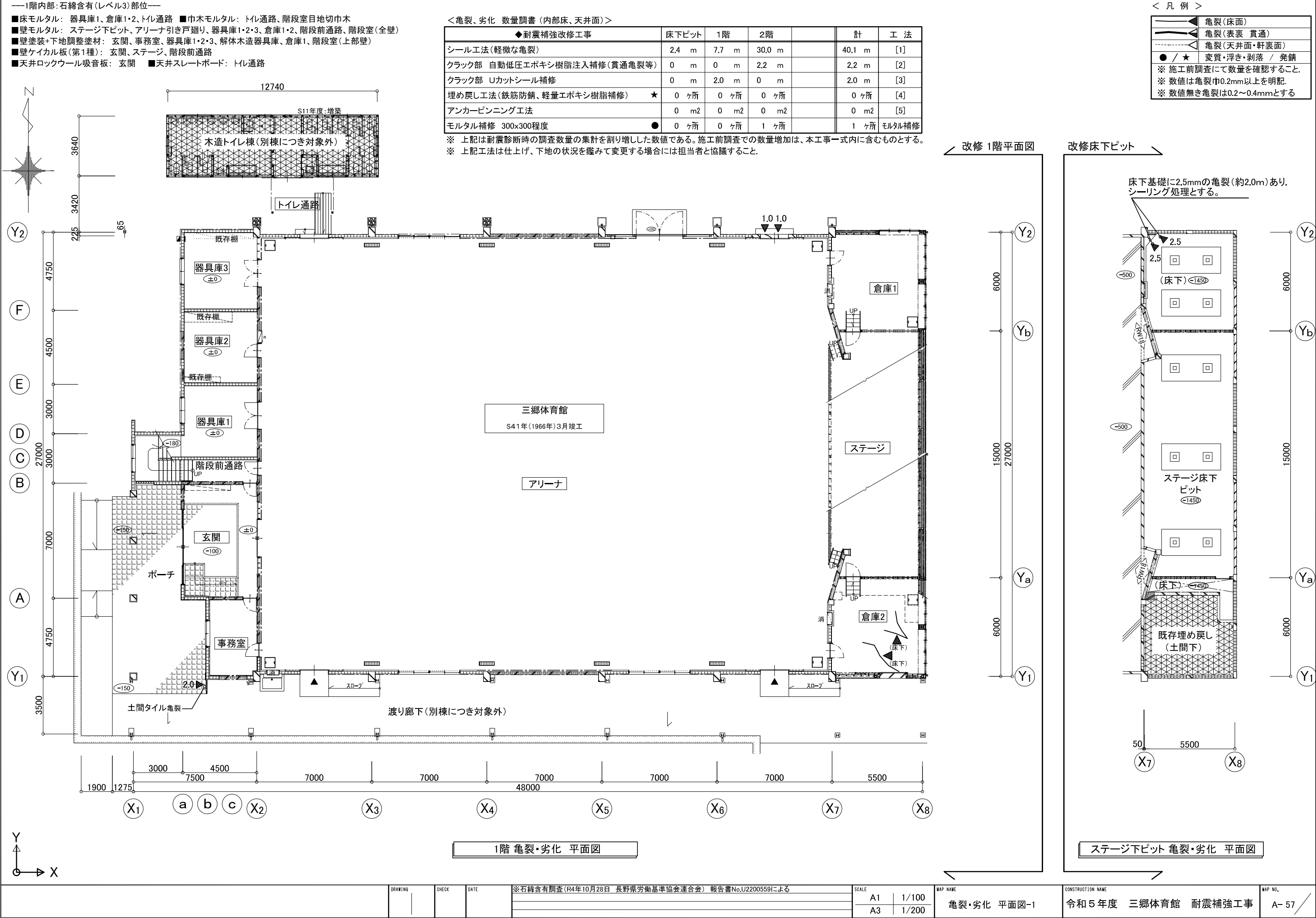
—外部：石綿含有（レペル3）部位—

■屋根 樹脂製断熱材：渡り廊下 ■外壁 仕上塗材：主要本棟、東面腰壁、木造器具庫

■軒天 モルタル：木造器具庫、ボーチ東面（タイル下地モルタル）

■外壁 仕上塗材：主要本棟、木造器具庫 ■軒天 モルタル：木造器具庫 ■軒天 スレートボード：トイレ通路

亀裂立面図（補強後 南面）



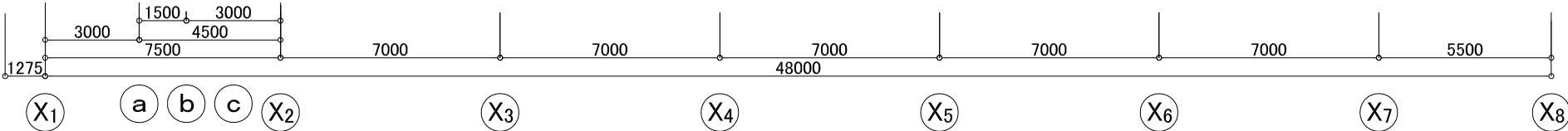
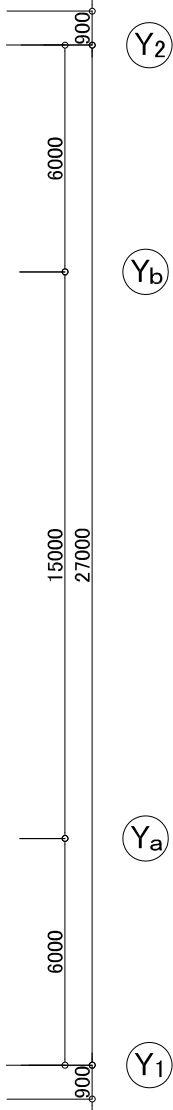
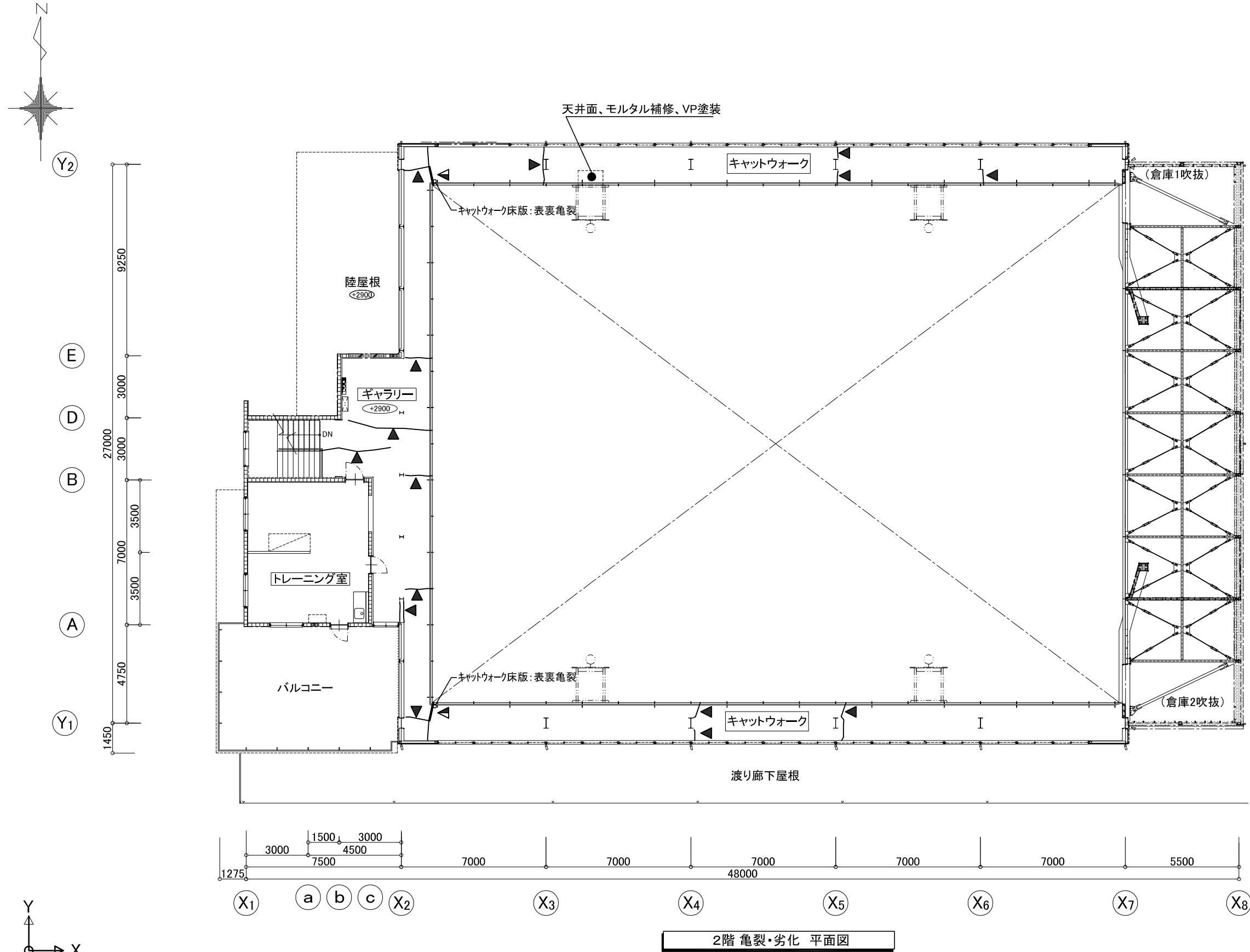
――2階内部:石綿含有(レベル3)部位――

- 床モルタル: トレーニング室、ギャラリー、キャットウォーク
- ソフト巾木+接着剤: トレーニング室
- 壁モルタル: トレーニング室(腰壁)
- 壁石膏ボード: トレーニング室(一部壁)
- 壁ケイカル板(第1種): トレーニング室(◎ 通りの一部)
- 天井: 無し

< 凡 例 >

	亀裂(床面)
	亀裂(表裏 貫通)
	亀裂(天井面・軒表面)
	変質・浮き・剥落 / 発錆

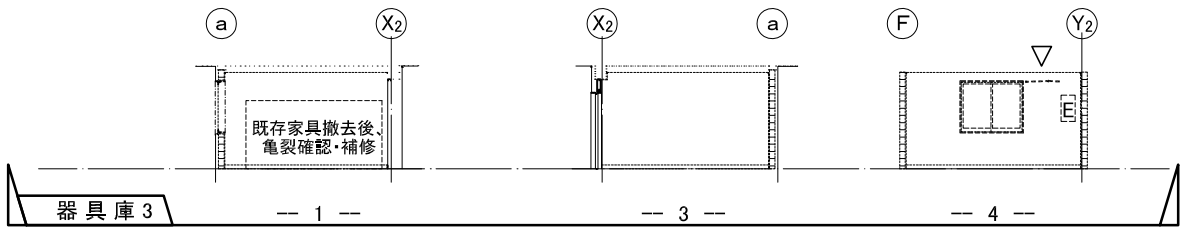
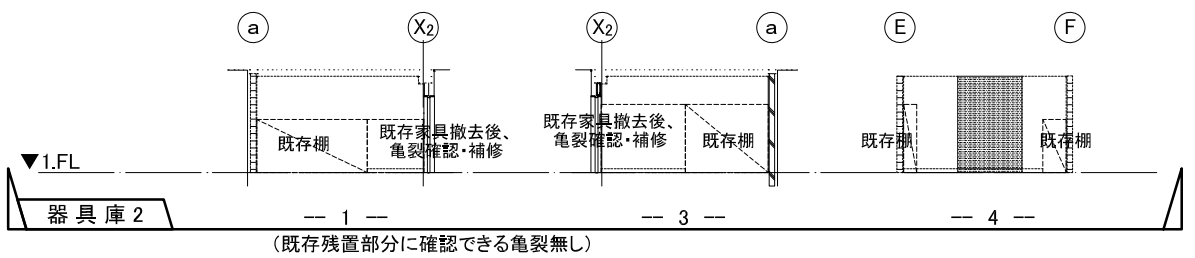
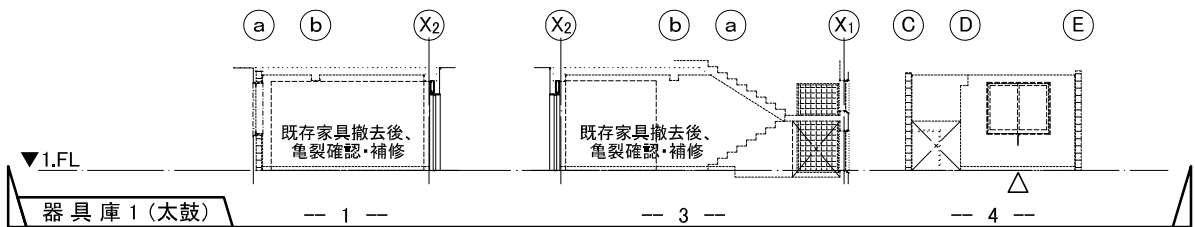
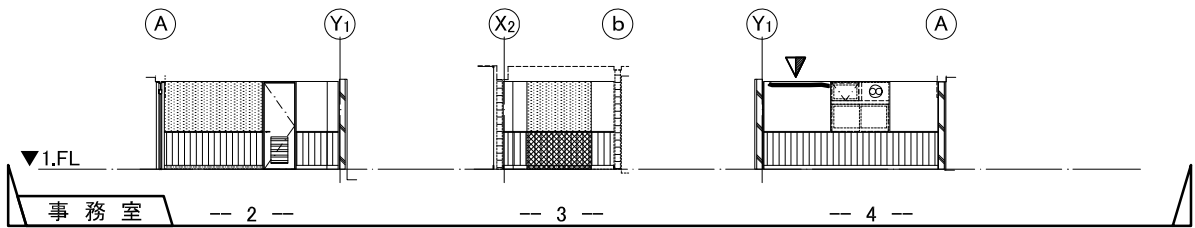
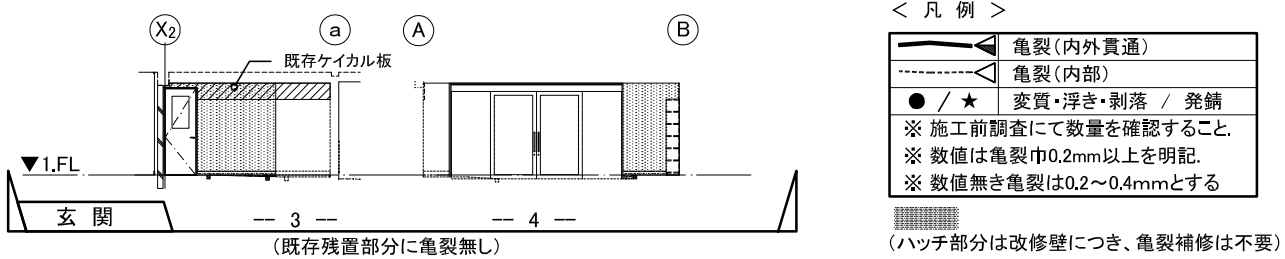
※ 施工前調査にて数量を確認すること。  
※ 数値は亀裂巾0.2mm以上を明記。  
※ 数値無き亀裂は0.2～0.4mmとする



2階 亀裂・劣化 平面図

――1階内部:石綿含有(レベル3)部位――

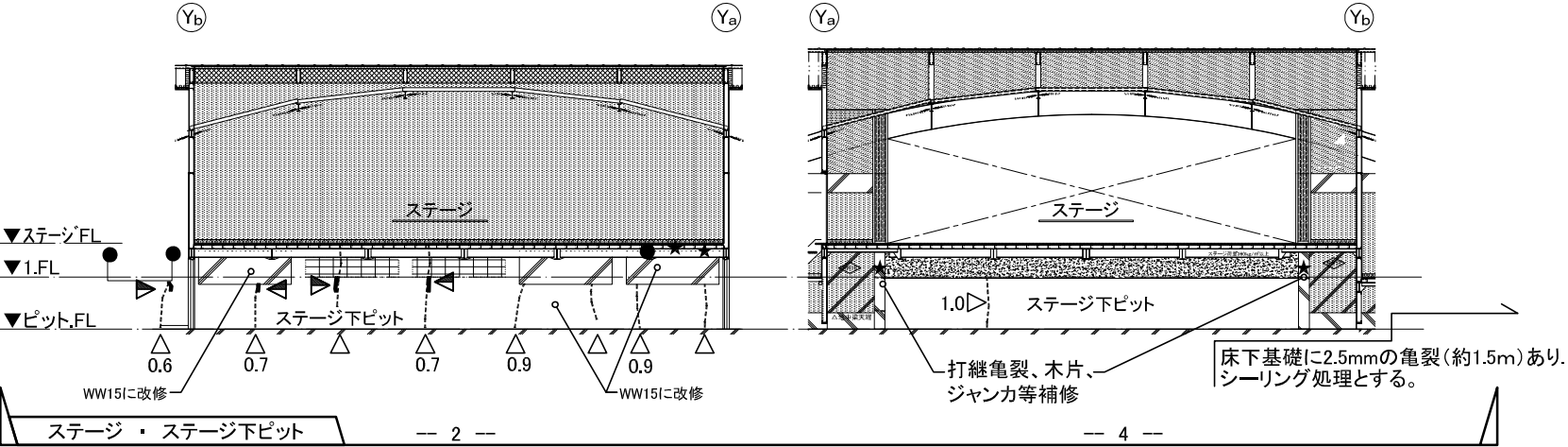
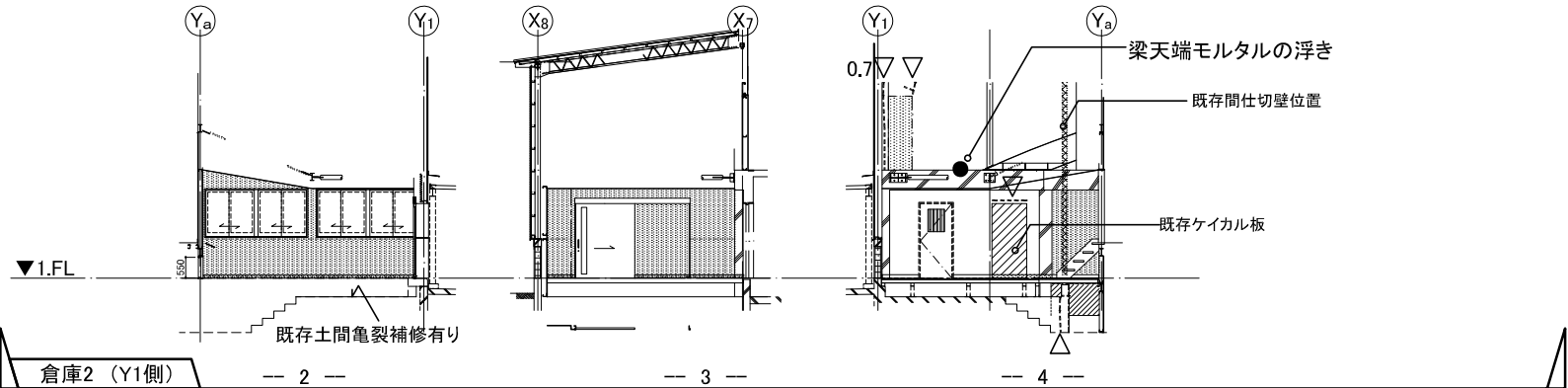
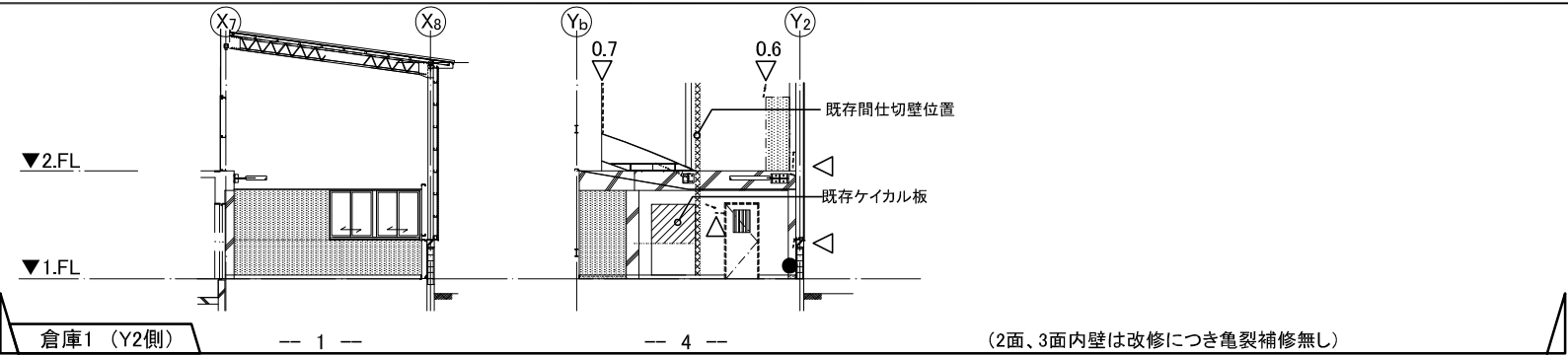
- 床モルタル: 器具庫1、倉庫1・2、トイレ通路 ■巾木モルタル: トイレ通路、階段室目地切巾木  
■壁モルタル: ステージ下ピット、アリーナ引き戸廻り、器具庫1・2・3、倉庫1・2、階段前通路、階段室(全壁)  
■壁塗装+下地調整塗材: 玄関、事務室、器具庫1・2・3、解体木造器具庫、倉庫1、階段室(上部壁)  
■壁ケイカル板(第1種): 玄関(下り壁の一部)、倉庫1、2(P消火栓ボックス裏側)、階段前通路(玄関側の一部)、事務室(玄関側)  
■既存ケイカル板  
■天井ロックウール吸音板: 玄関 ■天井スレートボード: トイレ通路



＜亀裂、劣化 数量調書(内壁)＞

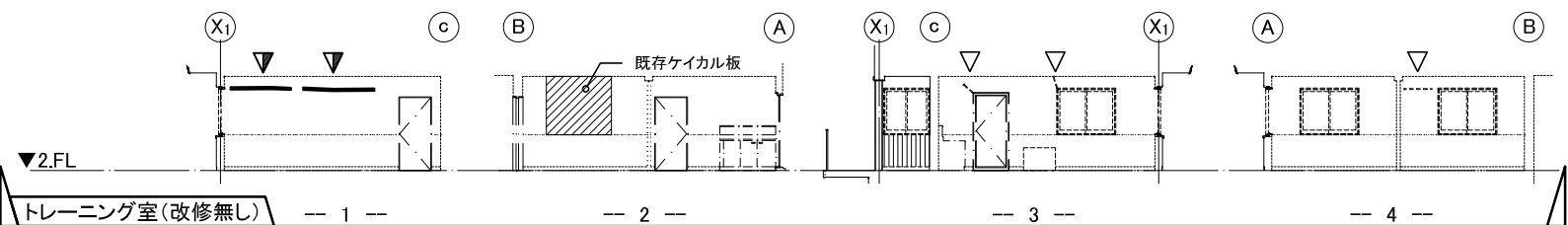
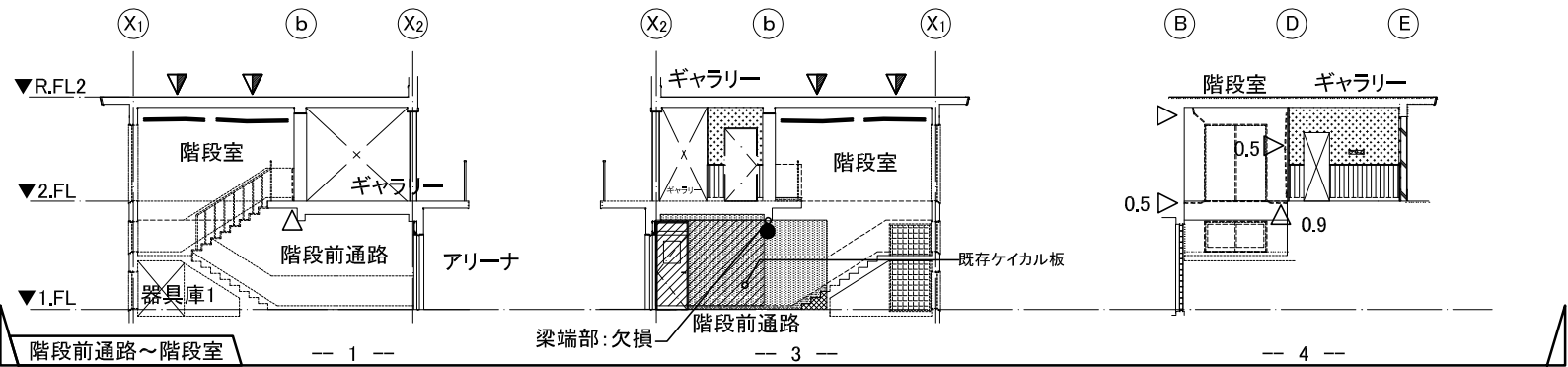
◆耐震補強改修工事						計	工 法
シール工法(軽微な亀裂)						19.0 m	[1]
クラック部 自動低圧エポキシ樹脂注入補修(貫通亀裂等)						14.0 m	[2]
クラック部 Uカットシール補修						25.0 m	[3]
埋め戻し工法(鉄筋防錆、軽量エポキシ樹脂補修)						4 ヶ所	[4]
アンカーピンニング工法						0 m2	[5]
モルタル補修 300×300程度						6 ヶ所	モルタル補修

※ 上記は耐震診断時の調査数量の集計を割り増した数値である。施工前調査での数量増加は、本工事一式内に含むものとする。  
※ 上記工法は仕上げ、下地の状況を鑑みて変更する場合には担当者とは協議すること。



――階段室～2階内部:石綿含有(レベル3)部位――

- 床モルタル: トレーニング室、ギャラリー、キャットウォーク ■ソフト巾木+接着剤: トレーニング室  
■壁モルタル: トレーニング室(腰壁) ■壁石膏ボード: トレーニング室(一部壁)  
■壁ケイカル板(第1種): トレーニング室(一部)、階段前通路(玄関側の一部)  
■既存ケイカル板



DRAWING

CHECK

DATE

※石綿含有調査(R4年10月28日 長野県労働基準協会連合会) 報告書No.U2200559Iによる

SCALE

A1 1/100  
A3 1/200

MAP NAME

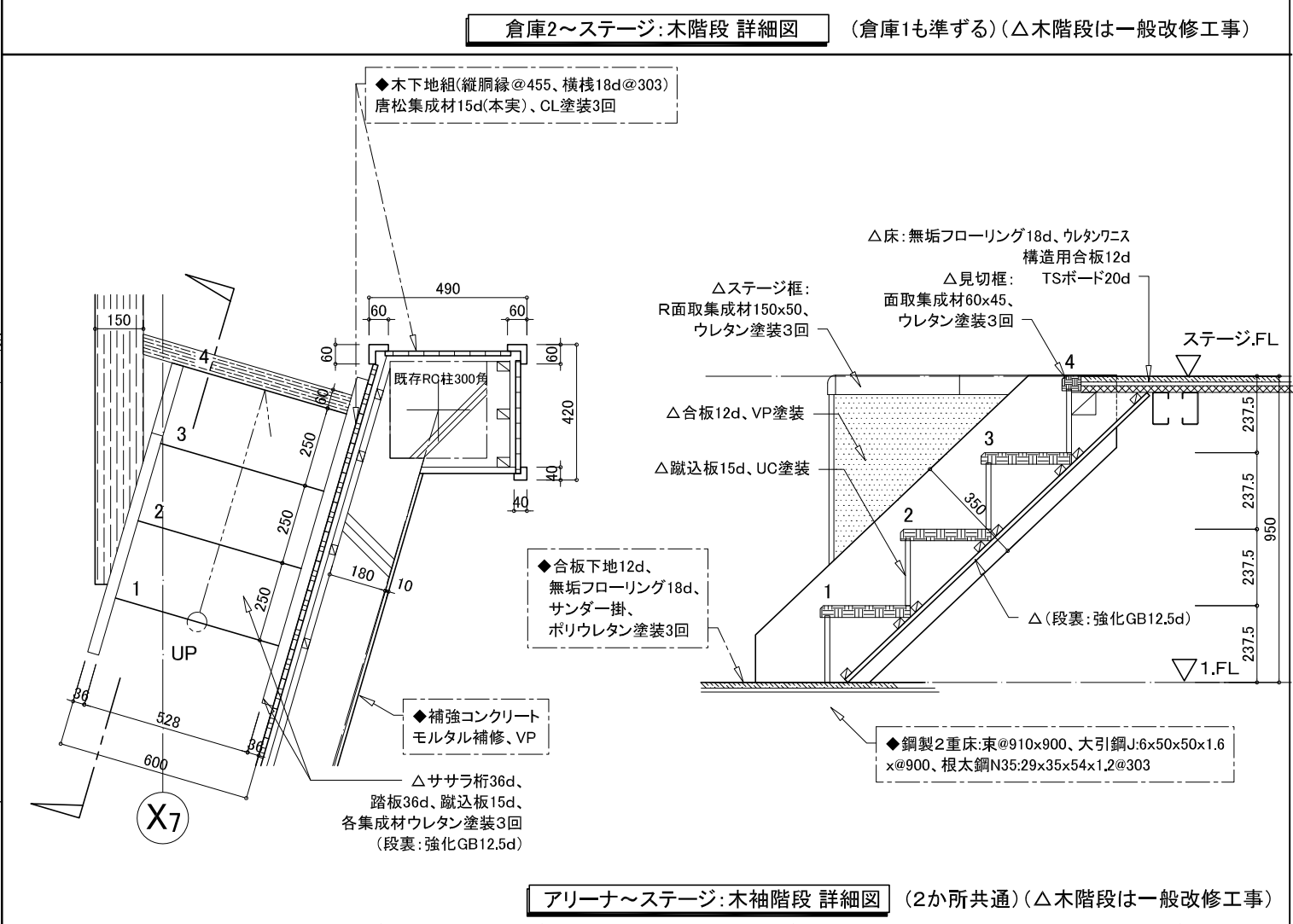
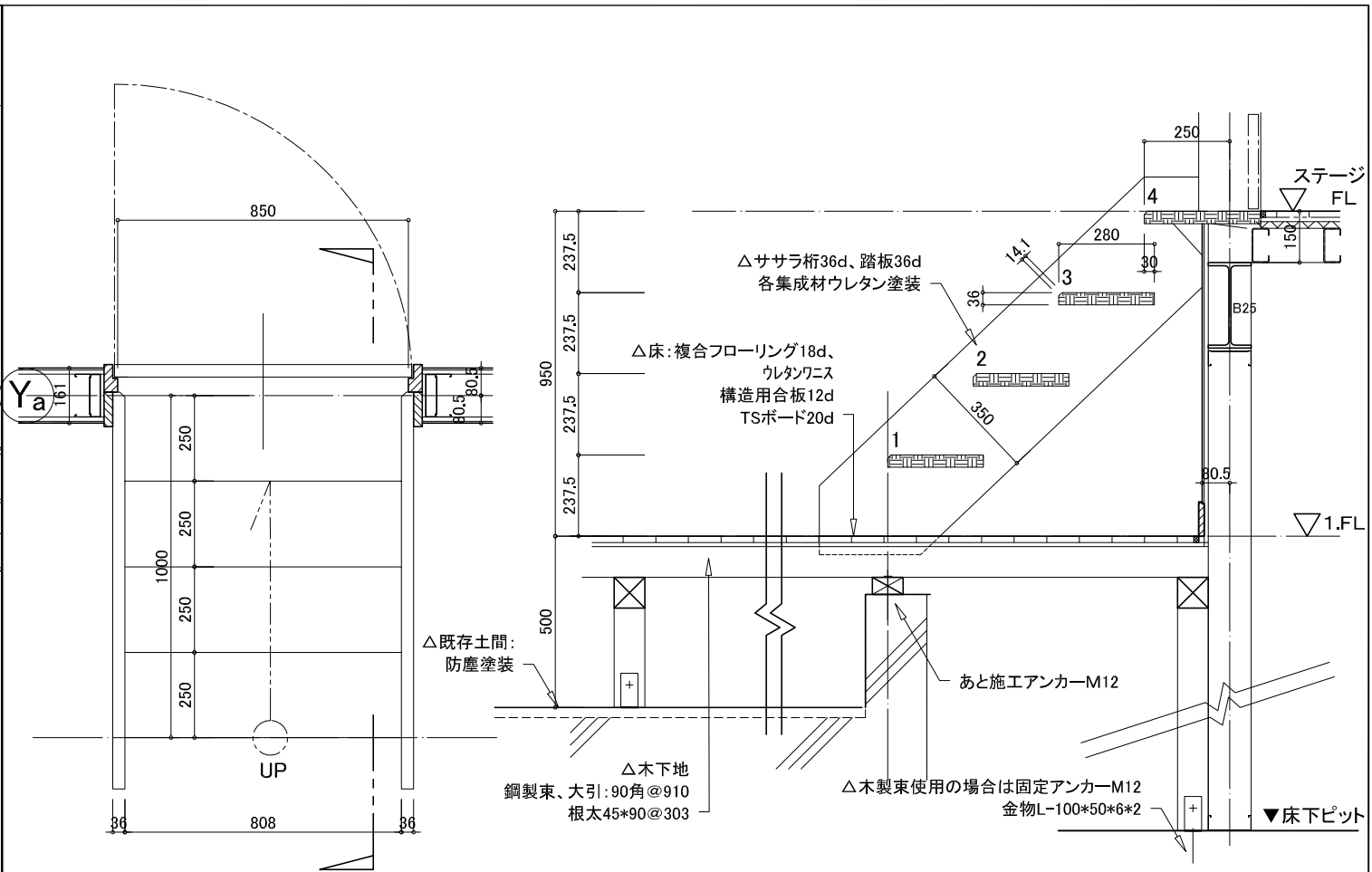
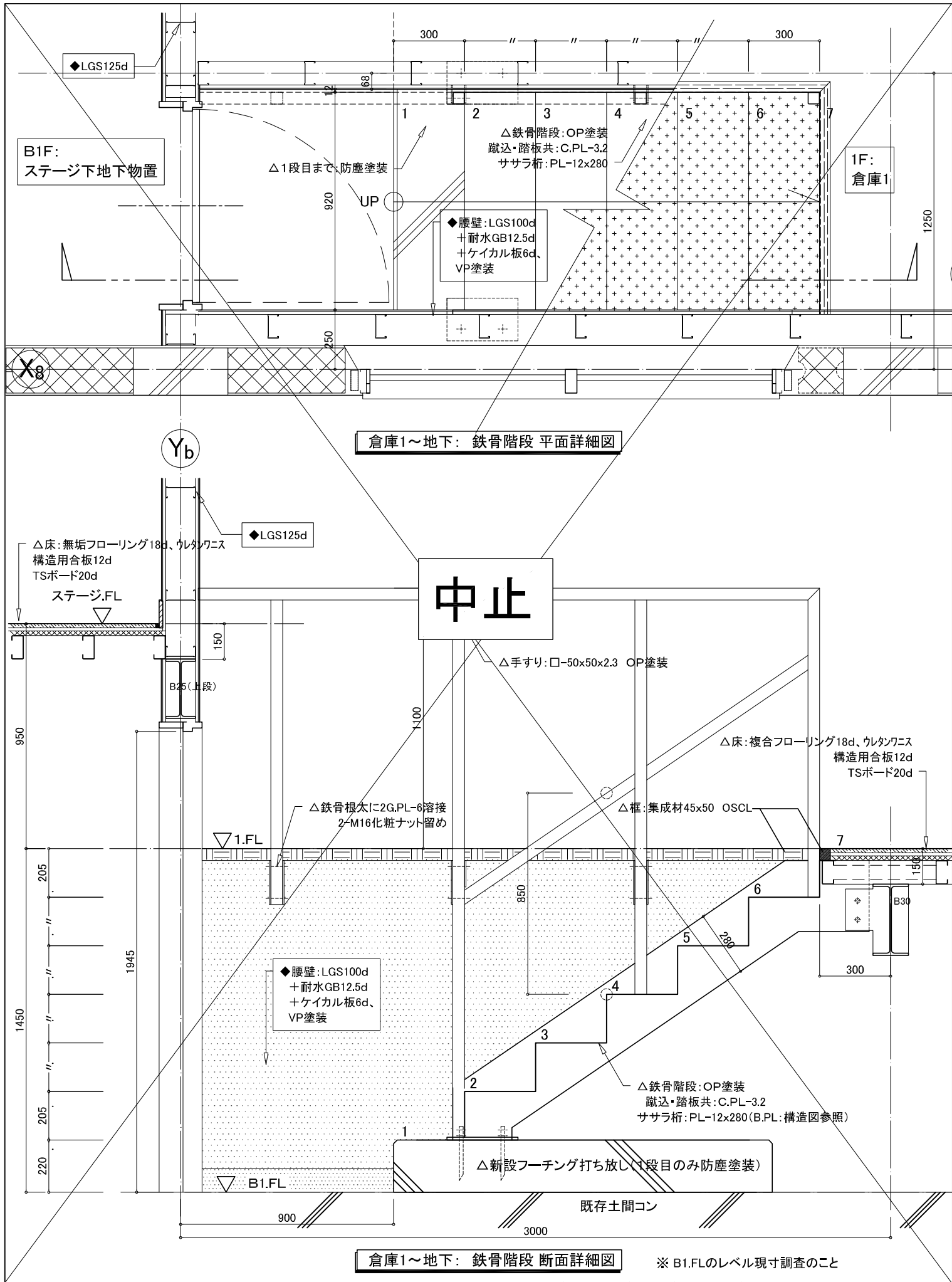
亀裂・劣化 内装展開図

CONSTRUCTION NAME

令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事

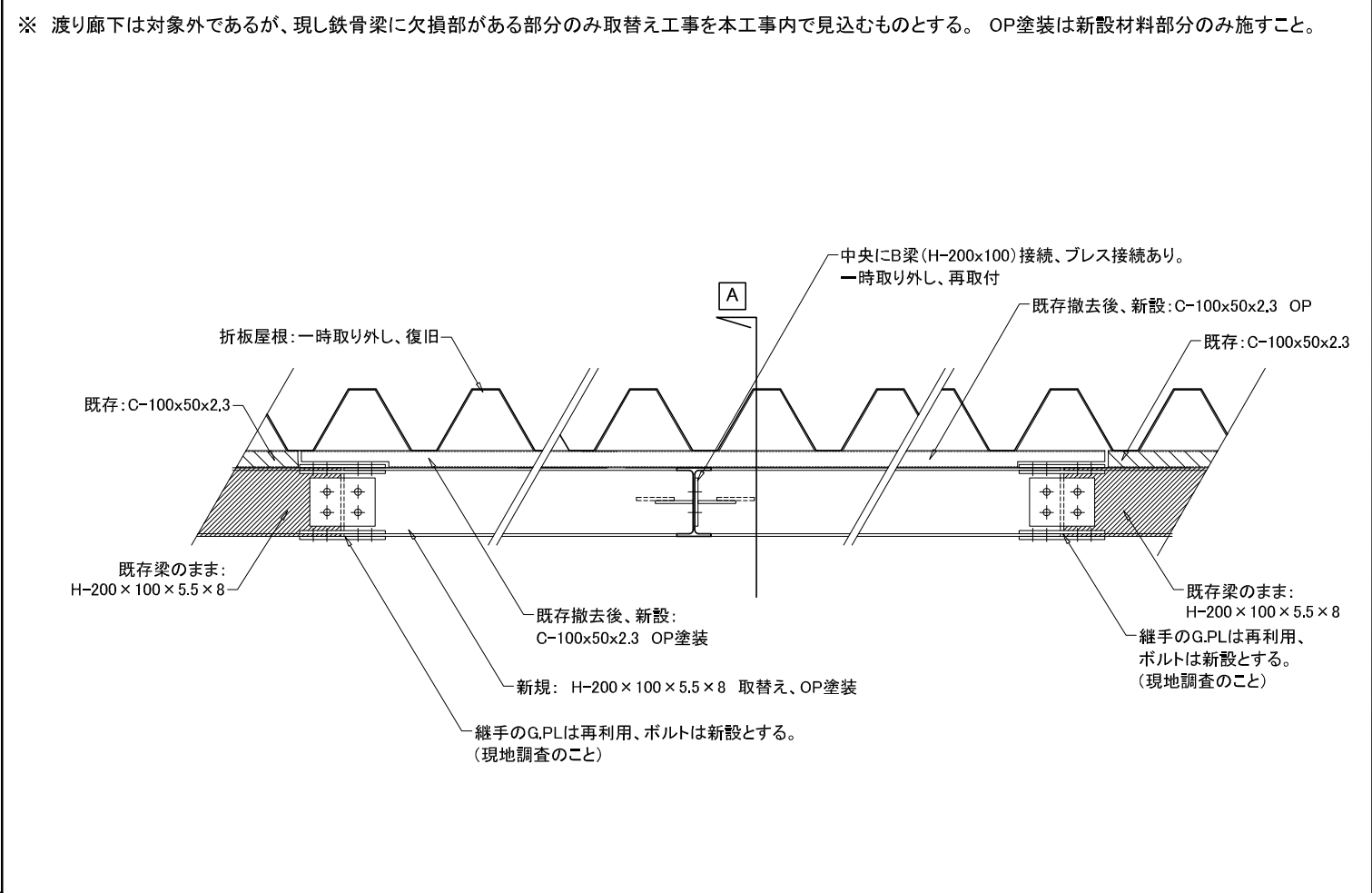
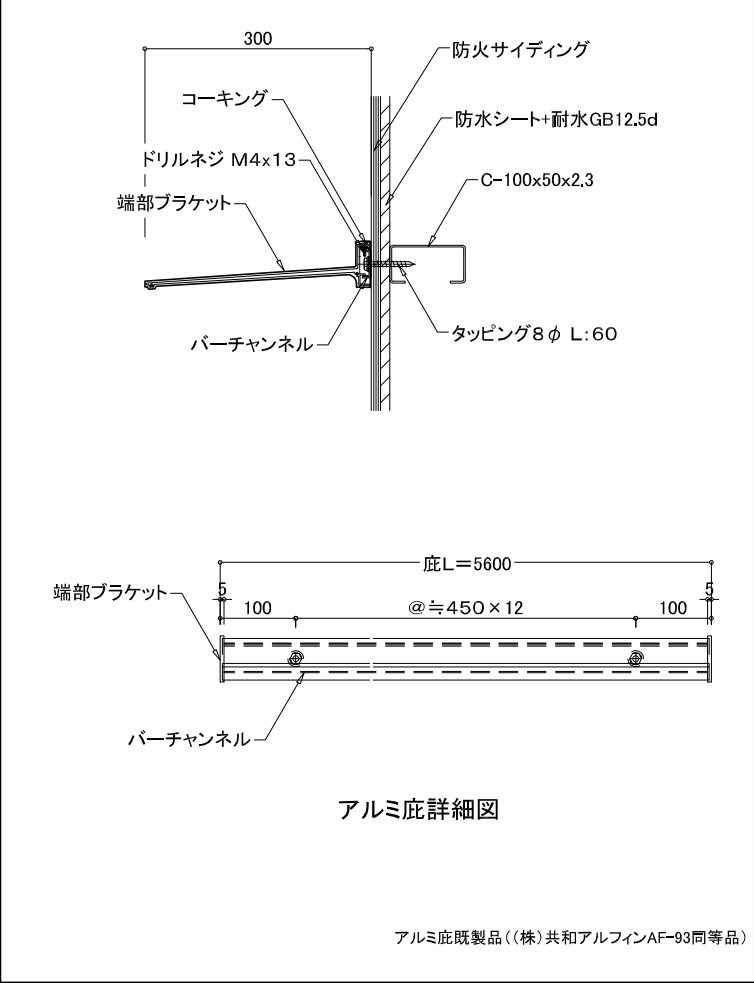
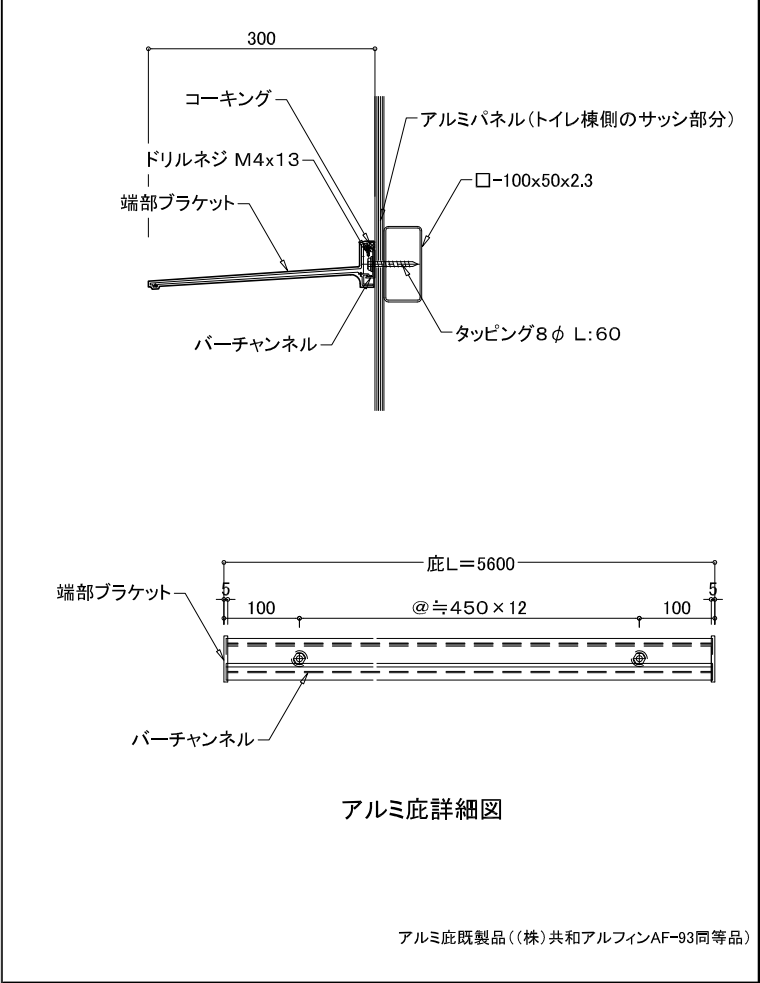
MAP NO.

A-59

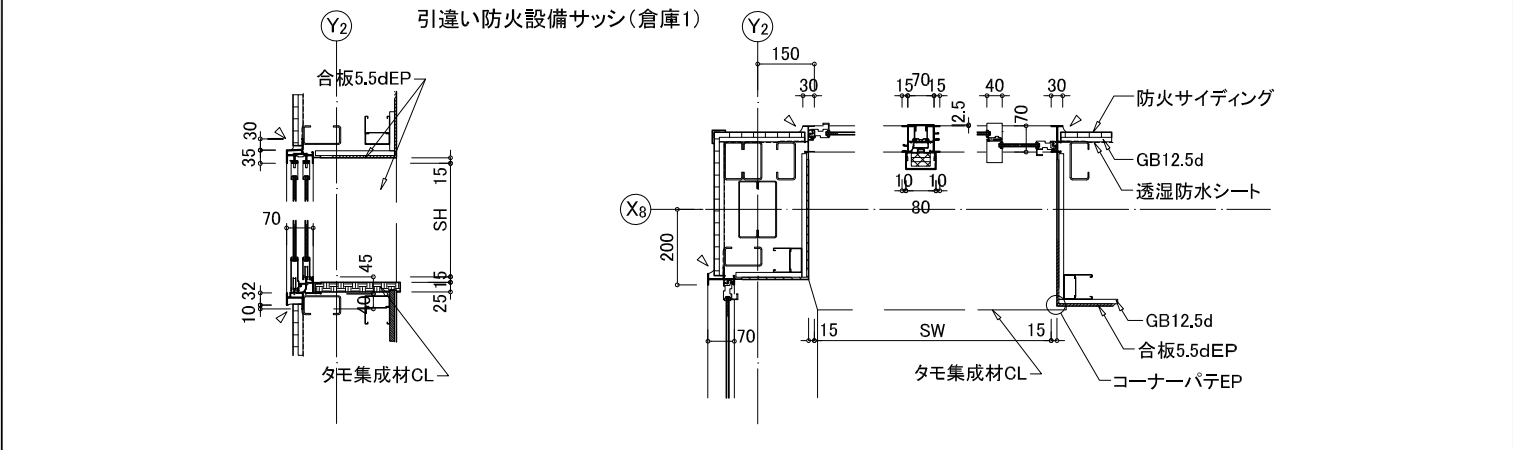


DRAWING	CHECK	DATE	SCALE	MAP NAME	CONSTRUCTION NAME	MAP NO.
			A1 1/10 A3 1/20	部分詳細図-1	令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事	A-60

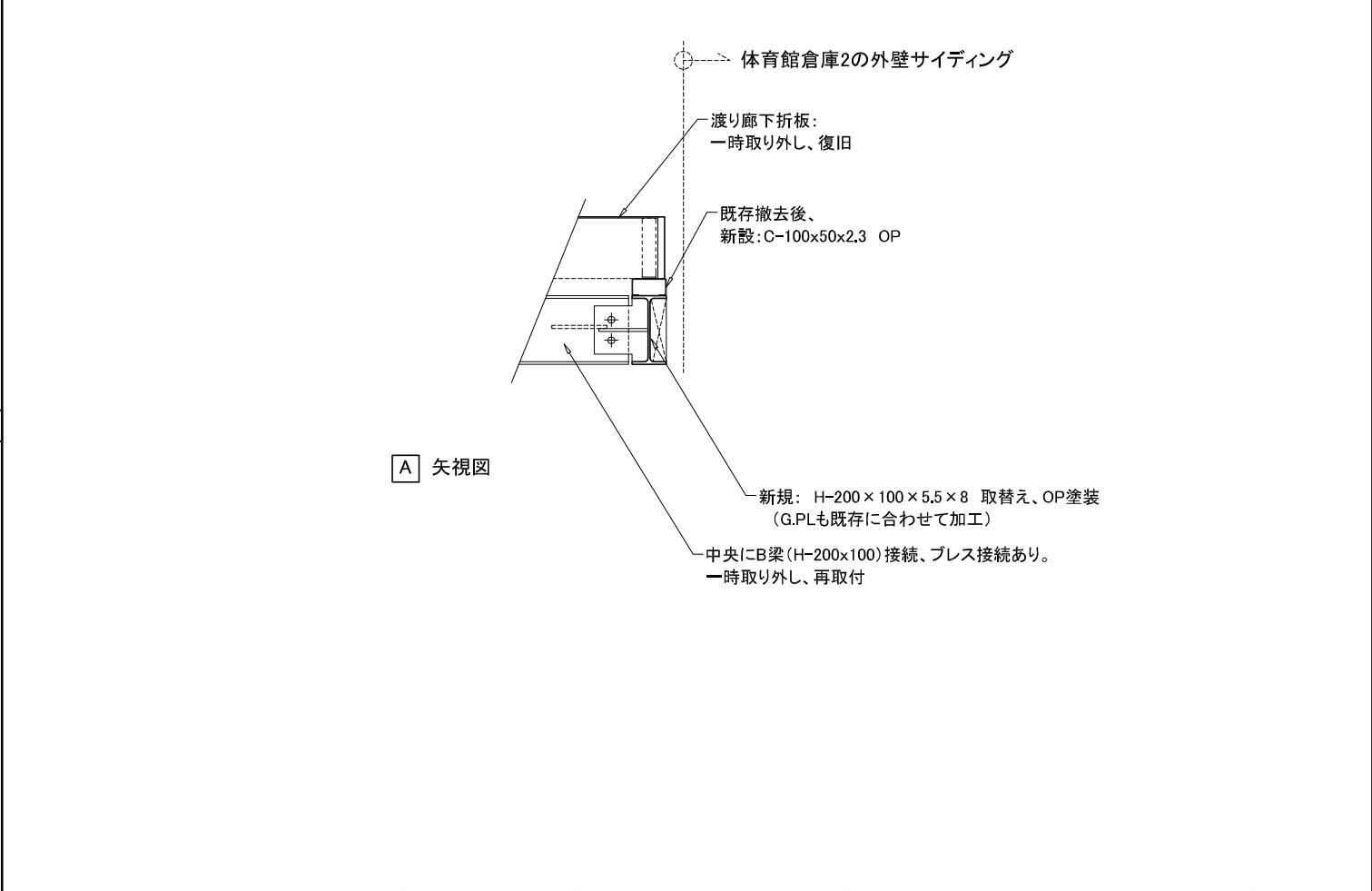
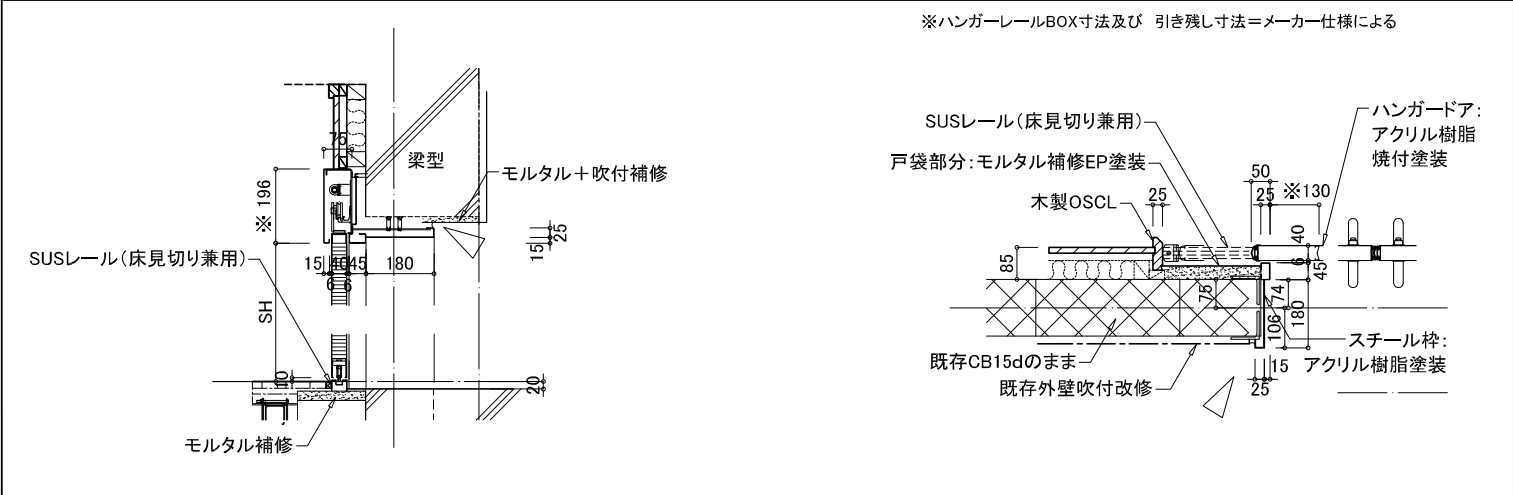


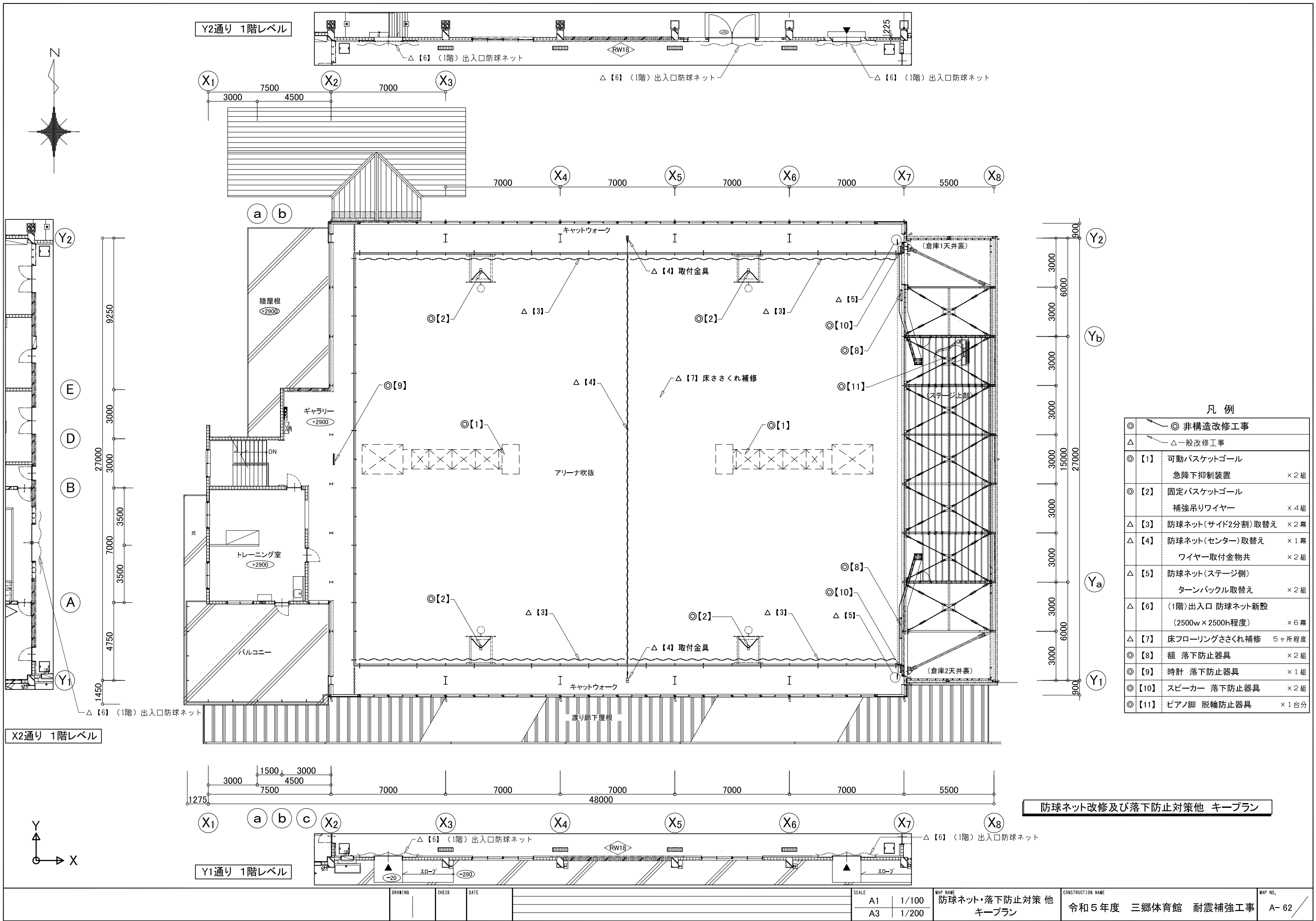


サッシ詳細図 (AW-1、AW-2)S=1/20



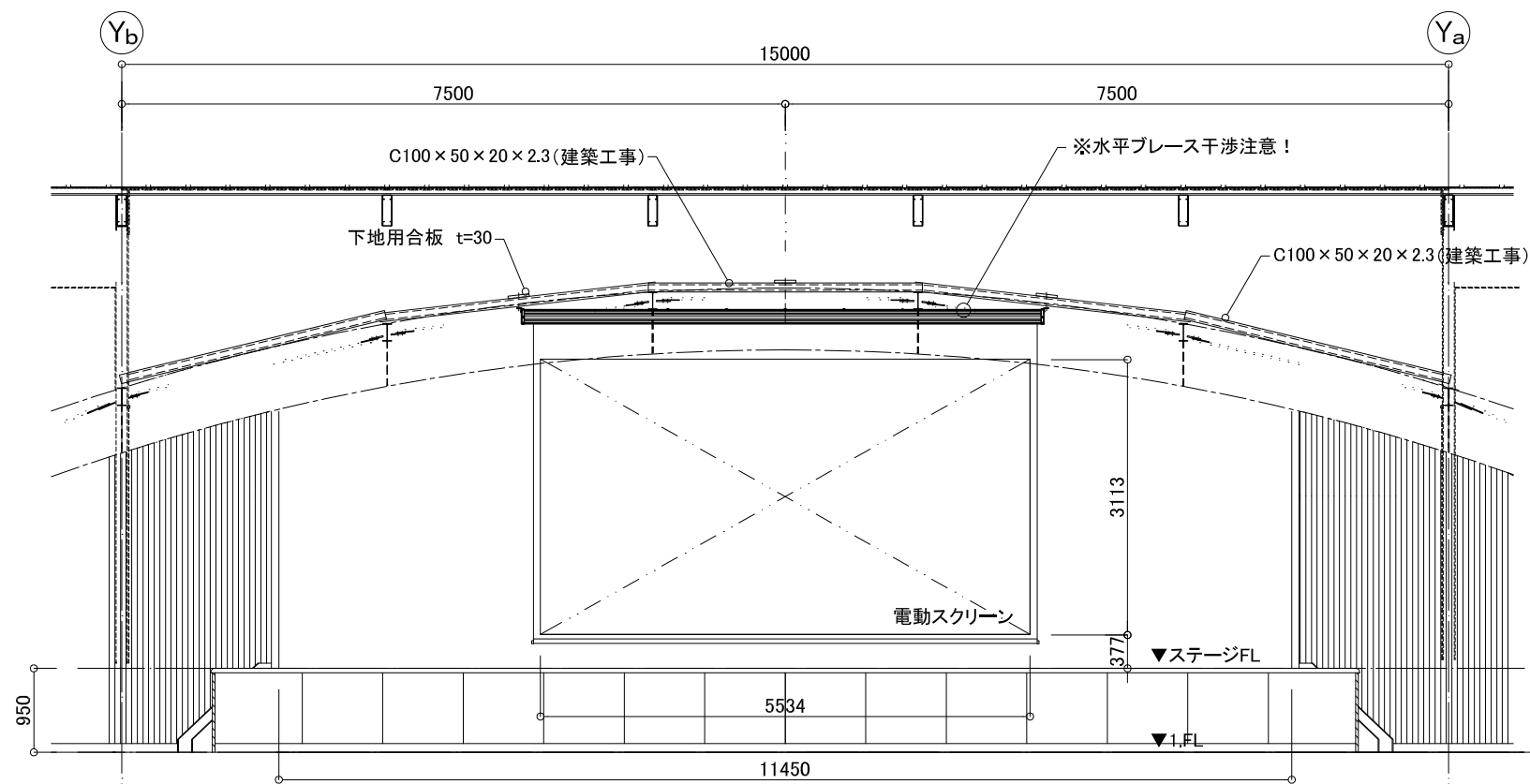
ハンガー引き戸 詳細図 (SD-2a、SD-2b)S=1/20



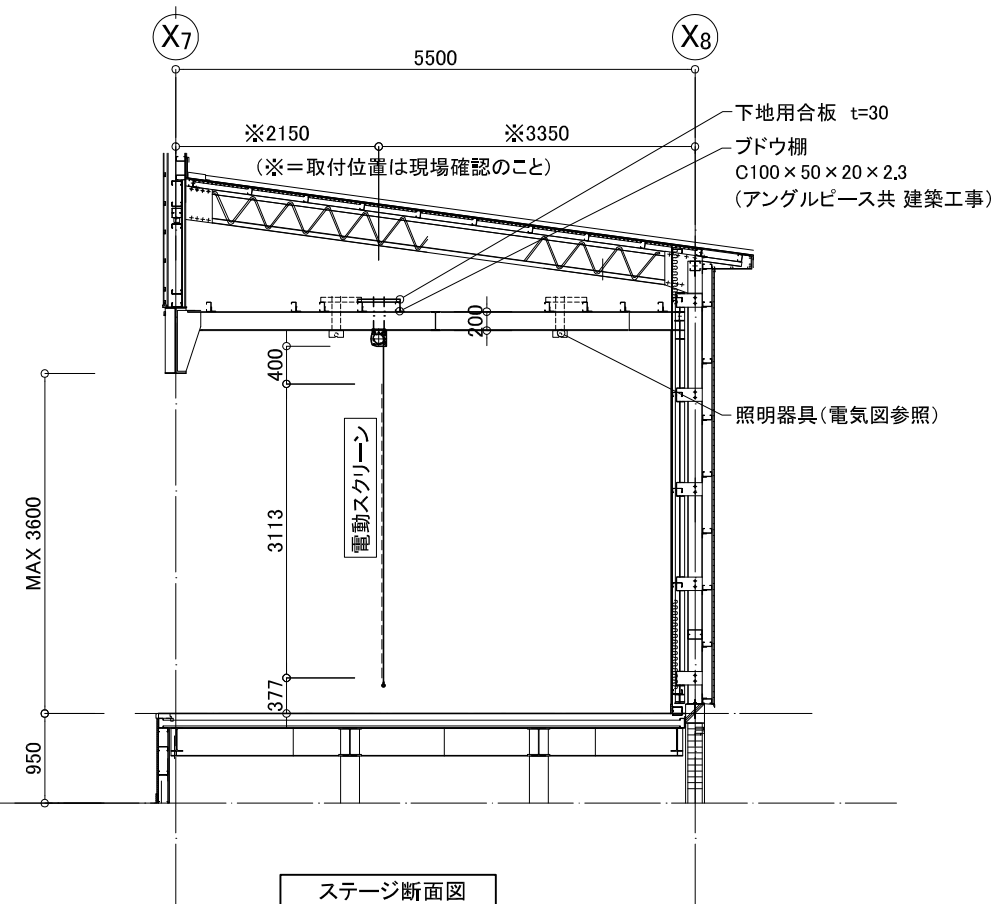


凡 例	
◎	◎ 非構造改修工事
△	△ 一般改修工事
◎【1】	可動バスケットゴール 急降下抑制装置 × 2 組
◎【2】	固定バスケットゴール 補強吊りワイヤー × 4 組
△【3】	防球ネット(サイド2分割)取替え × 2 幕
△【4】	防球ネット(センター)取替え × 1 幕 ワイヤー取付金物共 × 2 組
△【5】	防球ネット(ステージ側) ターンバックル取替え × 2 組
△【6】	(1階)出入口 防球ネット新設 (2500w×2500h程度) × 6 幕
△【7】	床フローリングささくれ補修 5ヶ所程度
◎【8】	額 落下防止器具 × 2 組
◎【9】	時計 落下防止器具 × 1 組
◎【10】	スピーカー 落下防止器具 × 2 組
◎【11】	ピアノ脚 脱輪防止器具 × 1 台分

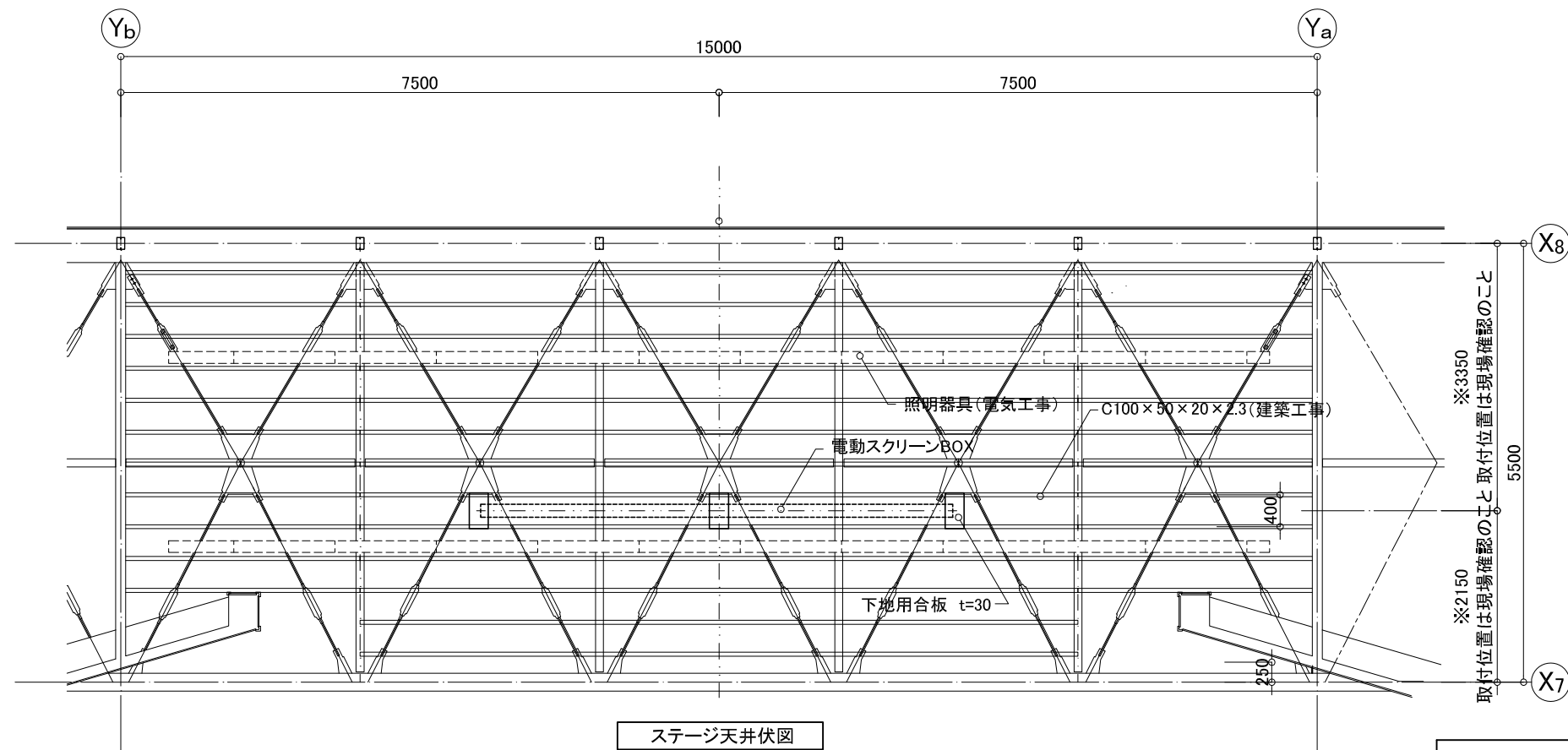
防球ネット改修及び落下防止対策他 キープラン



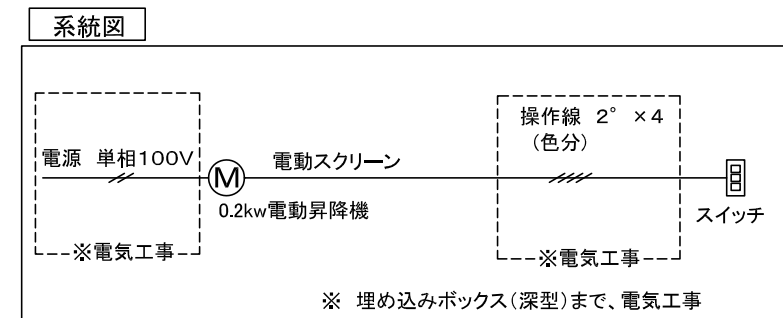
矢視図  
(アリーナ側からの矢視)



ステージ断面図

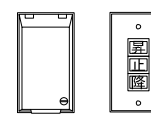


ステージ天井伏図

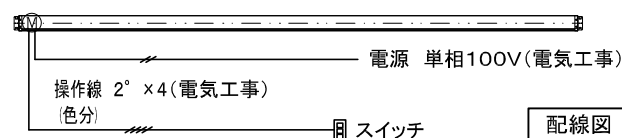


※ スwitchの位置は、現場協議のこと。ただし、スクリーンの動作が見える位置に設置とする。

スイッチ詳細図

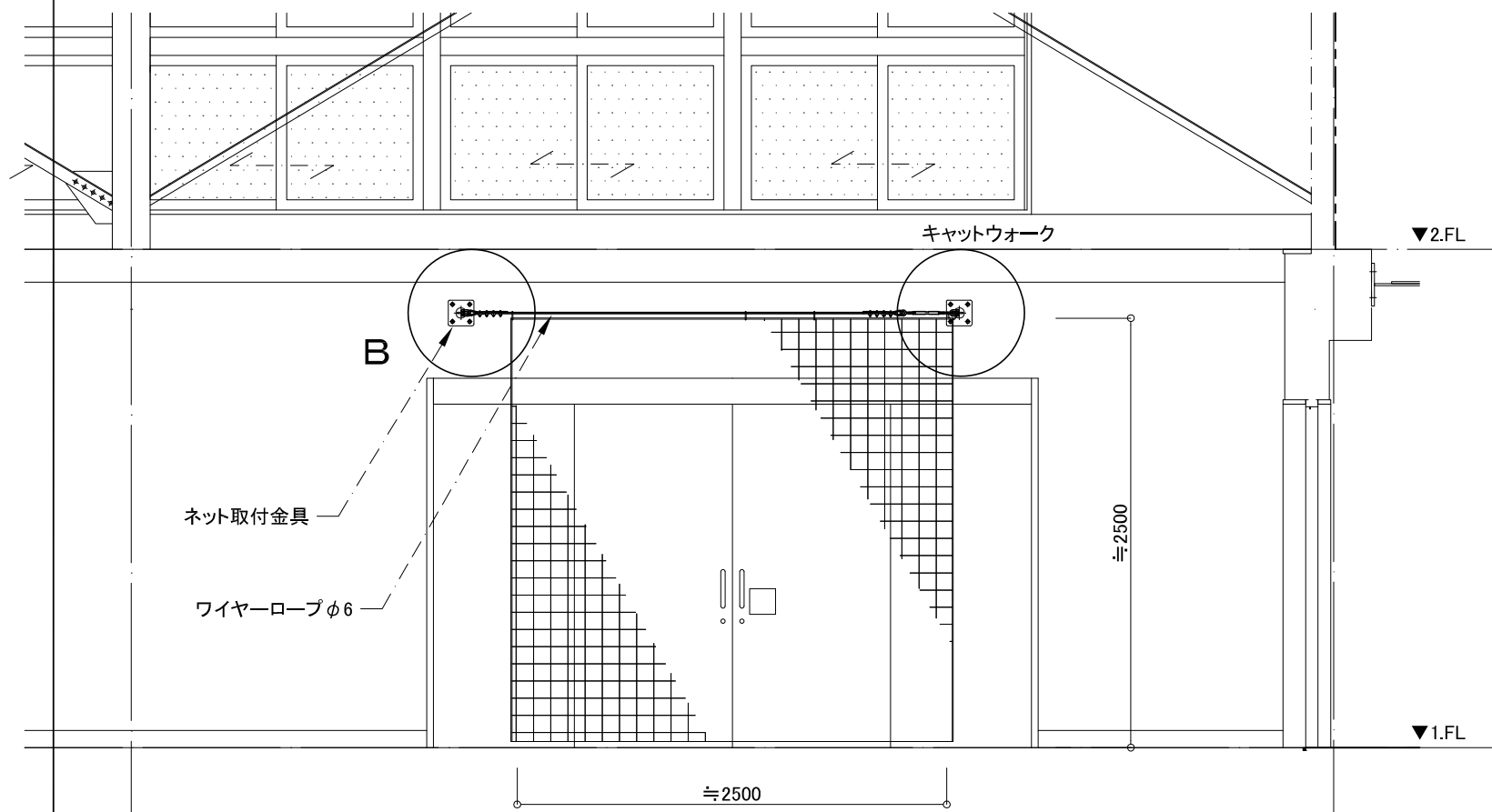
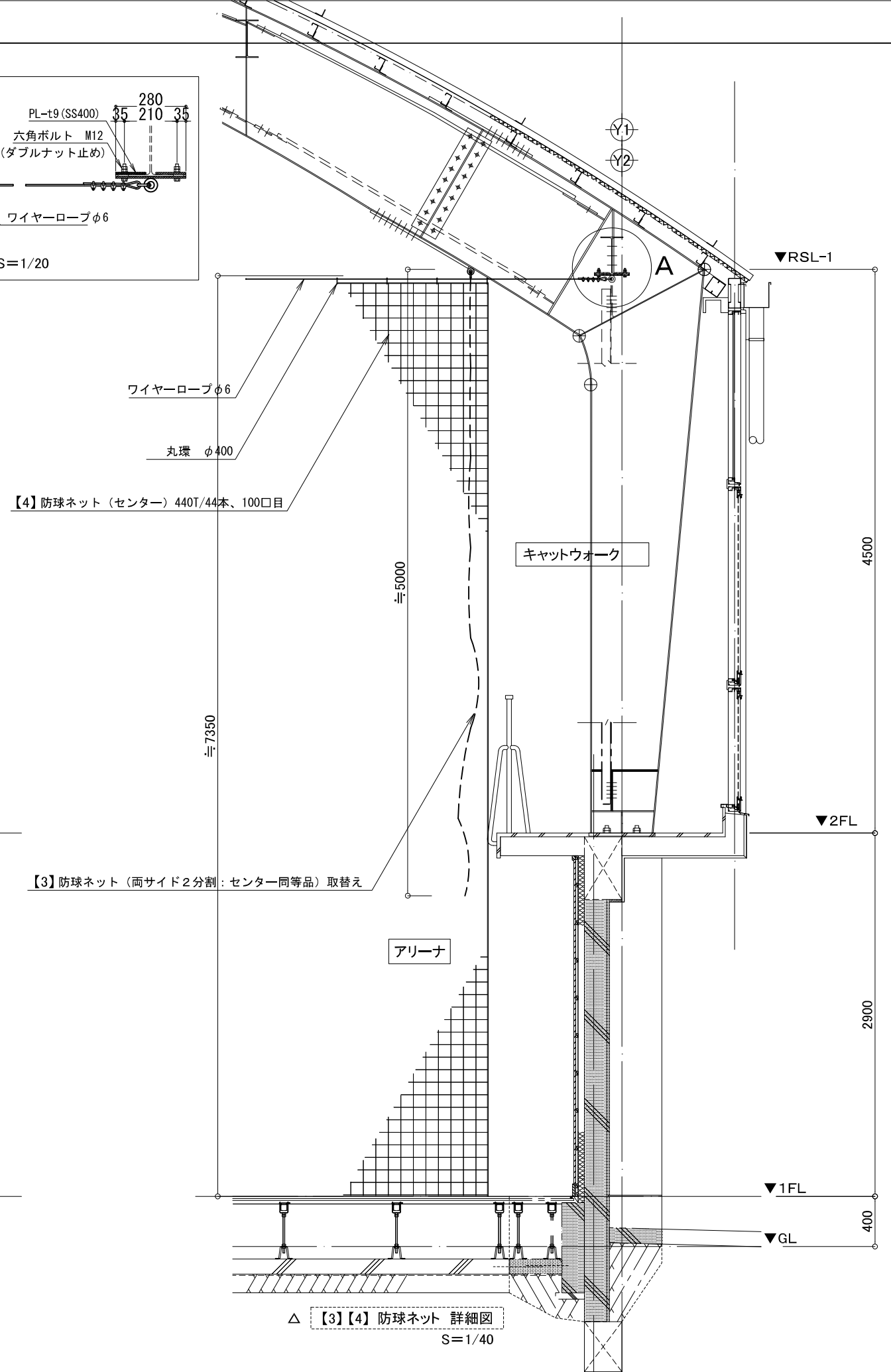
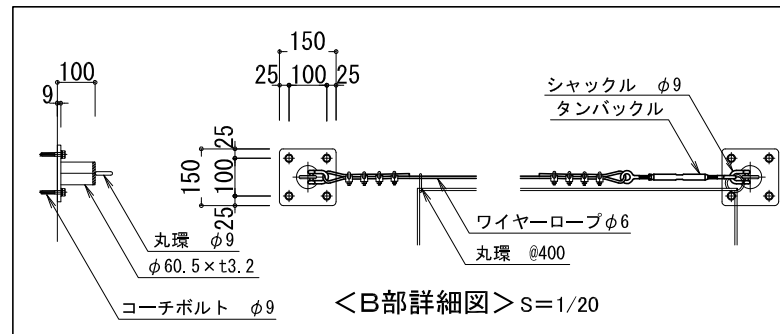


スクリーン用スイッチ  
(パナソニック電工  
金属ガードプレート WN7873K)



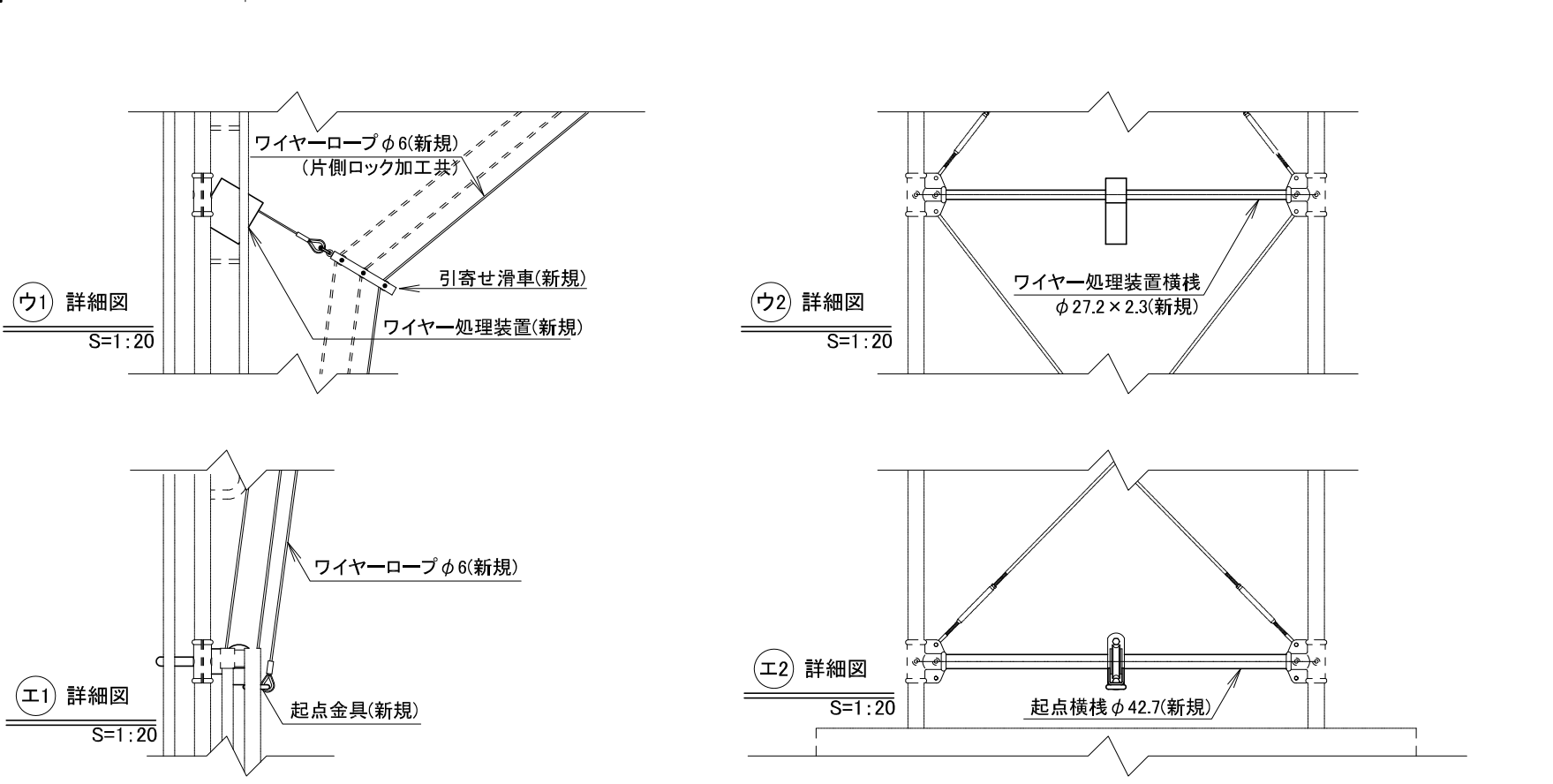
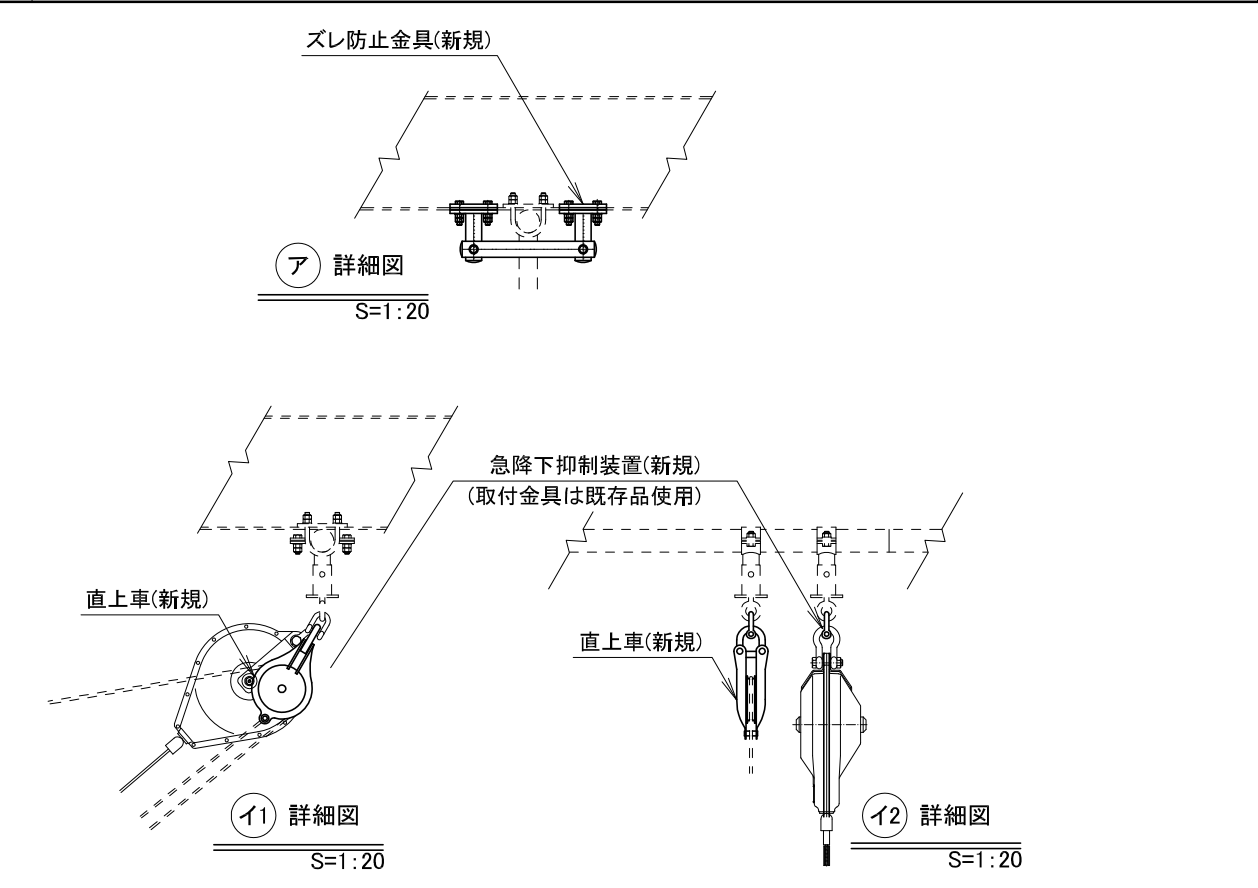
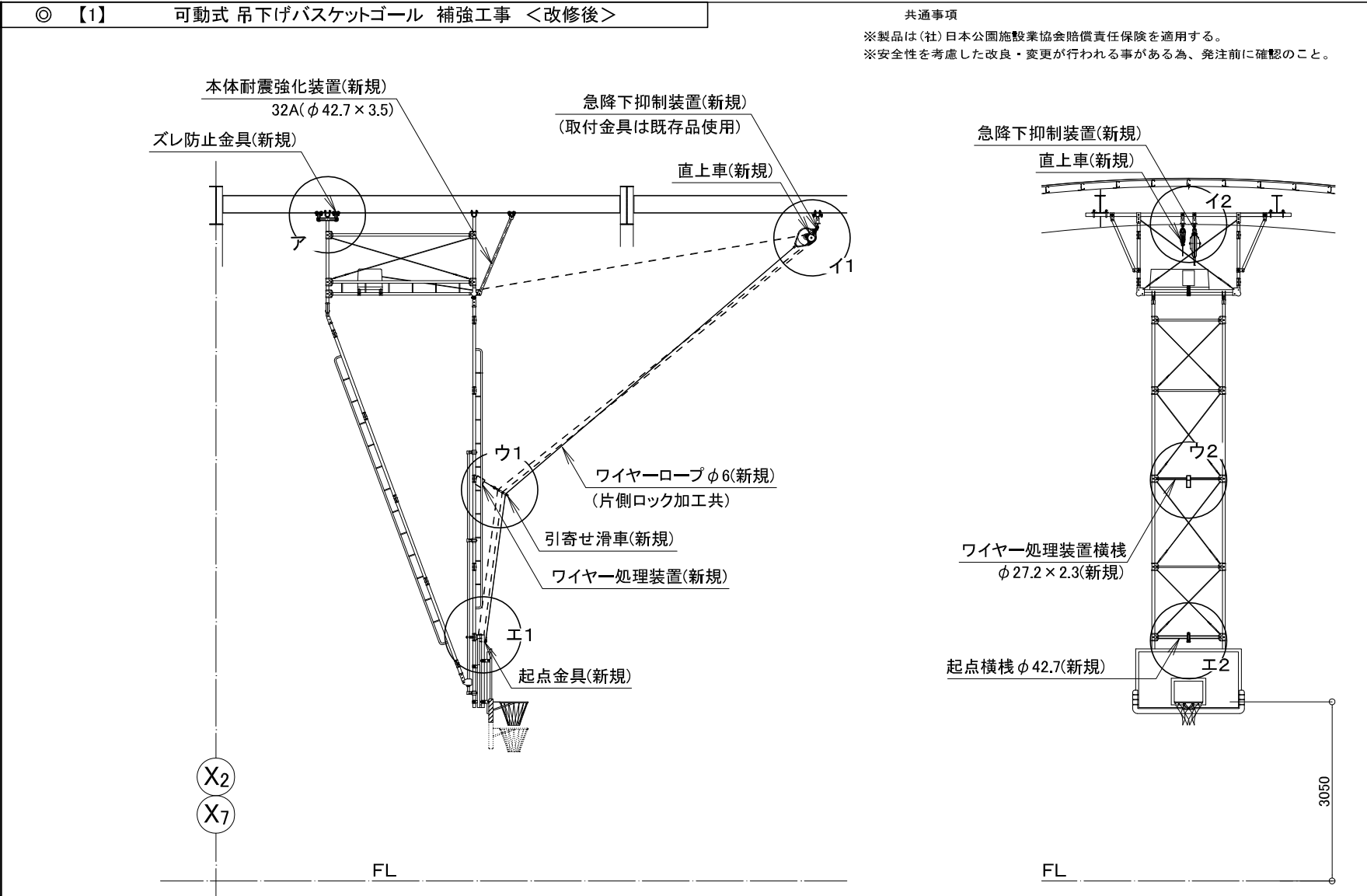
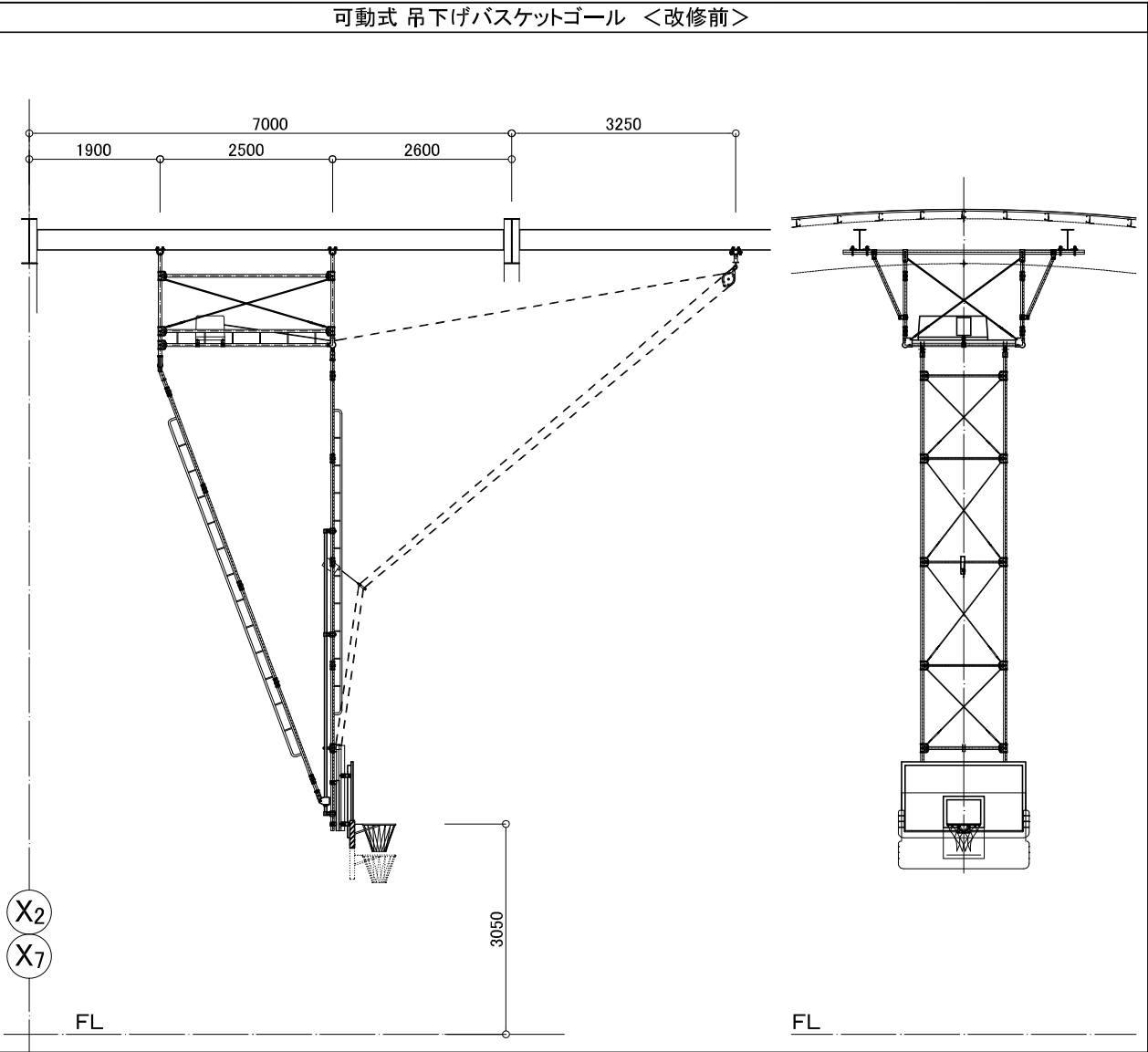
仕様書	
映写スクリーン	電動昇降式スクリーン、ハイビジョンサイズ16:9、250インチ(ナノホワイト:イメージサイズW5534×H3113)ケース入、上黒H=400 標準仕様 スクリーン用電動ドラム巻上げ式、単相100V200W電動機、ボルト吊り
ステージ廻り 特記事項	※ 取付位置は現地調査後、決定のこと。 ※ 建築工事=ブドウ棚・ボックス・天板・点検口・タラップ、仕上塗装 等 ※ 電気工事=1次配線工事(電源及び操作線)及び 舞台照明装置 等

DRAWING	CHECK	DATE	SCALE		MAP NAME	CONSTRUCTION NAME	MAP NO.
			A1	1/40			
			A3	1/80	電動スクリーン詳細図	令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事	A- 63



△ **【6】1階出入口防球ネット 新設**  
S=1/40

DRAWING	CHECK	DATE		SCALE		MAP NAME 防球ネット 詳細図	CONSTRUCTION NAME		MAP NO. A- 64
				A1	1/10, 1/20		令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事		
				A3	1/20, 1/40				

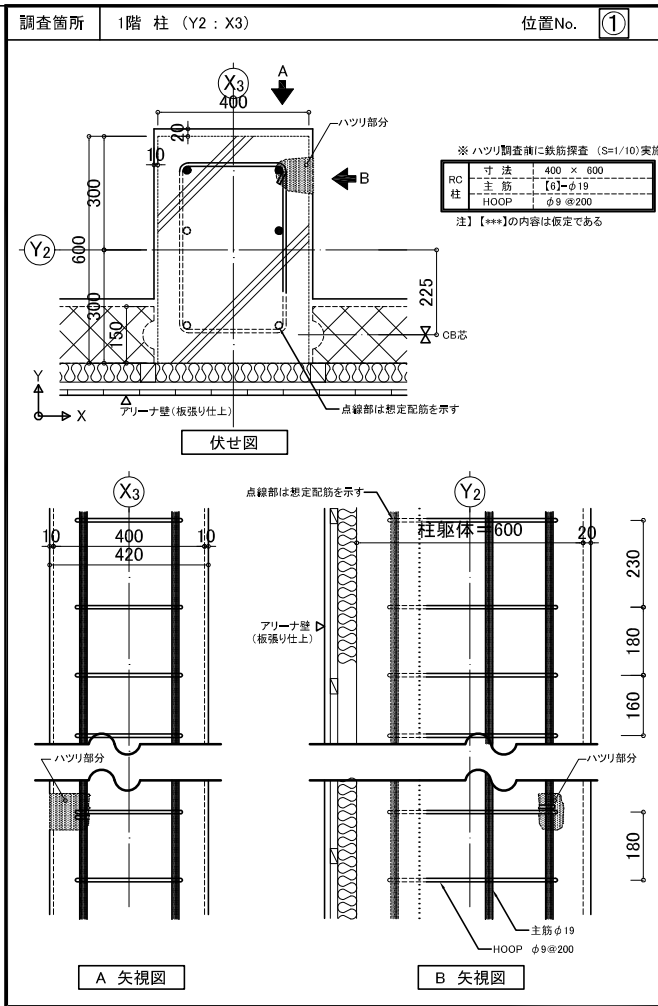


	DRAWING	CHECK	DATE			SCALE		MAP NAME	CONSTRUCTION NAME	MAP NO.
				A1	1/50、1/10					
				A3	1/100、1/20					
可動式バスケットゴール補強図 令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事 A-65										

◎ 【2】 固定式バスケットゴール 補強吊りワイヤー				◎ 【8】 額 落下防止器具詳細				◎ 【9】 時計 落下防止器具詳細			
<div><p>280 35 210 35 PL-t9 (SS400) 六角ボルト M12 (ダブルナット止め)</p><p>125 75</p><p>&lt; A部 詳細図 S=1/10 &gt;</p></div>				<div><p>(NON)</p><p>(クランプ金具へ)</p><p>ワイヤーロープ φ3</p><p>&lt; 取付金具部 &gt;</p><p>FB-3×32 色：つや消し黒</p><p>六角ボルト M10</p><p>100</p><p>15</p><p>ズレ止め用ビス</p><p>クランプ金具 SUS</p><p>ワイヤーロープ φ3</p><p>FB-3×32 (艶消し黒)</p><p>六角ボルト M10</p><p>&lt; 正面図 &gt;</p><p>ズレ止め用ビス</p><p>&lt; 断面図 &gt;</p></div>				<div><p>(NON)</p><p>取付金具 (クランプ) ※梁(躯体)に固定</p><p>ワイヤーロープφ3</p><p>板型クリップ SUS</p><p>六角ボルト M10</p><p>バンド金具</p><p>鉄板ビス φ4</p><p>時計(既存品)</p><p>(4ヶ所程度固定)</p><p>&lt; 正面図 &gt;</p><p>&lt; 断面図 &gt;</p></div>			
<div><p>5200</p><p>△【3】 防球ネット(サイド)取替え</p><p>▼RSL-1</p><p>4500</p><p>7400</p><p>▼2FL</p><p>2900</p><p>▼1FL</p><p>◎ 【2】 固定バスケットゴール 補強吊りワイヤー φ6</p><p>固定式バスケットゴール</p><p>固定式バスケットゴール</p><p>▼1FL</p><p>&lt; 正面図 S=1/60 &gt;</p><p>&lt; 側面図 S=1/60 &gt;</p></div>				◎ 【10】 スピーカー 落下防止器具詳細							
				<div><p>(NON)</p><p>取付金具 (クランプ) ※梁(躯体)に固定</p><p>ワイヤーロープφ3</p><p>板型クリップ SUS</p><p>六角ボルト M10</p><p>バンド金具</p><p>スピーカー(既存品)</p><p>タッピングφ4 (6ヶ所程度固定)</p><p>&lt; 正面図 &gt;</p><p>&lt; 断面図 &gt;</p></div>							
◎ 【11】 ピアノ脚 脱輪防止器具 詳細図				◎ 【11】 ピアノ脚 脱輪防止器具 詳細図							
<div><p>(S=1/5 )</p><p>φ150</p><p>φ55</p><p>(キャスター受け部)</p><p>強化樹脂製</p><p>25</p><p>50</p><p>底面：特殊ゴム加工</p><p>※フローリングへの色移りしない材質エラストマー使用</p></div>				<div><p>(NON)</p><p>取付金具 (クランプ) ※梁(躯体)に固定</p><p>ワイヤーロープφ3</p><p>板型クリップ SUS</p><p>六角ボルト M10</p><p>バンド金具</p><p>スピーカー(既存品)</p><p>タッピングφ4 (6ヶ所程度固定)</p><p>&lt; 正面図 &gt;</p><p>&lt; 断面図 &gt;</p></div>							
共通事項 ※製品は(社)日本公園施設業協会賠償責任保険を適用する。 ※安全性を考慮した改良・変更が行われる事がある為、発注前に確認のこと。				SCALE A1   1/2.5, 1/5, 1/30 A3   1/5, 1/10, 1/60		MAP NAME 落下防止器具他 詳細図		CONSTRUCTION NAME 令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事		MAP NO. A-66	

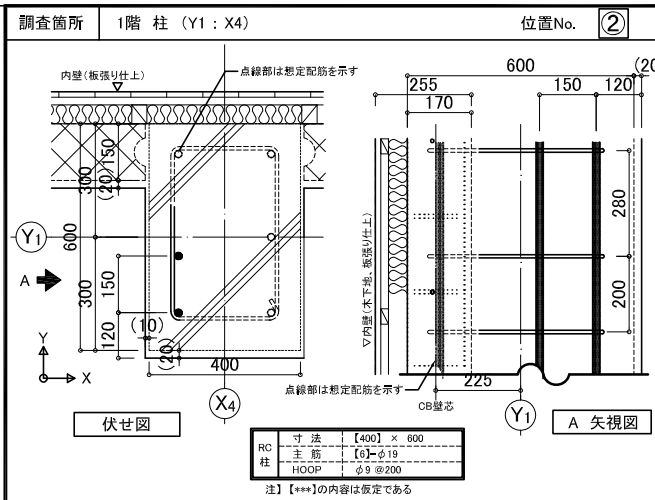
①

## 主要構造柱



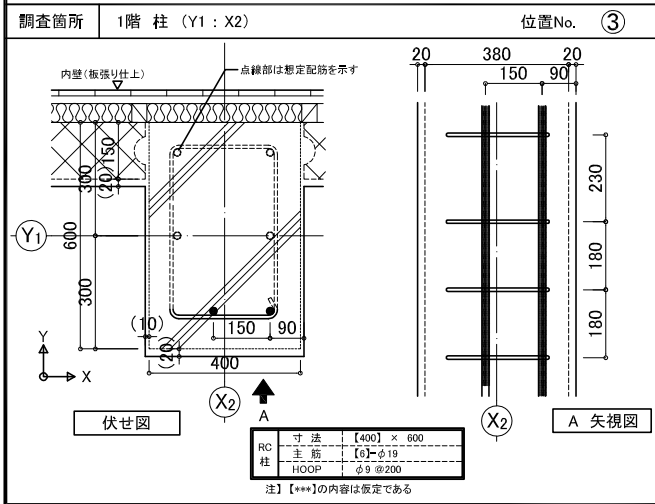
②

## 主要構造 柱(渡り廊下側)



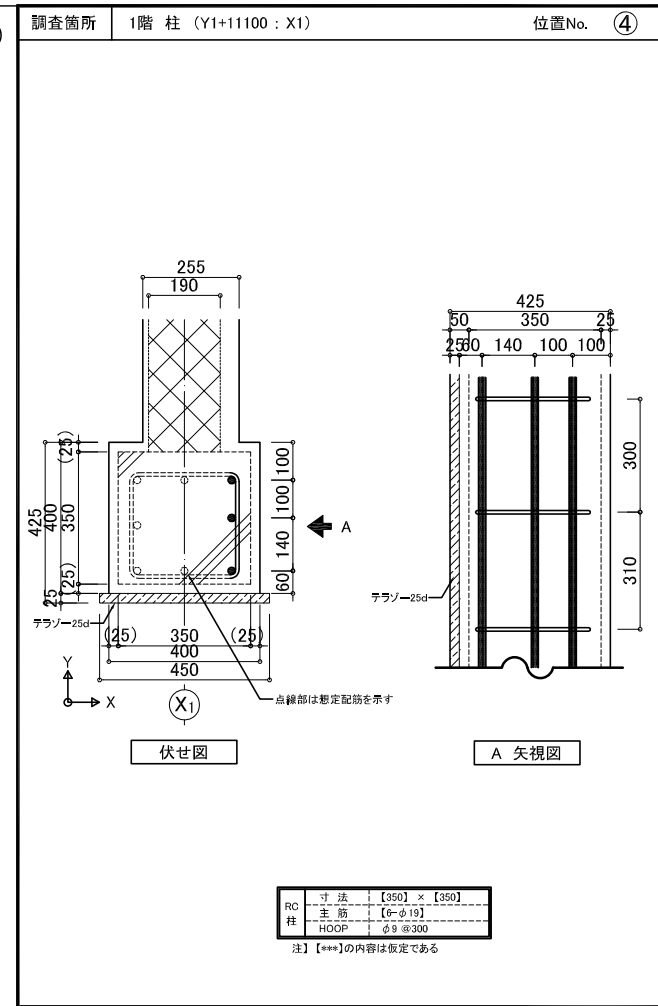
③

## 主要構造 柱(渡り廊下側)



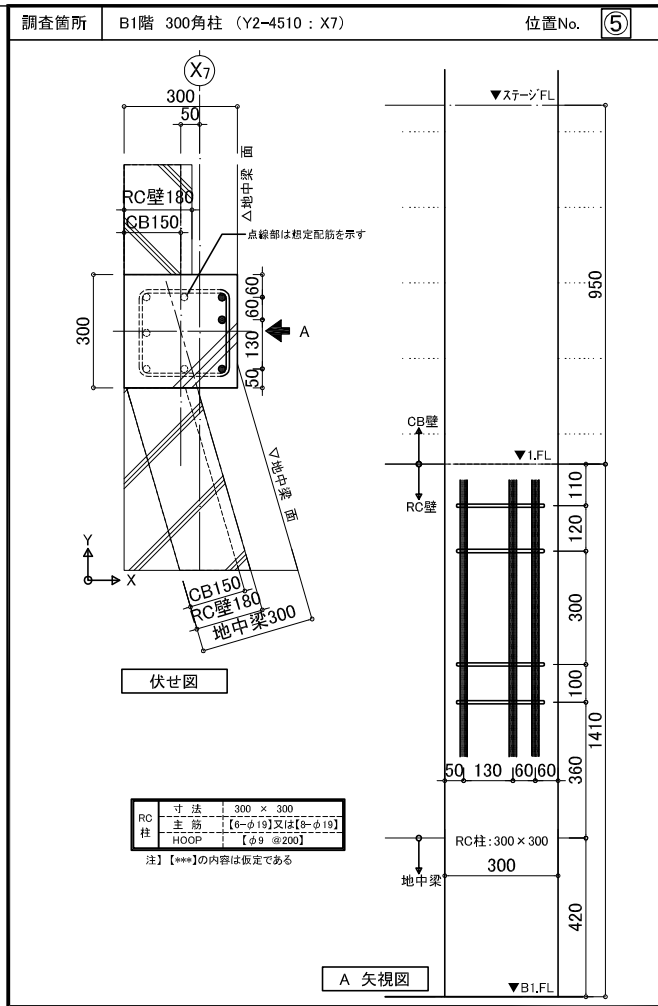
④

## ポーチ柱型



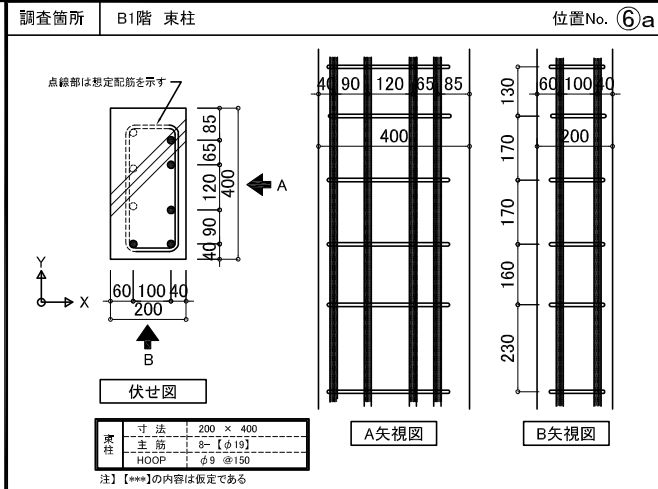
⑤

## B1階 プロセシウム柱型



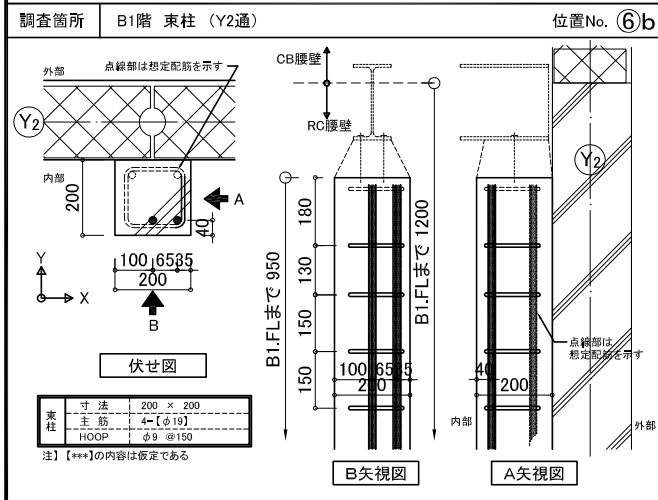
⑥a

## B1階 東柱



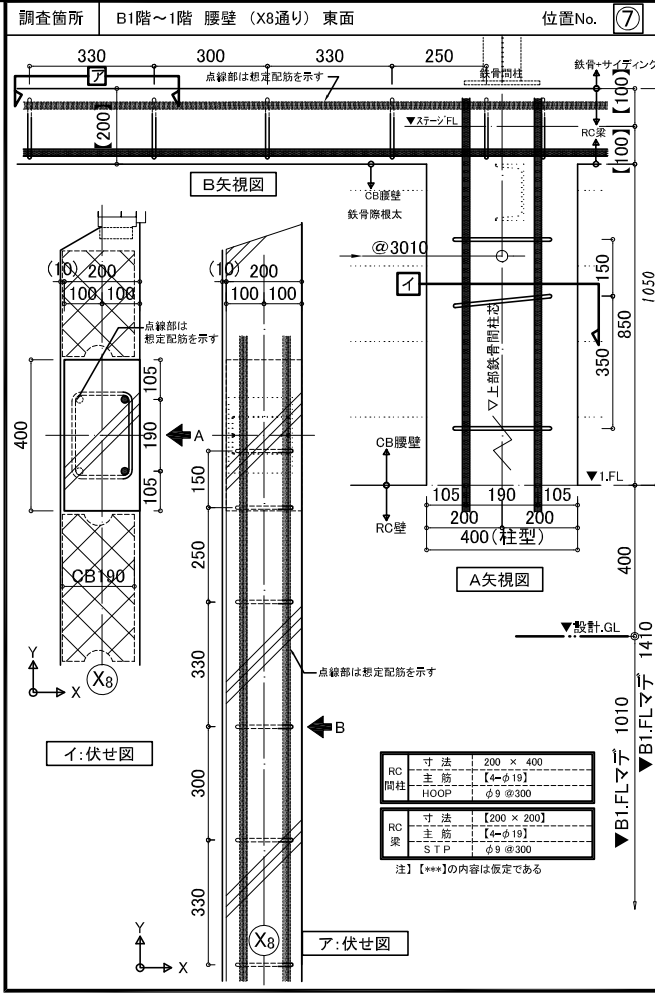
⑥b

## B1階 東柱



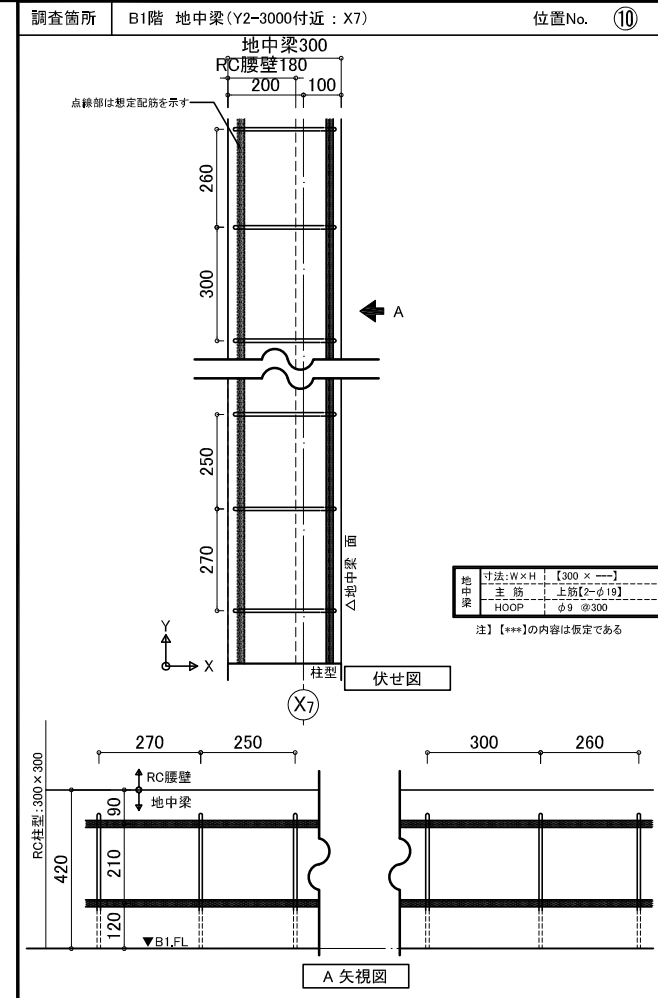
⑦

## 東側(X8通)腰壁・柱・梁



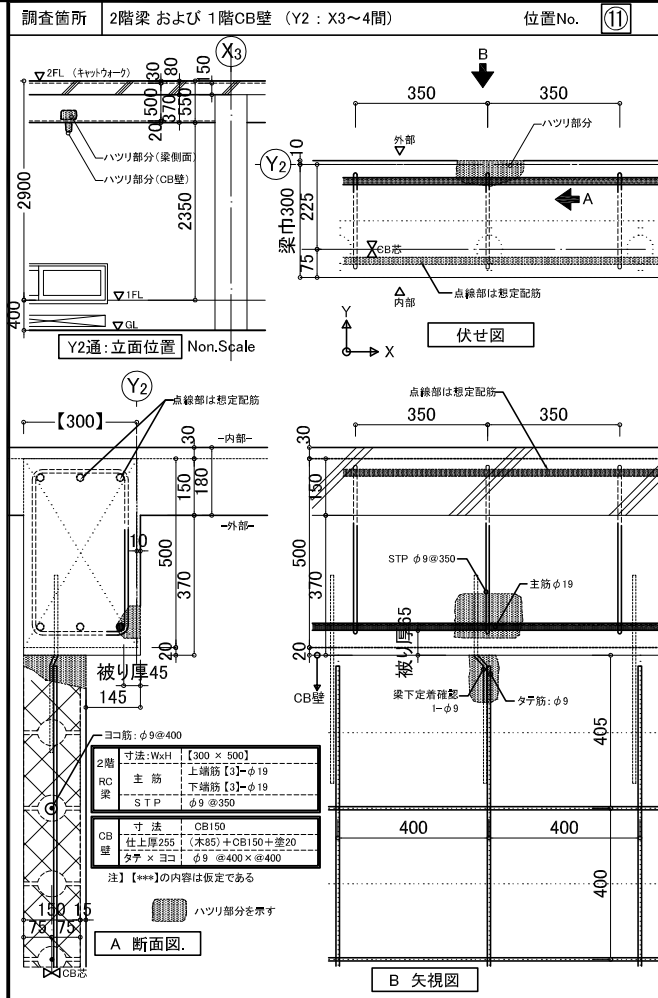
⑩

## 地中梁



⑪

## 梁折り、CB定着



DRAWING

CHECK

DATE

変更無し

SCALE

A1

1/10

MAP NAME

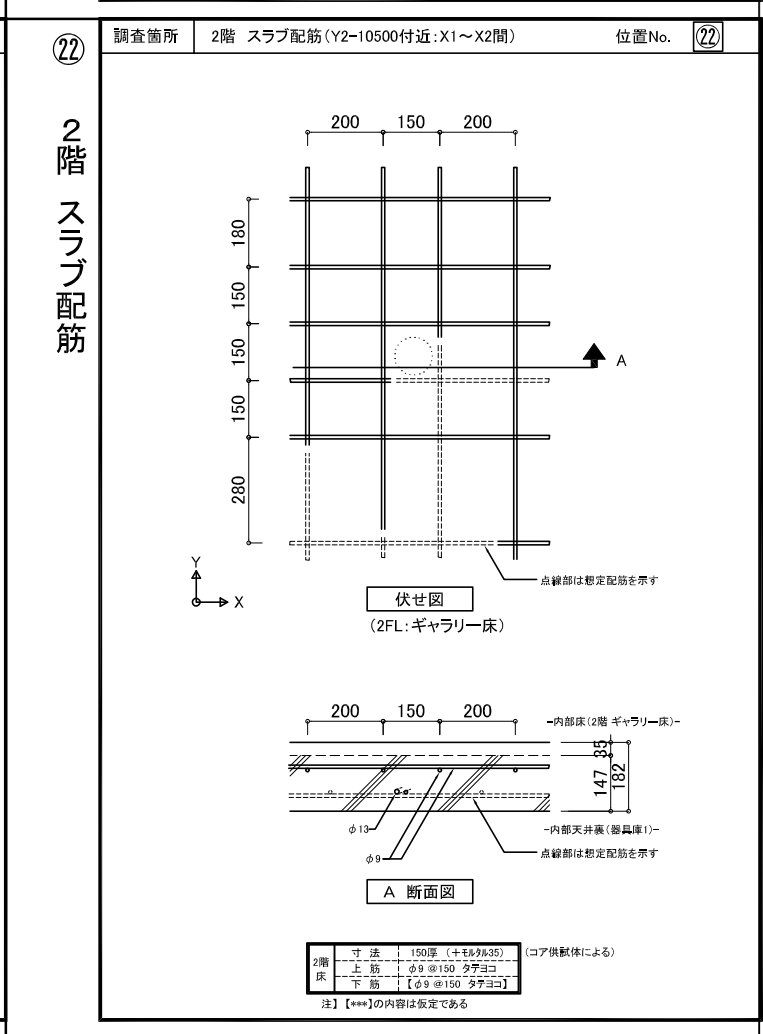
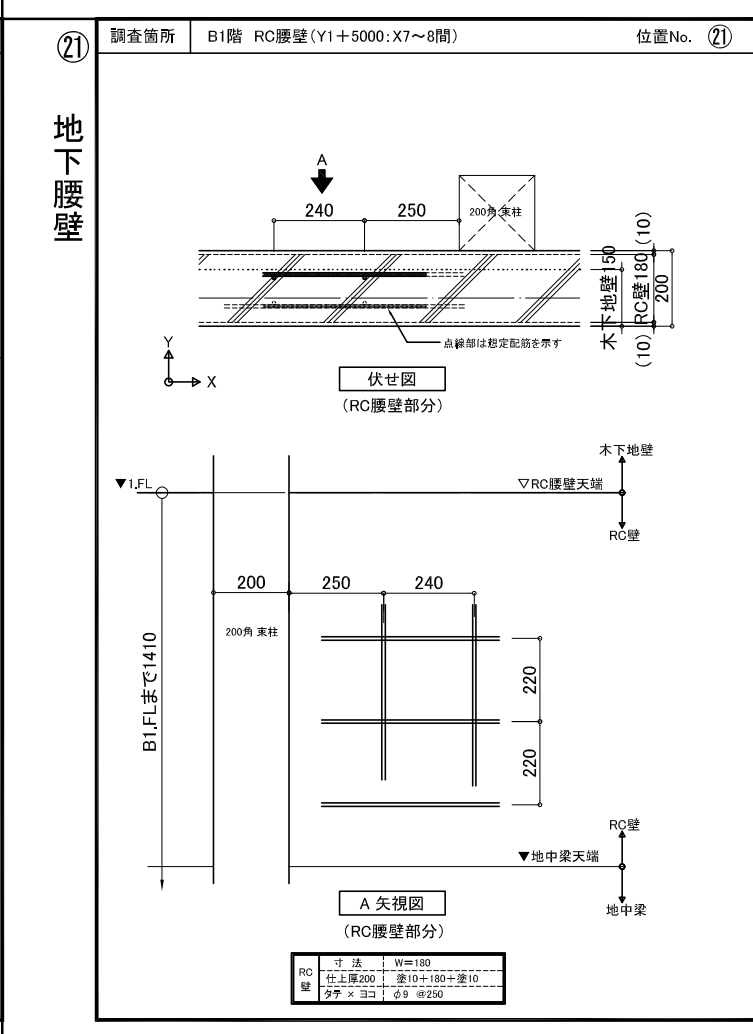
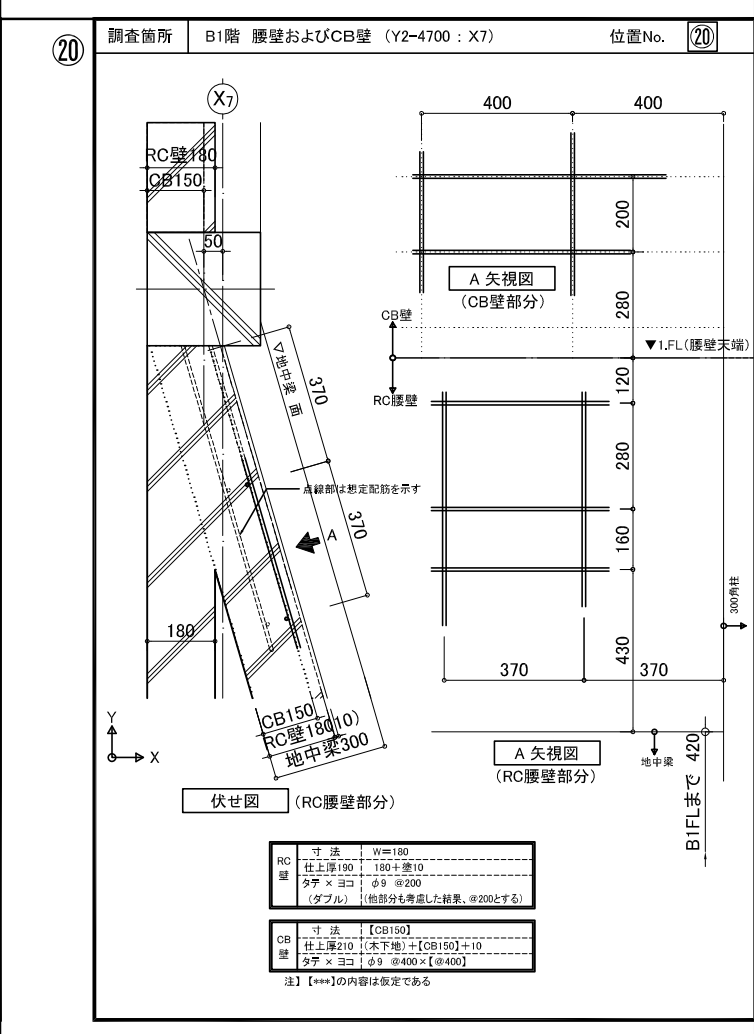
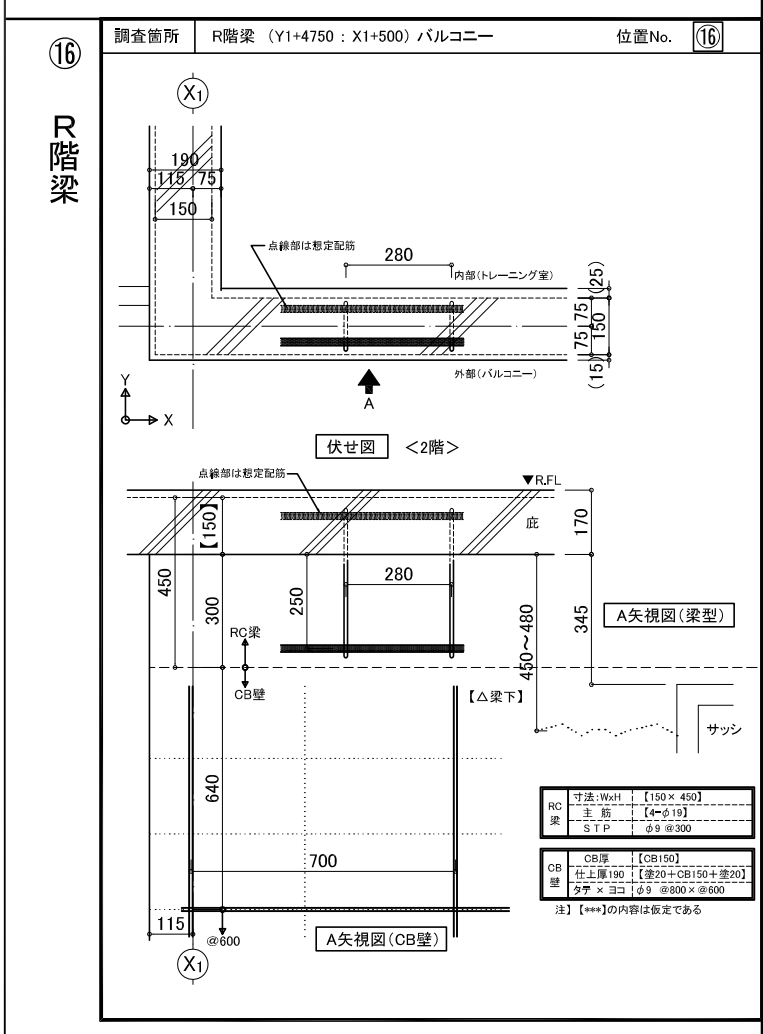
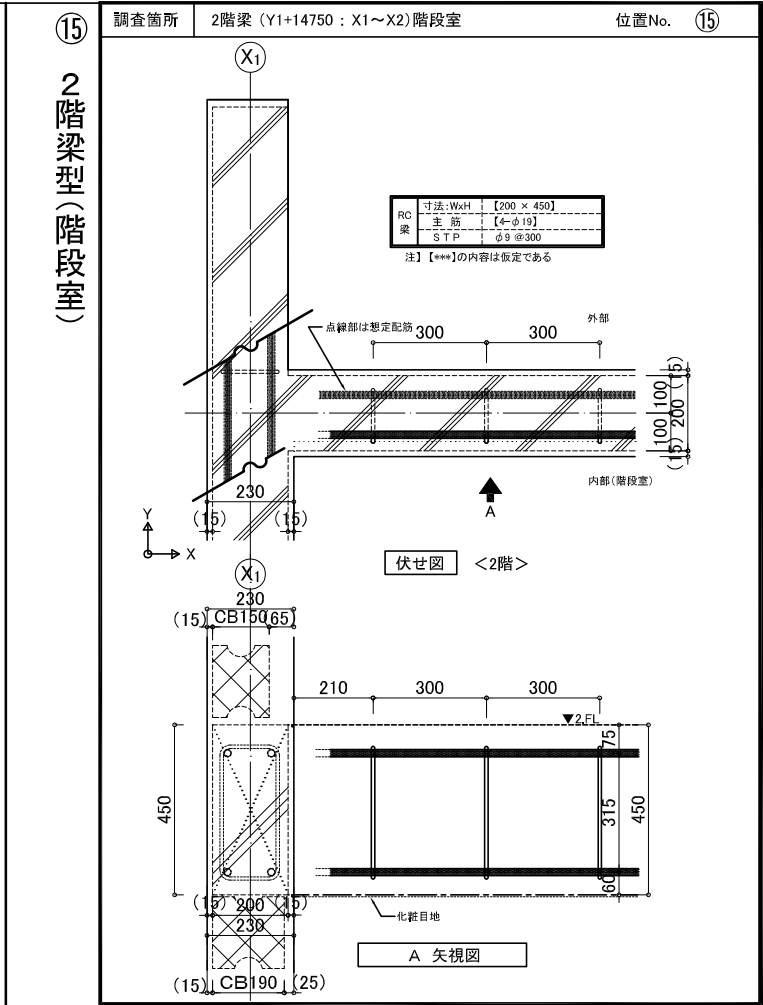
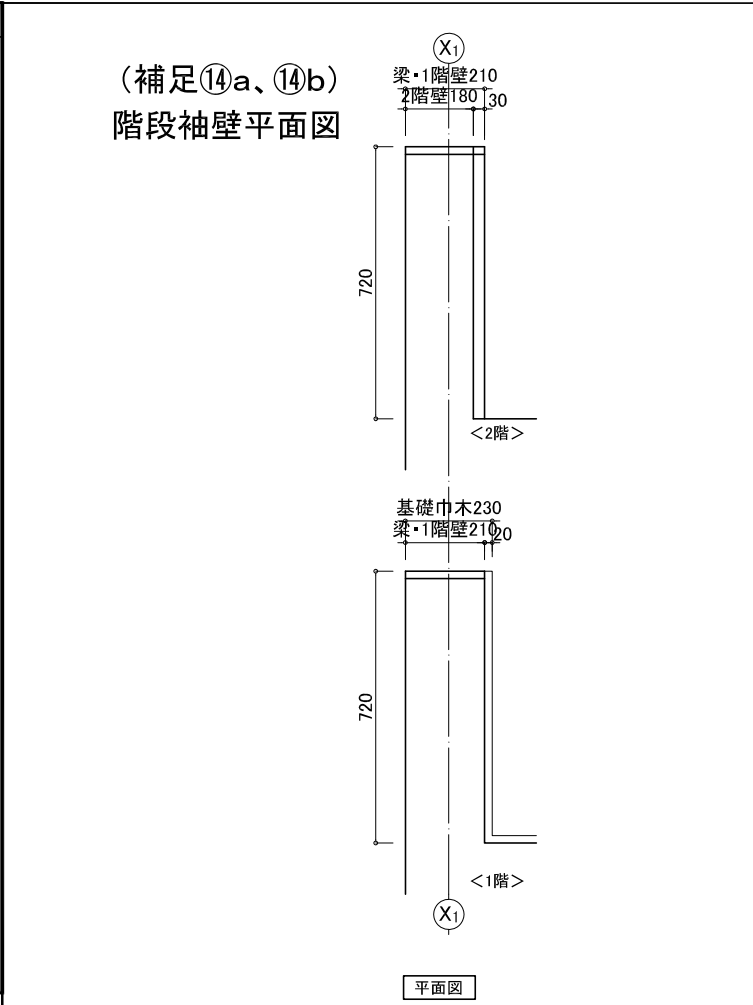
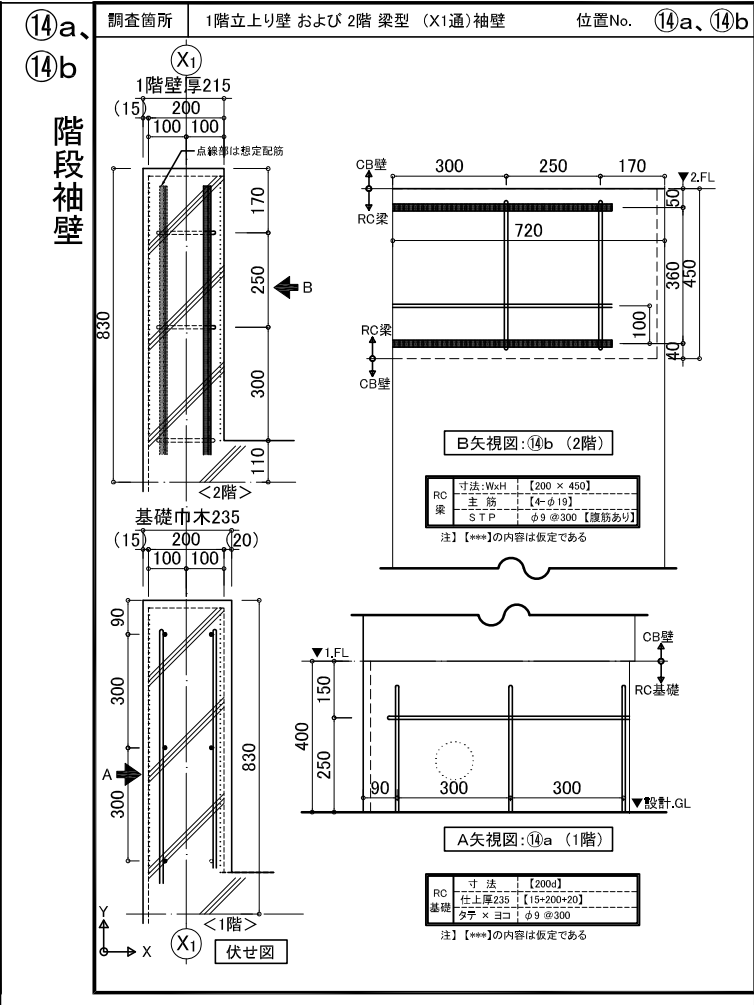
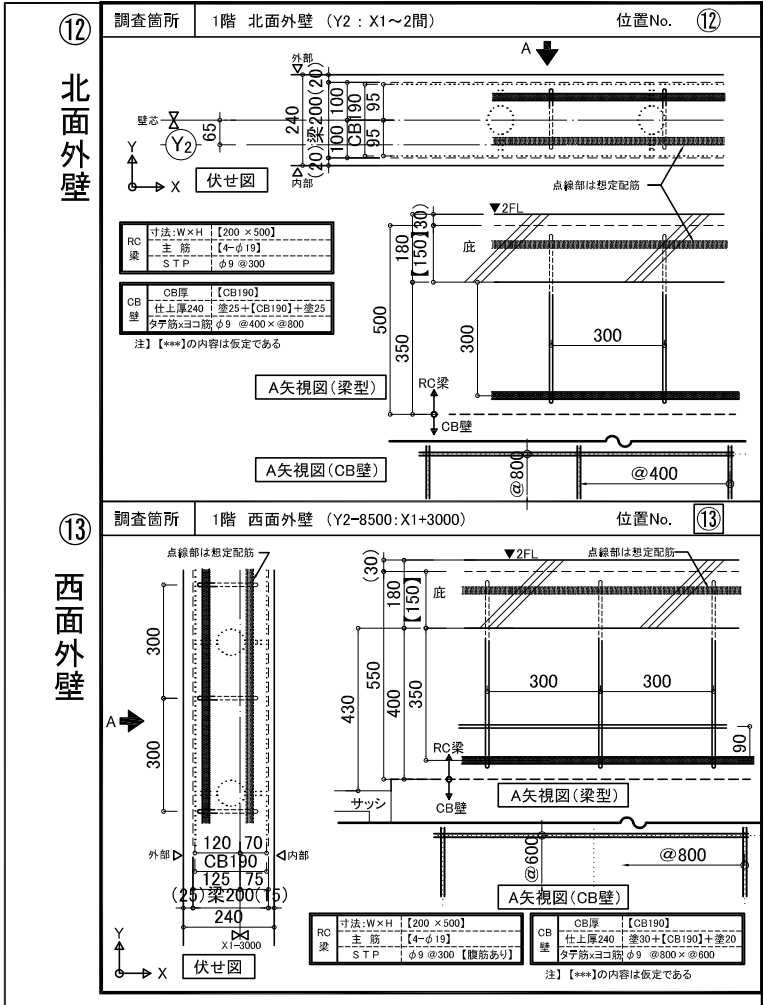
現地調査結果 詳細図-1

CONSTRUCTION NAME

令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事

MAP NO.

A-67





1. 建築工事仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、下記基準書による。
1. 公共建築工事標準仕様書（監修 国土交通省大臣官庁官庁営繕部）
2. 2001年改訂版 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針同解説（監修 国土交通省住宅局建築指導課）
3. 官庁施設の総合耐震診断・改修基準及び同解説（財団法人 建築保全センター）
4. 建築工事標準仕様書（社団法人 日本建築学会）
JASS 5 鉄筋コンクリート工事（最新版） JASS 6 鉄骨工事（最新版）
5. 鉄骨工事技術指針・同解説（社団法人 日本建築学会）
6. 鉄筋コンクリート構造計算基準・同解説（社団法人 日本建築学会）
7. 各種合成構造設計指針・同解説（社団法人 日本建築学会）
8. 公共建築改修工事標準仕様書（国土交通省大臣官庁官庁営繕部）
9. 建築改修工事監理指針（国土交通省大臣官庁官庁営繕部）

2. 躯体工事

● A. 一般事項

- 1. 適用
- ・項目は●印、■印のものを適用する。

・同一項目に●印、■印が2箇所以上ある場合は、共にこの工事に適用し、その適用区分は設計図による。

・筆記により記載された事項は適用する。
- 2. 補強箇所の確認
- 補強箇所は工事に先立ち、既存構造部材寸法、配筋、配置(平面・断面)等の確認を行うこと。

● B. 土工事

- 1. 埋戻し及び盛土の種類

種 別	材 料	工 法
○ A 種	山砂の類	水締め、機器による締固め
● B 種	根切り土の中の良質土	機器による締固め
○ C 種	他現場の建設発生土の中の良質土	機器による締固め
○ D 種	再生コンクリート砂	水締め、機器による締固め

（注）埋戻し及び盛土の種類がB種又はC種で、土質が埋戻し及び盛土に適さない場合は係員と協議すること。

- 2. 建設発生土の処理
- 場外に搬出し適切に処理する。○
- 3. 山 留
- 指定無

○ 指定有

● C. 地業工事

- 1. 試 験

試験の項目	条 件
○ 平板載荷試験（ヶ所）	最大荷重 KN/㎡
○ 表面波探査法	最大荷重 KN/㎡
○ スウェーデン式サウンディング試験	最大荷重 KN/㎡

- 2. 砂利地業

適用箇所	基礎・基礎梁下	1階スラブ下
材 料	● 砕石 ○ 砂利 ○ 汚水かみり	● 砕石 ○ 砂利 ○ 汚水かみり
厚さ(mm)	100	100

- 3. 均しコンクリート地業

発注強度	Fc = 18 N/mm <sup>2</sup>
厚 さ	50 mm

● D. 鉄筋工事

- 1. 材 料（注）材料はJIS規格品とする。

材 質	使 用 鉄 筋 径
● SD295A	● D10 ● D13 ● D16
● SD345	● D19 ● D22 ● D25 ● D29
○ SD390	○ D29 ○ D32 ○ D35 ○ D38 ○ D41
○ SDR295	○ D10 ○ D13

- 2. 加工及び組立て

配筋要領は、特記なき場合基準仕様書による。

- 3. 圧接後の試験
- 切り取試験片による引張試験

● 超音波探傷試験
- 4. 鉄筋の継手
- 重ね継手

5. 鉄筋記号

異 形	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
記 号	●	×	○	●	○	⊕	⊕	⊗

6. 鉄筋の折曲げ加工

- （1）末端部の折曲げ
- （注）1. dは異径鉄筋の径（呼び名）を示す。  
2. Dは曲げ内法半径を示す。

曲 げ 角 度	折 曲 げ 図	D	すべてのコンクリート			使用箇所
			SD295A,SD295B,SD345 D16以下	D19~D38	SD390	
180°		D	3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	柱、梁の主筋及び杭基礎のベース筋並びにD16以上の鉄筋
135°		D	3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	あばら筋、帯筋、スパイラル筋及びD13以下の鉄筋
90°		D	3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	T形及びL形はりのあばら筋
135° 90°		D	3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	幅止め筋

- （2）中間部の折曲げ

曲げ 角度	折 曲 げ 図	D	すべてのコンクリート			使用箇所
			SD295A,SD295B,SD345,SD390 D16以下	D19~D25	D29~D38	
90° 以下		D	3 d 以上	4 d 以上	—	あばら筋、帯筋、スパイラル筋
		D	4 d 以上	6 d 以上	8 d 以上	その他の鉄筋

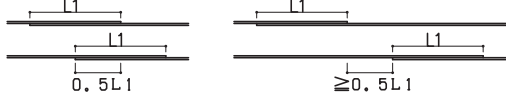
7. 鉄筋の定着及び継手長さ（溶接金網を含む）

	鉄筋の種 別	コンクリート強度< N/mm <sup>2</sup>	L1		L2		L3
			フック有	フック無	フック有	フック無	
普通コンクリート 軽量コンクリート	SD295A SD345 SDR295 SDR345	21≦Fc<27	30d	40d	25d	35d	(注) 3. による
		27≦Fc<36	25d	35d	20d	30d	
	SD390	21≦Fc<27	35d	45d	30d	40d	
		27≦Fc<36	30d	40d	25d	35d	

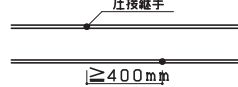
- （注）（1）Fcが18N/mm<sup>2</sup>の場合はL1及びL2のみは表の値に5dを加えたものとする。
- （2）L1：異形一継手並びに引張応力の大きい箇所且つL2、L3以外の定着長さ  
L2：異形一割裂破壊の恐れのない箇所、圧縮または引張応力の小さい箇所のうちいずれかの条件を満たす箇所の定着長さ  
（小さな引張応力：許容引張応力度の2/3以下）
- （3）L3：コンクリート、鉄筋の種類、強度にかかわらず、床スラブ、屋根スラブの下端筋の仕口への定着長さは異形鉄筋では10d且つ15cm以上としてよく、小ばりの下端筋の仕口への定着長さは、異形鉄筋では25d、または15dフック付きとしてよい。
- （4）dは異形鉄筋の呼び名に用いた数値とする。
- （5）径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方のdを用いる。
- （6）D29以上の異形鉄筋においては、重ね継手を用いないものとする。
- （7）Fcが36N/mm<sup>2</sup> 以上の場合は特記による。

隣り合う継手の位置

- （1）重ね継手の場合



- （2）ガス圧接の場合



8. 溶接金網の継手及び定着の長さ

- （1）重ね継手（ℓ）  
ℓは1節半以上且15cm以上
- （2）壁の場合
- （3）スラブの場合（ℓ）  
ℓは1節半以上且15cm以上
- （注）a. 溶接金網はJIS G3551（溶接金網）の規格品とする。  
但し網目の形状、寸法及び鉄線の径は特記による。
- b. 溶接金網のかぶり厚さはひび割れ防止等の構造用配筋以外に使用する場合は配筋基準によらなくてよい。

9. 鉄筋の間隔

異 形 鉄 筋	間 隔	あ き
	・呼び名の数値の1.5倍＋最外径 ・粗骨材最大寸法の1.25倍＋最外径 ・25mm＋最外径 上記のうち最大値	・呼び名の数値の1.5倍 ・粗骨材最大寸法の1.25倍 ・25mm 上記のうち最大値

注）＊印は粗骨材最大寸法 25mmにより決まる。（単位：mm）

呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
最外径（D）	11	14	18	21	25	28	33	36
最小間隔（P）	43＊	45＊	50＊	53＊	58	66	77	84

鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきも同様とする。

10. 鉄筋のかぶり厚さ

	部 位		かぶり厚さ (mm)
	屋根スラブ ・ 床スラブ	屋 内	30
土に接しない部分	非耐力壁	屋 外	*40
	柱	屋 内	40
	耐力壁	屋 外	**50
	擁 壁		50
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・耐力壁		50
	基 礎 ・ 擁 壁		70

- （注）（1）＊は耐久性上有効な仕上げのある場合、30mmとしてよい。
- （2）＊＊は耐久性上有効な仕上げのある場合、40mmとしてよい。
- （3）打放し仕上の場合は、図面に指示をする。特に指示のない場合は構造断面より屋外は20mm以上ふかすものとする。

● E. 仕上材の除去およびコンクリートのはつり

1. 既設仕上材等の除去

補強工事に先立ち、内装材およびコンクリート部材表面のプaster、モルタルなどの仕上材を除去する。

また、補強工事に支障がないように、工事範囲近傍の内装・建具・設備配管などを必要かつ十分なだけ撤去する。

2. 既設コンクリートの表面の処理およびはつりなど

新しくモルタルまたはコンクリートを打継ぐ部分のコンクリート表面は、適切に目荒らし及びはつりを行う。コンクリートのはつりは最小限にとどめる。既設コンクリートのはつりおよび穿孔においては既設の鉄筋を痛めないようにする。また、はつりまたは穿孔などによって常時荷重に対する既設躯体の変形が大きくなる可能性のある箇所は、適切な支持材を設置する。

**既存鉄筋の切断面で、コンクリートに保護されない位置は、防錆処理を行う。**

● F. あと施工アンカー工事

1. 一般事項

- （1）あと施工アンカーの材料および形状は設計図に表記なき場合は基準仕様書による。
- （2）あと施工アンカーの施工は、製品について十分な知識を持ち、訓練された施工技術を持った者が実施する。
- （3）施工にあたっては、所定の施工品質が確保されるよう、品質管理項目を定め施工管理を行わなければならない。
- （4）施工現場で生じる諸問題は、設計者、現場管理者との協議の上実施する。

2. 施工の手順

あと施工アンカーの施工にあたっては標準施工の手順に従い、定められた事項を遵守することとする。

3. 管理および検査

設計強度が確保されていることを確認するため、既存コンクリートの圧縮強度および、あと施工アンカーの素材強度を試験成績表などにより確認する。また、埋め込まれたあと施工アンカーの固着強度を検査し、アンカーが正しく施工されていることを確認する。

● G. コンクリート工事

1. 普通コンクリート		※1. 温度補正は公共建築工事標準仕様書による。	
適 用 箇 所		設 計 基 準 強 度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	
躯体全箇所		21	
適用箇所	1階スラブ 基礎・基礎梁	柱 ・ 梁 床版 ・ 壁	
所要スランプ (cm)	○ 15 ● 18	18	
使用セメント		● 普通ポルトランドセメント ○	
混和材料		● A E減水剤 ○ 高性能A E減水剤 ○ 流動化剤 ○ 膨張性混和材	

2. 単位水量  
185kg/㎡ 以下とする。
3. 単位セメント量  
300kg/㎡ 以上とする。
4. 水セメント比  
65%以下とする。
5. コンクリート中の塩化物含有量  
塩素イオン量（Cl<sup>-</sup>）として300g/㎡ 以下とする。
6. コンクリート工事計画

- （1）一般的注意  
補強工事は一般に、補強箇所が建物各部に分かれ、かつ、コンクリートを少量ずつ打ち込む工事となるので、工事計画はその条件に応じ所定のコンクリートの品質が得られるように立てなければならない。
- （2）レディーミクストコンクリート工場の選定  
レディーミクストコンクリートによる場合、現場でのコンクリートの打込みに要する時間を考慮し、練り混ぜ開始から所定の時間内にコンクリートの打込みを完了することが出来る工場を選定する。また、工場はJIS表示認定工場とする。
- （3）打込み計画  
打込み計画は、建物内でのコンクリートの運搬方法、各打込み箇所での打込み、締固めに要する時間、1日の打込み可能量、練り混ぜ開始から打込み完了までの時間の限度などを考慮して、工程に無理が生じないように定める。

7. 調査

- （1）調査強度  
設計基準強度（Fc）は既存コンクリートの設計基準強度以上かつ21N/mm<sup>2</sup>以上とし、補強設計時に設定した強度とする。

8. 打込み前の準備

- （1）打込み前に既存コンクリート部材表面のはつり跡を圧縮空気、吸引機、掃除機あるいは水などで十分に清掃する。
- （2）打込み前にせき板、既存コンクリート表面に十分水浸しを行い、打込むコンクリート中の水分が吸収されないようにする。

9. 打込みおよび締固め

- （1）打込みは、梁下に横に連続したアサガオ型の型枠を設けて流し込む方法と上階スラブに打込み用貫通口を設けて流し込む方法と下から圧入する方法がある。
- （2）流し込む方法の場合は増設部材または増打部分と既存の上部架構（梁下）とを一体化させるために、増設部材または増打部分の上部を高さ20cm程度残し流し込み、グラウト材を圧入することを原則とする。
- （3）締固めは振動機を用いるほか、タタキ締めを行い、コンクリートを密実に締固める。

10. 養生

- （1）コンクリート打込み後は、コンクリート中の水分が発散しないよう、必要に応じ、型枠面に散水したり、覆いをかけるなどの措置を講ずる。
- （2）型枠の取り外し後、引き続き湿潤養生を必要とする場合は、散水やコンクリート表面をシートで被覆するなどの措置を講ずること。
- （3）膨張性混和材を用いる場合は、コンクリートを7日間以上湿潤状態に保つこととする。
11. 型枠
- （1）型枠は、コンクリート側圧、打設方法、セパレーターの取付方法などを考慮する。
- （2）型枠の組立ては、打上りコンクリート部材の位置および断面寸法の精度が十分保たれるよう、特に注意して行う。また既存部材と型枠の取合い部は、モルタル等の漏出が生じないよう適切な措置を講ずる。
- （3）鋼板を巻いて柱を補強する工法においては、コンクリートの側圧による鋼板のはらみだしを防ぐような措置を講ずる。
- （4）型枠は、できるだけ型枠振動機が使用しやすいように組立てる。

		SCALE	A1 No Scale	MAP NAME	CONSTRUCTION NAME	MAP NO.
		A3 No Scale		建築工事仕様書<躯体工事（1）>	令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事	S-01





●M。鉄骨工事

1. 製作工場は指定性能評価機関により、    M    グレード以上の評価を受けた工場とする。
2. 材          料

(注) 材料はJIS規格品とする。    ≪平ラレース部分は詳細図参照≫

● SN400 (○ A ● B ○ C)	● SN490 (● B ● C)	
● SS400	○ SM490A	
● BCR295	○ BCP325	○
● STKR400	● STK400	● SSC400

●高力ボルト

種          類	呼      び      径	備          考
●S10T    ●F10T	●M16    ●M20    ●M22    ○	
○F8T	○          ○          ○	溶融亜鉛メッキ(大臣認定品)

●ボルトナット及びアンカーボルト等

名          称	材          質	備          考
●普通ボルト	SS400	
●アンカーボルト	SS400	
●頭付スタッド	JIS B 1198	
●ターンバックル		

3. 塗          装                  (仕上塗装は意匠図による)

素地ごしらえ及びさび止め塗装の種類

施工箇所	素地 ごしらえ	さび止め塗料	塗      り      回      数	
			製作工場	工事現場
一般部	B種	●JIS K 5674	●1種	●1回
屋外				
屋内	●C種		2種	2回
				●補修塗り

(注) 耐火被覆材を接着する面は原則として塗装しない。

4. ボルト接合

(1) ボルトの表示記号及び穴径

公称軸径 (mm)		12	16	20	22	24
ボルトの種類						
高力ボルト (HTB)	記号	イ	米	米	十	中
	穴径	14.0	18.0	22.0	24.0	26.0
普通ボルト	記号	イ	米	米	十	中
	穴径	12.5	16.5	20.5	22.5	24.5

(注) 高力ボルト接合  
本締め使用するボルトと、仮締めボルトの併用  
はしてはならない。

5. 継    手

(1) 形鋼のゲージ

(単位  :  mm)

AあるいはB	g1	g2	最大軸径	B	g1	g2	最大軸径	B	g3	最大軸径	
40	22		10	100×*	60		12	40	24	10	
45	25		12	125	75		16	50	30	12	
50×*	30		12	150	90		22	65	35	20	
60	35		16	175	105		22	70	40	20	
65	35		20	200	120		24	75	40	22	
70	40		20	250	150		24	80	45	22	
75	40		22	300*	150	40	24	90	50	24	
80	45		22	350	140	70	24	100	55	24	
90	50		24	400	140	90	24				
100	55		24								
125	50	35	24	* B=300は千鳥打とする。  ** 印の■のgおよび最大ボルト径の値は強度上 支障がないとき、最小縁端距離の規定にか かわらず用いることができる。							
130	50	40	24								
150	55	55	24								
175	60	70	24								
200	60	90	24								

6. 溶接一般事項

(1) 適用範囲

- この基準図は、鉄骨構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造の鉄骨部分の一般的な溶接基準を示すものである。  
鉄骨製作者は、本基準を基に工事監理者と協議の上、本工事に用いる溶接基準を作成し、承認を受けるものとする。
- この基準図は、アーク溶接、ガスシールドアーク半自動溶接により工場で溶接を行う場合に適用する。
- この基準図は、以下の鋼材に対して適用する。  
SN400, SN490, SS400, SM400, SM490, SM520, STK400, STK490  
BCR295, BCP235, BCP325, STKR400, STKR490, SSC400
- 適用板厚は原則として40mm以下とする。
- サブマージアーク自動溶接における開先形状は、原則として日本建築学会「鉄骨工事技術指針、工場製作編」によるが、工事監理者と協議の上決定する。

(2) 工作一般

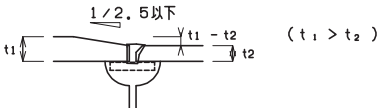
- 鉄骨の製作及び施工に先立って、「鉄骨工事施工要領書」を工事監理者に提出し、承認を得る。
- 溶接工は、施工する溶接に適用するJISZ3801(手溶接)JISZ3841(半自動溶接)の溶接検査試験に合格し、引続き半年以上溶接に従事している者とする。
- 溶接姿勢は原則として下向きとする。但し、工事監理者の指示により上向き、横向きとすることができる。  
**上向き溶接はその有資格者が行うこと。**
- 裏はつり  
突合わせ溶接における両面溶接は、原則として裏はつりを行う。但し、自動溶接において完全溶込みが得られる場合は裏はつりを省略してもよい。
- 余盛り  
突合わせ継手、かど継手、隅肉溶接、及びフレア溶接の溶接部には余盛りをを行い、その高さの限度は下表による。



溶接継手	溶接工法	余盛りの限度
突合せ継手 かど継手	手 溶 接	3mm以下
	半自動溶接	4mm以下
	自動溶接	4mm以下
隅肉溶接 フレア溶接	手 溶 接	(0.1S+1)mm以下 S:隅肉溶接のサイズ
	半自動溶接 自動溶接	

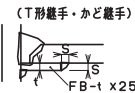
6) 溶接板の段差

突合わせ部の表面に、板厚又は板幅の差により、わずかな段違いのある場合は、表面の形が緩やかに移行するように余盛りをする。  
板厚差による段違いが10mmを越える場合は、厚い方の材を1/2.5以下の傾斜に加工し、開先部分で薄い方の材と同一の高さとする。

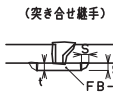


7) 裏当板の寸法及び溶接

片面溶接に用いる裏当板の溶接は、断続隅肉溶接とする。



(裏当板の寸法 単位mm)	
溶接工法	t
手 溶 接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上



(溶接のサイズ 単位mm)	
裏当板の寸法	S
t ≤ 9	5
t > 9	9

8) エンドタブ (突合わせ溶接に於いて、特記なき限りスチールタブを使用する)

エンドタブは、原則として母材と同厚で、母材開先形状と同じ形状のものを取り付ける。  
又、特記なき限り溶接検査終了後、エンドタブの一部(5~10mm)と残して切断し、グラインダ仕上げをする。  
セラミックスタブ及びゲージタブの使用については設計者の承認を得ること。

(エンドタブの寸法 単位 mm)

溶接工法	溶接方向長さ	直角方向長さ
手 溶 接	35以上	35以上
半自動溶接	40以上	35以上
自動溶接	70以上	35以上

9) スクラップ

スクラップは下記の1) または2) による。  
a. 改良スクラップ : r1は35mm程度、r2は10mm程度とし、複合円は滑らかに仕上げること。



b. ノンスクラップ



同時ビルドHの場合、梁の隅肉溶接はスクラップ端部の手前5mm程残して止める。

10) 隅肉溶接の長さ

a. 応力を伝達する隅肉溶接の有効長さは、隅肉のサイズの1.0倍以上で、かつ40mm以上とするのを原則とする。但し、有効長さはビードの始点及びクレータを除いた部分の長さとする。



L : 隅肉溶接の長さ  
S : 隅肉溶接のサイズ  
Le : 有効長さ  
L ≥ S

b. 隅肉溶接に於いて、特記なき限り週し溶接を行う。  
週し溶接の長さは、隅肉のサイズの2倍を原則とする。

11) 補強隅肉溶接

T型継手、(両面溶接)及び部分溶込み溶接の場合には補強隅肉を付加し、そのサイズは突合わせる板厚の1/4以上かつ10mm以下とする。

7. 溶接開先標準図

突 き 合 せ 継 手				T 型 継 手				か ど 継 手																													
1		≥6	F H V G R α1 60°	0 2	7		≥6	F H V G R α1 45°	0 2	10		≥6	F H V G R α1 45°																								
2		≥6	F H V G R α1 45°	2 9 2 35°	8		≥6	F H V G R α1 45°	2 9 2 35°	11		≥6	F H V G R α1 45°																								
3		≥12	F H V G R α1 35°	0 2 9 60°	9		≥12	F H V G R α1 35°	0 2 9 60°	12		≥12	F H V G R α1 35°																								
4		≥16	F H V G R α1 45°	0 2 9 60°																																	
5		≥12	F H V G R α1 35°	0 2 9 60°																																	
6		≥16	F H V G R α1 45°	0 2 9 60°																																	
隅 肉 溶 接				部 分 溶 込 み 溶 接				フ レ ア 溶 接																													
13	両面溶接 t ≤ 16			17	片面溶接 12 ≤ t ≤ 32			19	片面溶接 鉄筋と鉄筋																												
<table><tr><td>t</td><td>S</td></tr><tr><td>6</td><td>6</td></tr><tr><td>9</td><td>7</td></tr><tr><td>12</td><td>9</td></tr><tr><td>16</td><td>12</td></tr></table>				t	S	6	6	9	7	12	9	16	12	<table><tr><td>t</td><td>D</td></tr><tr><td>12</td><td>10</td></tr><tr><td>16</td><td>11</td></tr><tr><td>19</td><td>12</td></tr><tr><td>22</td><td>13</td></tr><tr><td>26</td><td>13</td></tr><tr><td>28</td><td>14</td></tr><tr><td>33</td><td>16</td></tr></table> <p>t &lt; 12の場合は隅肉溶接とする</p> <p>G=0 1/4 t ≤ S ≤ 10</p>				t	D	12	10	16	11	19	12	22	13	26	13	28	14	33	16	<p>L ≥ 10 d</p>			
t	S																																				
6	6																																				
9	7																																				
12	9																																				
16	12																																				
t	D																																				
12	10																																				
16	11																																				
19	12																																				
22	13																																				
26	13																																				
28	14																																				
33	16																																				
14	K型 両面溶接 16 < t ≤ 32			18	両面溶接 16 ≤ t ≤ 32			20	両面溶接 鉄筋と鉄筋																												
<table><tr><td>t</td><td>S</td></tr><tr><td>19</td><td>6</td></tr><tr><td>22</td><td>7</td></tr><tr><td>25</td><td>8</td></tr><tr><td>28</td><td>9</td></tr><tr><td>32</td><td>10</td></tr></table>				t	S	19	6	22	7	25	8	28	9	32	10	<p>G=0 R=2 D1 = (t-2) / 2 D2 = (t-2) / 2 1/4 t ≤ S ≤ 10</p> <p>t &lt; 16の場合は隅肉溶接とする</p>				<p>L ≥ 5 d</p>																	
t	S																																				
19	6																																				
22	7																																				
25	8																																				
28	9																																				
32	10																																				
15	片面溶接 t ≤ 16			21	軽量形鋼																																
<table><tr><td>t</td><td>S</td></tr><tr><td>6</td><td>5</td></tr><tr><td>9</td><td>7</td></tr><tr><td>12</td><td>9</td></tr><tr><td>16</td><td>12</td></tr></table> <p>L: 薄い方の板厚の5倍以上かつ30mm以上</p>				t	S	6	5	9	7	12	9	16	12	<p>S = t</p>																							
t	S																																				
6	5																																				
9	7																																				
12	9																																				
16	12																																				
16	形鋼溶接 t ≤ 15			22	軽量形鋼																																
<table><tr><td>t ≤ 12</td><td>S1 = t</td></tr><tr><td>12 &lt; t ≤ 15</td><td>S1 = 12</td></tr></table> <p>S2はS1の隅肉サイズの2倍又は、S1の唇長その2倍とする</p>				t ≤ 12	S1 = t	12 < t ≤ 15	S1 = 12	<p>S = t</p>																													
t ≤ 12	S1 = t																																				
12 < t ≤ 15	S1 = 12																																				
				23	両面溶接 鉄筋とプレート																																
				<table><tr><td>d</td><td>L</td></tr><tr><td>13</td><td>70</td></tr><tr><td>16</td><td>80</td></tr><tr><td>19</td><td>90</td></tr><tr><td>22</td><td>100</td></tr></table>				d	L	13	70	16	80	19	90	22	100																				
d	L																																				
13	70																																				
16	80																																				
19	90																																				
22	100																																				

SCALE

A1 No Scale  
A3 No Scale

MAP NAME

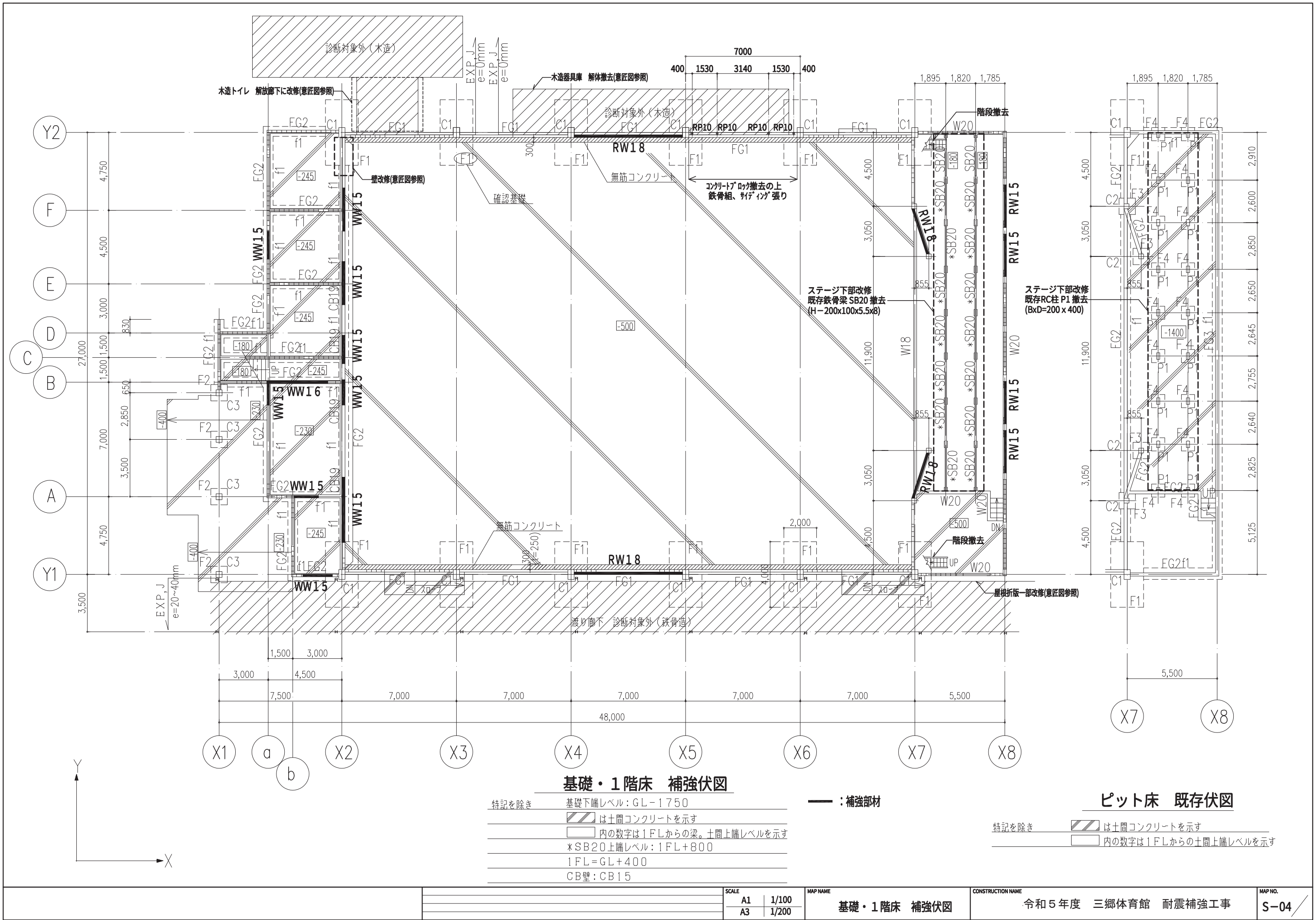
建築工事仕様書<躯体工事 (3)>

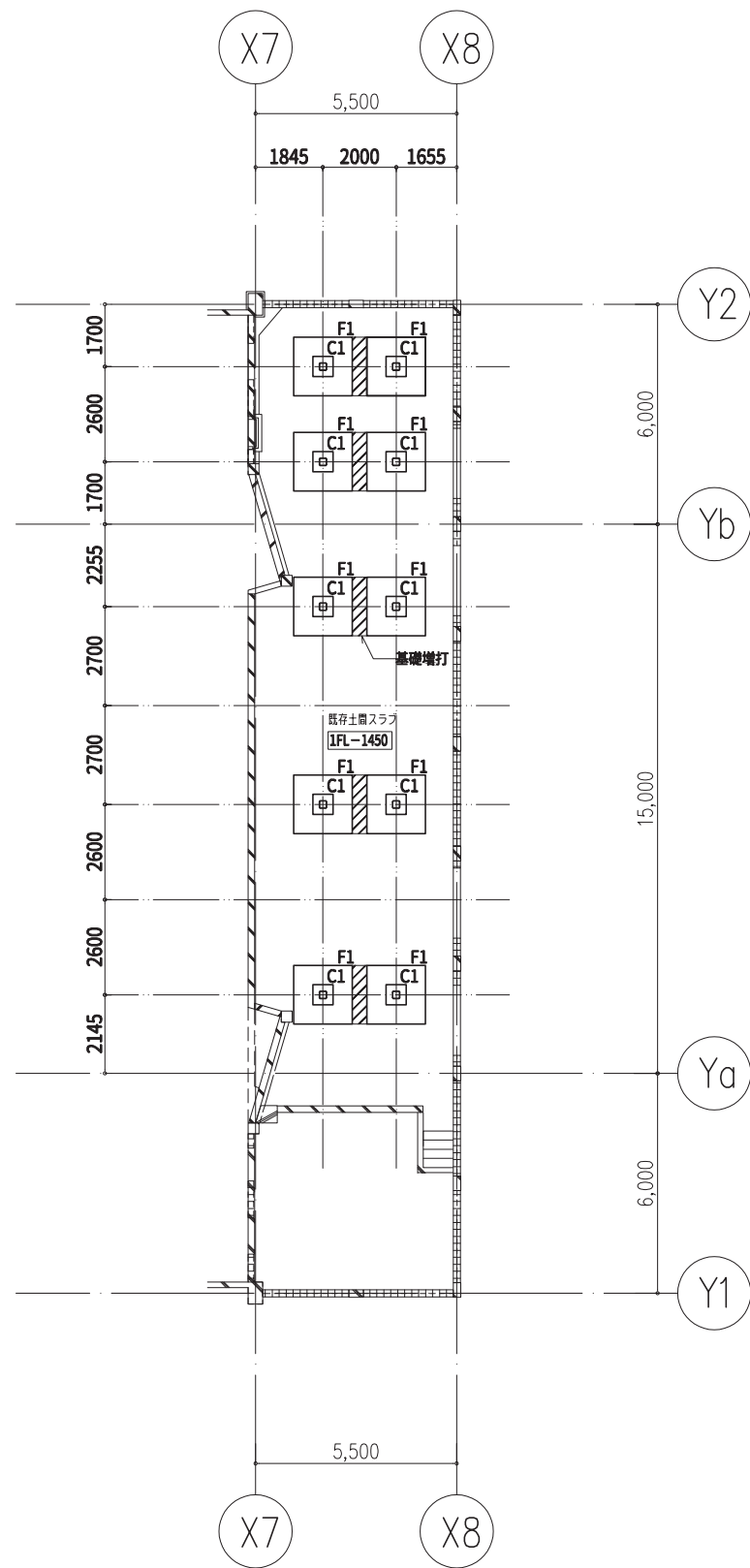
CONSTRUCTION NAME

令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事

MAP NO.

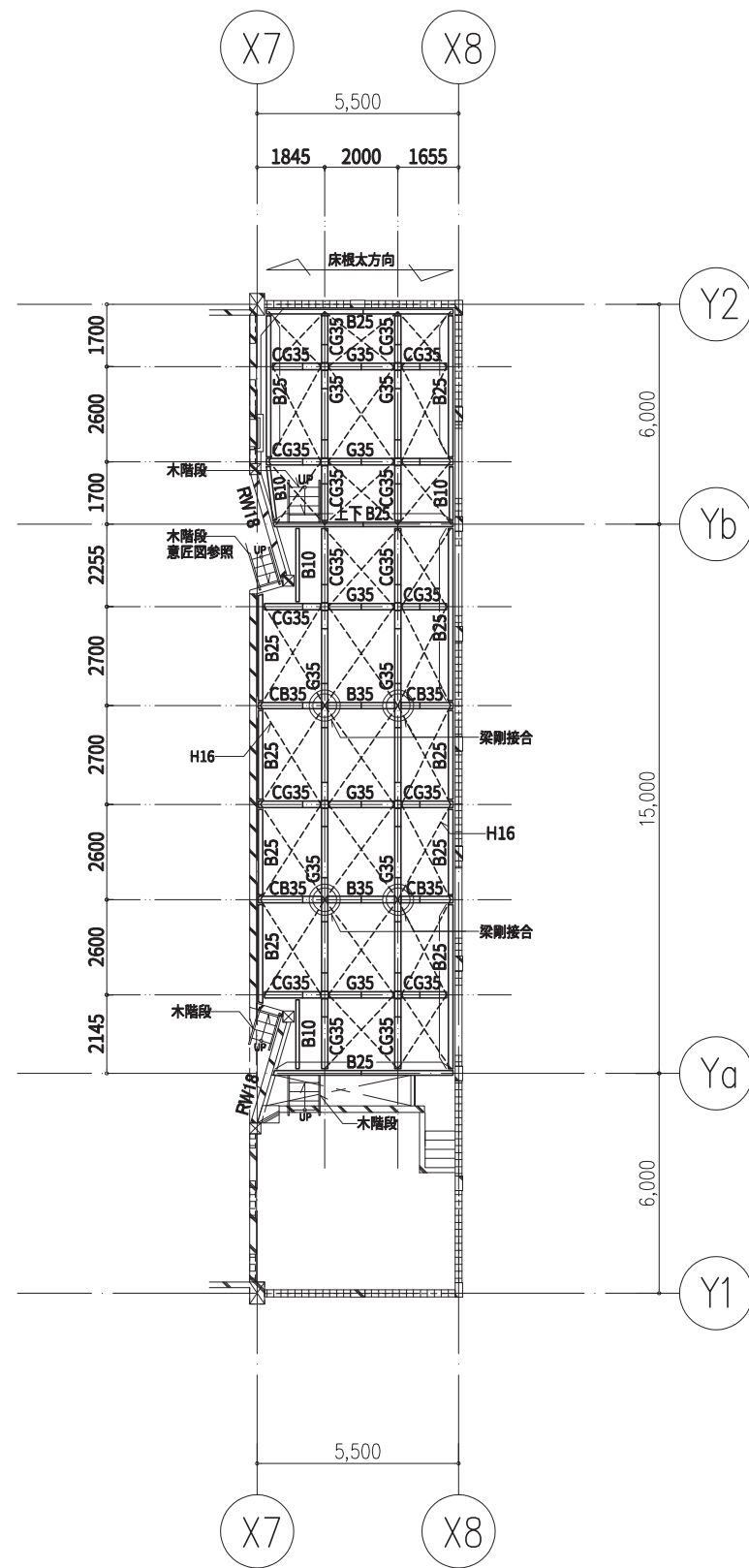
S-03





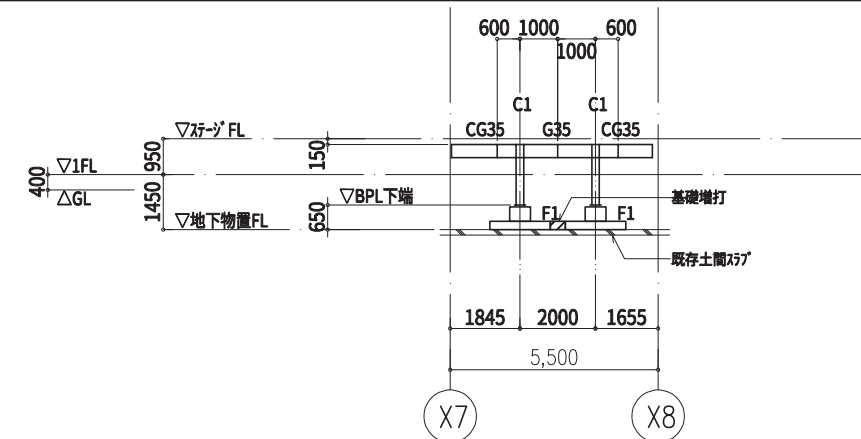
ステージ下部 ピット床 補強伏図

- 特記なき限り下記による
1.  内は 1FLからのスラブ天端レベルを示す

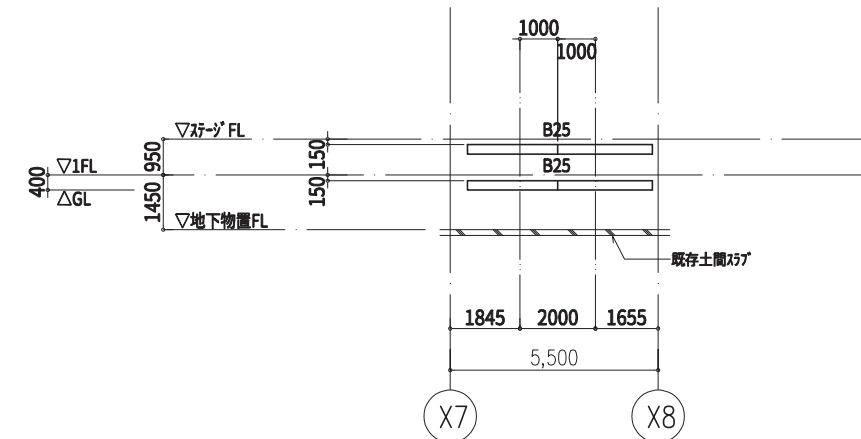


ステージ下部 1階床 補強伏図

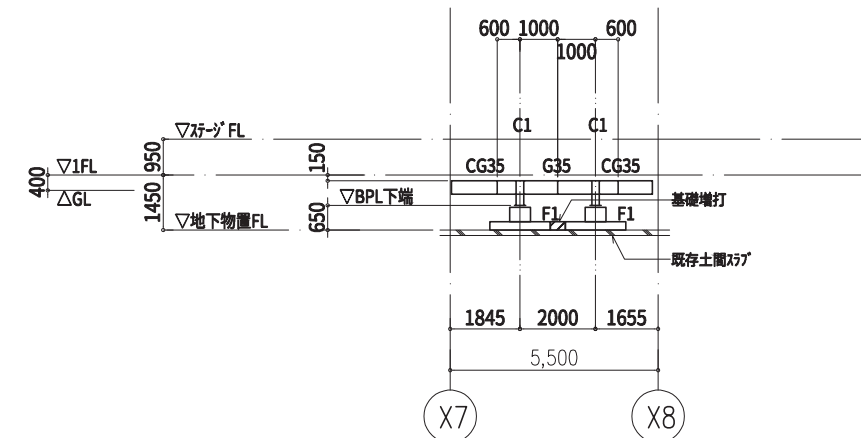
- 特記なき限り下記による
1. 既存躯体寸法を詳細調査の上、施工図を作成する
  2. 鉄骨梁は既存躯体から50mm以上離す
  3. 床根太：C-100x50x20x2.3@300  
(片持部は、鉄骨梁芯から1m以内とする)
  4. 床ブレース：H16
  5. 木階段の改修は意匠図参照



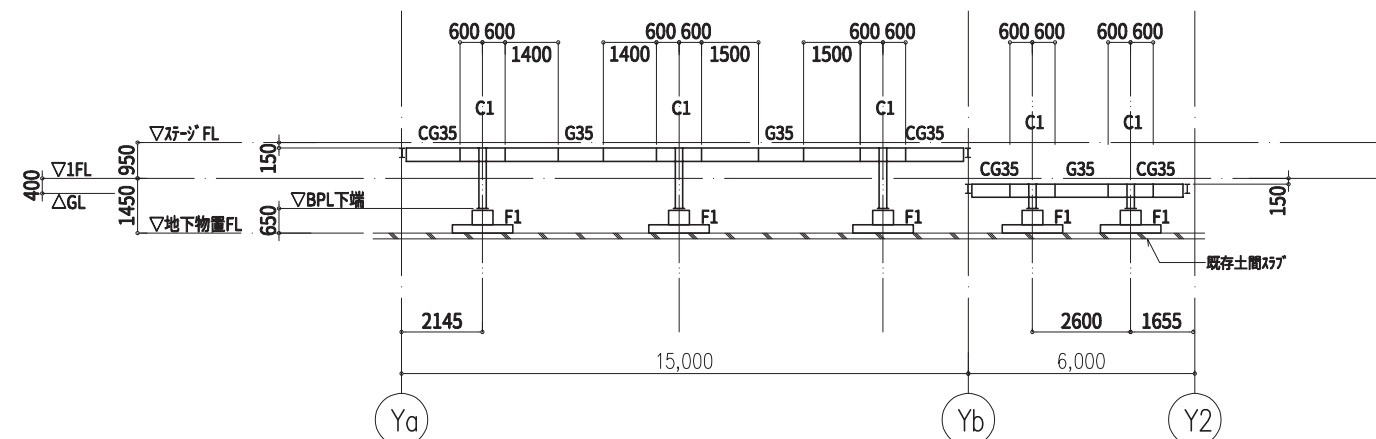
Ya+7345、Yb-2255通 軸組図



Yb通 軸組図



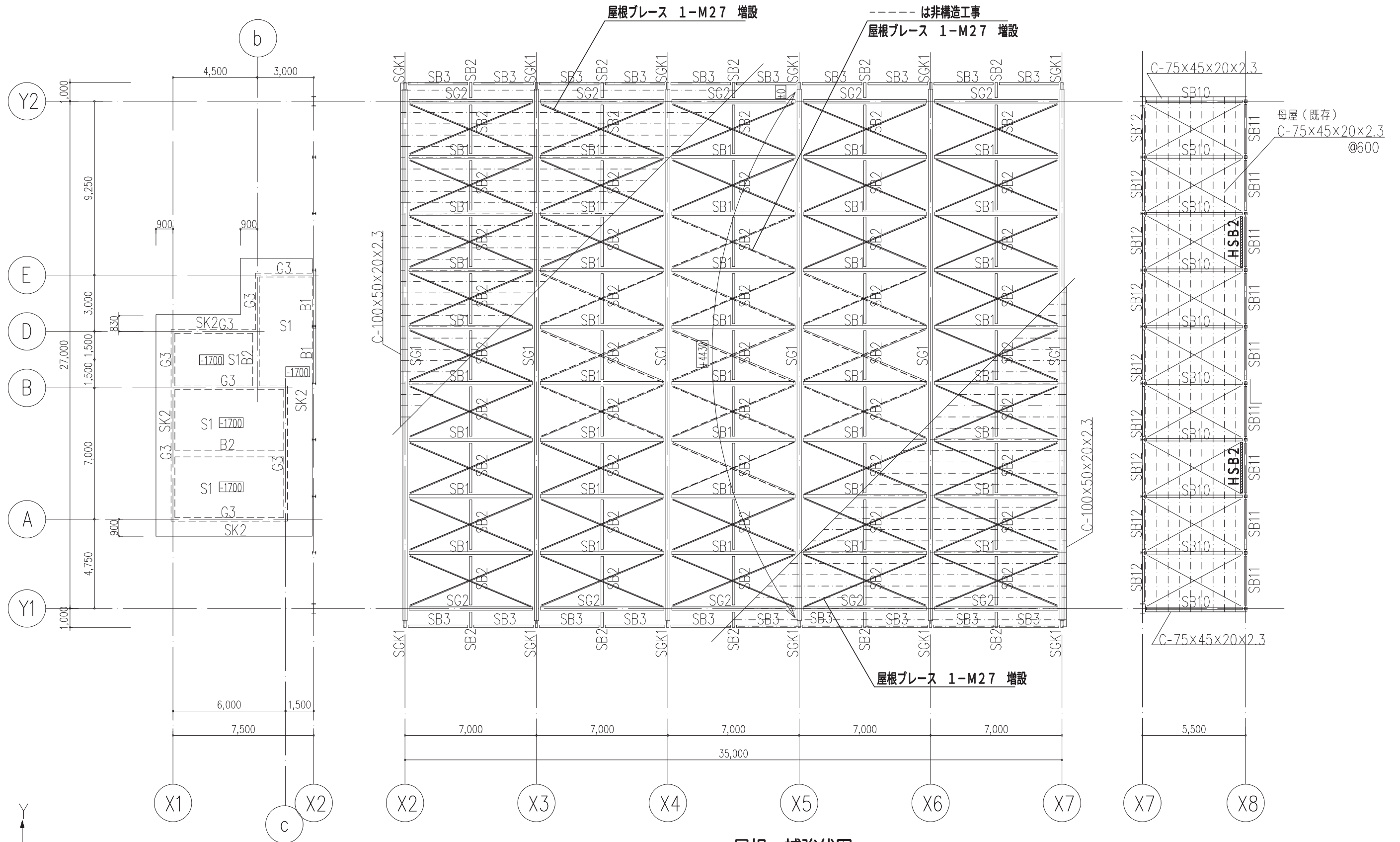
Yb+1700、Y2-1700通 軸組図



X7+1845、X8-1655通 軸組図



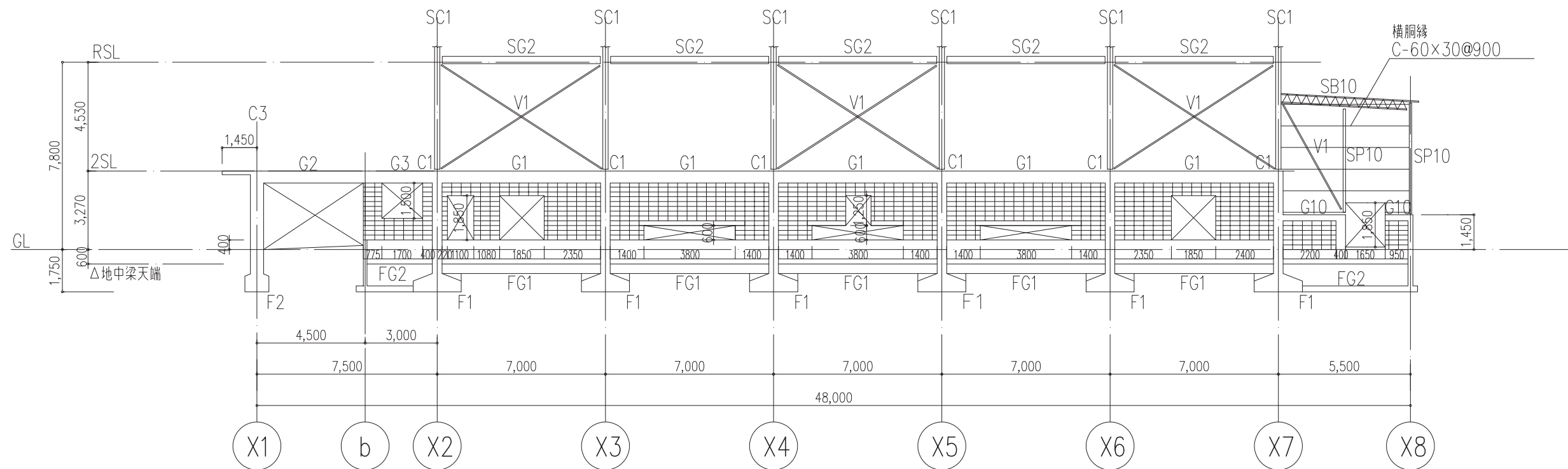




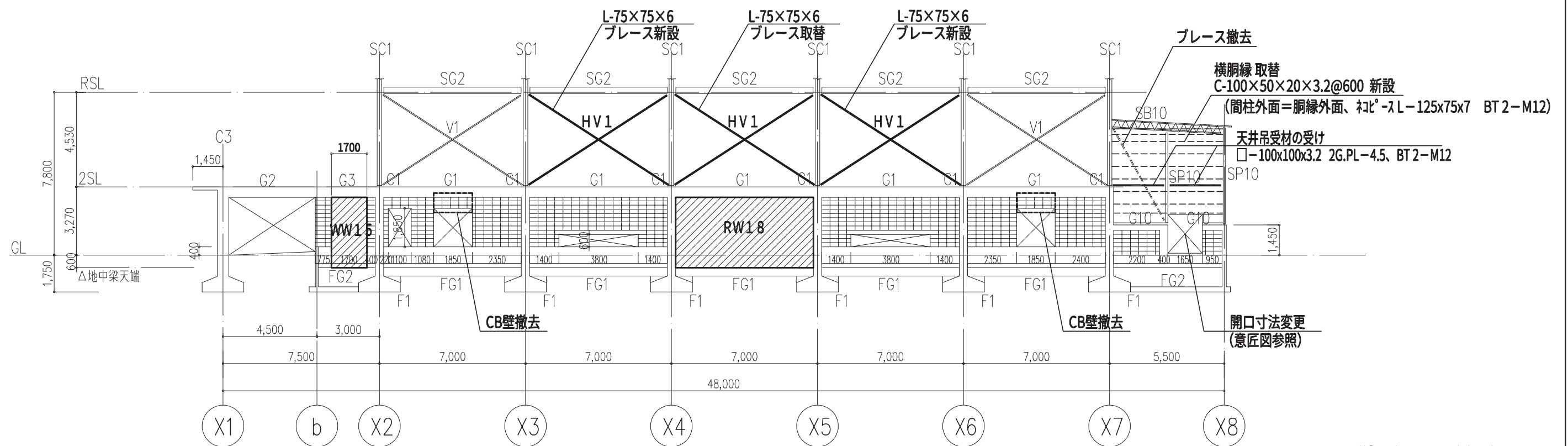
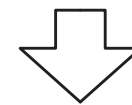
屋根 補強伏図

特記を除き 梁上端レベル：RSL±0  
□内の数字はRSLからの梁、スラブ上端レベルを示す  
屋根ブレース：1-13φ  
母屋：C-100×50×20×2.3 @600

<補強部材>  
HSB2 H-100×100×6×8



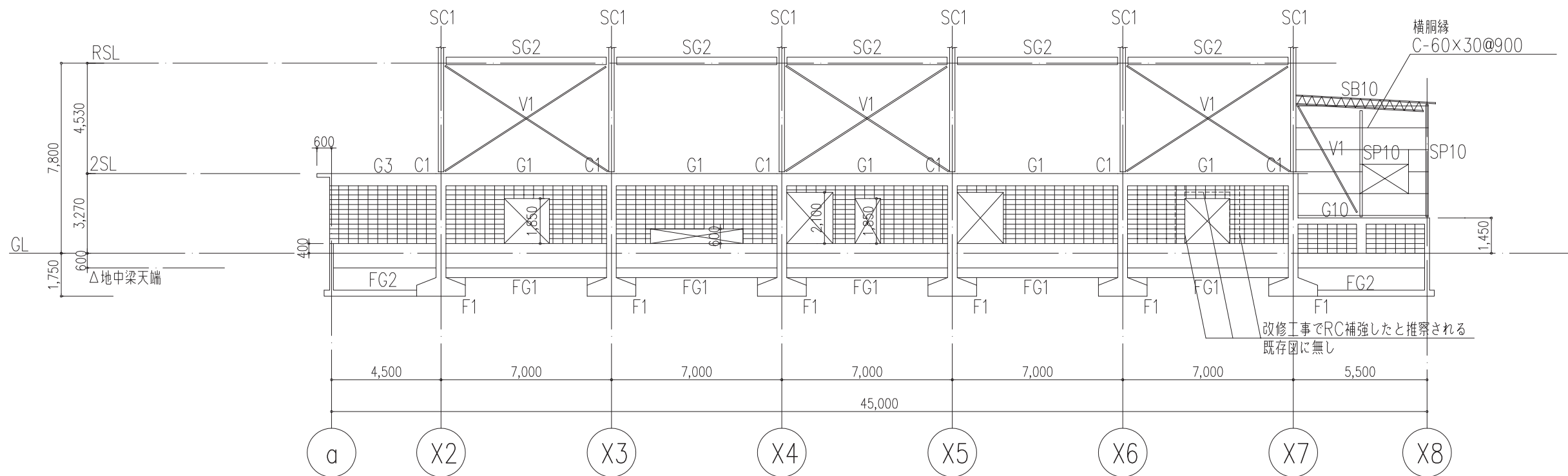
Y1通 既存軸組図



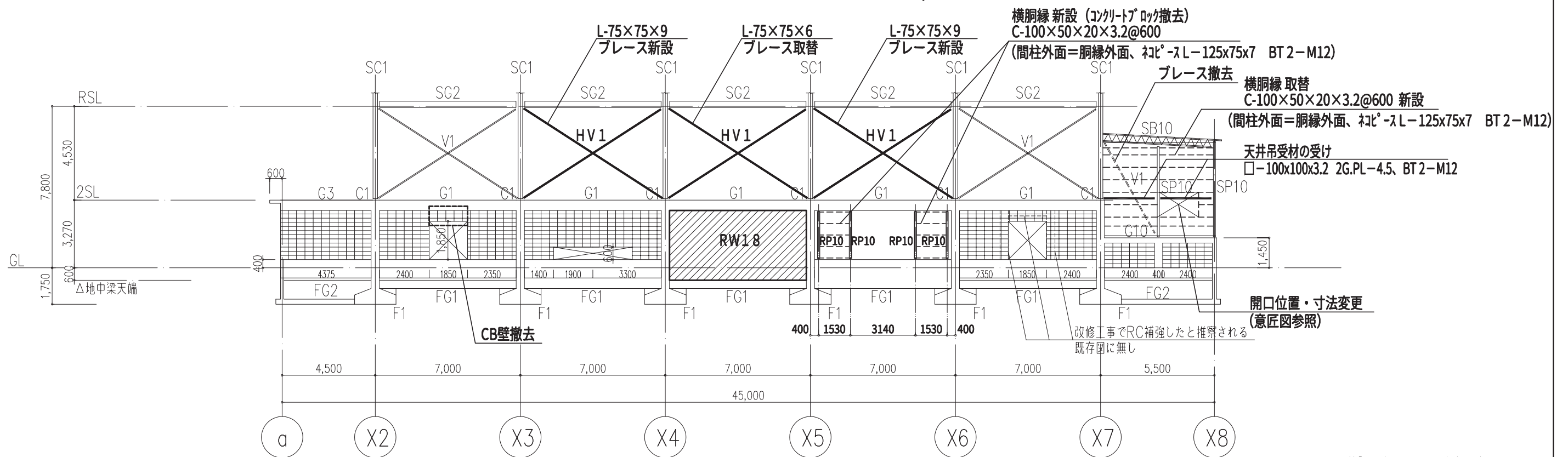
Y1通 補強軸組図

特記を除き 立上り壁: W20  
CB壁: CB15



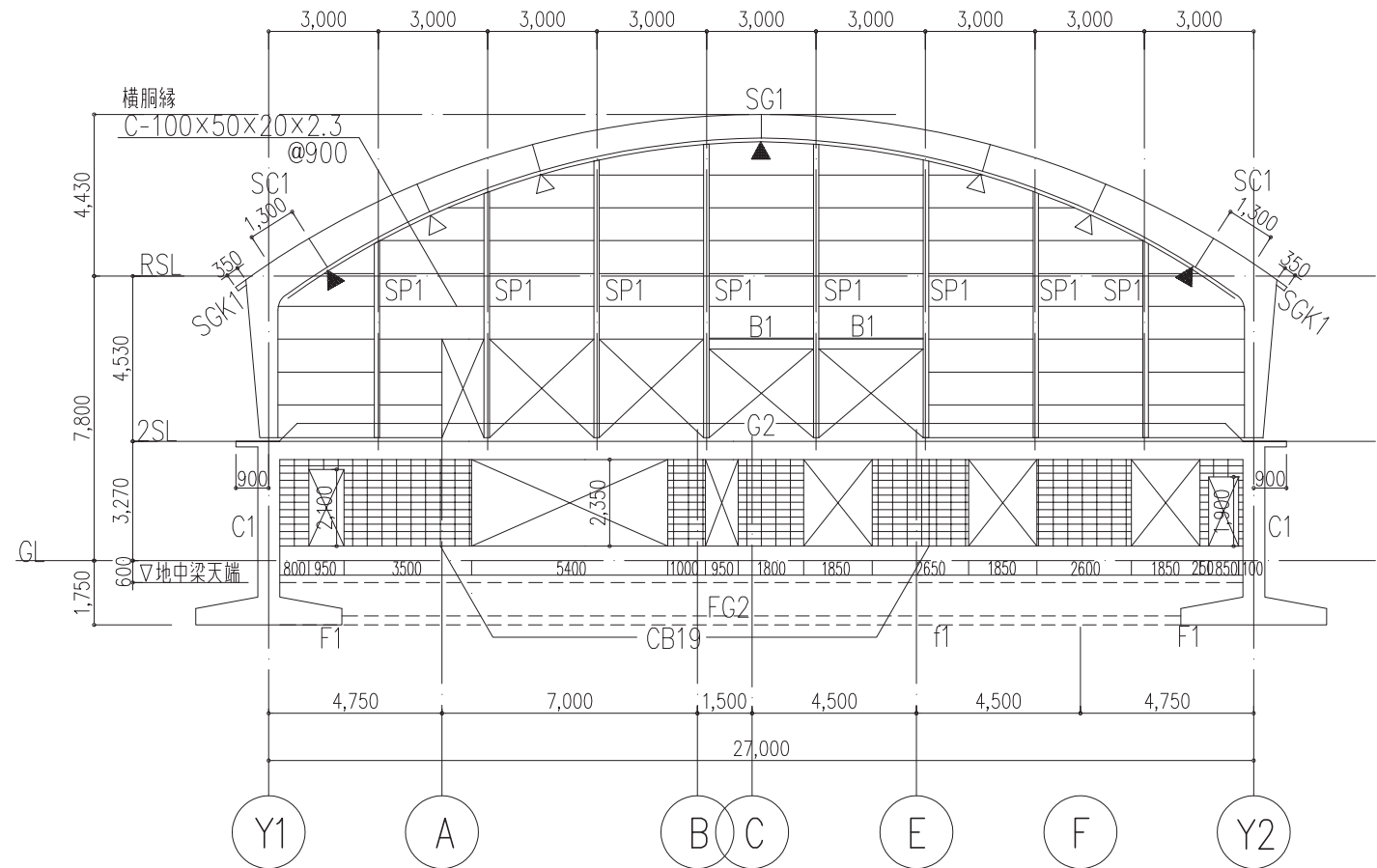


Y2通 既存軸組図

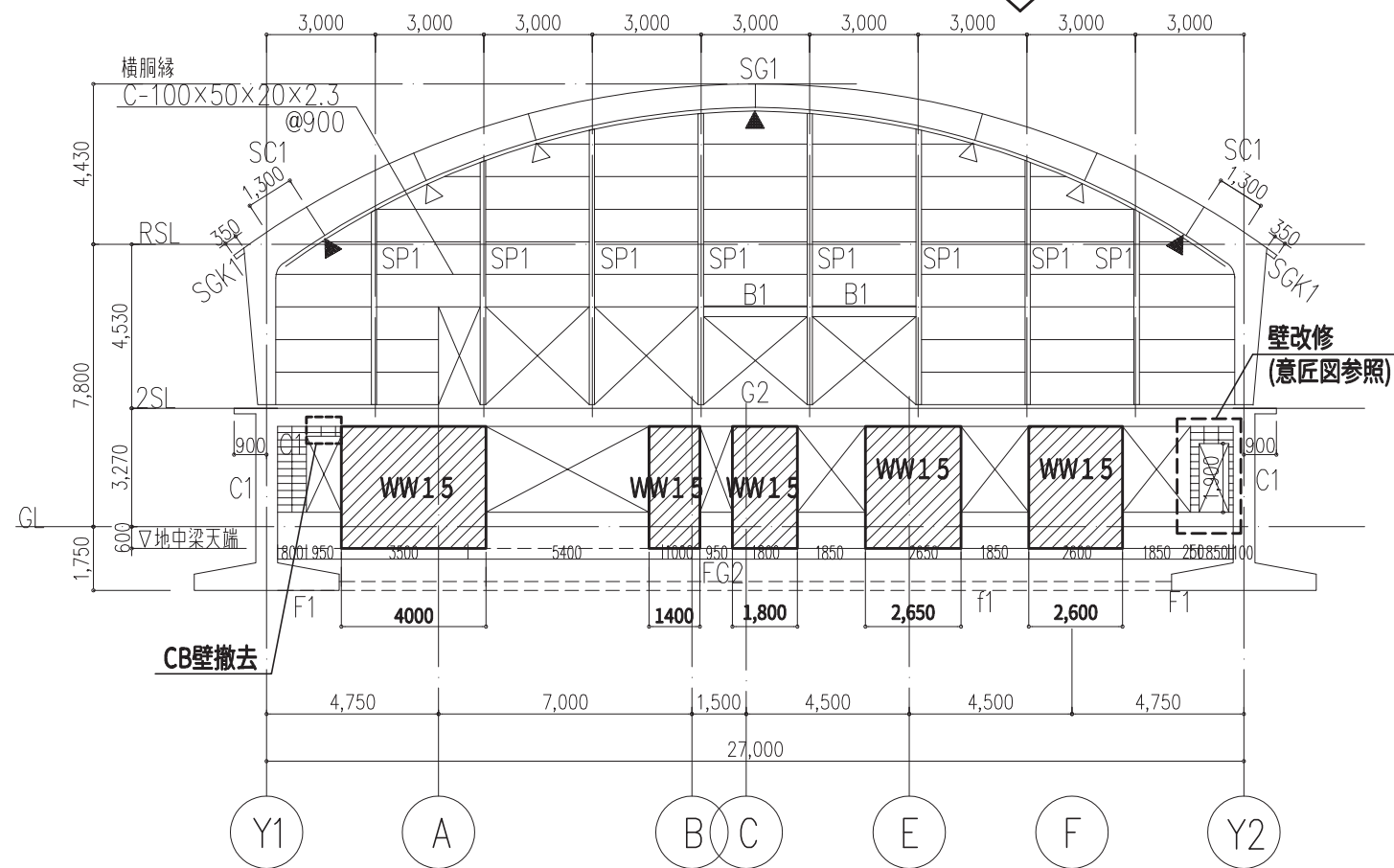


Y2通 補強軸組図

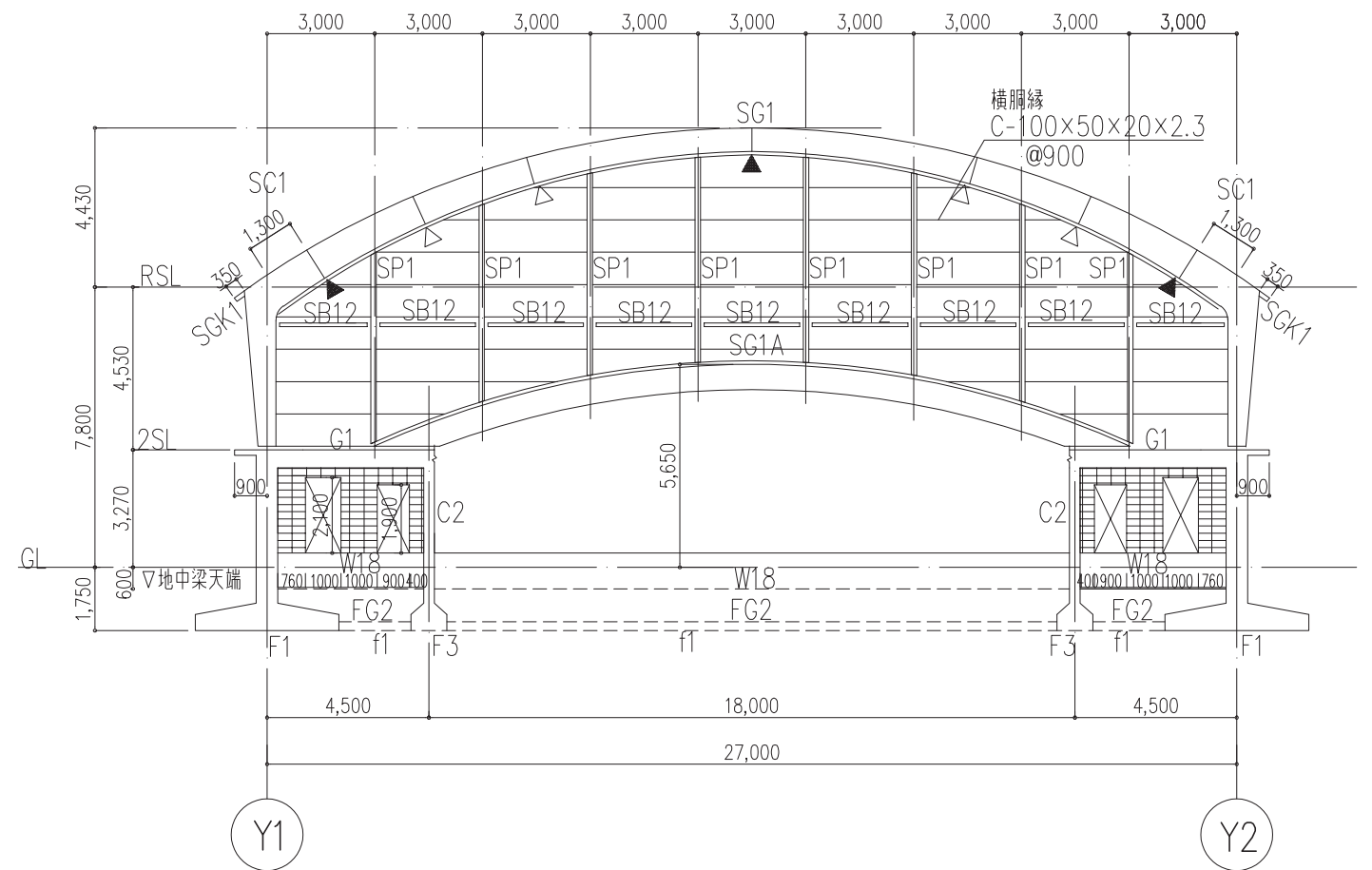
特記を除き 立上り壁: W20  
CB壁: CB15



X2通 既存軸組図



X2通 補強軸組図

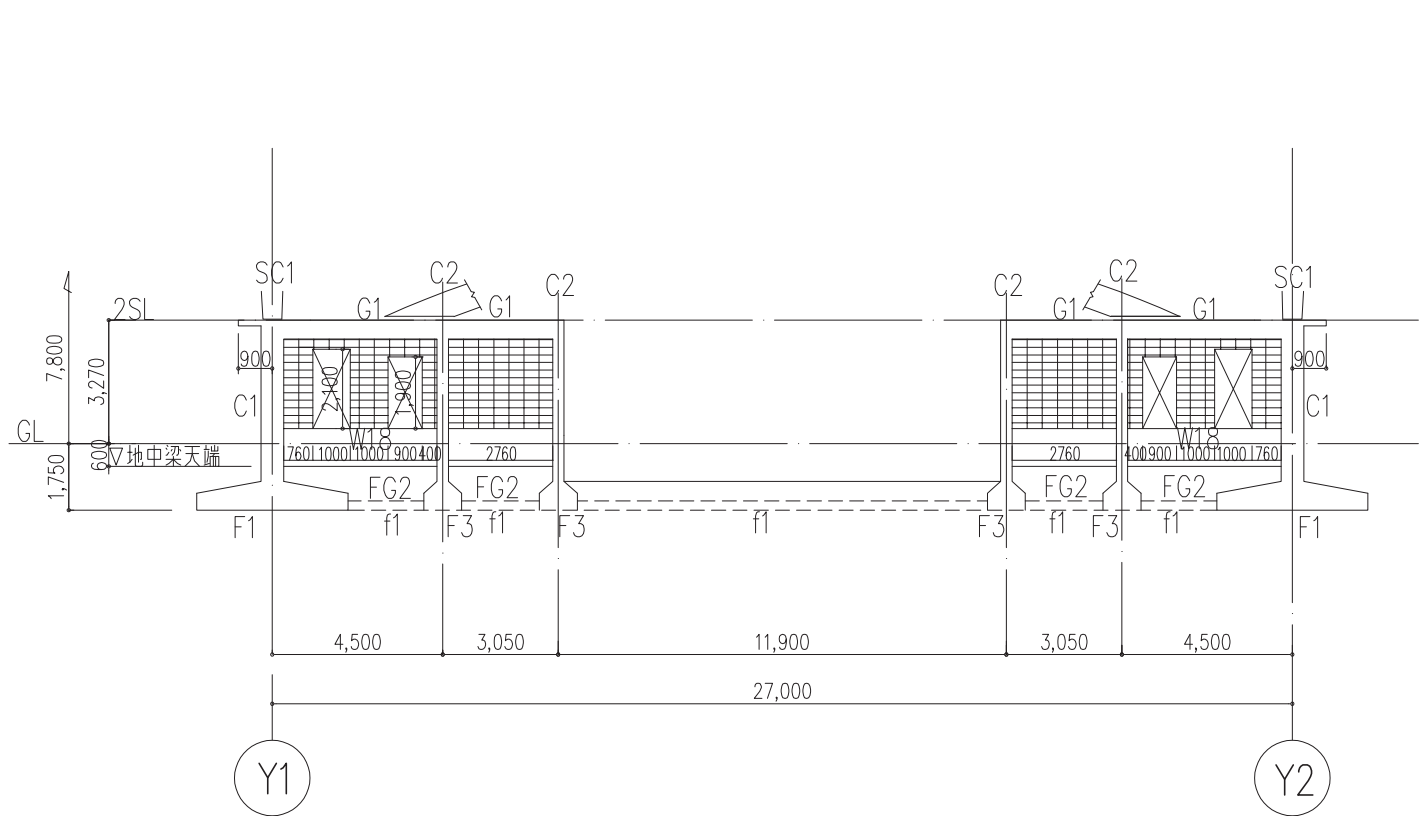


X7通 既存軸組図

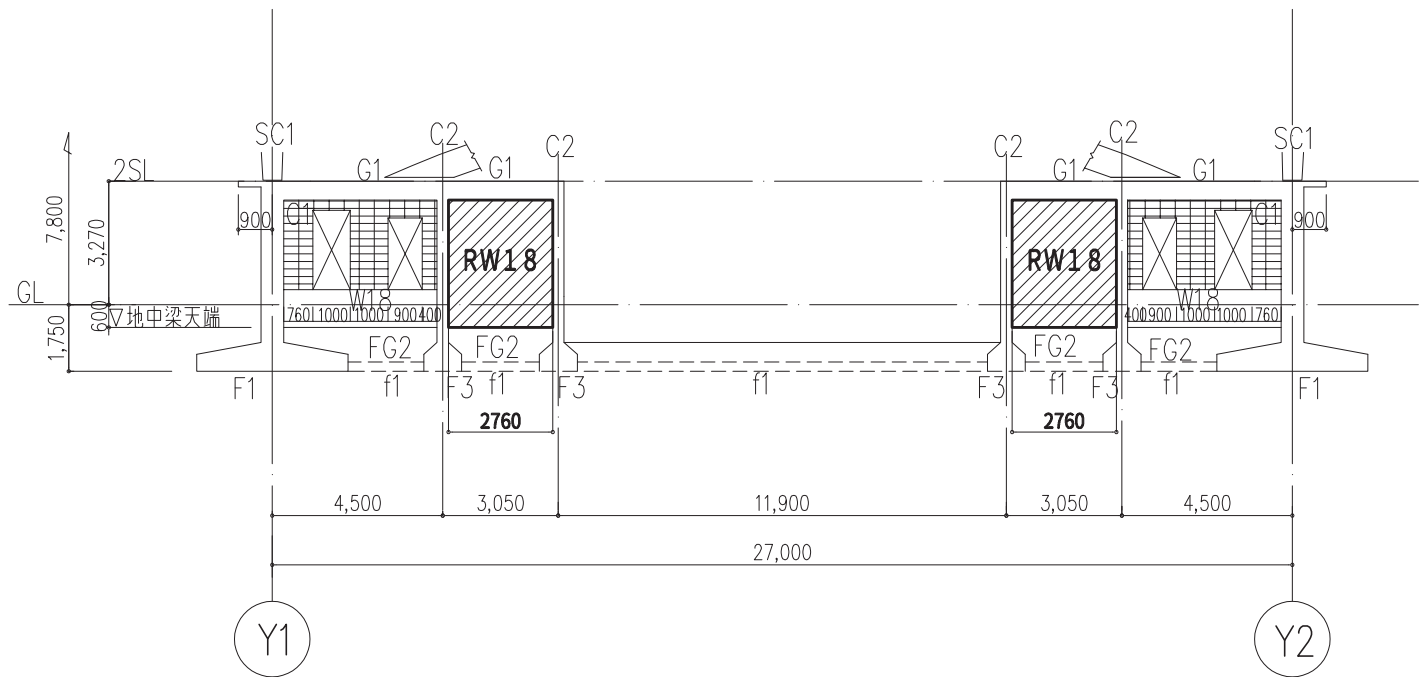
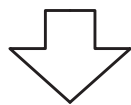
※ X7通 補強なし

特記を除き ▲印は梁 JOINT 位置を示す  
△印は溶接位置を示す  
立上り壁：W20  
CB壁：CB15

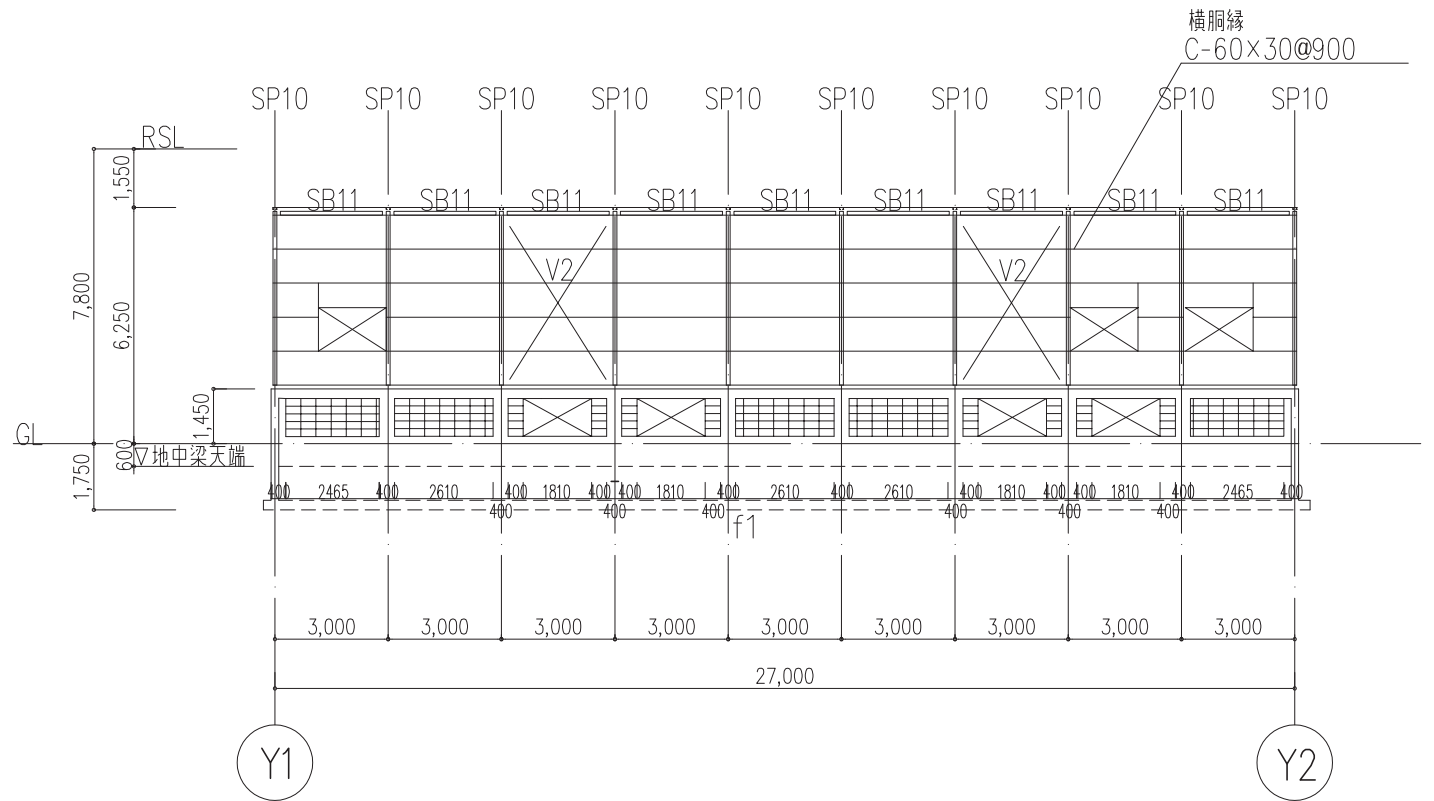
特記を除き ▲印は梁 JOINT 位置を示す  
△印は溶接位置を示す  
立上り壁：W20  
CB壁：CB15



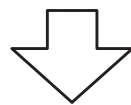
X7通～X7通+855 既存軸組図



X7通～X7通+855 補強軸組図

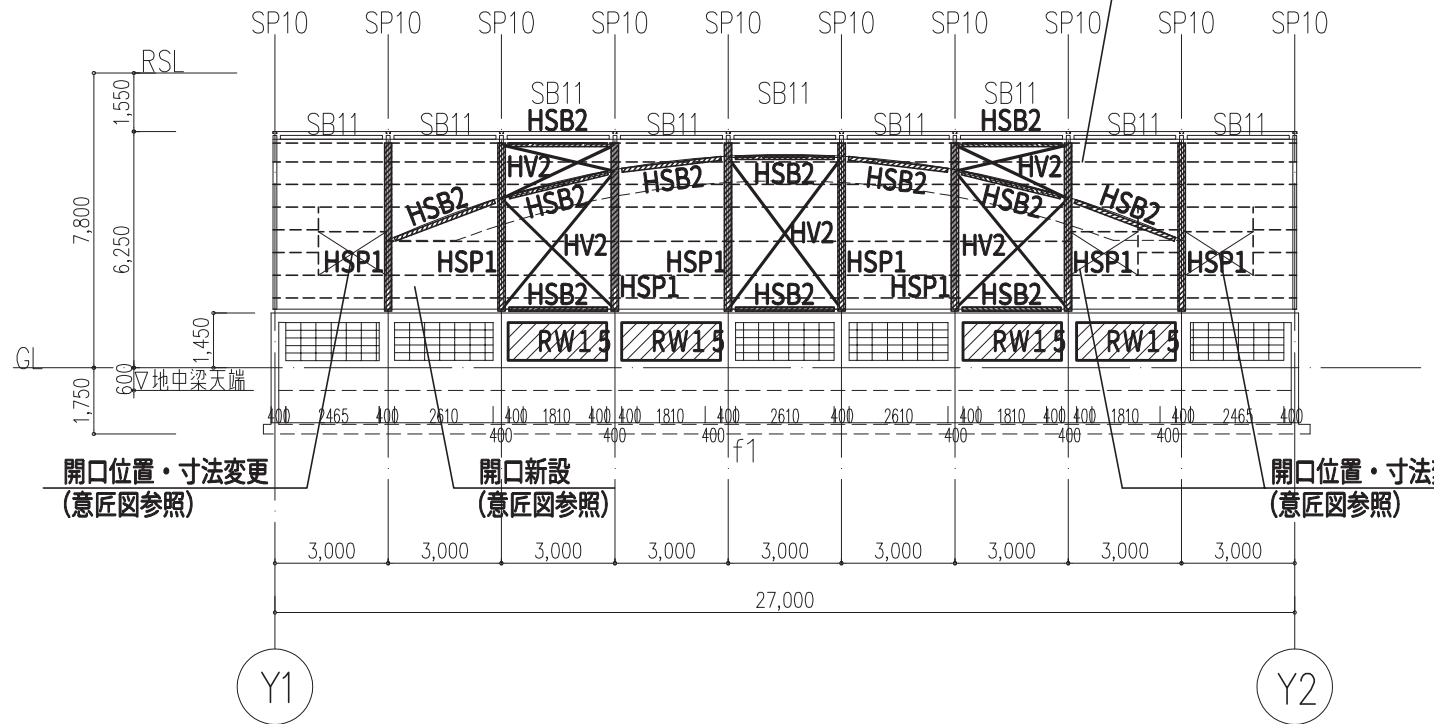


X8通 既存軸組図



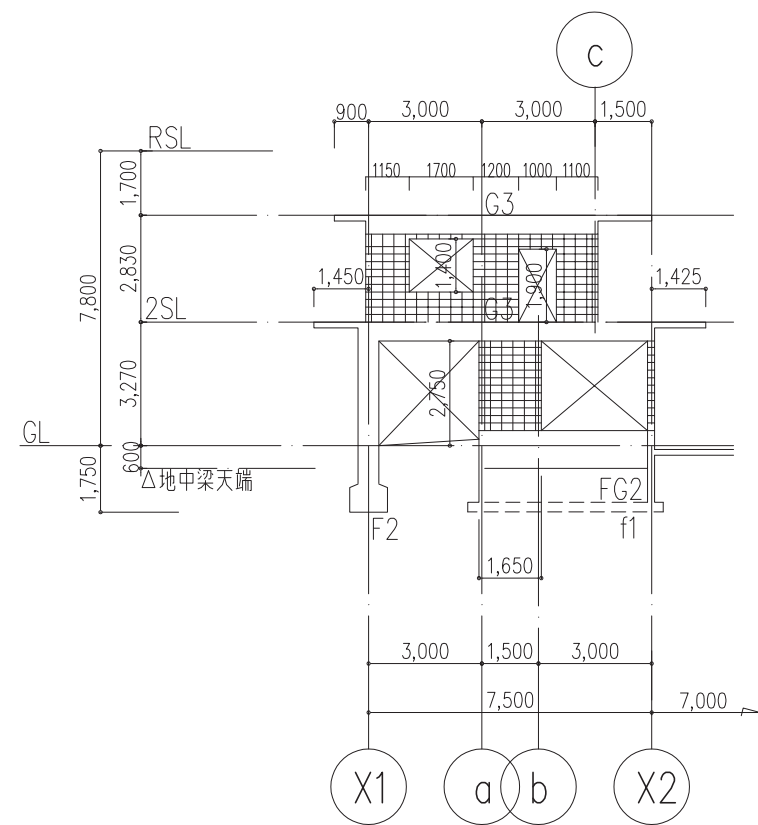
<補強部材>  
HSP1 H-100×100×6×8  
HSB2 H-100×100×6×8  
HV2 1-M18

横胴縁 取替  
C-100×50×20×3.2@600 新設  
(間柱外面に胴縁取付  
ねじ-ス L-100x100x7 BT 2-M12)

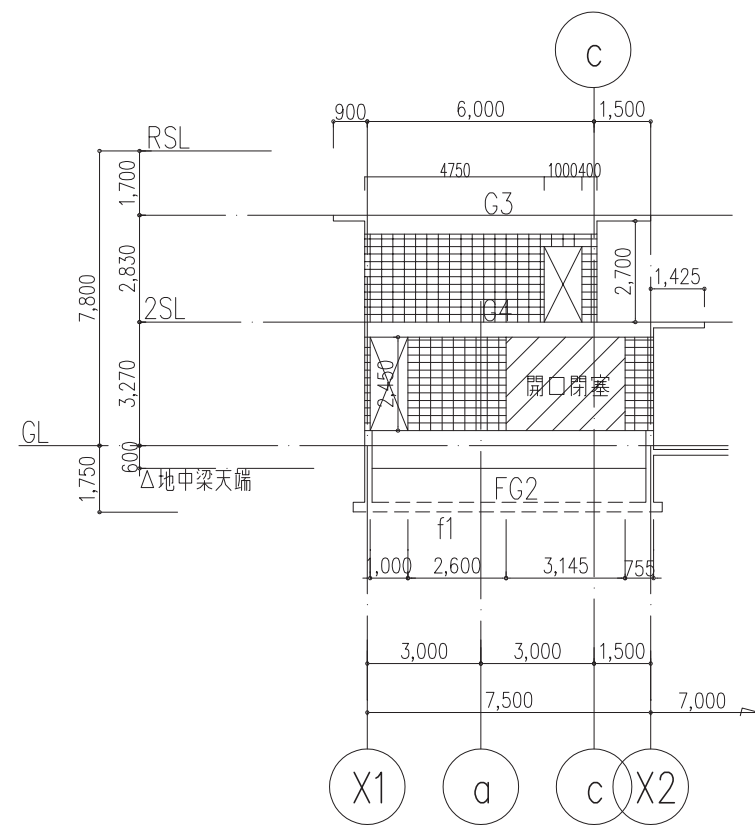


X8通 補強軸組図

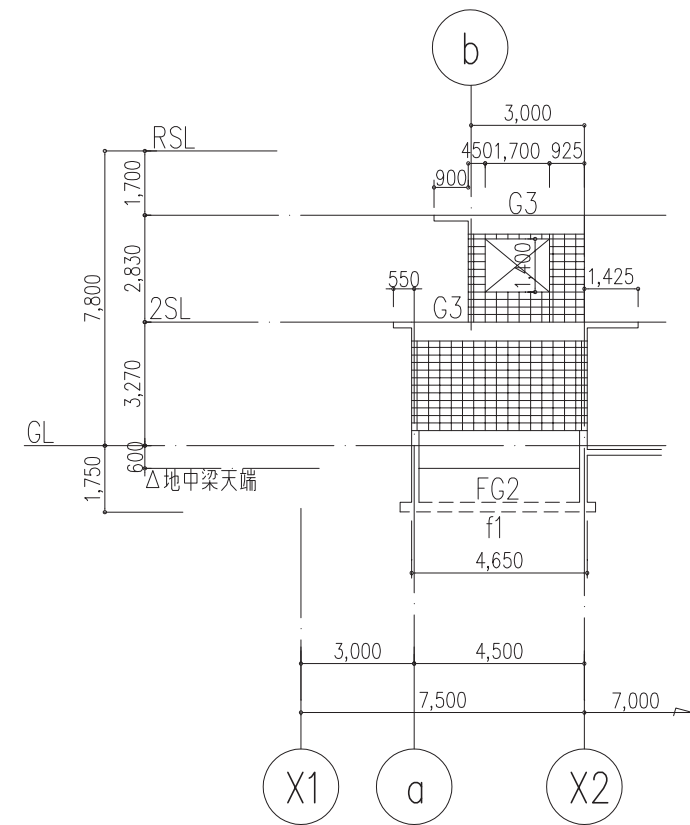
特記を除き  
立上り壁：W20  
CB壁：CB15



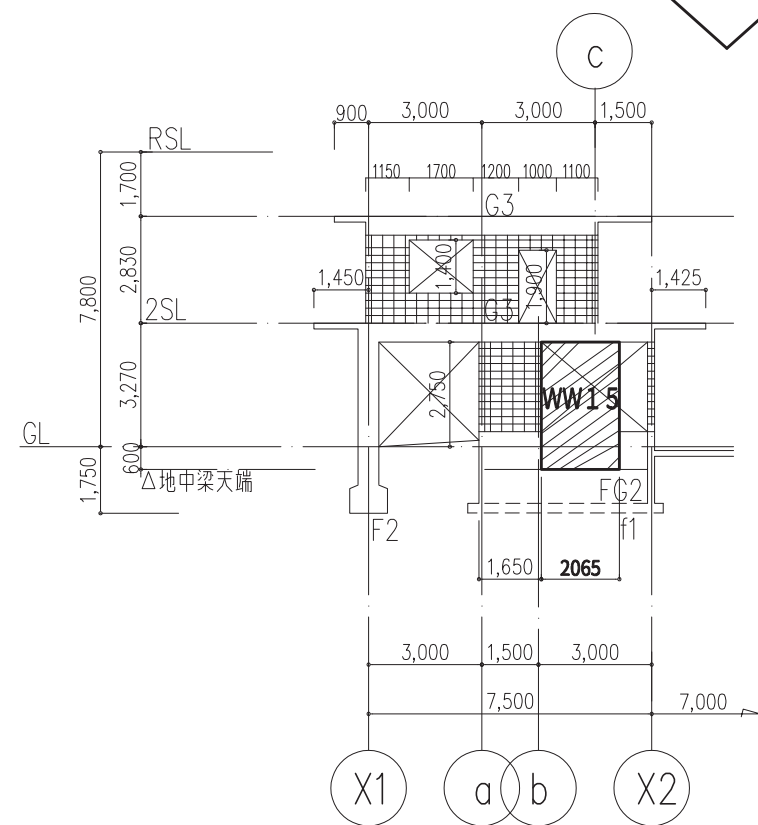
A通 既存軸組図



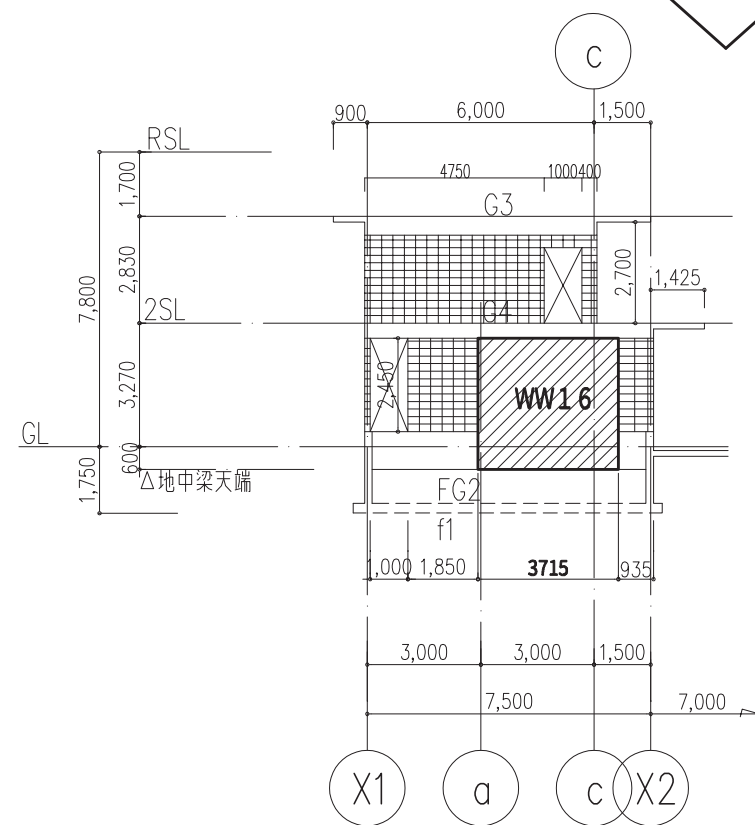
B通 既存軸組図



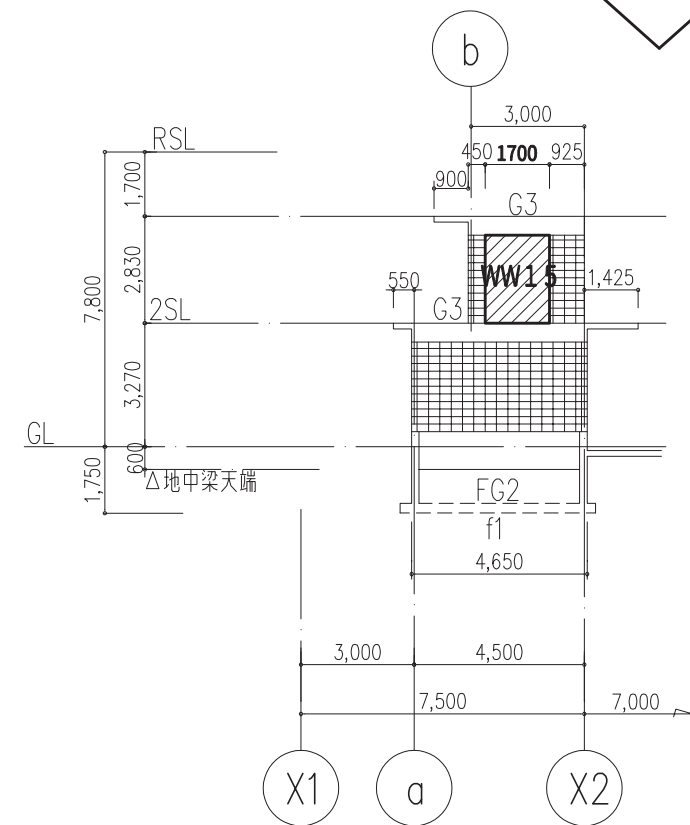
E通 既存軸組図



A通 補強軸組図



B通 補強軸組図



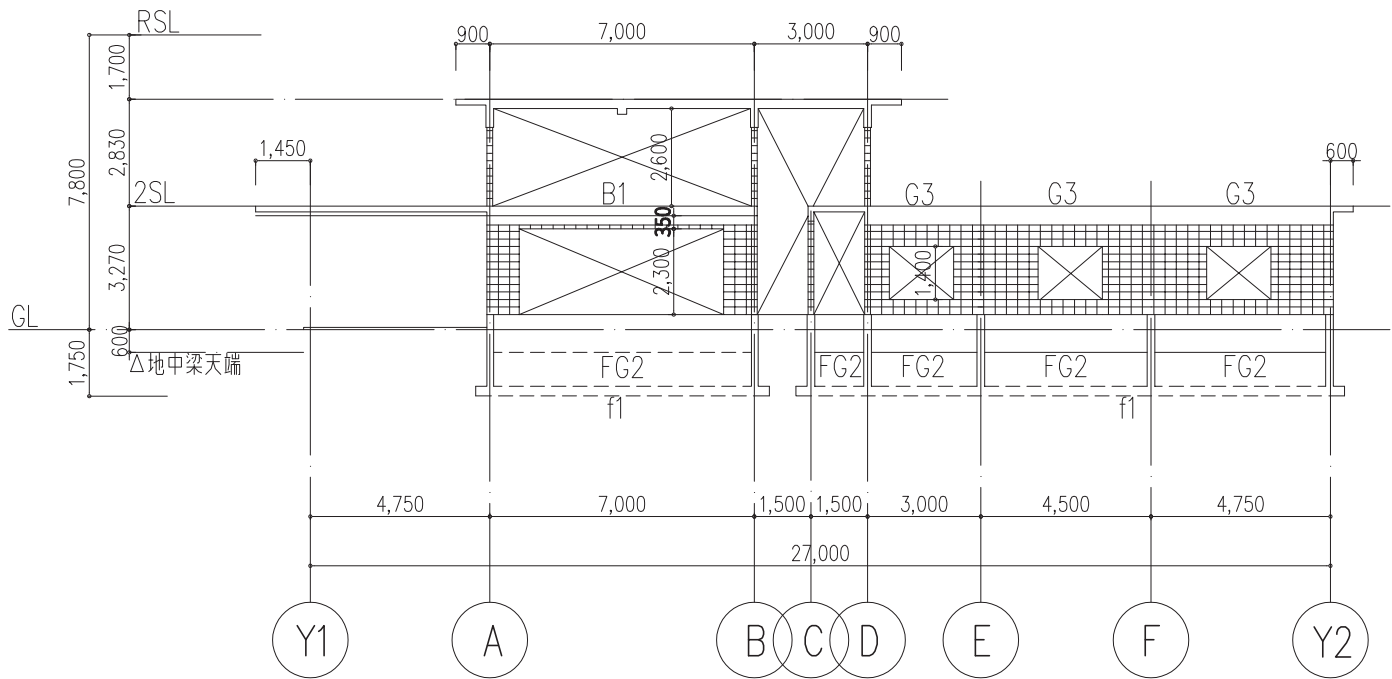
E通 補強軸組図

SCALE  
A1 1/100  
A3 1/200

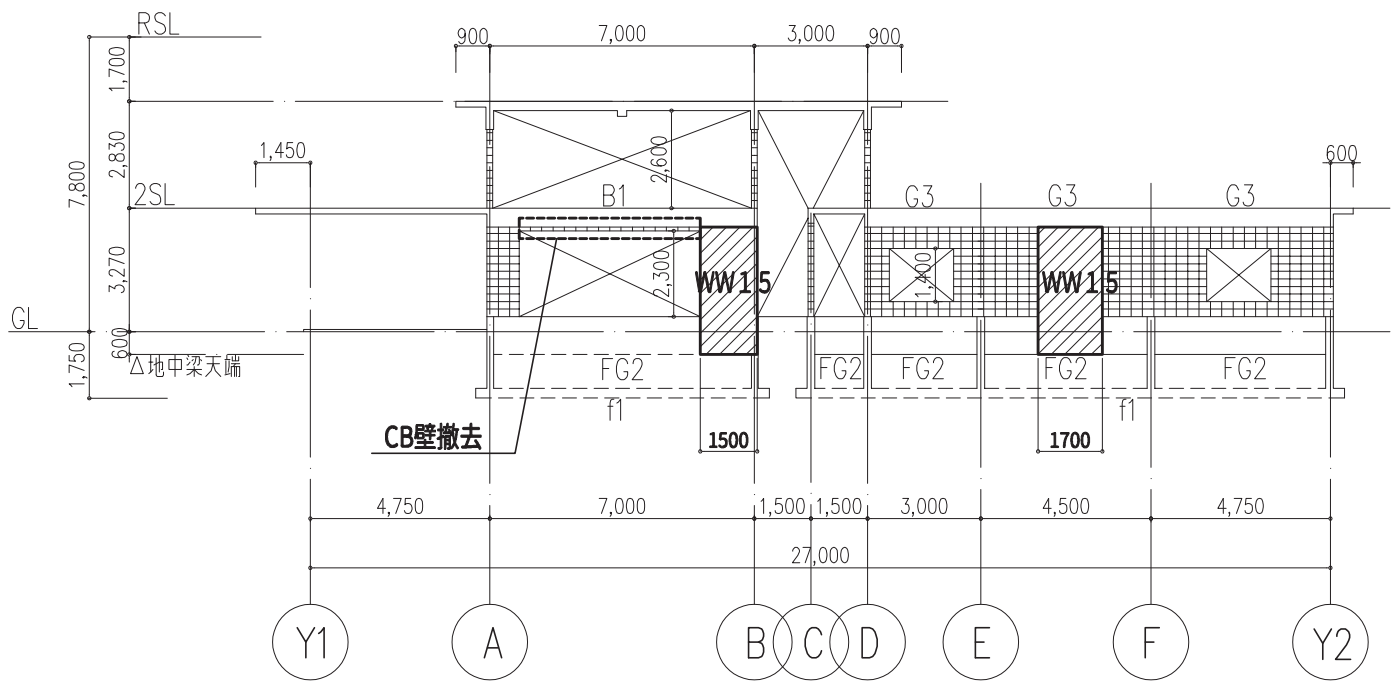
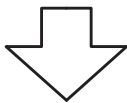
MAP NAME  
補強軸組図 (5)

CONSTRUCTION NAME  
令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事

MAP NO.  
S-12



a通 既存軸組図



a通 補強軸組図

SCALE

A1 1/100  
A3 1/200

MAP NAME

補強軸組図 (6)

CONSTRUCTION NAME

令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事

MAP NO.

S-13



壁補強要領図	
一般共通事項	
適用範囲	図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、以下の優先順位による。
	①公共建築工事標準仕様書（監修 国土交通省大臣官房官庁営繕部）
	②2001年改訂版既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準同解説（監修 国土交通省住宅局建築指導課）
	③官庁施設の総合耐震診断・改修基準及び同解説（財団法人 建築保全センター）
	④日本建築学会の諸規・基準及び建築工事標準仕様書
コンクリート	・普通コンクリート $F_c = 2.1 \text{ N/mm}^2$
	・グラウト材 $F_c = 3.0 \text{ N/mm}^2$ 以上
鉄 筋	・SD295A D10～D16 規格品
	・SD345 D19 以上 規格品
	・継手 全て重ね継手とする。
スパイラル筋	・SD295A 6φ 規格品
アンカー	・接着系アンカー頭ナット付き SD345 D19 以上
	・補強壁内へ定着するアンカー筋は、ナット付き異形棒鋼とし、有効定着長さ $L_n$ は、一般部で $20d_a$
	開口部の開口補強筋については $40d_a$ とする。
	又、アンカー筋有効埋め込み長さ $e$ は、一般部で $7d_a$ 、地中梁部と開口部の開口補強筋については、 $10d_a$ とする。
	…注1 ( $d_a$ = アンカー筋の呼び名)
	よって埋め込み長さ $e$ は、一般部で $8d_a$ 、地中梁部と開口部の開口補強筋については、 $11d_a$ とする。
補強詳細	1) 梁、柱のみからなるオープン骨組に1枚壁や袖壁の補強をする場合は、補強壁と接合する部分の既存梁、柱部材の仕上材を取り、躯体に深さ $5 \sim 10 \text{ mm}$ の目荒しを施し、アンカーを配置して壁筋を配筋した後、現場打ちのコンクリートを打設し上部にグラウト材を圧入する。
	2) 既存の壁に増打ちして補強壁を設ける場合は、既存の壁、梁及び柱部材の仕上材を取り、躯体の目荒しを行いシャーコネクターを打設した後1)項の要領にて補強する。
	配電盤埋込みの上、下部の壁は十分に探査を行い、配線等を回避すること。
引張試験	1) 公共建築改修工事標準仕様書、建築工事改修工事監理指針に基づき接着系アンカーの引抜き耐力試験を行う。

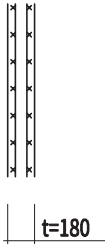

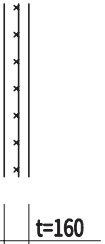
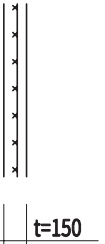
## 増設壁のコンクリート打設方法

下部コンクリート流込み

This diagram illustrates the bottom concrete pouring method. A flexible hose, labeled "フレキシブルホース", is shown inserted into the bottom of the wall form. The concrete is poured from the bottom, filling the space. A vertical dimension line on the right indicates a height of "約200" (approximately 200 units). Below the diagram, a note states: "・外部振動機等により締固め" (Consolidation is performed using external vibration machines, etc.).

上部グラウト材注入

This diagram illustrates the top grout material injection method. A 10φ air extraction pipe, labeled "エア抜き10φ", is inserted into the top of the wall form. Grout material is injected from the bottom through a "パイプ注入口" (pipe injection port). The top of the form is sealed with "パッキング" (packing). A vertical dimension line on the right indicates a height of "約200" (approximately 200 units). Below the diagram, a note states: "・グラウト完了はエア抜きパイプよりオーバーフローしたグラウト材料で決定する。" (Completion of grout is determined by the grout material overflowing from the air extraction pipe).

符 号			RW1 8	RW1 5	WW1 6	WW1 5
断 面						
縦 筋			D13 —@200 ダブル	D13 —@200 シングル	D13 —@200 シングル	D13 —@200 シングル
横 筋			D13 —@200 ダブル	D13 —@200 シングル	D13 —@200 シングル	D13 —@200 シングル
開口補強筋	タテ	——	——	——	1 - D16	1 - D16
	ヨコ	——	——	——	——	——
巾止×筋			D10—縦・横 @600	——	——	——
アンカー	一般部		D19—@150 シングル (梁面・柱面)	D16—@150 シングル (梁面・柱面)	D16 — @150 シングル (梁面)	D16 — @150 シングル (梁面)
	開口部	タテ	——	——	1 - D19	1 - D19
		ヨコ	——	——	——	——
スパイラル筋			6φ φ100 —@50	6φ φ75 —@50	6φ φ75 —@50	6φ φ75 —@50

### スパイラル筋による割裂補強図

$l_i$	$\phi 150$ の場合	80
$l_i$	$\phi 100$ の場合	55
$l_i$	$\phi 70$ の場合	40

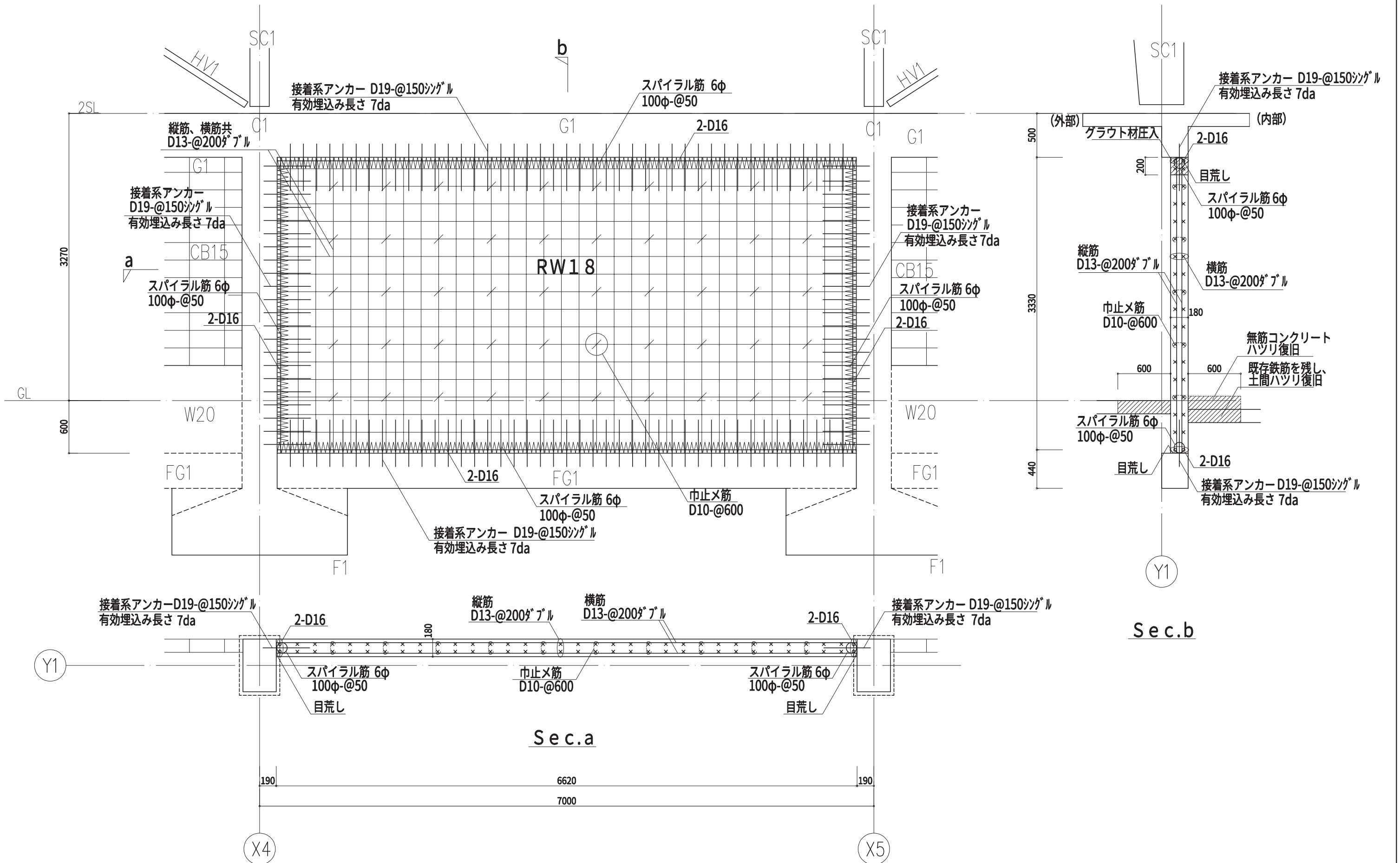
### ゲージ要領図

### スパイラル筋による割裂補強図

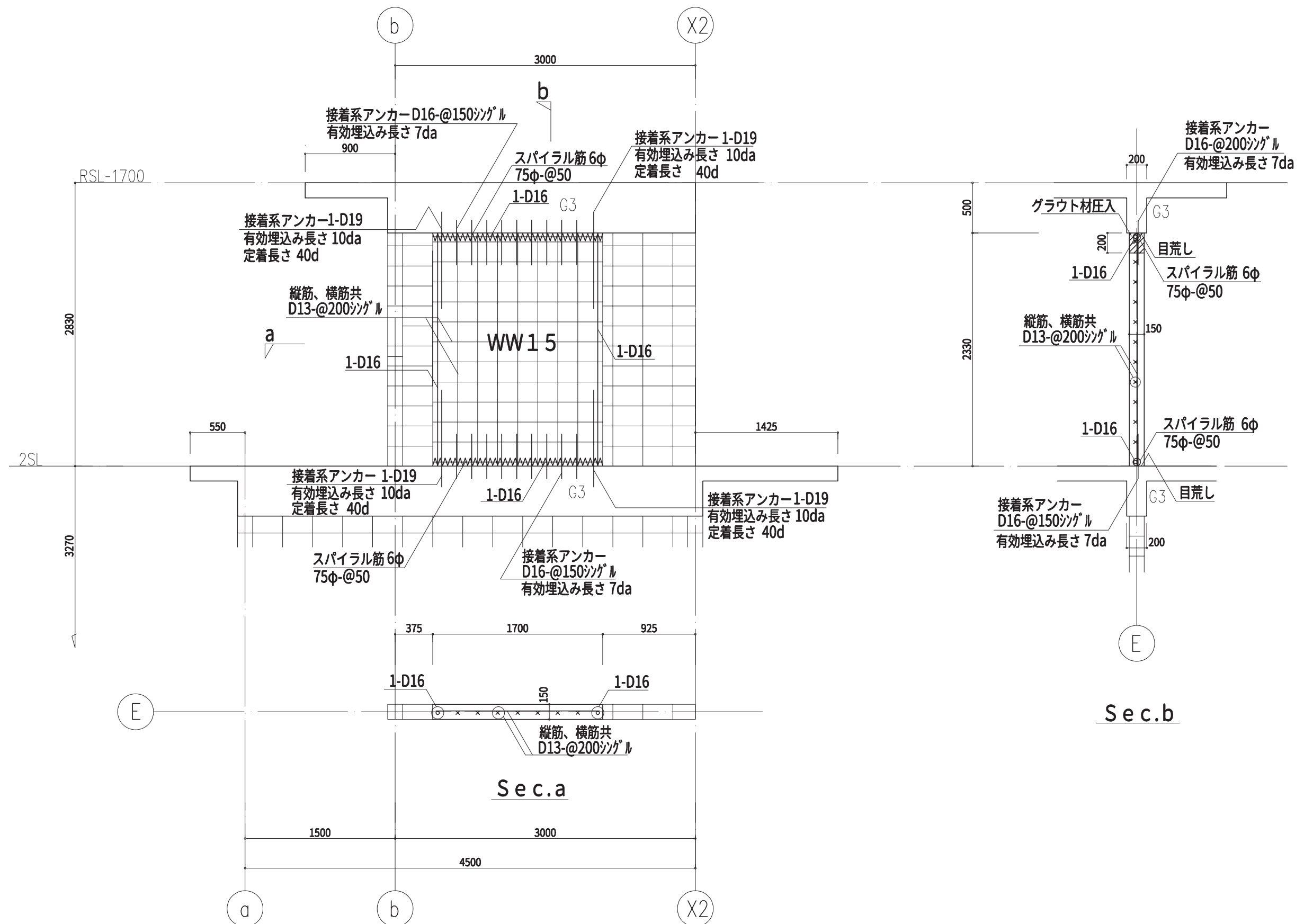
$l_i$	$\phi 150$ の場合	80
$l_i$	$\phi 100$ の場合	55
$l_i$	$\phi 70$ の場合	40

### ゲージ要領図

1階 Y1通 X4～X5通間 RW18補強壁配筋詳細図



2階 E通 a~X2通間 WW15補強壁配筋詳細図



SCALE	
A1	1/20
A3	1/40

MAP NAME
補強壁詳細図 (2)

CONSTRUCTION NAME
令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事

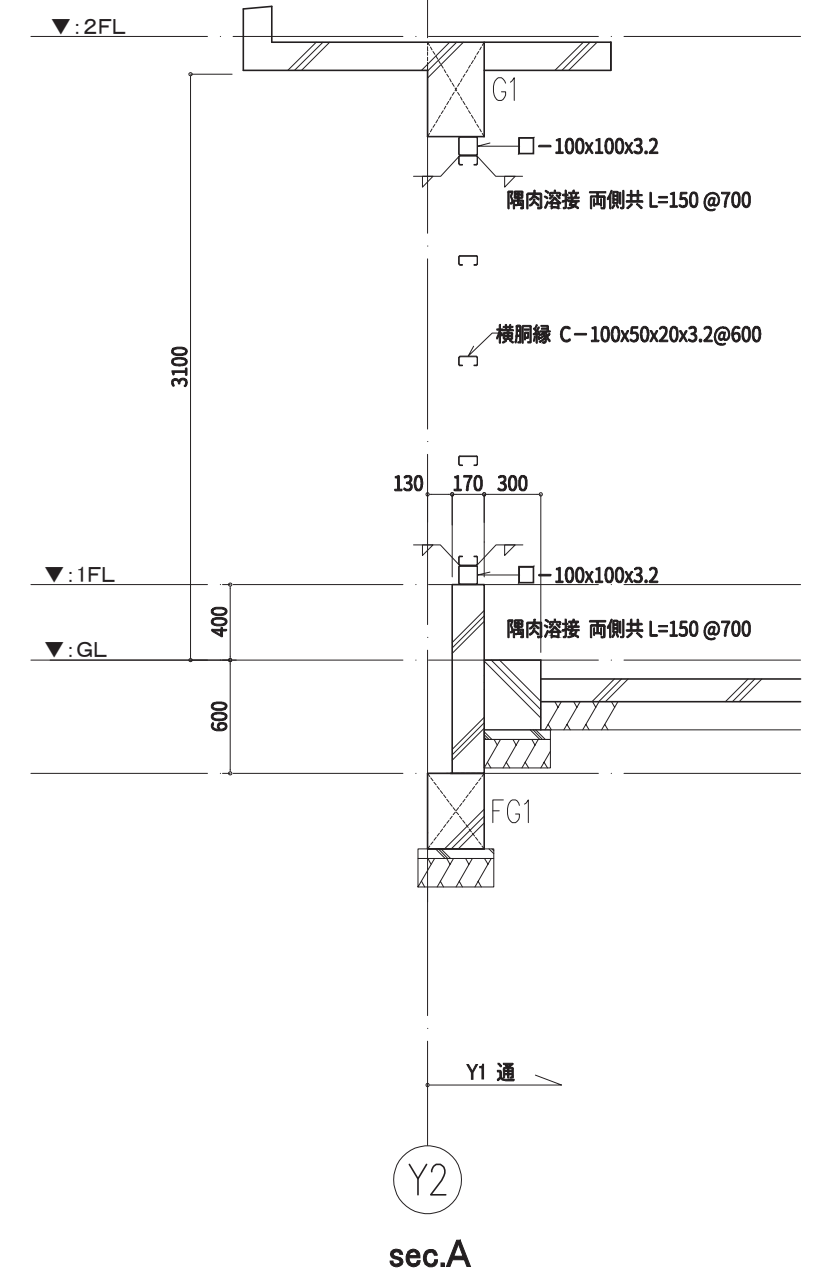
MAP NO.
S-16

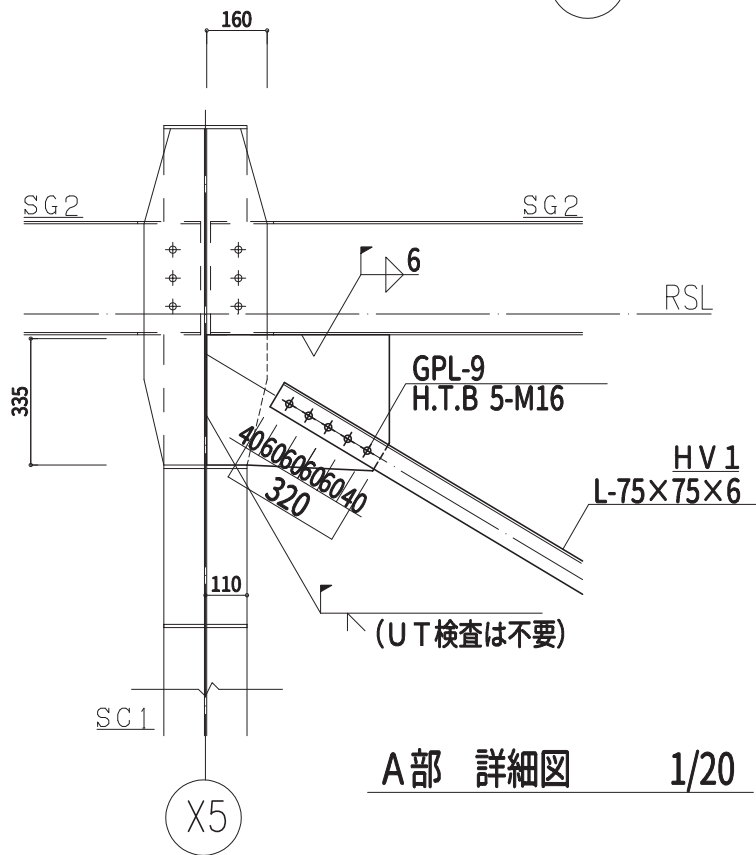
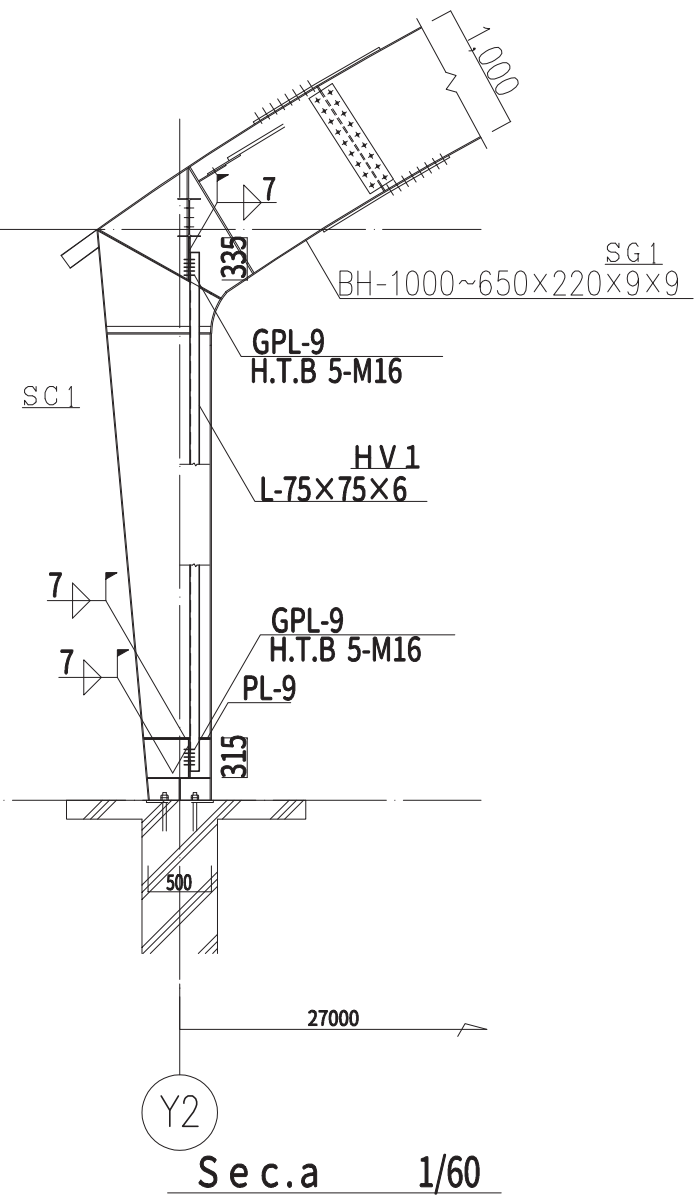
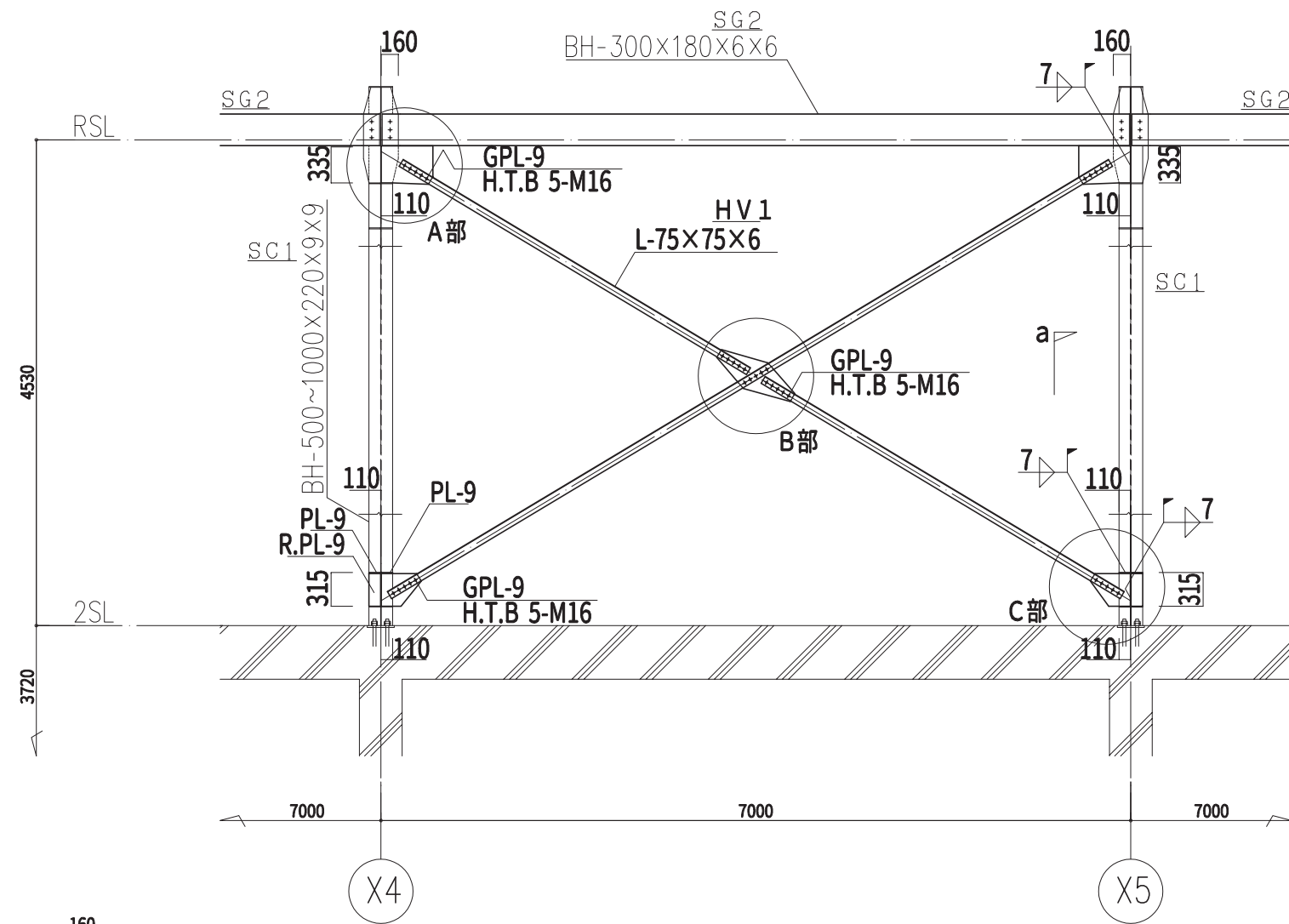


※コンクリートブロック撤去後、鉄骨下地の壁を新設する。  
既存鉄筋の切断面は、防錆処理を行う。

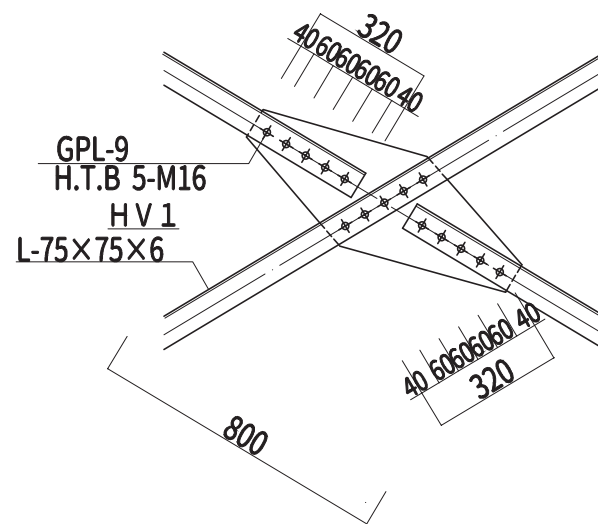


sec.B A3 : 1/20

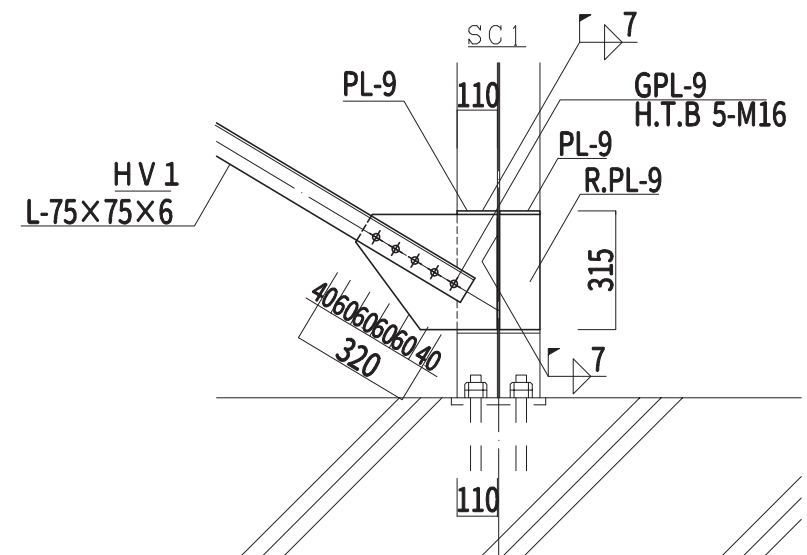




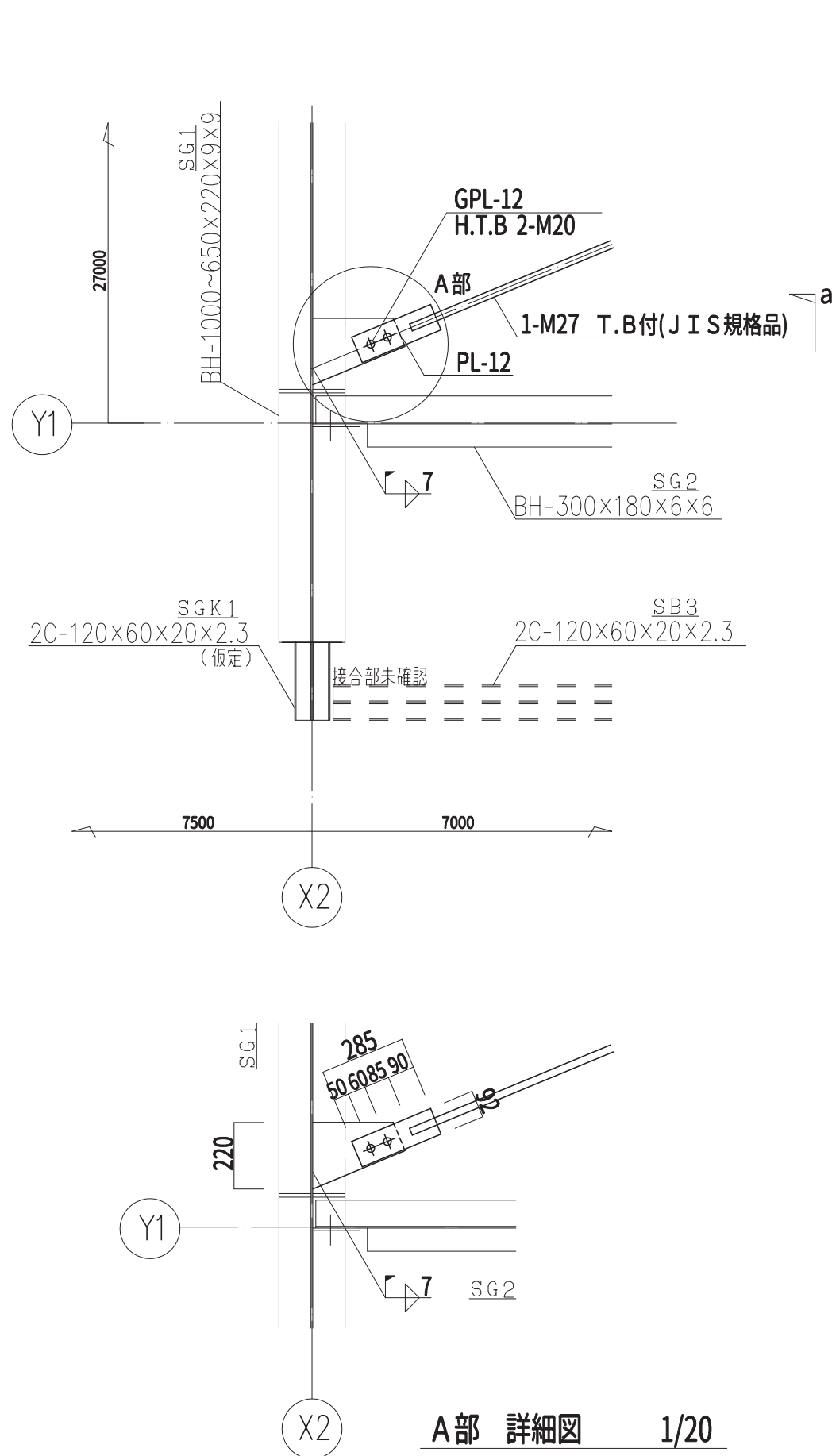
A部 詳細図 1/20



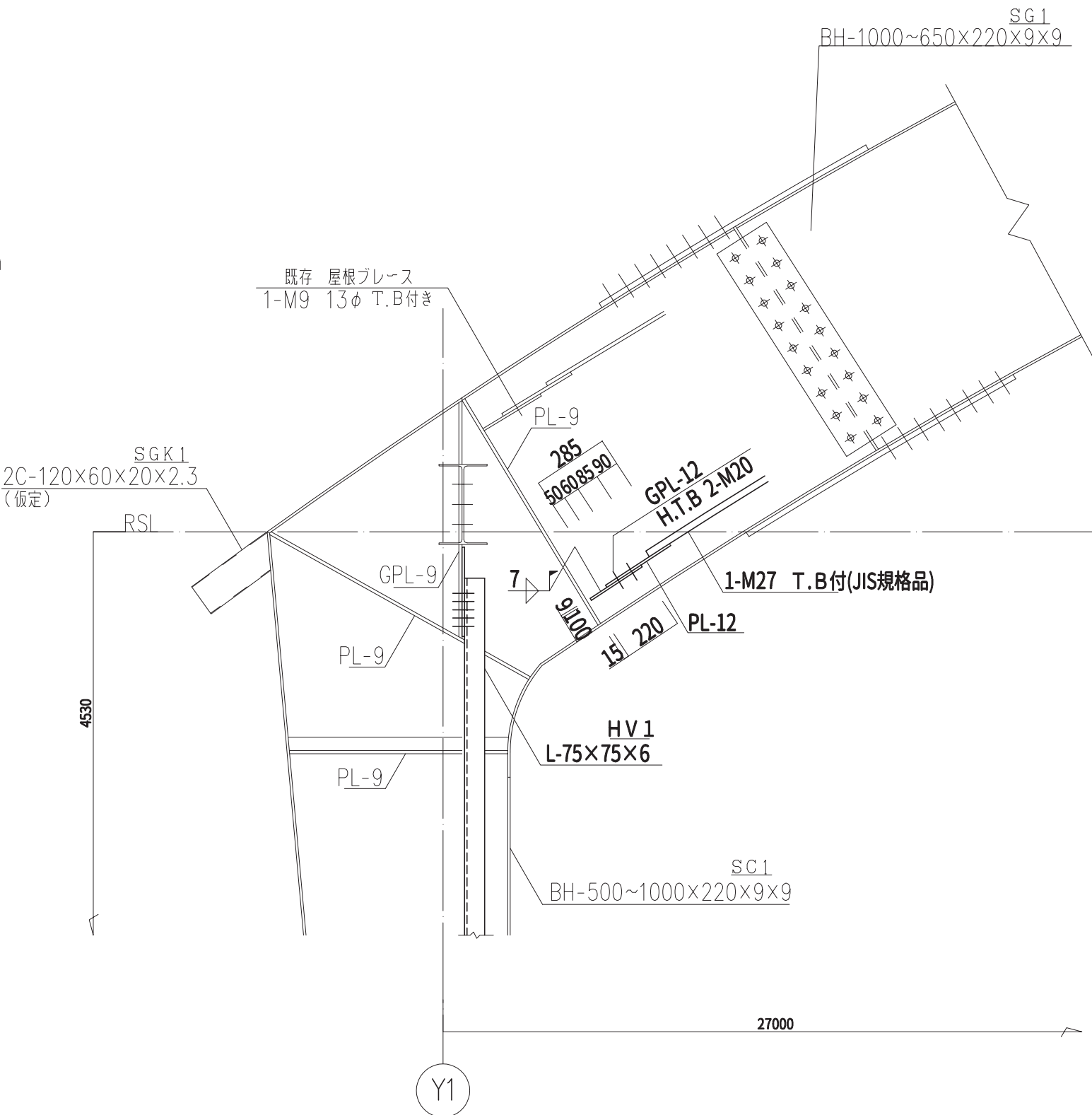
B部 詳細図 1/20



C部 詳細図 1/20

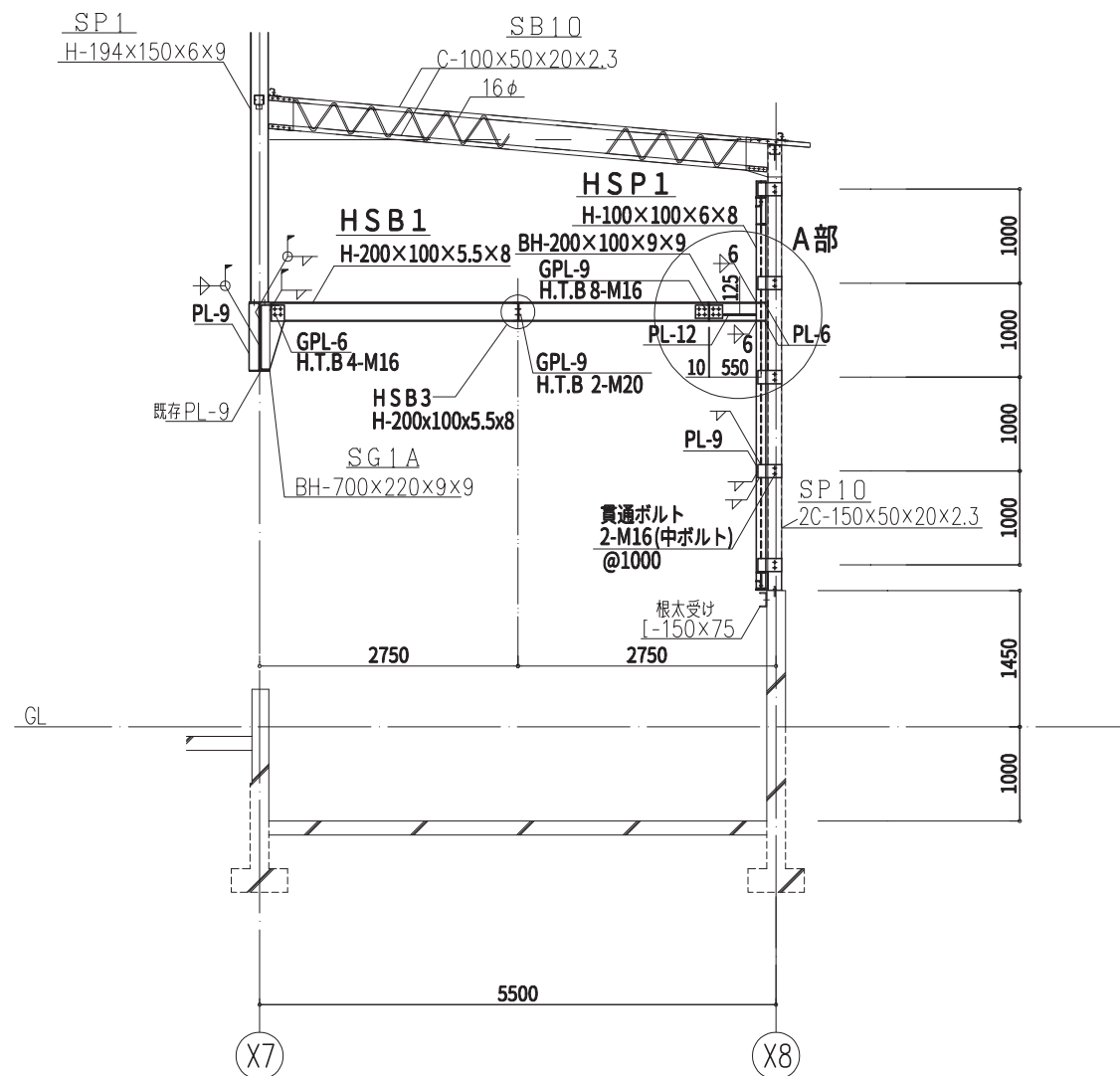


A部 詳細図 1/20



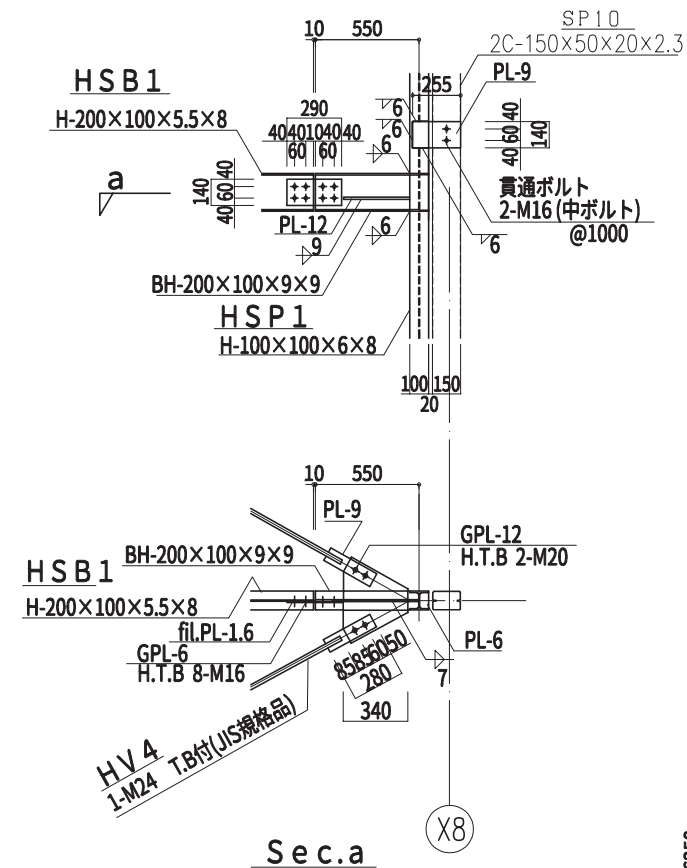
Sec.a 1/20

ステージ部 鉄骨補強詳細図 (1) 1/80

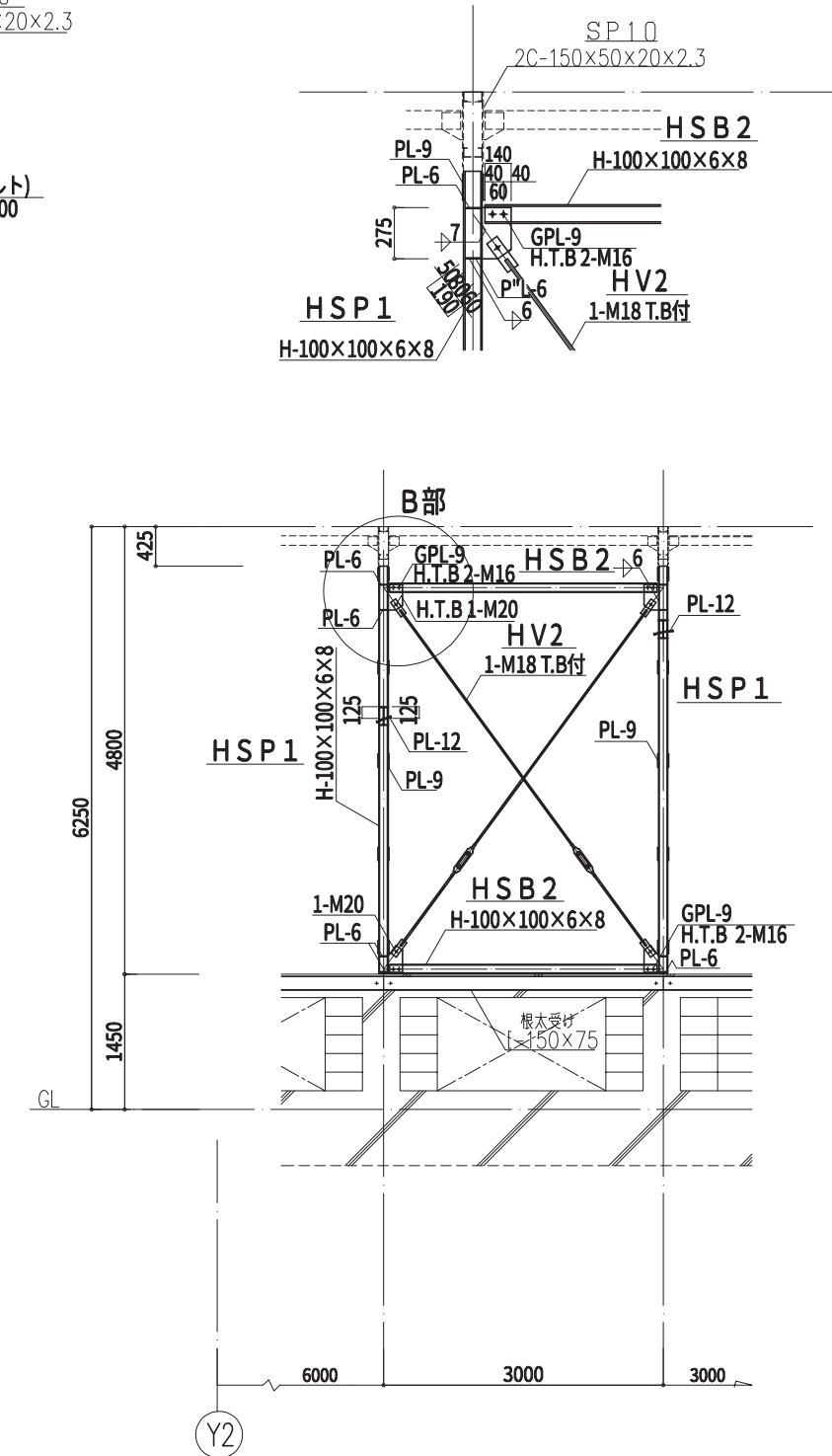


Y2通-6000 補強詳細図 1/80

A 部詳細図 1/40



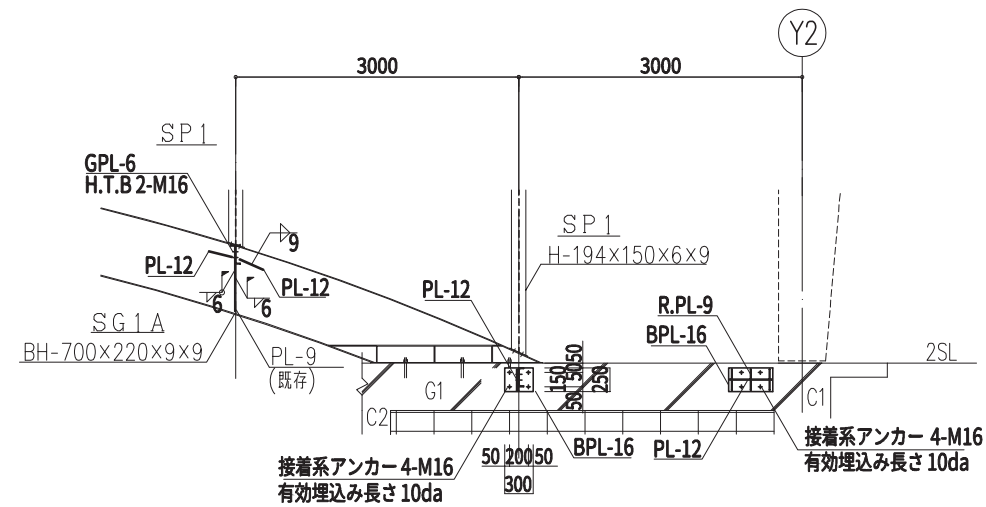
B部詳細図 1/40



X8通 補強詳細図 1/80

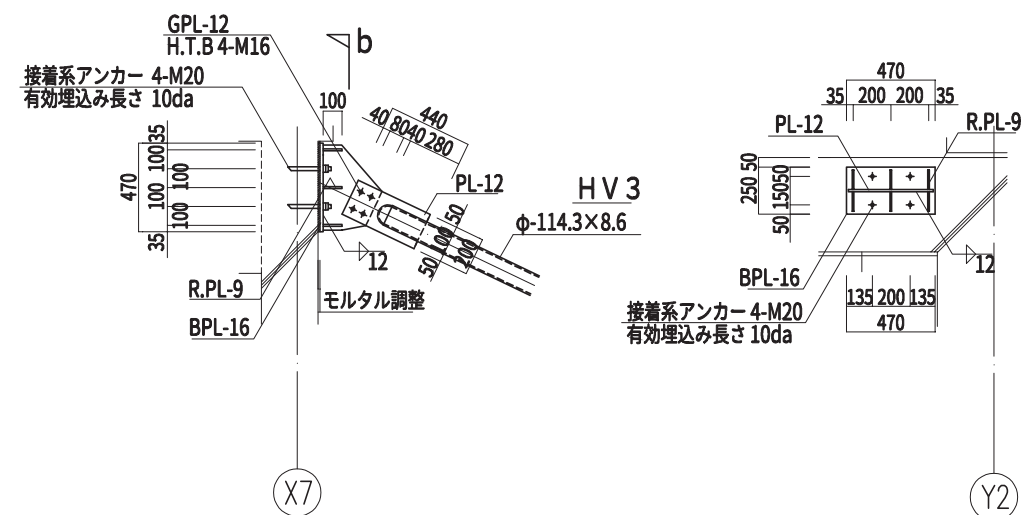
SCALE		MAP NAME	CONSTRUCTION NAME	MAP NO.
A1	1/40,20	ステージ部 鉄骨補強詳細図 (1)	令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事	S-20
A3	1/80,40			

ステージ部 鉄骨補強詳細図 (2) 1/80

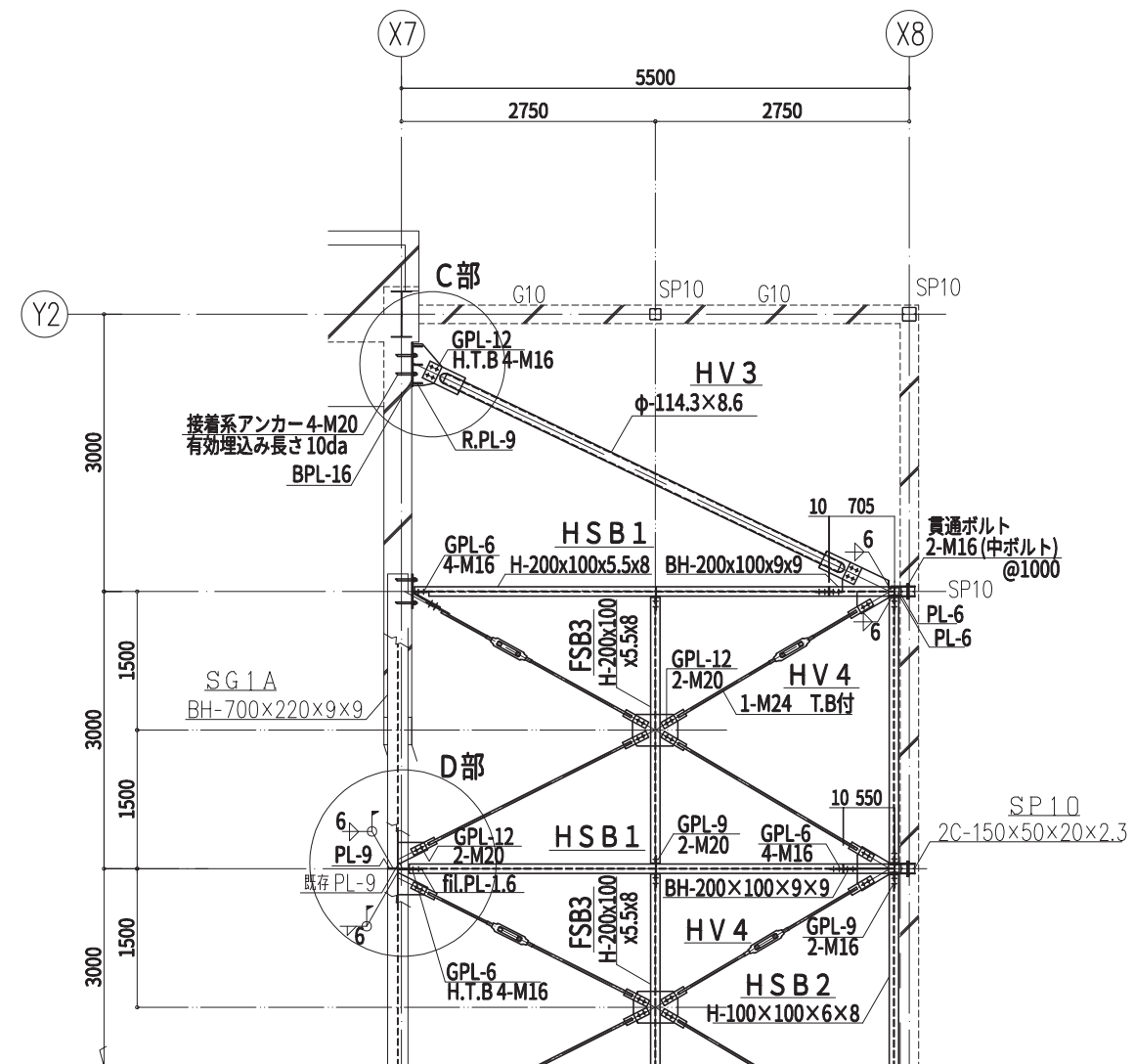


X7通 補強詳細図 1/60

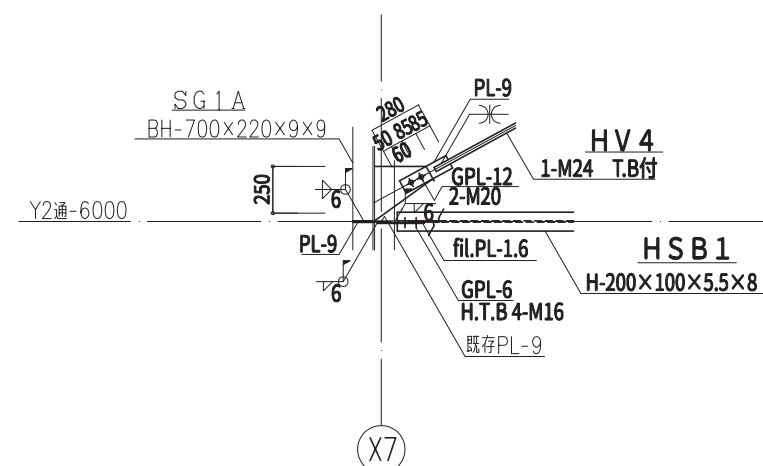
C部詳細図 1/40



Sec.b



HV3・HFB2・HV4 補強詳細図 1/80

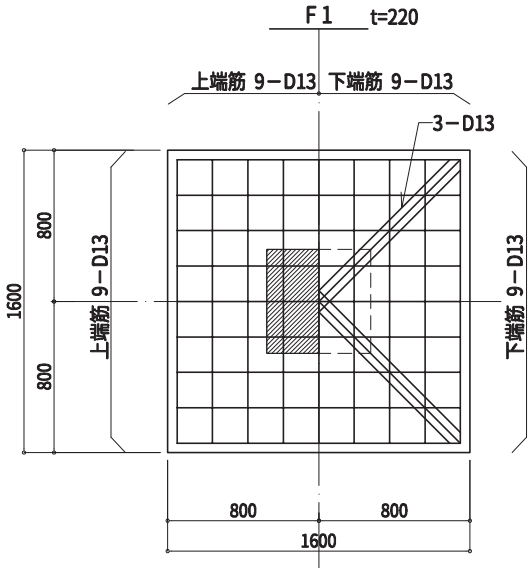


D部詳細図 1/40

鉄骨部材 リスト	特記なき限り	1. 柱・梁仕口パネルの通しダイヤフラム板厚は、柱・梁材の内、最も厚い物の 2サイズアップ (SN490C)以上とする
		2. 仕口パネルの内ダイヤフラム(SN490B)位置への溶接は、柱のR位置を避けること
		3. 梁継手は、SCSS規準による（鉄骨梁継手リスト参照）

符 号	部 材	材 質	接 合 部 ・ 備 考
柱	C 1	1 F □-200x200x9	BCR295 ダイヤフラム PL-22以上 (SN490C)
大 梁	G 35、CG35	H-350x175x7x11	SN400B 剛接合 継手：継手リスト参照
小 梁	B 35、CB35	H-350x175x7x11	SN400B 大梁へ剛接合 継手：継手リスト参照
	B 25	H-250x125x6x9	SS400 ピン接合：G.PL-9 H.T.B 3-M20 一列配置 ピッチ 60 端空き 40
	B 10	H-100x100x6x8	// ピン接合：G.PL-9 H.T.B 2-M16 並列配置 ピッチ 60 端空き 35
他 部 材	H 16	1-M16 (水平ブレース)	SS400 ピン接合：G.PL-9 H.T.B 1-M16 羽子板 PL-6 JIS規格品 ターンバックル付
	根 太	C-100x50x20x2.3 @300	SSC400 ピン接合：ネコピース L-100x100x7程度 BT 2-M12 全周溶接接合も可

基礎 リスト



大梁継手 リスト

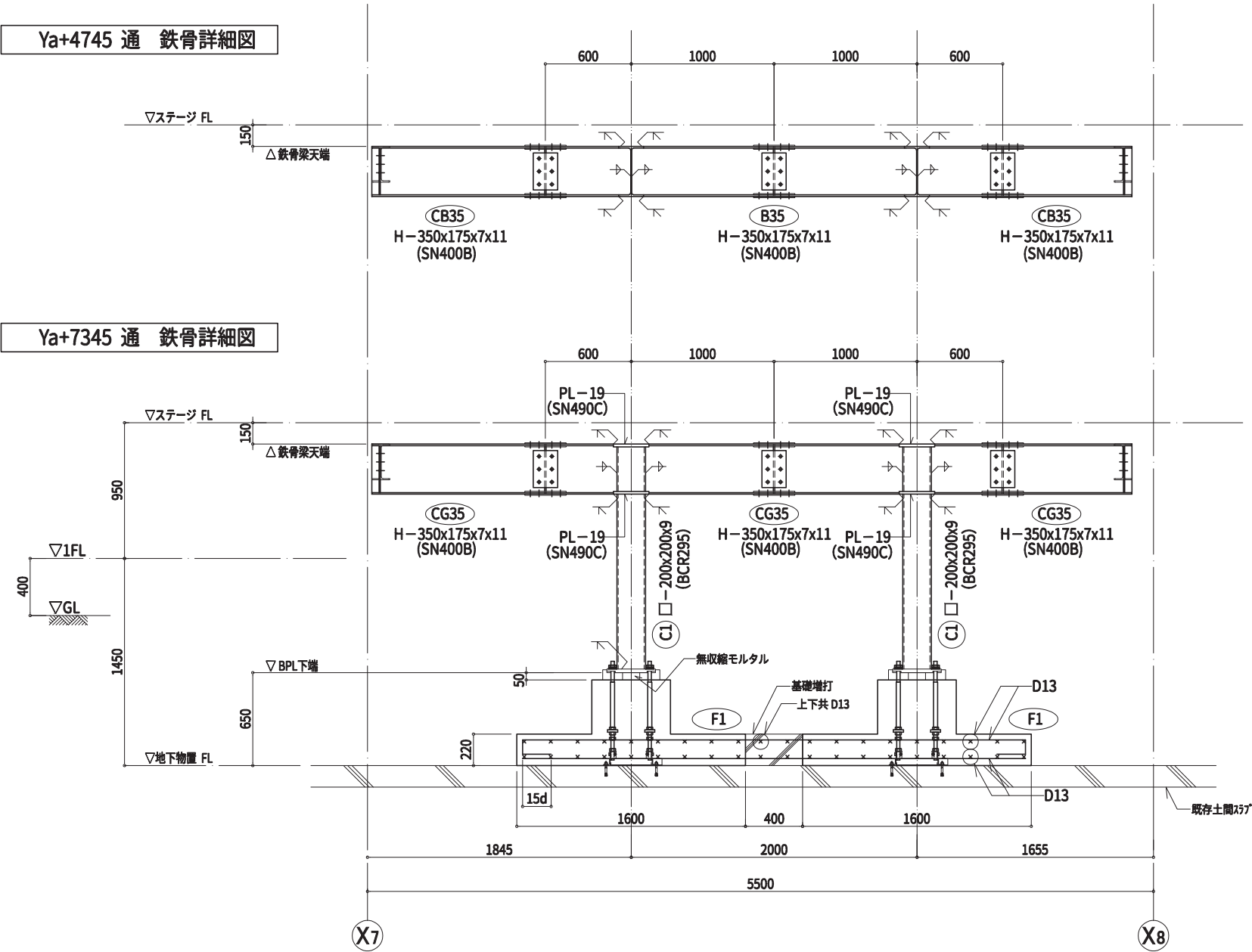
特記なき限り左記による
1. SCSS規準による
2. S.PL材質：母材と同材
3. H.T.B材質：S10T

材質	符号	G35、CG35、CB35、B35
		GGF-4X-J3517・0612-20 H-350x175x7x11x13
SN400B		
フランジ	16-M20:L=60	2E- 9x175x280
ウェブ	6-M20:L=50	2E- 9x175x280

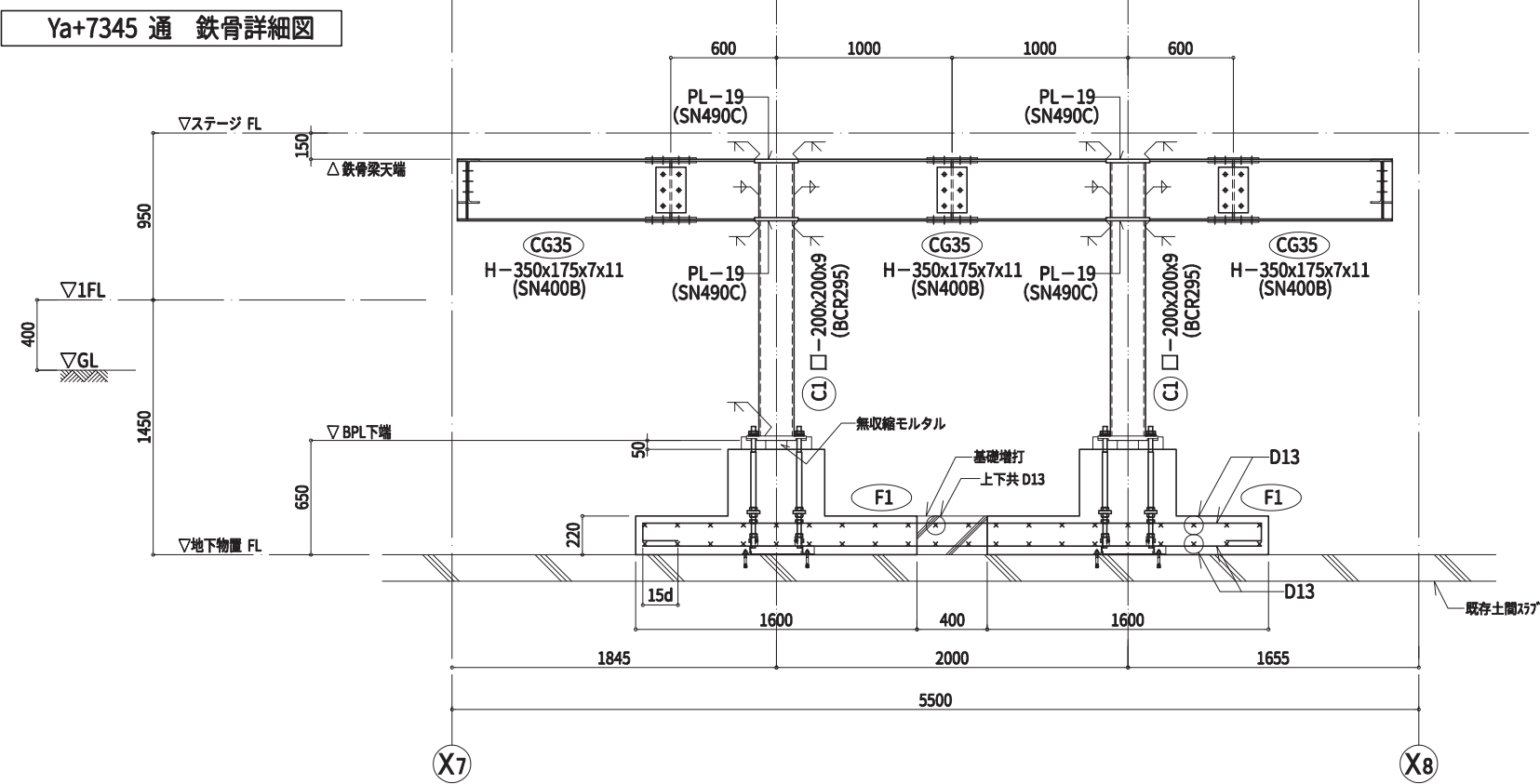
柱脚 リスト

符 号	C 1
B.PL断面	M/A'-XNEO工法：EB200-4-24 
鉄 骨	□-200x200
BASE.PL	M/A'-XNEO既製品
A.BOLT	M/A'-XNEO既製品
Rib.PL	
柱型断面	
主 筋	8 - D16 (L=200以上)
HOOP	□- D13 @150

Ya+4745 通 鉄骨詳細図

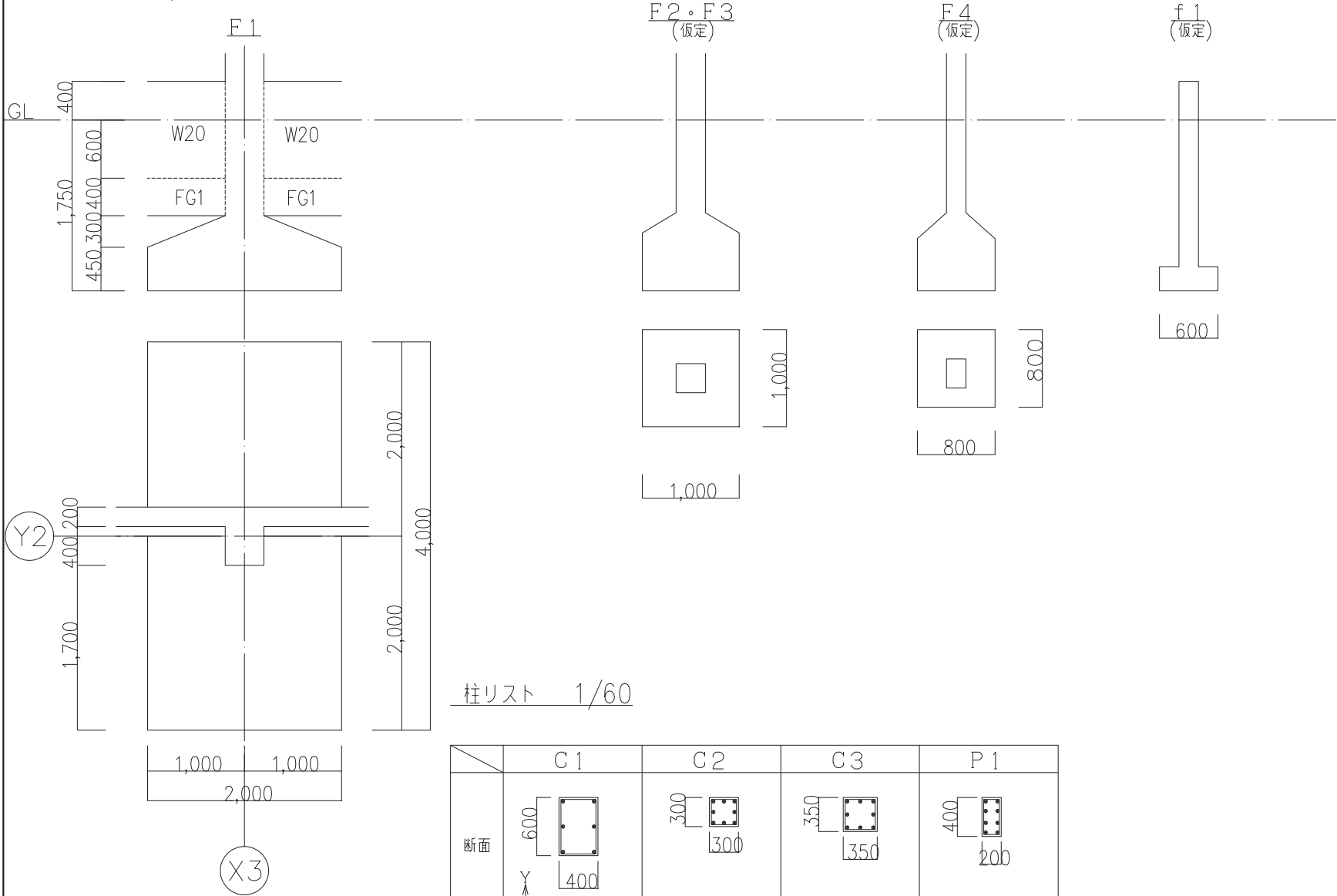


Ya+7345 通 鉄骨詳細図





基礎リスト 1/60

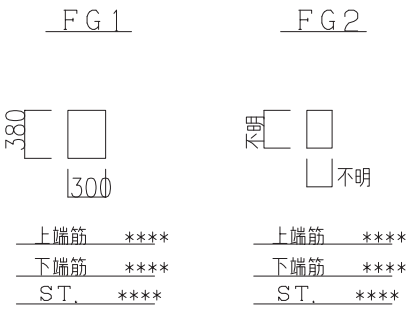


柱リスト 1/60

	C 1	C 2	C 3	P 1
断面				
主筋	6-19φ	8-19φ	8-19φ	8-19φ
HOOP	φ9-@200	φ9-@300~@150	φ9-@300~@150	φ9-@150
備考	鉄筋探査、ハツリ調査より決定	鉄筋探査より決定	鉄筋探査より決定	鉄筋探査より決定

地中梁リスト 1/60

\*\*\*\*印は未調査



大梁リスト 1/60

\*\*\*\*印は配筋不明

	G 1	G 2	G 3	G 4	G 1 0
断面					
上端筋	3-19φ	2-19φ	2-19φ	2-19φ	****
下端筋	3-19φ	2-19φ	2-19φ	2-19φ	****
ST.	φ9-@350	φ9-@350	φ9-@300	φ9-@300	****
備考	鉄筋探査、ハツリ調査より決定	G 1 に同等と推定	鉄筋探査より決定	鉄筋探査より決定	未調査

小梁リスト 1/60

\*\*\*\*印は配筋不明

	B 1	B 2
断面		
上端筋	****	****
下端筋	****	****
ST.	****	****
備考	未調査	未調査

鉄骨部材リスト

\*印は不明箇所を示す

アリーナ部

	符合・	階	部材・
柱	SC 1	2	BH-500~1000×220×9×9
	SP 1	2	H-194×150×6×9
大梁	SG 1	R	BH-1000~650×220×9×9
	SG 1 A	R	BH-700×220×9×9
	SG 2	R	BH-300×180×6×6
	SG K 1	R	2C-125×60×20×2.3 (仮定)
小梁	SB 1	R	BH-300×180×6×6
	SB 2	R	2C-120×60×20×2.3
	SB 3	R	2C-120×60×20×2.3
	屋根ブレース	R	1-13φ
	母屋	R	C-100×50×20×2.3 @600
	V 1	2	壁ブレース:L-50×50×6
	横胴縁	2	C-100×50×20×2.3 @900

ステージ部

	符合・	階	部材・
柱	SP 1 0	2	2C-150×50×20×2.3 (仮定)
梁	SB 1 0	R	上・下弦材:C-100×50×20×2.3 ラチス材:16φ
	SB 1 1	R	2C-100×50×20×2.3 (縦並び)
	SB 1 2	R	2C-100×50×20×2.3 (横並び)
	SB 2 0	1	H-200×100×5.5×8
	屋根ブレース	R	1-13φ
	母屋	R	C-75×45×20×2.3 @600
	V 1	2	壁ブレース:L-50×50×6
	V 2	2	壁ブレース:1-16φ
	横胴縁	2	C-100×50×20×2.3 @900

壁リスト 1/60

符 号	CB 1 5	CB 1 9	W 1 8	W 2 0
断 面				
縦 筋	9φ-@400	9φ-@800	9φ-@200	9φ-@200
横 筋	9φ-@400	9φ-@800	9φ-@200	9φ-@200
備考・	鉄筋探査、ハツリ調査より決定	鉄筋探査より決定	鉄筋探査より決定	鉄筋探査より決定

床版リスト

配筋は不明

S	(7)150
SK 1	(7)150
SK 2	(7)150







電灯分電盤

盤名 幹線番号 幹線サイズ 容量(VA)	結線図	回路 番号	分岐 回路 記号	負荷容量 (VA)	負荷名称
L-1	屋内自立型・指定色塗装・接地端子(ELB、函体)・下部架台共				
【1Φ3W 200V/100V】					
合計8,071VA					
S-1より					
EM-CET60°		①	A2	688	照明
		②	A2	165	照明
		③	A2	14	照明
ELCB 3P 100AF/75AT ▲×1		④	G2	798	照明
EM-IE14° ×2		⑤	G2	1218	照明
		⑥	G2	1218	照明
		⑦	G2	798	照明
		Ⓐ	A2	2160	ドレンヒータ
			A2		予備×1
		①	A2	200	コンセント
		②	A2	200	コンセント
		③	A2	200	スクリーン操作器
		④	A2	400	バスケットゴール昇降操作盤
		⑤	A2	12	シーンセクター
			A2		予備×3
					予備スペース×4
L-2					
屋内壁掛型・指定色塗装・接地端子(ELB、函体)・下部配線ダクト共(W=300)					
【1Φ3W 200V/100V】					
上部配線ダクト共(W=300、天井高=2,500)					
合計2,812VA					
S-1より					
EM-CET22°		①	A2	312	照明
		②	A2	248	照明
		③	D2(AS連動)	22	照明
ELCB 3P 50AF/40AT		④	A2	212	タイムスイッチ盤
EM-IE14° ×2			A2		
		Ⓐ	A2	2	1F非常用照明
		Ⓐ	A2	16	2F非常用照明
		①	A2	500	コンセント
		②	A2	400	〃
		③	A2	300	〃
		④	A2	600	〃
			A2		予備×2
					予備スペース×4

引込開閉器盤

盤名 幹線番号 幹線サイズ 容量(VA)	結線図	回路 番号	分岐 回路 記号	負荷容量 (VA)	負荷名称
S-1	屋外壁掛型・指定色塗装・接地端子(ELB、函体)				
主開閉器一次側に避雷器(SPD、クラスⅡ)取付け					
【1Φ3W 200V/100V】					
引込み分界点より	合計16,883VA				
EM-CET38°				8,071	L-1
				2,812	L-2
MCCB 3P 100AF/100AT					
(中性線欠相保護機能付)					
(将来的に125ATへの取替可能な事:木造トイレ衛生器具の変更等)					
(電力会社 契約主開閉器)					

リモコンスイッチ盤 (参考図)

屋内壁掛型・指定色塗装・リモコンセレクトスイッチ(4回路)

弱電端子盤

< 収容機器一覧 >

種別	本工事
T-1	屋内壁掛型・指定色塗装・接地端子
電話	メタル回線 端子台20P
拡声	端子台10P
時計	端子台5P

既存 撤去指示

盤名称	設置場所	仕様	主幹	分岐	改修指示
S-1	屋外引込部	銅板製・露出形	3P 225AF×1	3P 50AF×1	
				2P 50AF×1	
L-1	倉庫2	銅板製・露出形	3P 100AF×1	3P 50AF×1	
				2P 50AF×11	
				1P 50AF×4	
L-2	ステージ	銅板製・露出形	3P 50AF×1	1P 50AF×10	
L-3	事務室	銅板製・埋込形	3P 100AF×1	1P 50AF×7	
安定器収納盤	倉庫2	銅板製・露出形			HID安定器×40個 (W1740×H2100×D310)
昇降装置操作盤	キャットウォーク	銅板製・露出形			(W300×H300×D140)

1 分電盤は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修電気設備工事仕様書に基づいて製作すること。

2 幹線は、端子台受けとする。

3 特記なきELCBは感度電流30mA、動作時間0.1SECとすること。

4 盤はすべて壁付とする。

5 特記なきは銅板製とし、塗装は指定色とする。

6 回路番号は下記とする。

① 電灯回路 ① コンセント回路 一般回路

Ⓐ 電灯回路 Ⓐ コンセント回路 一般回路V ⚠ 誘導灯回路・常灯回路

7 MCB、ELBはニュートラル付(スリム型)とする。

▲は、リモコン点滅番号をしめす。

8 各盤共通

自立型、壁掛型、埋込型、接地端子(シャーン、ELB)

9 SPDはJIS C 5381-11準拠。

SPDは採用するメーカーの施工基準に準拠した工法とし分離器内蔵されたものとする。

SHEET NO.

DRAWING

CHECK

DATE

SCALE

A1 Non

A3 Non

MAP NAME

電灯分電盤 結線図

弱電端子盤 構成図

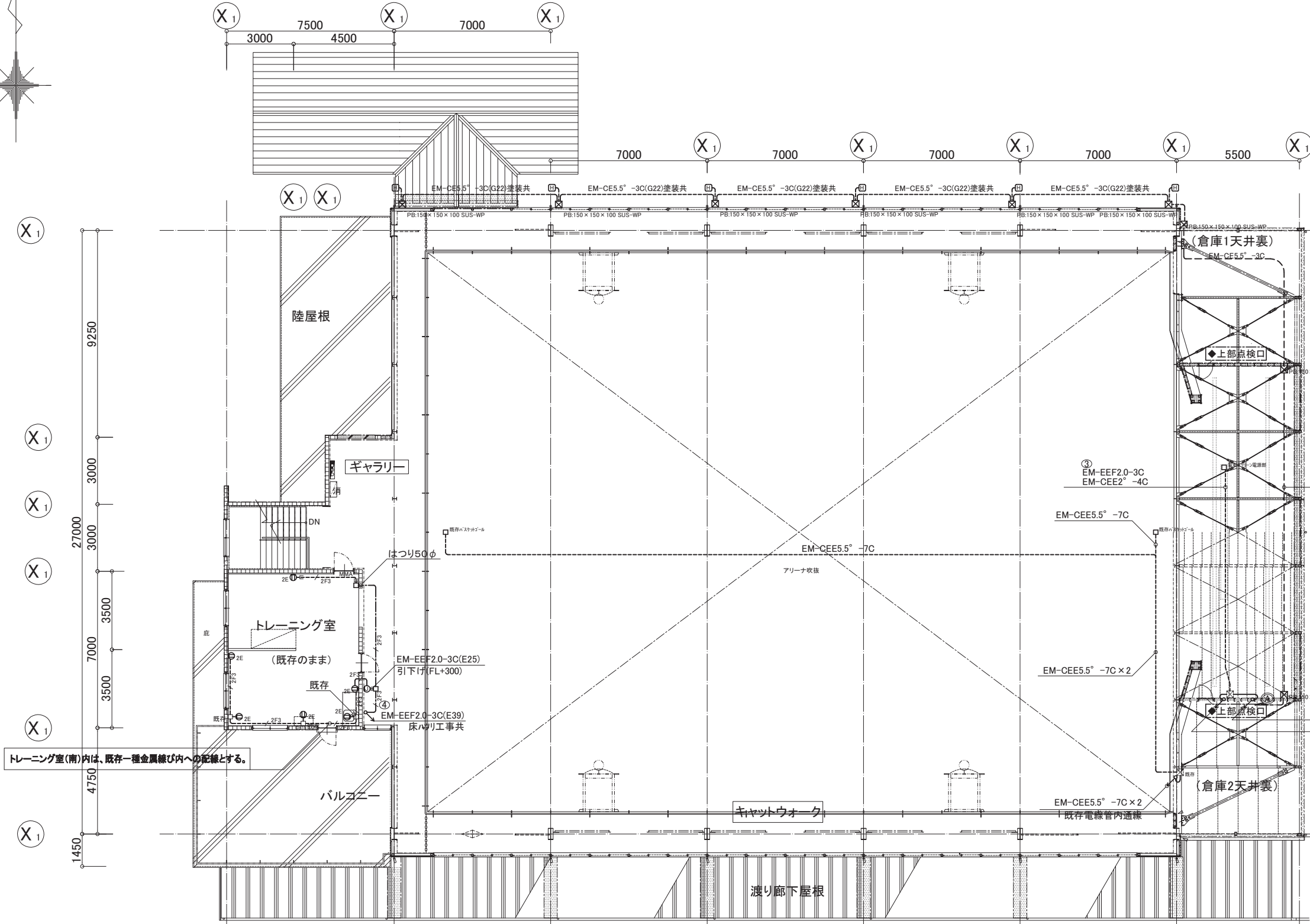
CONSTRUCTION NAME

令和5年度 三郷体育館 耐震補強工事

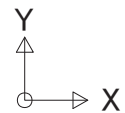
MAP NO.

E-03





トレーニング室(南)内は、既存一種金属線び内への配線とする。



改修 2階 平面図

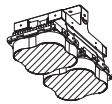
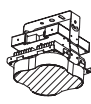














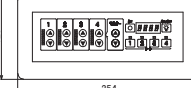
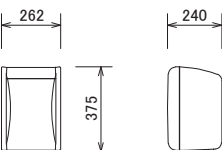
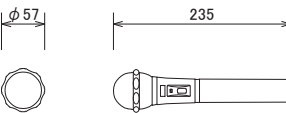
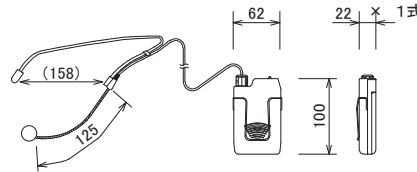
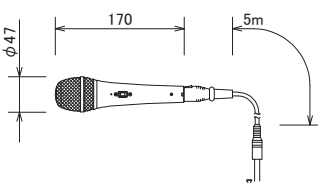
凡 例

● <sub>2</sub>	コンセント(埋込形)	2P15A×2
● <sub>1E</sub>	〃	2P15A(E)×2
● <sub>2ET</sub>	〃	2P15A(E)×2, ET×1
□ <sub>排水</sub>	排水路ヒータ 自己温度制御型	9m-200V
□ <sub>ブル</sub>	ブルボックス	
□ <sub>ジョ</sub>	ジョイントボックス	
■	防火区画貫通処理	
⊠	引込開閉器盤	
■	電灯分電盤	

特記事項

1. 特記なき配線・施工方法は下記とする。		
— <sub>2F2</sub>	EM-EEF2. 0-2C	— 天井内ケーブル配線
— <sub>2F3</sub>	EM-EEF2. 0-3C	----- 露出配線
— <sub>1E(E)</sub>	EM-IE1. 6×3C(E19)	— 2重床内いんべい配線
— <sub>2E(E)</sub>	EM-IE2. 0×3C(E19)	— 天井内配管配線
— <sub>EM</sub>	一種金属線び保護	
2. 壁内、及び保護が必要な部分は、それぞれのサイズのPF管で保護する。		
3. 壁内の位置ボックスは、102×102×44塗代付のアウトレットボックスを使用する。		
4. 配線器具は大角型運用型とする。		
5. 既存電線管等を使用する場合は、劣化、固定状況を確認の上、仕様書に準じた補強を行う。		
6. 防火区画、及び防火上主要な間仕切りを貫通する配管配線等は国土交通省大臣認定工法による区画貫通処理を行うこと。尚、コンクリート貫通工事を行う場合は、鉄筋探査により貫通場所を特定した上で、監督員と協議すること。		

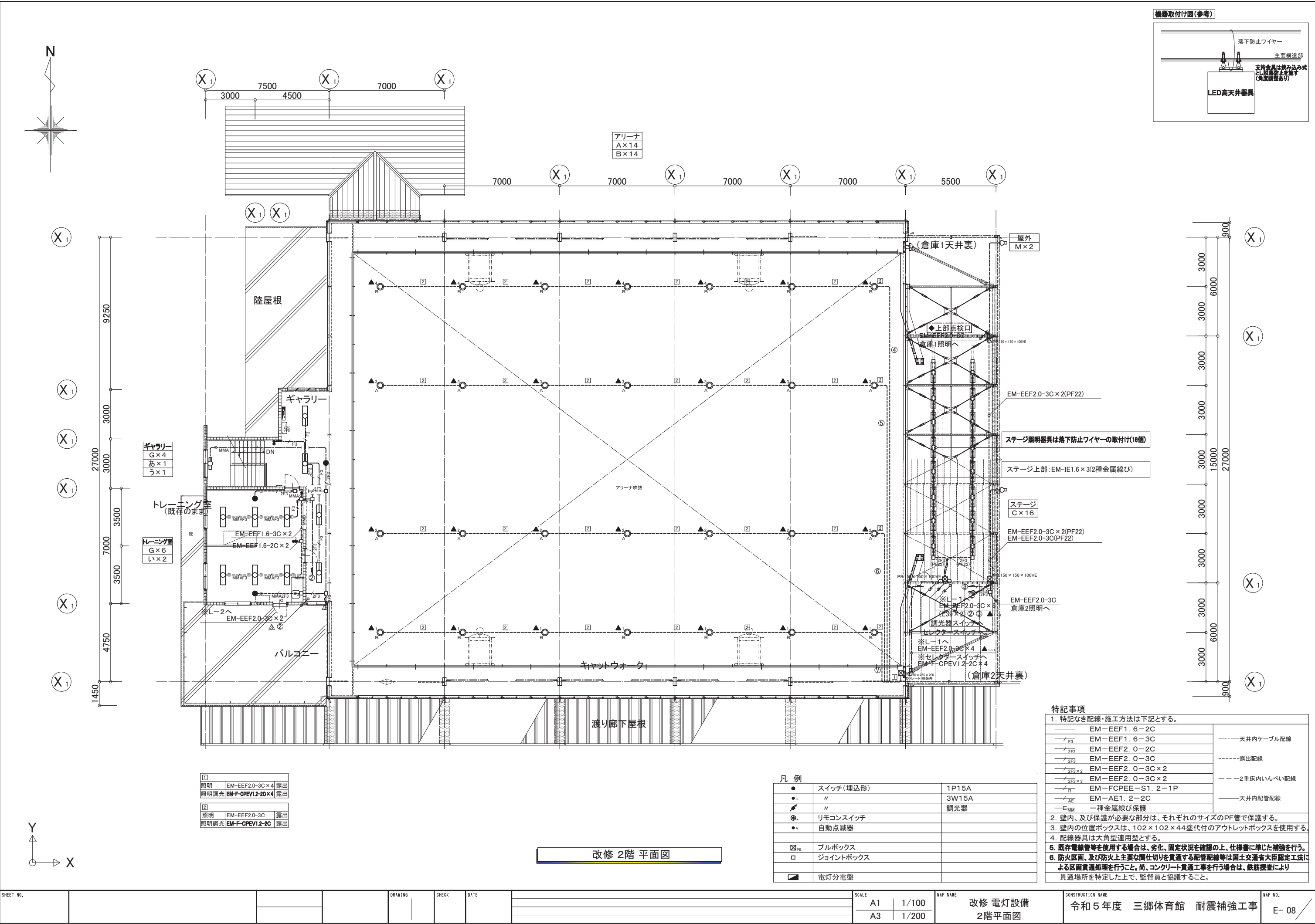


A	LED高天井器具 HF1000相当	B	LED高天井器具 MF400相当	C	LED器具 直付40形W120調光	D	LED器具 直付40形W120	E	LED器具 直付40形W120	F	LED器具 直付40形W230																																																								
アリーナ		アリーナ		ステージ		事務室・倉庫1		倉庫2		器具庫1・2・3																																																									
下面ガード 全体ガード付 一時的使用温度60℃ 		下面ガード 全体ガード付 一時的使用温度60℃ 		LSS9-4-65 		LSS9-4-48 		LSS9-4-37 		LSS10-4-48 																																																									
●定格電圧:AC100V～242V ●消費電力:174.0W(AC200V時) ●器具光束:33,000 lm ●光源寿命:60,000時間(光束維持率90%) ●相關色温度:5000K(昼白色) ●連続調光:約5～100% ●落下防止ワイヤー付 東芝 LEDJ34005DN-LD9 相当品		●定格電圧:AC100V～242V ●消費電力:114.0W(AC200V時) ●器具光束:21,200 lm ●光源寿命:60,000時間(光束維持率90%) ●相關色温度:5000K(昼白色) ●質量:2.6kg 連続調光:約5～100% ●落下防止ワイヤー付 東芝 LEDJ21005DN-LD9 相当品		●LED(昼白色) ●寸法:幅120×1,250×高さ53 ●定格電圧:AC100V～242V ●消費電力:43.0W(AC200V時) ●器具光束:6,900 lm ●寿命:40,000時間(光束維持率90%) ●相關色温度:5000K ●調光範囲:約5%～100% 東芝 LEKT412693N-LD9 相当品		●LED(昼白色) ●寸法:幅120×1,250×高さ53 ●定格電圧:AC100V～242V ●消費電力:32.5W(AC200V時) ●器具光束:5,200 lm ●寿命:40,000時間(光束維持率90%) ●相關色温度:5000K 平均演色評価数(Ra): 83 東芝 LEKT412523N-LS9 相当品		●LED(昼白色) ●寸法:幅120×1,250×高さ53 ●定格電圧:AC100V～242V ●消費電力:24.8W(AC200V時) ●器具光束:4,000 lm ●寿命:40,000時間(光束維持率90%) ●相關色温度:5000K 東芝 LEKT412403N-LS9 相当品		●LED(昼白色) ●寸法:幅230×1,250×高さ53 ●定格電圧:AC100V～242V ●消費電力:32.5W(AC200V時) ●器具光束:5,200 lm ●寿命:40,000時間(光束維持率90%) ●相關色温度:5000K 東芝 LEKT423523N-LS9 相当品																																																									
G	LED器具 直付40形W230	H	LED器具 直付40形W120防水	I	LED器具 埋込スクエア口600乳白パネル	J	LEDダウンライト 1500ユニット交換形センサー付	K	LED器具 20形防水ブラケット	L	LEDブラケット 20形 天井取付 センサー付																																																								
トレーニングルーム		ポーチ		玄関		階段前通路		ポーチ・アリーナ出口		トイレ通路																																																									
LSS10-4-37 								LBF3MP/RP-2-06 																																																											
●LED(昼白色) ●寸法:幅230×1,250×高さ53 ●定格電圧:AC100V～242V ●消費電力:24.8W(AC200V時) ●器具光束:4,000 lm ●寿命:40,000時間(光束維持率90%) ●相關色温度:5000K 東芝 LEKT423403N-LS9 相当品		●LED(昼白色) ●寸法:幅120×1,250×高さ89 ●定格電圧:AC100V～242V ●消費電力:17.0W(AC200V時) ●器具光束:2,510 lm ●寿命:40,000時間(光束維持率90%) ●相關色温度:5000K ●保護等級:IP23防湿 東芝 LEKTW412254N-LS9 相当品		●LED(昼白色) ●寸法:幅620 × 高さ117(埋込穴寸法:幅口600) ●定格電圧:AC100V～AC242V ●消費電力:52.0W(AC200V時) ●器具光束:7,400 lm ●寿命:40,000時間(光束維持率85%) ●相關色温度:5000K ●調光範囲:約5%～100% 東芝 LEKR760901FN-LD9 相当品		◆LEDダウンライト 人感センサー付(高効率 広角タイプ) ●器具寸法:幅169×303×埋込高103 ●消費電力:10.9W(AC200V時) ●定格電圧:AC100V～242V ●器具光束:1,460lm ●寿命:40,000時間(光束維持率85%) ●相關色温度:5000K 東芝 LEKD153015NY-LD9 相当品		●LED(昼白色) ●寸法:幅130×690×高さ105 ●本体:ステンレス 白 ●カバー:アクリル樹脂 乳白 ●定格電圧:AC100V～242V ●消費電力:10.6W(AC200V時) ●器具光束:1,000 lm 固有エネルギー消費効率:94.3 lm/W ●光源寿命:40,000時間(光束維持率85%) ●相關色温度:5000K 東芝 LEDB-20940N-LS9 相当品		◆LEDブラケット(センサー付) 防湿・防雨 ●ステンレス 白 ●アクリル樹脂 乳白 ●定格電圧:AC100V～242V ●消費電力:15.9W(AC200V時) ●器具光束:1,450lm ●寿命:40,000時間(光束維持率85%) ●相關色温度:5000K 東芝 LEDB-20951YN-LD9 相当品																																																									
M	LED防犯灯 FL20X1相当 センサー付			あ	LED埋込非常灯 13形	い	LED直付非常灯 9形	う	LED非常照明 階段灯 20形 センサー付		シーンセクター																																																								
屋外																																																																			
				K1-LRS11-2 		K1-LSS11-1 																																																													
◆LED防犯灯 照度センサー内蔵 ●定格電圧:AC100V ●消費電力:6.6W ●器具光束:710lm ●寿命:60,000時間(光束維持率80%) ●相關色温度:5000K 東芝 LEDK-78928NP-LS1 相当品				●LED非常灯 ●寸法:径φ100×高さ74(埋込穴寸法) ●消費電力:0.8W ●リモコン自己点検機能付 東芝 LEDEM13221M 相当品		●LED非常灯 ●寸法:径φ154×高さ71 ●消費電力:0.8W ●リモコン自己点検機能付 東芝 LEDEM09821M 相当品		●LED非常照明 階段灯 ●寸法:幅163×全長778×高さ119 ●電源電圧:100～242V ●リモコン自己点検機能付 ●消費電力:13.6W ●器具光束:1,580lm ●光源寿命(LEDバー) 40,000時間(光束維持率85%) ●ON/OFFタイマー 東芝 LEKSS23163NY-LS 相当品		東芝 DF-70404 相当品																																																									
ポータブルワイヤレスアンプ		ワイヤレスマイクロホン(ハンド型)		ワイヤレスマイクロホン(ヘッドセット型)		ダイナミックマイクロホン																																																													
 × 1式		 × 1本		 × 1式		 × 1式																																																													
※キャリングバッグ付き <table><tr><td>定格出力/最大出力</td><td>22 W(AC電源)/25 W(AC電源)</td></tr><tr><td>入出力</td><td>有線マイク x1、外部 x1/外部 x1</td></tr><tr><td>スピーカー</td><td>16 cmダブルコーン型</td></tr><tr><td>ワイヤレスチューナー</td><td>ダイバシティ x2</td></tr><tr><td>CDプレーヤー</td><td>内蔵</td></tr><tr><td>対応メディア</td><td>音楽CD、CD-R/RW、USB(MP3)</td></tr><tr><td>電 源</td><td>AC100 V、または単2型アルカリ乾電池 x10本</td></tr><tr><td>質 量</td><td>約6.7 kg</td></tr></table>		定格出力/最大出力	22 W(AC電源)/25 W(AC電源)	入出力	有線マイク x1、外部 x1/外部 x1	スピーカー	16 cmダブルコーン型	ワイヤレスチューナー	ダイバシティ x2	CDプレーヤー	内蔵	対応メディア	音楽CD、CD-R/RW、USB(MP3)	電 源	AC100 V、または単2型アルカリ乾電池 x10本	質 量	約6.7 kg	<table><tr><td>送信周波数</td><td>800 MHz帯の30波から1波選択</td></tr><tr><td>マイクユニット</td><td>単一指向性エレクトレットコンデンサー型</td></tr><tr><td>空中線電力</td><td>5 mW/2 mW 切替</td></tr><tr><td>アンテナ</td><td>本体内蔵式</td></tr><tr><td>電 源</td><td>DC1.5 V(単3乾電池 x1)又は専用充電式電池</td></tr><tr><td>質 量</td><td>約 176 g(電池含まず)</td></tr></table>		送信周波数	800 MHz帯の30波から1波選択	マイクユニット	単一指向性エレクトレットコンデンサー型	空中線電力	5 mW/2 mW 切替	アンテナ	本体内蔵式	電 源	DC1.5 V(単3乾電池 x1)又は専用充電式電池	質 量	約 176 g(電池含まず)	<table><tr><td>送信周波数</td><td>800 MHz帯の30波から1波選択</td></tr><tr><td>形 式</td><td>単一指向性エレクトレットコンデンサー型</td></tr><tr><td>空中線電力</td><td>5 mW/2 mW 切替</td></tr><tr><td>アンテナ</td><td>本体内蔵式</td></tr><tr><td>マイク感度設定</td><td>3段階</td></tr><tr><td>付 属 品</td><td>ネックストラップ、ウエストバック、ベルト</td></tr><tr><td>電 源</td><td>DC1.5 V(単3乾電池1本)又は専用充電式電池</td></tr><tr><td>質 量</td><td>約 135 g(電池含まず)</td></tr></table>		送信周波数	800 MHz帯の30波から1波選択	形 式	単一指向性エレクトレットコンデンサー型	空中線電力	5 mW/2 mW 切替	アンテナ	本体内蔵式	マイク感度設定	3段階	付 属 品	ネックストラップ、ウエストバック、ベルト	電 源	DC1.5 V(単3乾電池1本)又は専用充電式電池	質 量	約 135 g(電池含まず)	<table><tr><td>形 式</td><td>ムービングコイルマイクロホン(ダイナミック型)</td></tr><tr><td>指 向 性</td><td>超単一指向性</td></tr><tr><td>周波数特性</td><td>50 Hz～18 kHz</td></tr><tr><td>出力インピーダンス</td><td>600 Ω 平衡</td></tr><tr><td>感 度</td><td>-51 dB(0 dB=1 V/Pa、1 kHz)</td></tr><tr><td>その他</td><td>トークスイッチ、マイクコード(5 m)付</td></tr><tr><td>質 量</td><td>263 g</td></tr></table>		形 式	ムービングコイルマイクロホン(ダイナミック型)	指 向 性	超単一指向性	周波数特性	50 Hz～18 kHz	出力インピーダンス	600 Ω 平衡	感 度	-51 dB(0 dB=1 V/Pa、1 kHz)	その他	トークスイッチ、マイクコード(5 m)付	質 量	263 g		
定格出力/最大出力	22 W(AC電源)/25 W(AC電源)																																																																		
入出力	有線マイク x1、外部 x1/外部 x1																																																																		
スピーカー	16 cmダブルコーン型																																																																		
ワイヤレスチューナー	ダイバシティ x2																																																																		
CDプレーヤー	内蔵																																																																		
対応メディア	音楽CD、CD-R/RW、USB(MP3)																																																																		
電 源	AC100 V、または単2型アルカリ乾電池 x10本																																																																		
質 量	約6.7 kg																																																																		
送信周波数	800 MHz帯の30波から1波選択																																																																		
マイクユニット	単一指向性エレクトレットコンデンサー型																																																																		
空中線電力	5 mW/2 mW 切替																																																																		
アンテナ	本体内蔵式																																																																		
電 源	DC1.5 V(単3乾電池 x1)又は専用充電式電池																																																																		
質 量	約 176 g(電池含まず)																																																																		
送信周波数	800 MHz帯の30波から1波選択																																																																		
形 式	単一指向性エレクトレットコンデンサー型																																																																		
空中線電力	5 mW/2 mW 切替																																																																		
アンテナ	本体内蔵式																																																																		
マイク感度設定	3段階																																																																		
付 属 品	ネックストラップ、ウエストバック、ベルト																																																																		
電 源	DC1.5 V(単3乾電池1本)又は専用充電式電池																																																																		
質 量	約 135 g(電池含まず)																																																																		
形 式	ムービングコイルマイクロホン(ダイナミック型)																																																																		
指 向 性	超単一指向性																																																																		
周波数特性	50 Hz～18 kHz																																																																		
出力インピーダンス	600 Ω 平衡																																																																		
感 度	-51 dB(0 dB=1 V/Pa、1 kHz)																																																																		
その他	トークスイッチ、マイクコード(5 m)付																																																																		
質 量	263 g																																																																		

マイクの仕様、本数は監督員と事前協議を行うこと。

<特記事項>  
特記なき器具の品番は、東芝ライテック(株)照明器具(参考)を示す。  
小屋裏における断熱材との離隔については、メーカー工事仕様書に沿い施工を行う。

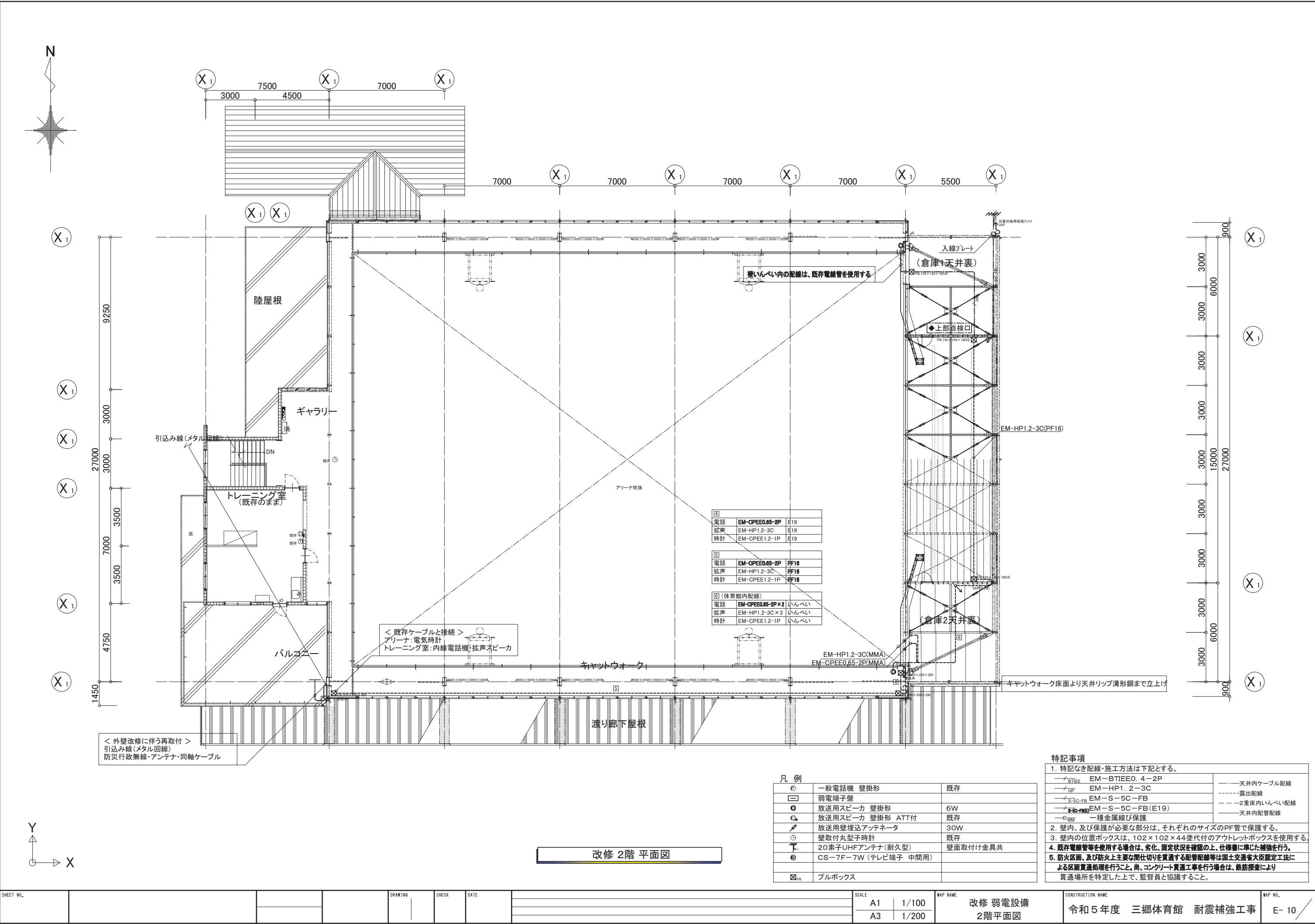








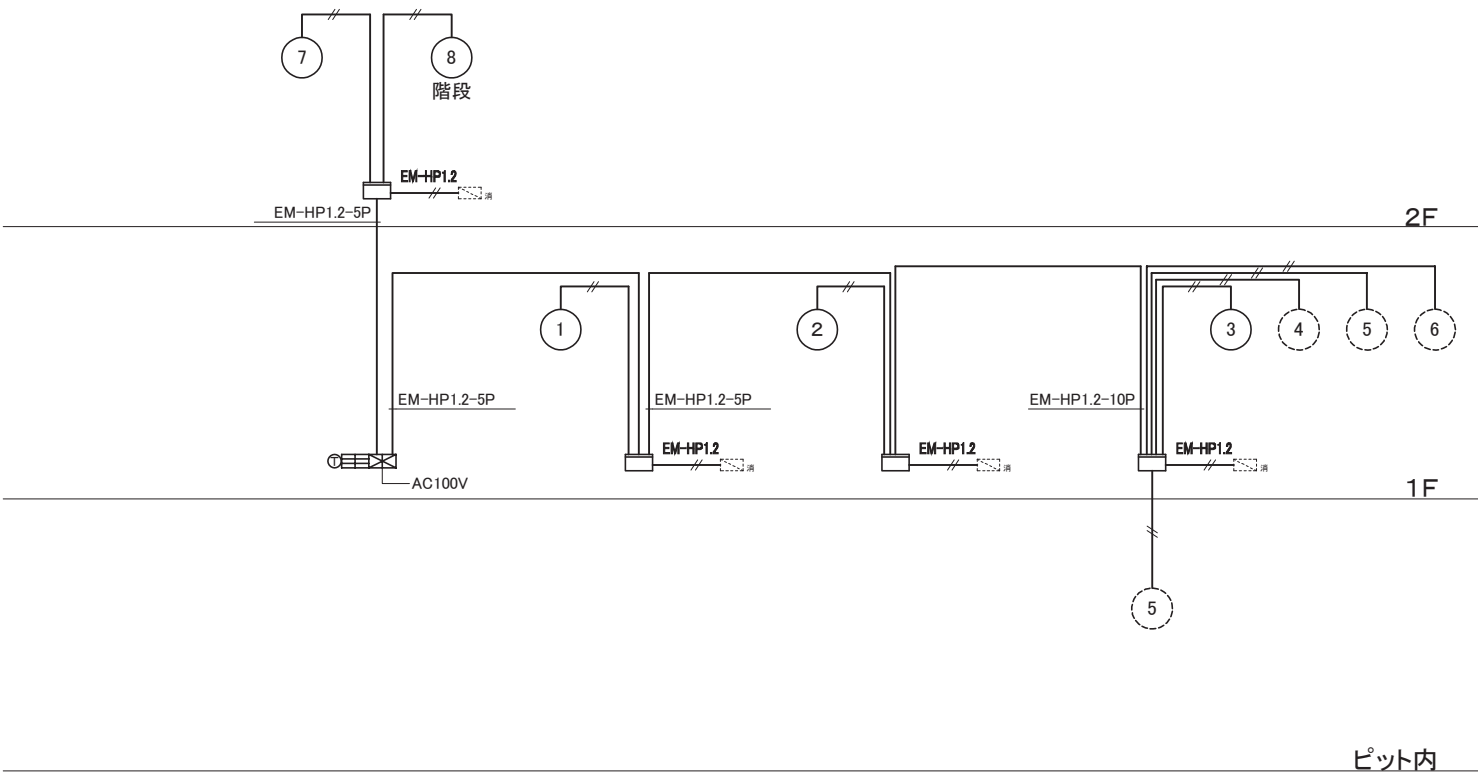




凡 例		
①	一般電話機 壁掛形	既存
②	弱端子盤	
③	放送用スピーカ 壁掛形	6W
④	放送用スピーカ 壁掛形 ATT付	既存
⑤	放送用壁埋込アッテネータ	30W
⑥	壁取付丸型時計	既存
⑦	20素子UHFアンテナ(耐久型)	壁面取付け金具共
⑧	CS-7F-7W(テレビ端子 中間用)	
⑨	ブルボックス	

特記事項		
1. 特記なき配線・施工方法は下記とする。		
BTIEE	EM-BTIEE0.4-2P	天井内ケーブル配線
HP	EM-HP1.2-3C	露出配線
S-5C-FB	EM-S-5C-FB	2重床内いんべい配線
S-5C-FB(E19)	EM-S-5C-FB(E19)	天井内配管配線
EM	一種金属線び保護	
2. 壁内、及び保護が必要な部分は、それぞれのサイズのPF管で保護する。		
3. 壁内の位置ボックスは、102×102×44塗代付のアウトレットボックスを使用する。		
4. 既存電線管等を使用する場合は、劣化、固定状況を確認の上、仕様書に準じた補強を行う。		
5. 防火区画、及び防火上主要な間仕切りを貫通する配管配線等は国土交通省大臣認定工法による区画貫通処理を行うこと。尚、コンクリート貫通工事を行う場合は、鉄筋探査により貫通場所を特定した上で、監督員と協議すること。		

系統図



凡 例		
記 号	名 称	備 考
	機 器 収 容 箱	埋込縦型  収容
	火災通報装置	特記事項2参照
	〃 専用電話機	火災通報押釦付
	P 型 発 信 機	1級、リング型表示灯 (AC24V、LED) 付
	火 災 警 報 ベ ル	DC24V、10mA、ダイオード付
	終 端 抵 抗	10KΩ
	終 端 抵 抗	地区ベル用 (10KΩ)
	光電式スポット 型感知器	2種、非蓄積型
	〃	2種、自動試験対応
	〃	2種、自動試験対応、ガード付
	差動式スポット 型感知器	2種
	〃	2種、自動試験対応
	パッケージ型消火設備	1 型、表示灯共 (既存開口寸法以内とする)
	既存消火器	取外し再取付、消火器スタンドのみ新設
	新設消火器	粉末加圧式 ABC-10型
	警 戒 区 域 線	
	警 戒 区 域 番 号	火災表示用
	警 戒 区 域 番 号	火災表示用 (自動試験機能付を含む)
	警 戒 区 域 番 号	火災表示用、小屋裏用 (自動試験機能付を含む)
	EM-HP1.2-2C	
	EM-AE1.2-2C	
	EM-AE1.2-2C(E19)	
	EM-AE1.2-4C	
	ジャンクション、プルボックス	
	立上り 引下げ	
	誘導標識	

特記事項1	
1. 特記なき配線・施工方法は下記とする。	
-----天井内ケーブル配線	-----露出配線
---床内いんべい配線	-----天井内配管配線
2. 壁内、及び保護が必要な部分は、それぞれのサイズのPF管で保護する。	
3. 壁内の位置ボックスは、102×102×44塗代付のアウトレットボックスを使用する。	
4. 防火区画、及び防火上主要な間仕切りを貫通する配管配線等は国土交通省大臣認定工法による区画貫通処理を行うこと。尚、コンクリート貫通工事を行う場合は、鉄筋探査により貫通場所を特定した上で、監督員と協議すること。	
(1)配管配線工事	
建築基準法施行令「第129条の2の4第1項第7号イ」に準じる。	
(2)ケーブル工事	
国土交通大臣認定「PS060WL-0441」(未来工業株式会社)相当品とする。	

特記事項2	
1. 受信機は壁掛型 (P型1級10回線) 点検機能付きとし、表示内訳は下記とする。	
< 表示内訳 >	
火災表示 10L	
予備 火災表示2L 付属表示5L	
2. 火災通報装置仕様	
適用回線 一般加入回線 (アナログ又はISDN回線) 又は光回線	
※監督員と協議を行い指定回線に応じた対策を施す	
3. ステージ床下ピット内感知器	
ピット内へ電気設備の配管配線を敷設する場合は、感知器 (自動試験対応) を設置する。	
4. ガードの取付け	
アリーナにおいて、防球対応が可能な機器はすべて、防球対応を行う。	

**注 記**

1. 受信機仕様  
1) P型1級、壁掛型、窓式、主音響 (音声警報) ・予備電源内蔵蓄積式、自動断線警報機能付  
2) 自動試験機能付  
3) アドレス表示付、部屋番号表示機能付  
4) 操作無効機能付  
5) カラーユニバーサルデザイン対応  
6) 履歴リスト機能 (通常履歴1, 000件、自動試験履歴2, 000件)  
7) 表示内訳  
・火災表示 8L + 2L (予備) = 10L

8) 諸表示部 (3L標準装備)

9) 表示機 (1台) 接続〜将来工事

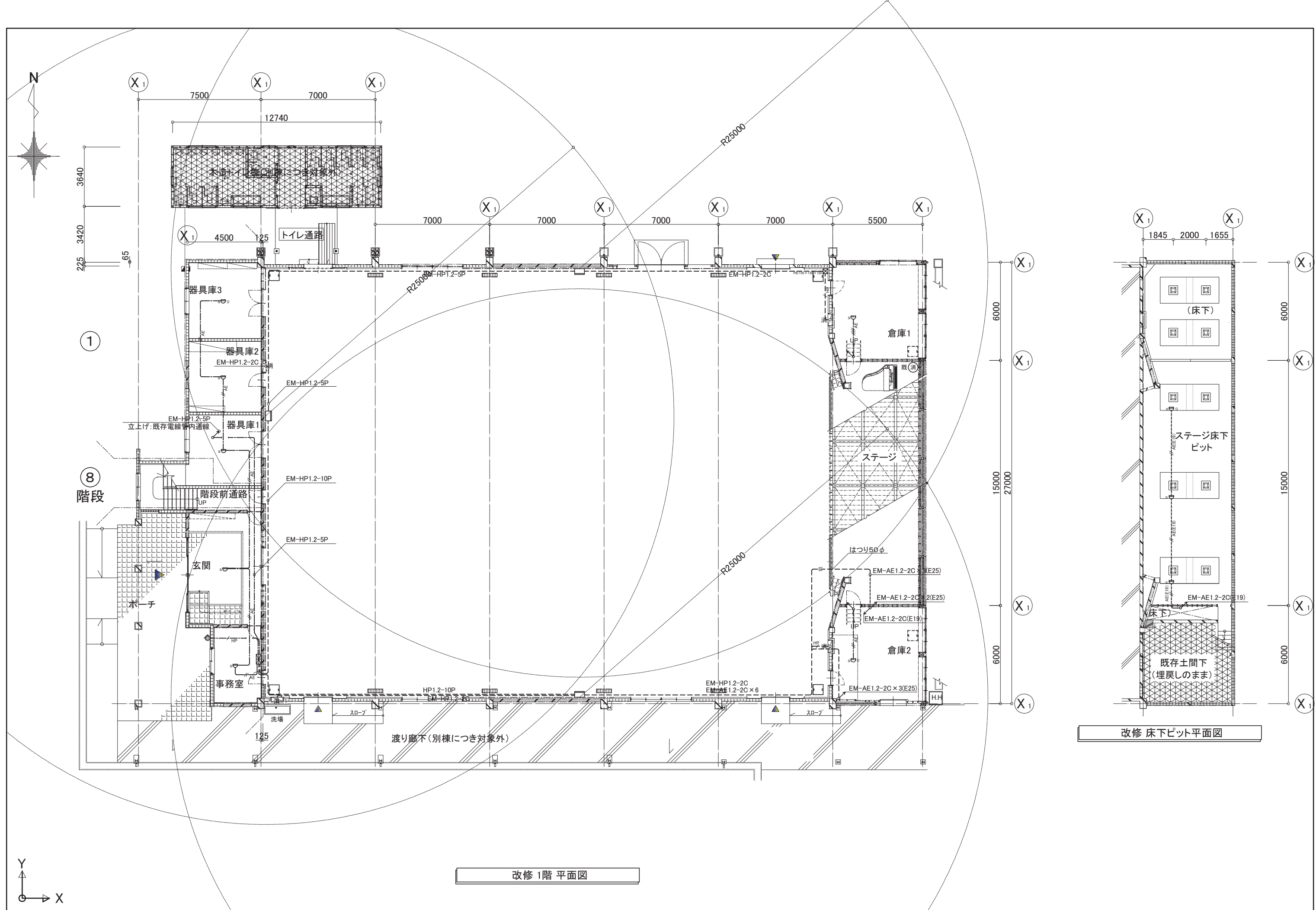
2. 1回線には自動試験機能付感知器を最大60個接続可能とする。

3. 受信機は自動試験機能付感知器のアドレス (7セグメント) 表示を可能とする。

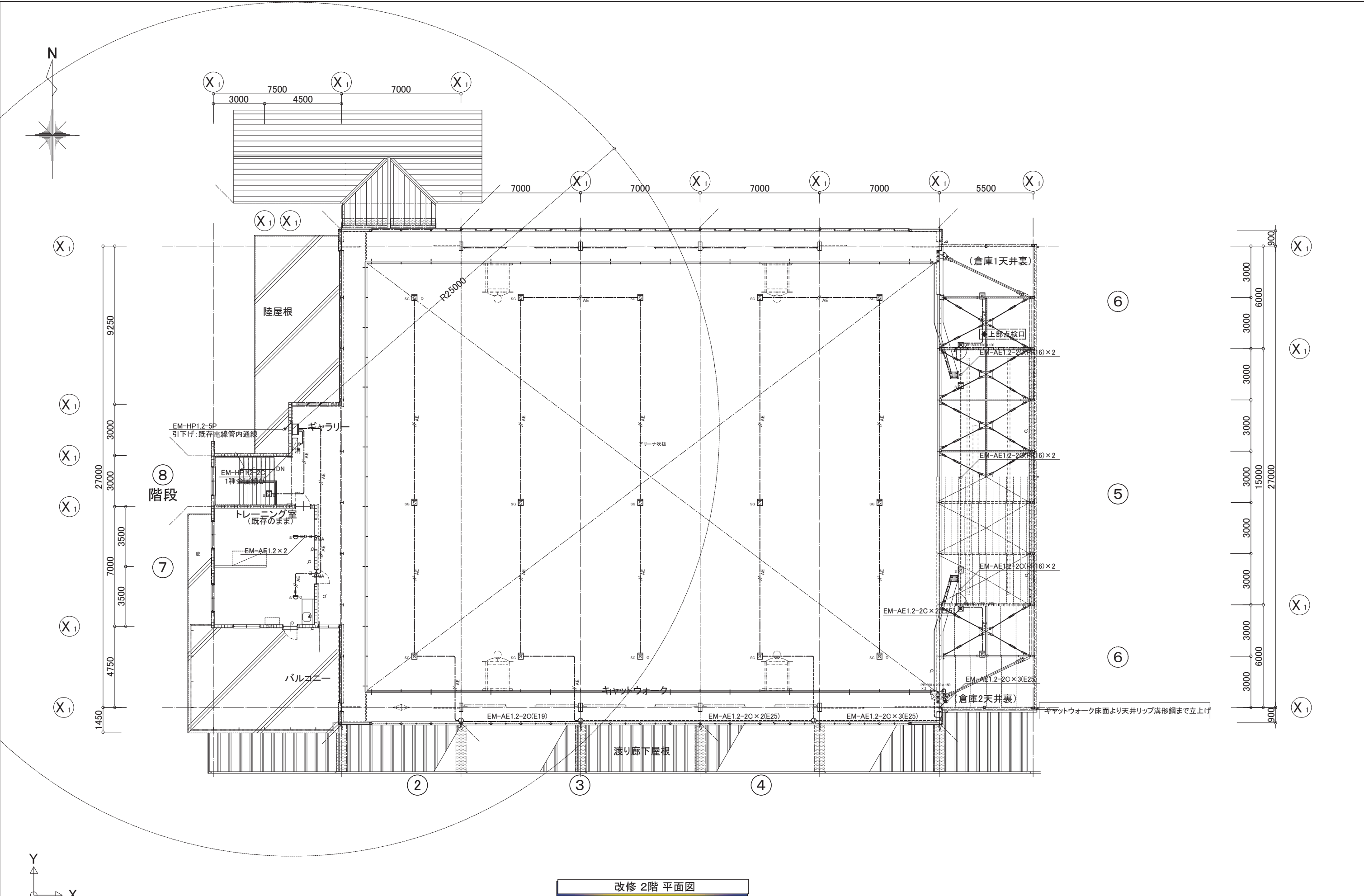
4. 感知器は確認灯付とする。

5. 地区ベル鳴動方式は一斉鳴動方式とする。

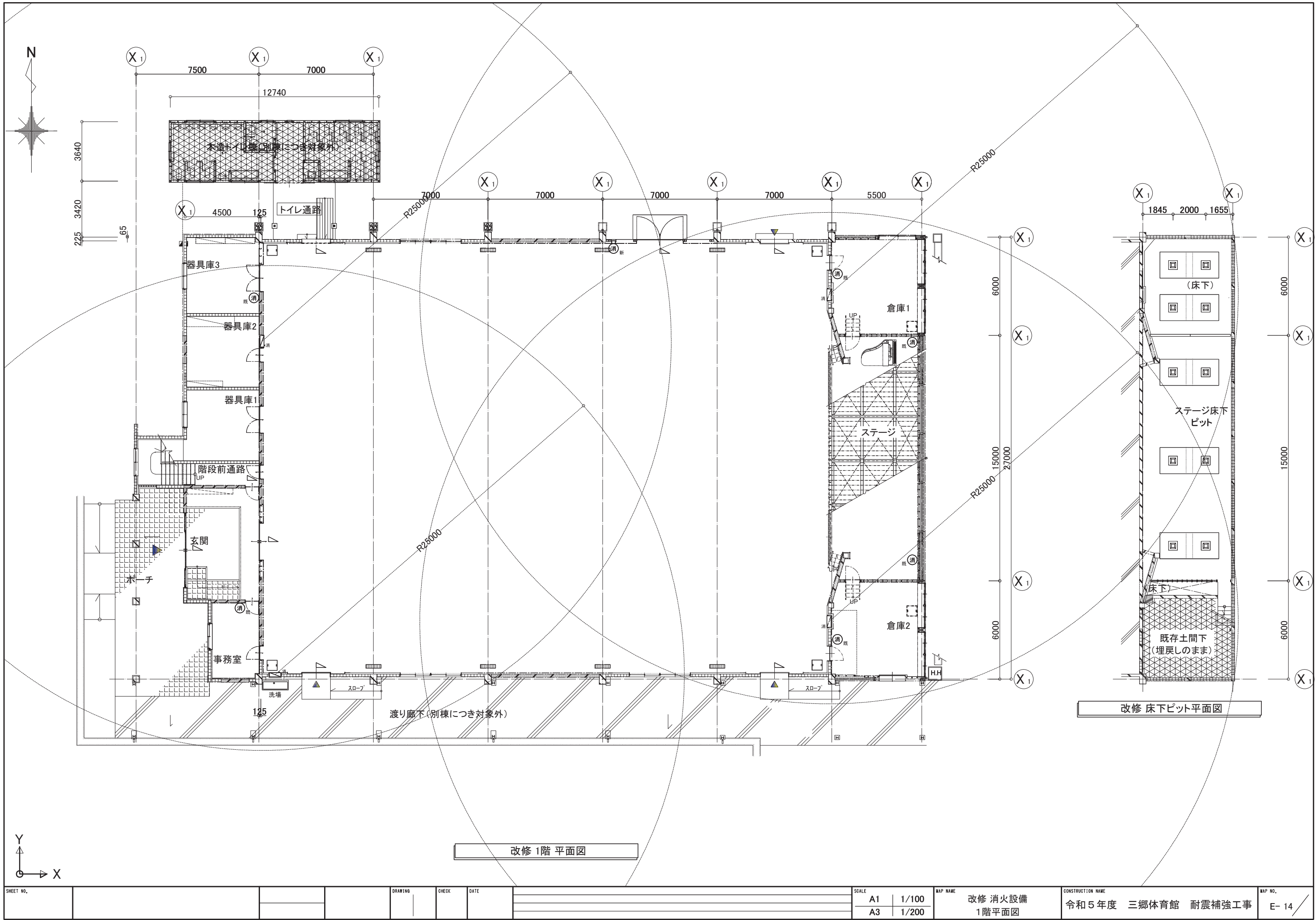
6. リング型表示灯付発信機の参考外觀図は下記とする。

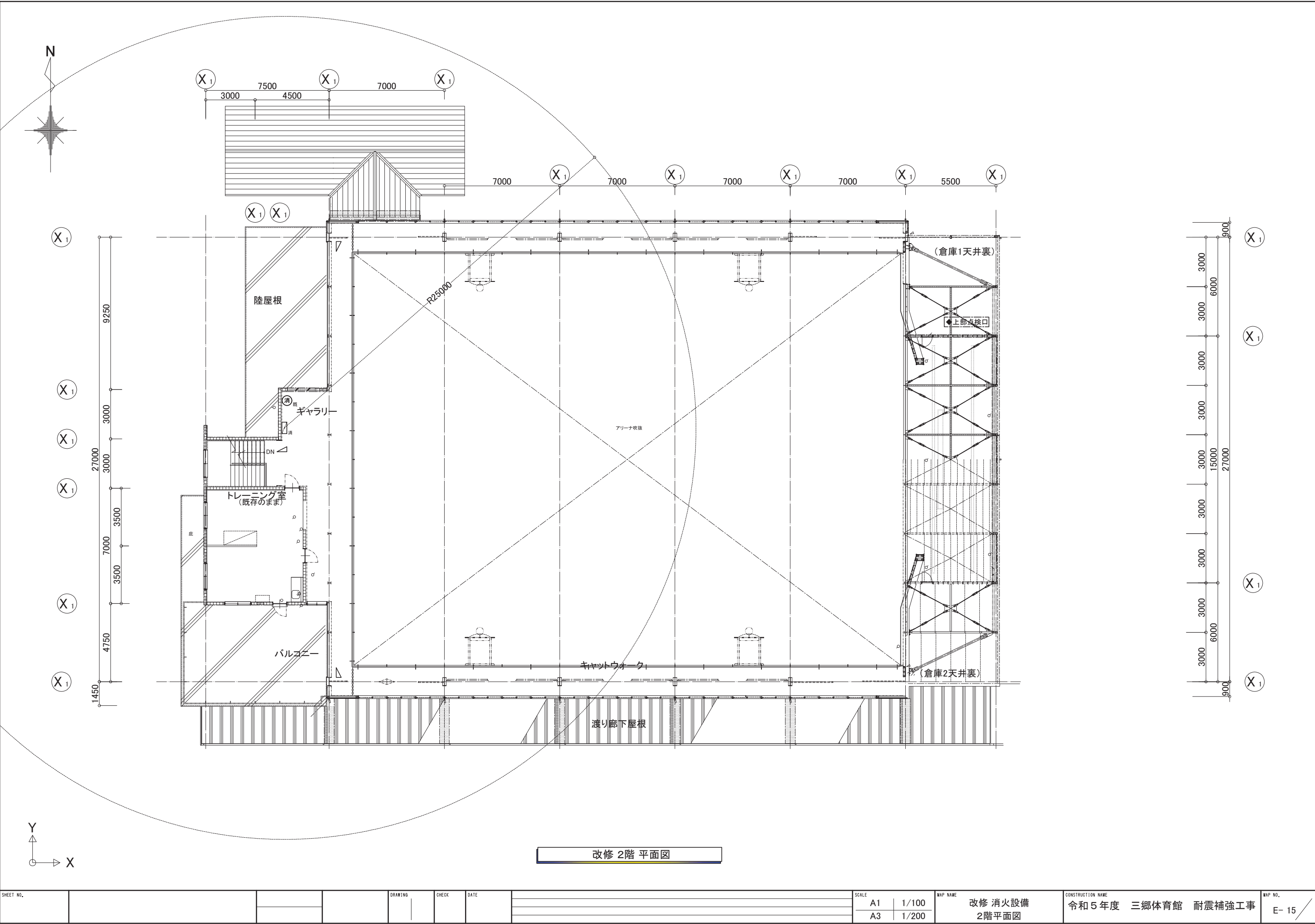


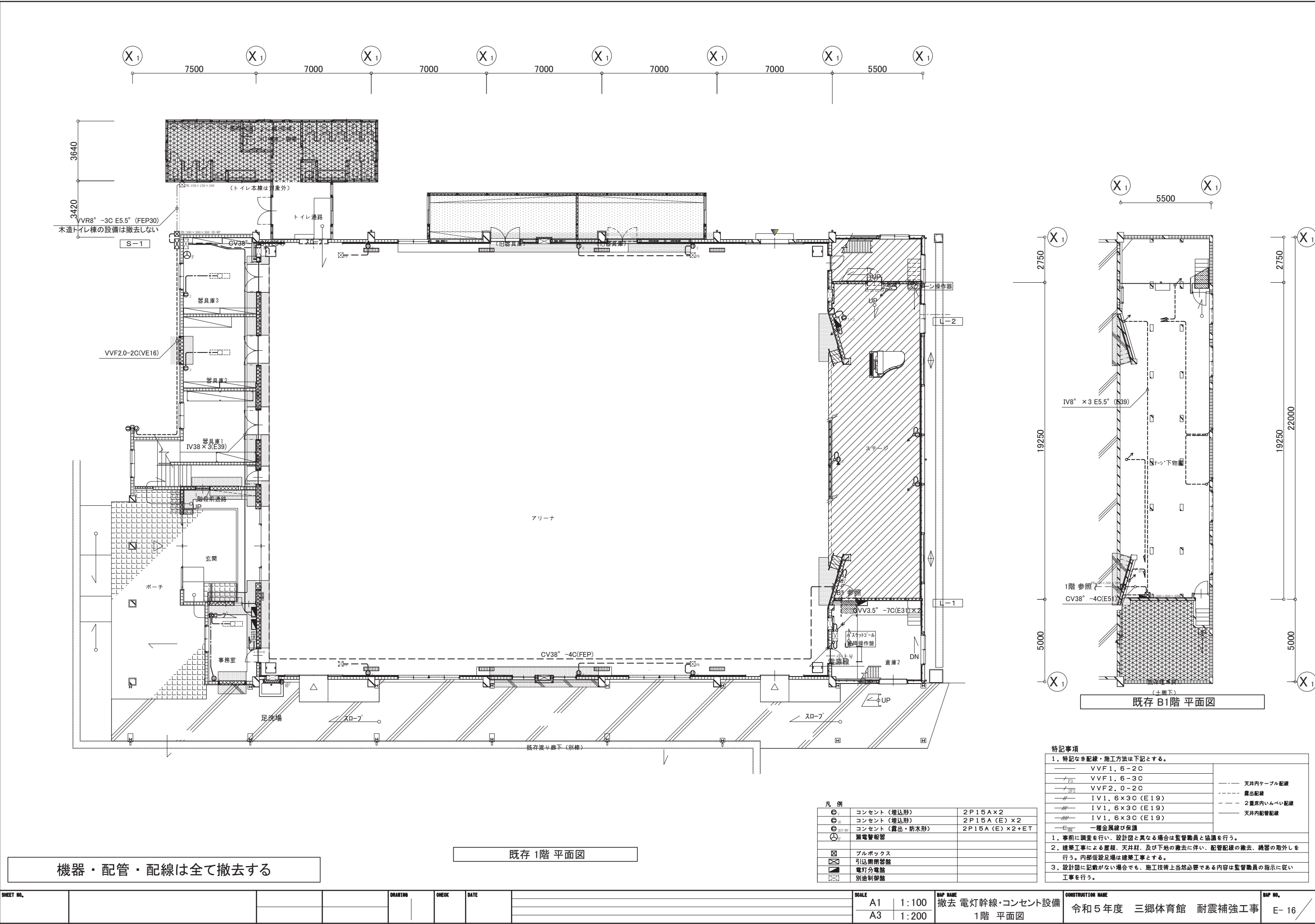
## 改修 床下ピット平面図











機器・配管・配線は全て撤去する

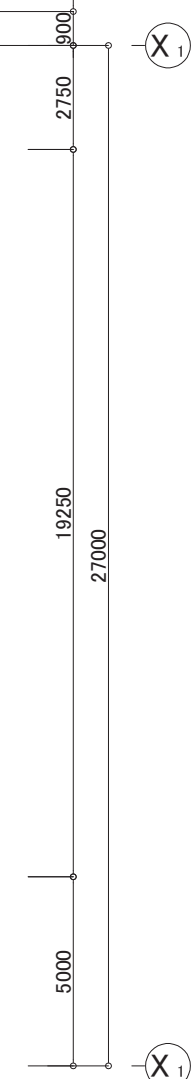
既存1階平面図

既存B1階平面図

凡例		
○ <sub>2</sub>	コンセント(埋込形)	2P15A×2
○ <sub>3</sub>	コンセント(埋込形)	2P15A(E)×2
○ <sub>2+3</sub>	コンセント(露出・防水形)	2P15A(E)×2+ET
⚡	漏電警報器	
□	プルボックス	
□	引込開閉器盤	
□	電灯分電盤	
□	別途制御盤	

特記事項







1. 特記なき配線・施工方法は下記とする。		
—	VVF1.6-2C	<div>——— 天井内ケーブル配線</div> <div>----- 露出配線</div> <div>----- 2重床内いんべい配線</div> <div>————— 天井内配管配線</div>
—/E3	VVF1.6-3C	
—/2F2	VVF2.0-2C	
—/	IV1.6×3C(E19)	
—/	IV1.6×3C(E19)	
—/	IV1.6×3C(E19)	
—E3	一層金属線ひ保護	
1. 事前に調査を行い、設計図と異なる場合は監督職員と協議を行う。		
2. 建築工事による屋根、天井材、及び下地の撤去に伴い、配管配線の撤去、機器の取外しを行う。内部仮設足場は建築工事とする。		
3. 設計図に記載がない場合でも、施工技術上当然必要である内容は監督職員の指示に従い工事を行う。		



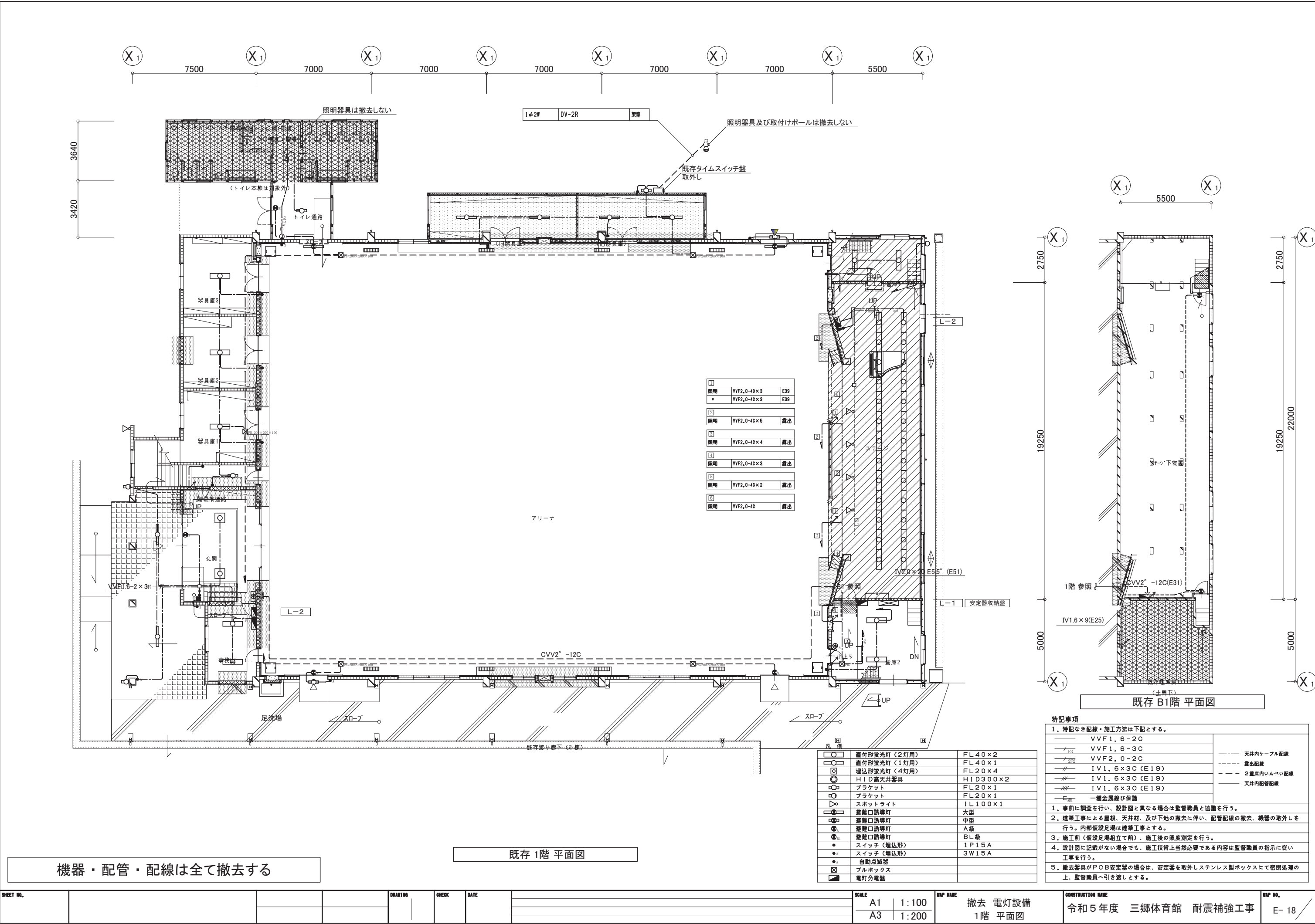
機器・配管・配線は全て撤去する

既存 2階 平面図

凡 例		
	コンセント（増込形）	2P15A x2
	コンセント（増込形）	2P15A (E) x2
	コンセント（露出・防水形）	2P15A (E) x2 + ET
	漏電警報器	
	ブルボックス	
	引込開閉器盤	
	電灯分電盤	
	別途制御盤	

特記事項	
1. 特記なき配線・施工方法は下記とする。	
—— VVF1.6-2C	—— 天井内ケーブル配線
——  VVF1.6-3C	----- 露出配線
——  VVF2.0-2C	—— 2重床内いんべい配線
——  IV1.6×3C(E19)	—— 天井内配管配線
——  IV1.6×3C(E19)	
——  IV1.6×3C(E19)	
——  一種金風線び保護	
1. 事前に調査を行い、設計図と異なる場合は監督職員と協議を行う。	
2. 建築工事による屋根、天井材、及び下地の撤去に伴い、配管配線の撤去、機器の取外しを行う。内部仮設足場は建築工事とする。	
3. 設計図に記載がない場合でも、施工技術上当然必要である内容は監督職員の指示に従い工事を行う。	



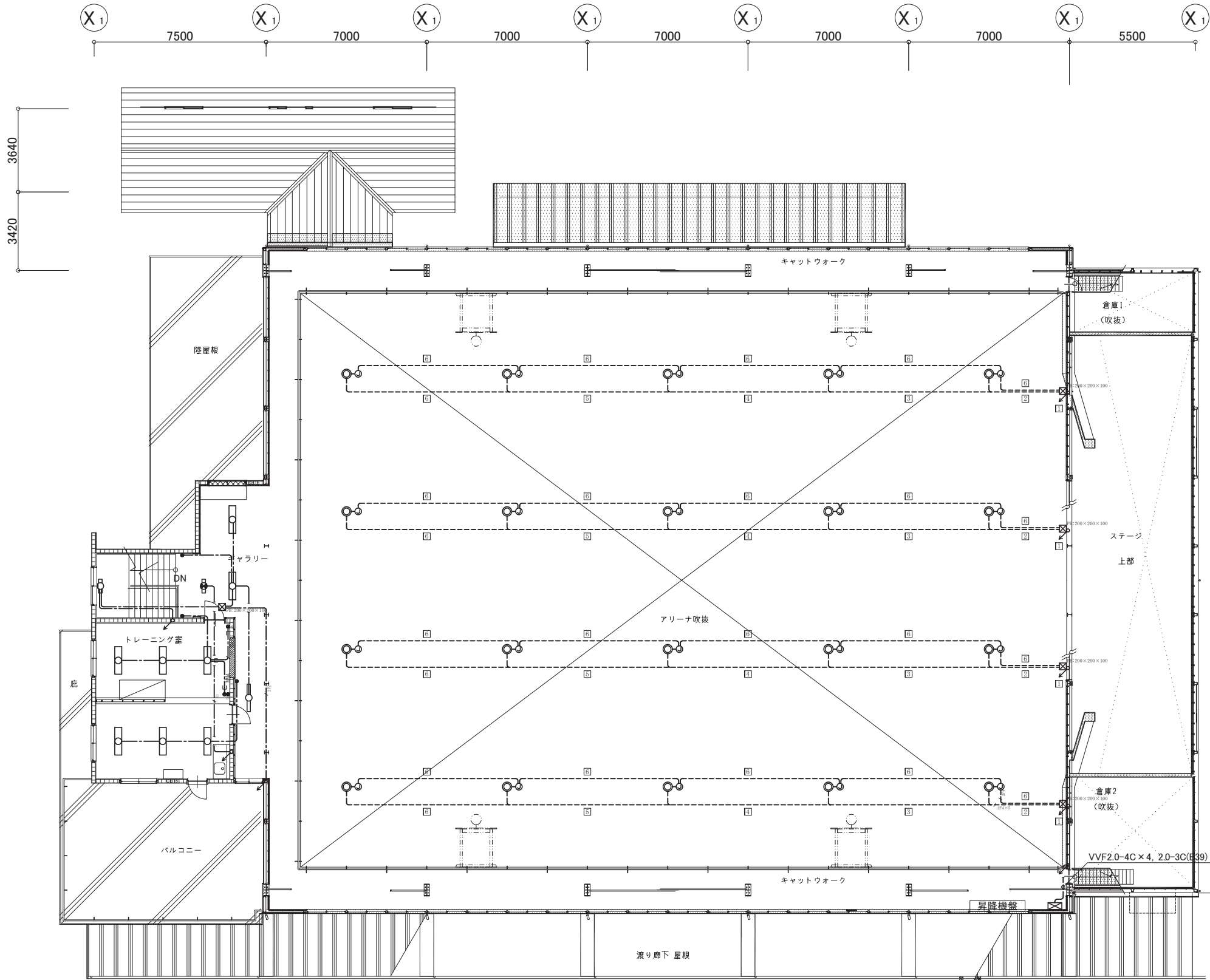


機器・配管・配線は全て撤去する

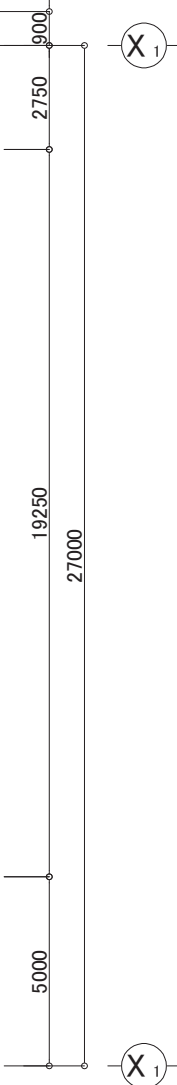
既存 1階 平面図

既存 B1階 平面図

特記事項		
1. 特記なき配線・施工方法は下記とする。		
— VVF1.6-2C	— 天井内ケーブル配線	
— VVF1.6-3C	— 露出配線	
— VVF2.0-2C	— 2重床内いんべい配線	
— IV1.6×3C (E19)	— 天井内配管配線	
— IV1.6×3C (E19)		
— IV1.6×3C (E19)		
— 一種金属線ひ保護		
1. 事前に調査を行い、設計図と異なる場合は監督職員と協議を行う。		
2. 建築工事による屋根、天井材、及び下地の撤去に伴い、配管配線の撤去、機器の取外しを行う。内部仮設足場は建築工事とする。		
3. 施工前（仮設足場組立て前）、施工後の照度測定を行う。		
4. 設計図に記載がない場合でも、施工技術上当然必要である内容は監督職員の指示に従い工事を行う。		
5. 撤去器具がPCB安定器の場合は、安定器を取外しステンレス製ボックスにて密閉処理の上、監督職員へ引き渡しとする。		



1	照明	VVF2,0-40×3	E39
2	照明	VVF2,0-40×3	E39
3	照明	VVF2,0-40×5	露出
4	照明	VVF2,0-40×4	露出
5	照明	VVF2,0-40×3	露出
6	照明	VVF2,0-40×2	露出
7	照明	VVF2,0-40	露出

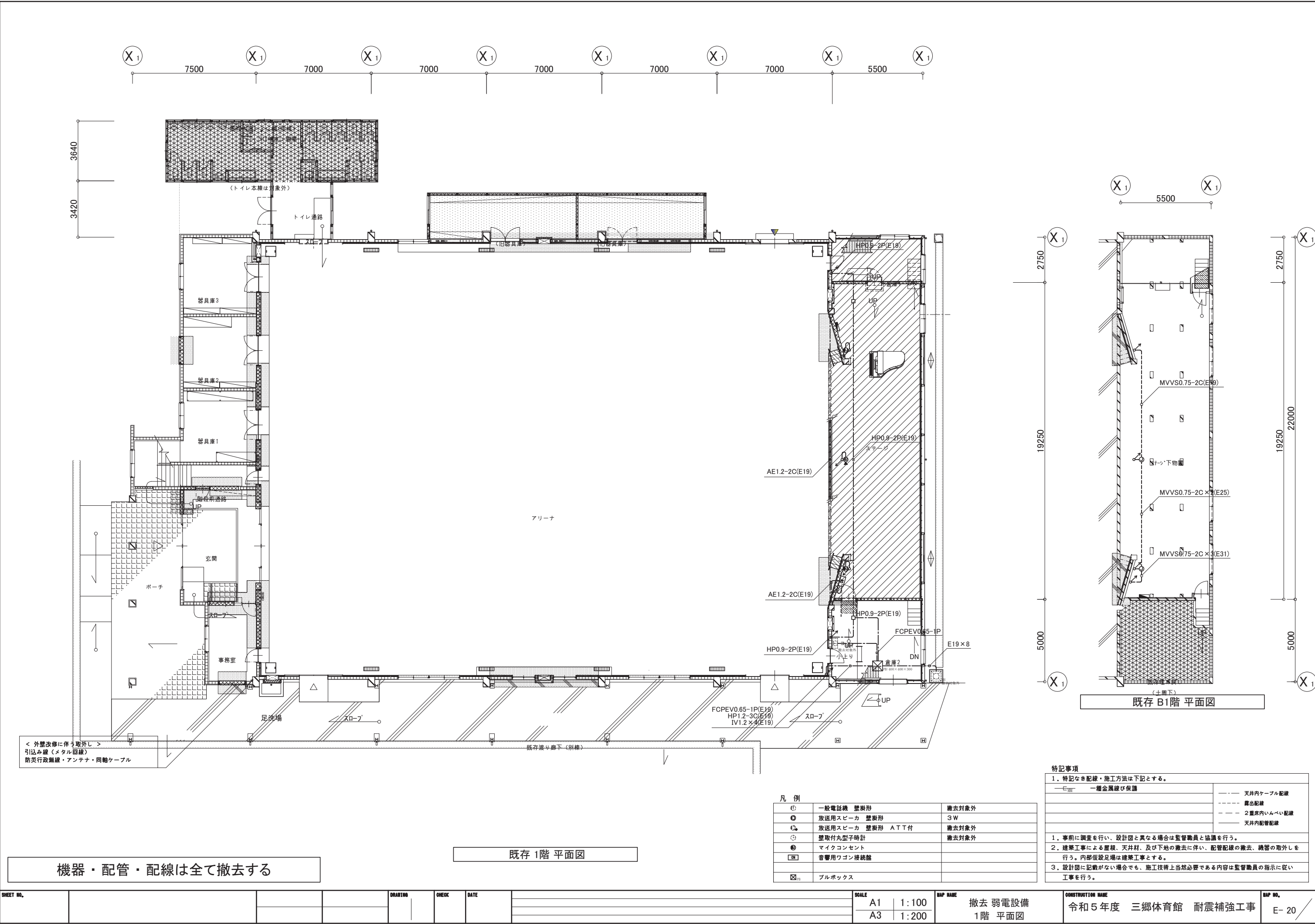


○	直付形蛍光灯 (2灯用)	FL40×2
○	直付形蛍光灯 (1灯用)	FL40×1
○	埋込形蛍光灯 (4灯用)	FL20×4
○	HID高天井器具	HID300×2
○	ブラケット	FL20×1
○	ブラケット	FL20×1
○	スポットライト	IL100×1
○	避難口誘導灯	大型
○	避難口誘導灯	中型
○	避難口誘導灯	A級
○	避難口誘導灯	B級
○	スイッチ (埋込形)	1P15A
○	スイッチ (埋込形)	3W15A
○	自動点滅器	
○	ブルボックス	
○	電灯分電盤	

特記事項	
1. 特記なき配線・施工方法は下記とする。	
— VVF1,6-2C	— 天井内ケーブル配線 --- 露出配線 --- 2重床内いんべい配線 --- 天井内配管配線
— VVF1,6-3C	
— VVF2,0-2C	
— IV1,6×3C (E19)	
— IV1,6×3C (E19)	
— IV1,6×3C (E19)	
— E19	一種金属線ひ保護
1. 事前に調査を行い、設計図と異なる場合は監督職員と協議を行う。	
2. 建築工事による屋根、天井材、及び下地の撤去に伴い、配管配線の撤去、機器の取外しを行う。内部仮設足場は建築工事とする。	
3. 施工前 (仮設足場組立て前)・施工後の照度測定を行う。	
4. 設計図に記載がない場合でも、施工技術上当然必要である内容は監督職員の指示に従い工事を行う。	
5. 撤去器具がPCB安定器の場合は、安定器を取外しステンレス製ボックスにて密閉処理の上、監督職員へ引き渡しとする。	

機器・配管・配線は全て撤去する

既存2階 平面図



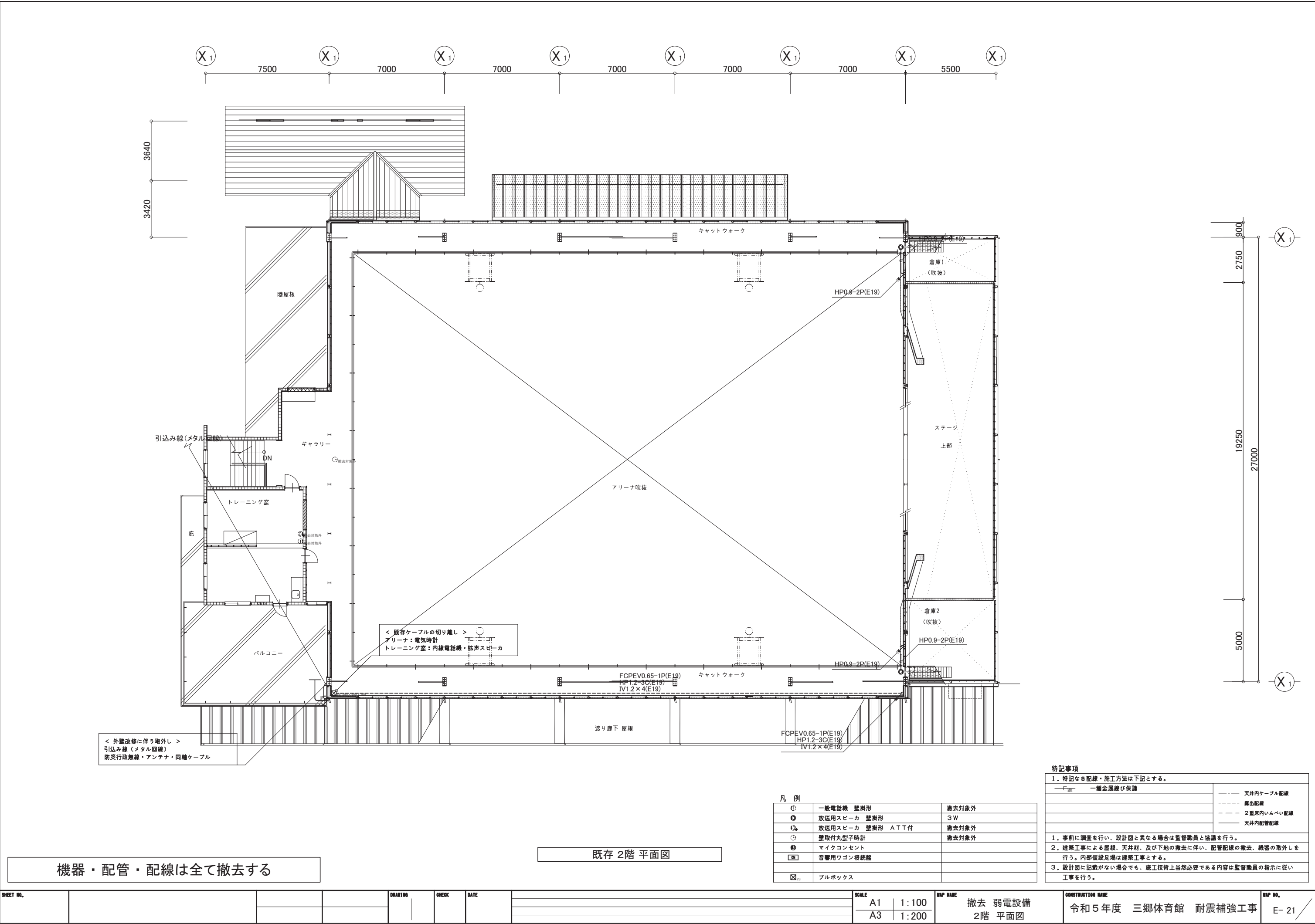
機器・配管・配線は全て撤去する

既存 1階 平面図

既存 B1階 平面図

凡 例		
①	一般電話機 壁掛形	撤去対象外
②	放送用スピーカ 壁掛形	3 W
③	放送用スピーカ 壁掛形 A T T 付	撤去対象外
④	壁取付丸型子時計	撤去対象外
⑤	マイクコンセント	
⑥	音響用ワゴン接続盤	
⑦	ブルボックス	

特記事項		
1. 特記なき配線・施工方法は下記とする。		
—— 一層金属線び保護	—— 天井内ケーブル配線	
	----- 露出配線	
	----- 2重床内いんべい配線	
	—— 天井内配管配線	
1. 事前に調査を行い、設計図と異なる場合は監督職員と協議を行う。		
2. 建築工事による屋根、天井材、及び下地の撤去に伴い、配管配線の撤去、機器の取外しを行う。内部仮設足場は建築工事とする。		
3. 設計図に記載がない場合でも、施工技術上当然必要である内容は監督職員の指示に従い工事を行う。		



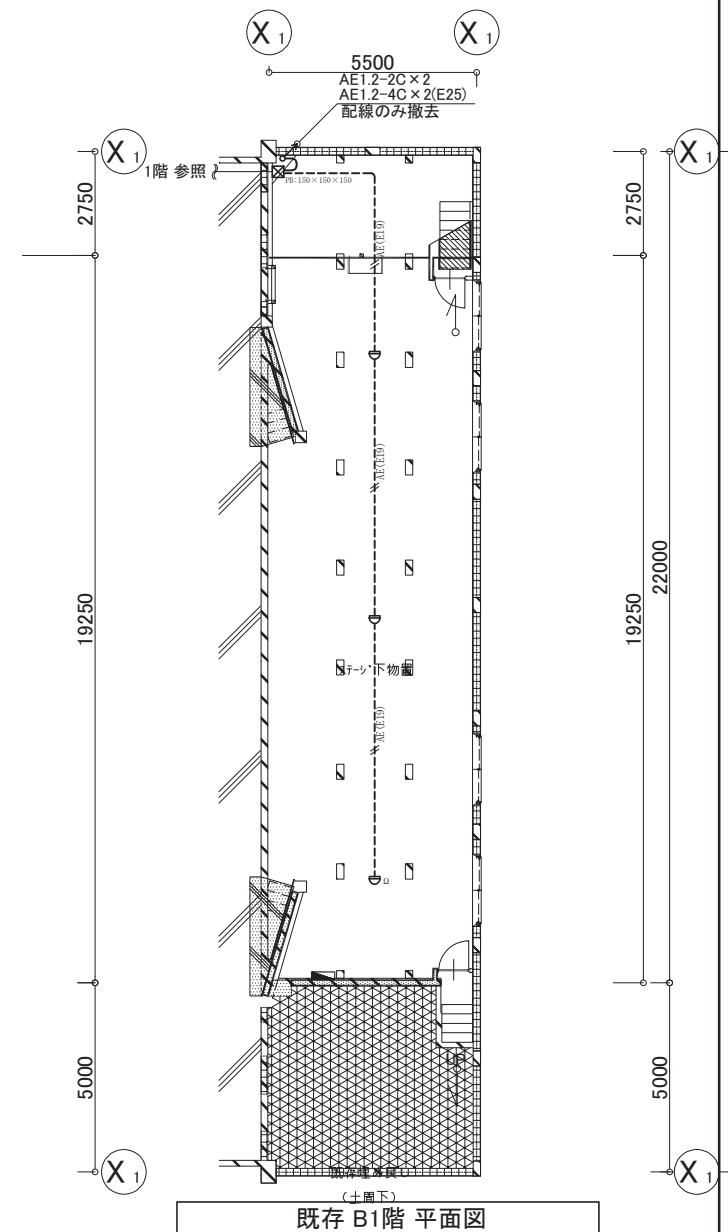
機器・配管・配線は全て撤去する

既存 2階 平面図

凡 例		
①	一般電話機 壁掛形	撤去対象外
②	放送用スピーカ 壁掛形	3 W
③	放送用スピーカ 壁掛形 A T T 付	撤去対象外
④	壁取付丸型子時計	撤去対象外
⑤	マイクコンセント	
⑥	音響用ワゴン接続盤	
⑦	ブルボックス	

特記事項		
1. 特記なき配線・施工方法は下記とする。		
—E— 一層金属線び保護	--- 天井内ケーブル配線	
	--- 露出配線	
	--- 2重床内いんべい配線	
	--- 天井内配管配線	
1. 事前に調査を行い、設計図と異なる場合は監督職員と協議を行う。		
2. 建築工事による屋根、天井材、及び下地の撤去に伴い、配管配線の撤去、機器の取外しを行う。内部仮設足場は建築工事とする。		
3. 設計図に記載がない場合でも、施工技術上当然必要である内容は監督職員の指示に従い工事を行う。		

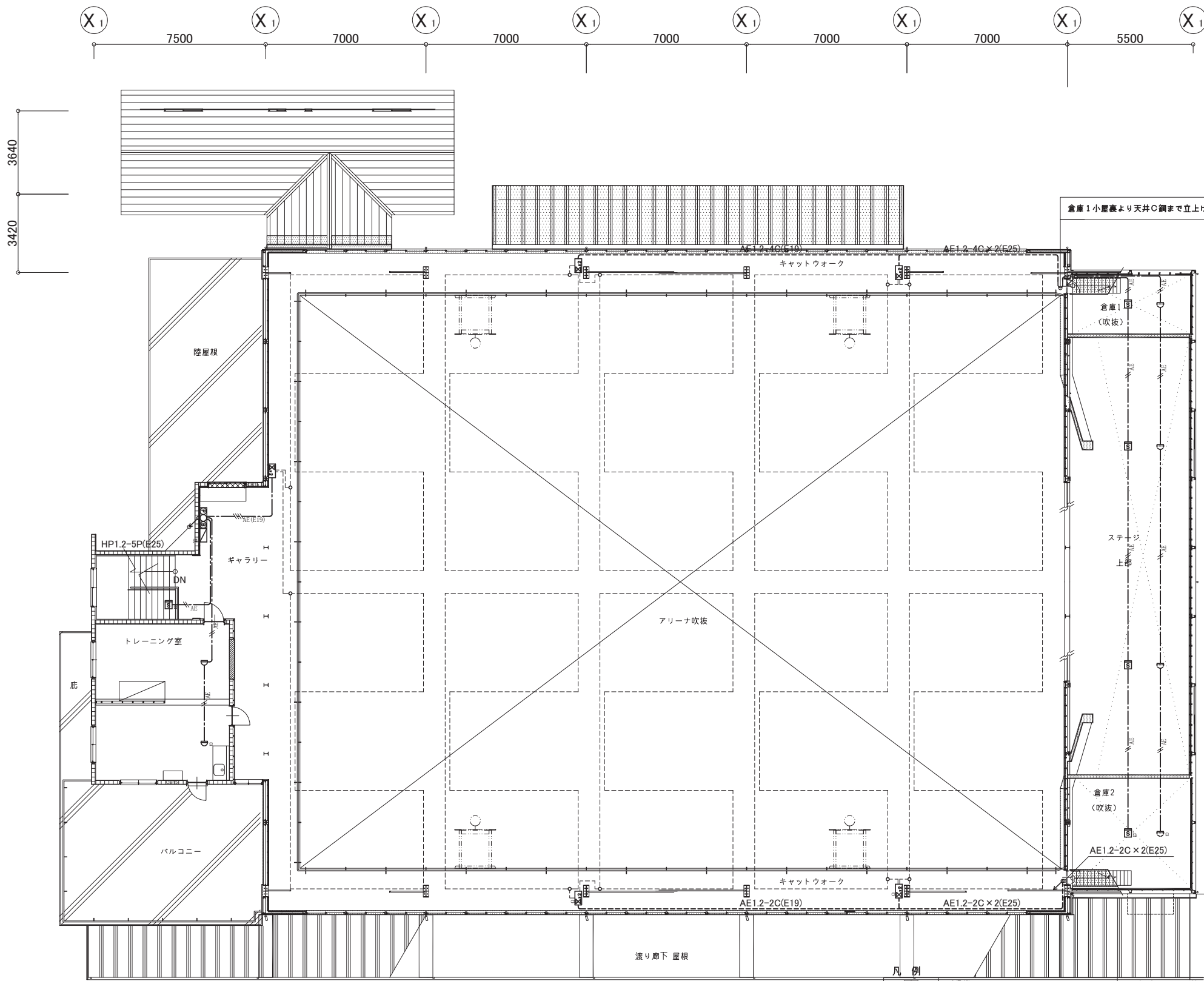




凡 例	[H]	[H]
	受信機	P型1級 100V線
	差動スロット型感知器	2種
	差動スロット型感知器	2種 小屋裏取付
	光電式スロット型感知器 露出形	2種
----	差動分布型感知器空気管 (SS型)	
	差動分布型感知器	
	終端抵抗	
	発信機	
	警報ベル	
	警報ベル	屋外用
	表示灯	
	機器収納箱 露出形	P型1級
	パッケージ型消防設備	Ⅱ型 表示灯共
	ブルボックス	

<p>1. 特記なき配線・施工方法は下記とする。</p> <table border="0"> <tr> <td>— HP<sub>1</sub>(E19)</td> <td>HP1. 2-2C(E19)</td> <td>— — —</td> <td>天井内ケーブル配線</td> </tr> <tr> <td>— AE<sub>1</sub></td> <td>AE1. 2-2C</td> <td>— — —</td> <td>露出配線</td> </tr> <tr> <td>— AE<sub>1</sub></td> <td>AE1. 2-4C</td> <td>— — —</td> <td>2層床内いんべい配線</td> </tr> <tr> <td>— AE<sub>1</sub>(E19)</td> <td>AE1. 2-2C(E19)</td> <td>— — —</td> <td>天井内配管配線</td> </tr> <tr> <td>— E<sub>1</sub>耐</td> <td>一種金属被ひ保護</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		— HP <sub>1</sub> (E19)	HP1. 2-2C(E19)	— — —	天井内ケーブル配線	— AE <sub>1</sub>	AE1. 2-2C	— — —	露出配線	— AE <sub>1</sub>	AE1. 2-4C	— — —	2層床内いんべい配線	— AE <sub>1</sub> (E19)	AE1. 2-2C(E19)	— — —	天井内配管配線	— E <sub>1</sub> 耐	一種金属被ひ保護		
— HP <sub>1</sub> (E19)	HP1. 2-2C(E19)	— — —	天井内ケーブル配線																		
— AE <sub>1</sub>	AE1. 2-2C	— — —	露出配線																		
— AE <sub>1</sub>	AE1. 2-4C	— — —	2層床内いんべい配線																		
— AE <sub>1</sub> (E19)	AE1. 2-2C(E19)	— — —	天井内配管配線																		
— E <sub>1</sub> 耐	一種金属被ひ保護																				
<p>1. 事前に調査を行い、設計図と異なる場合は監督職員と協議を行う。</p> <p>2. 建築工事による屋根、天井材、及び下地の撤去に伴い、配管配線の撤去、機器の取外しを行う。内部仮設足場は建築工事とする。</p> <p>3. イオン化式スポット型感知器はメーカー回収とし、適切に処理を行う。</p> <p>4. 設計図に記載がない場合でも、施工技術上当然必要である内容は監督職員の指示に従い工事を行う。</p>																					

既存 1階 平面図



機器・配管・配線は全て撤去する

既存 2階 平面図

受信機	P型1級 10回線
差動スポット型感知器	2種
差動スポット型感知器	2種 小屋裏取付
光電式スポット型感知器 露出形	2種
差動式分布型感知器空気管 (SS型)	
差動分布型感知器	
終端抵抗	
発信機	
警報ベル	
警報ベル	屋外用
表示灯	
機器収納箱 露出形	P型1級
パッケージ型消火設備	II型 表示灯共
ブルボックス	

特記事項

1. 特記なき配線・施工方法は下記とする。	
HP1.2-20C (E19)	天井内ケーブル配線
AE1.2-2C	露出配線
AE1.2-4C	2重床内いんべい配線
AE1.2-20C (E19)	天井内配管配線
1種金属線ひ保護	
1. 事前に調査を行い、設計図と異なる場合は監督職員と協議を行う。	
2. 建築工事による屋根、天井材、及び下地の撤去に伴い、配管配線の撤去、機器の取外しを行う。内部仮設足場は建築工事とする。	
3. イオン化式スポット型感知器はメーカー回収とし、適切に処理を行う。	
4. 設計図に記載がない場合でも、施工技術上当然必要である内容は監督職員の指示に従い工事を行う。	